協同教育実践資料 ⑲

伝え合い高め合う 城東の子

―成就感を味わい、自己効力感を高める活動の充実

犬山市立城東小学校　著
水谷茂・杉江修治　監修

一粒書房

協同教育実践資料　19

伝え合い高め合う城東の子

― 成就感を味わい、自己効力感を高める活動の充実

犬山市立城東小学校　著

水谷　茂
杉江修治　監修

一粒書房

目　次

自ら学び続ける教師・高め合う教師集団を目指して
　―研究的実践を通して共に育つ　　水谷　茂・・・・・・・・・・　1

平成 24 年度現職教育について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

健康推進部　専門部会実践報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
　絆づくり研究部会
　　―仲間とつながり高め合える子供を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
　道徳教育研究部会
　　―豊かな心を育み，自己効力感を高める道徳の授業を目指して・・・・・・・・・　16
　学級づくり研究部会
　　―互いの良さを理解し合い，よりよく人とつながりがもてる学級を目指して・・　22
　健康推進部　評価活動研究部会
　　―自己効力感を高めるための手立ての検証と考察・・・・・・・・・・・・・・・　32

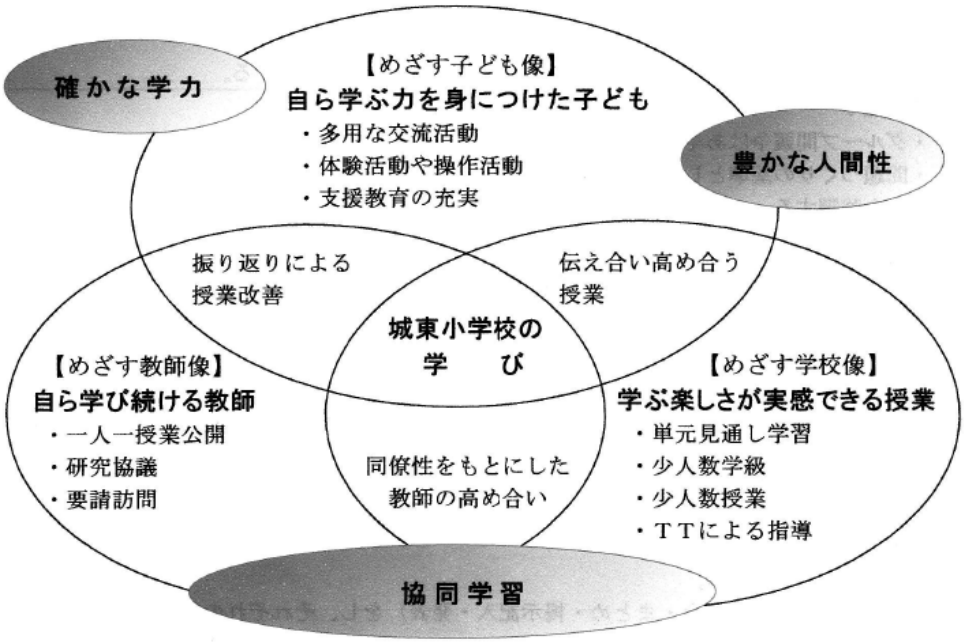
授業づくり部会実践報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41
　第１学年
　　―考えたことを相手が分かるように表現できる子を目指して・・・・・・・・・・　43
　第２学年
　　―自分の考えをもち，進んで伝え合える子を目指して・・・・・・・・・・・・・　70
　第３学年
　　―自分の考えをもち，仲間に分かりやすく伝えようとする子を目指して・・・・　88
　第４学年
　　―相手の思いを受け止めながら，互いに意見を伝え合うことができる子を目指して・・　110
　第５学年
　　―自信をもって自分の思いを表現し，仲間と高め合う子を目指して・・・・・・　134
　第６学年
　　―伝え合い自分の考えを深めることができる子を目指して・・・・・・・・・・　158
　特別支援学級
　　―明るく素直で，最後までがんばる子を目指して・・・・・・・・・・・・・・・　182

　あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　197

自ら学び続ける教師・高め合う教師集団を目指して

―研究的実践を通して共に育つ―

教師は，子ども同士・子どもと教師の関わりを通して，教科目標の達成だけでなく，その過程における人間関係づくりについても学びの対象としながら，確かな学力と豊かな人間性を育む力量が求められます。自ら学ぶ力を身に付けた子どもを育てるために，学ぶ楽しさが実感できる魅力あふれる授業を展開できるように，教師は継続して研究に取り組まなければなりません。そのために，本校では，協同の理念に基づいた一人一授業公開と研究協議を通した研究的実践を行い，同僚性の中で成果を共有しています。特に今年度は，単元見通し学習による学年研究で，高め合う教師集団を目指しました。



平成24年度の研究紀要『城東の里　春夏秋冬』を再編集した本書は，まさに本校の研究の足跡を集大成したものです。毎年研究紀要を作成するのは，学校のそして自分の実践を振り返り成果と課題を明確にして，次年度の取組に生かすためであり，地道な積み重ねによる授業改善が，自ら学ぶ力を身につけた子どもを育てることにつながるからです。子どもが「できた」「分かった」という成就感を味わい，自己効力感をもって前向きに生活できるようにするためにも，私たちは学び続ける教師集団でありたいと思います。来年度，さらに豊かな学びが城東小学校に育まれることを期待しています。

最後になりましたが，研究同人の皆様の真摯な取組に感謝申し上げるとともに敬意を表し巻頭の言葉とします。

平成25年3月

校長　水谷　茂

平成２４年度　現職教育について

１　本校の研究歴および研究主題

年　度	研　　究　　主　　題	研　究　資　料
平成20年度	響き合い，高め合う城東の子 ー心を育て，共に学び合う仲間づくり	2008年研究紀要
平成21年度	響き合い，高め合う城東の子 ー心を育て，共に学び合う仲間づくり	2009年研究紀要
平成22年度	響き合い，高め合う城東の子 ー伝え合う力を高める活動の充実	2010年研究紀要
平成23年度	伝え合い　高め合う　城東の子 ー一人一人が自分の考えをもって，つなぎ合う活動の充実	2011年研究紀要
平成24年度	伝え合い　高め合う　城東の子 ー成就感を味わい自己効力感を高める活動の充実	2012年研究紀要

２　本年度の研究主題

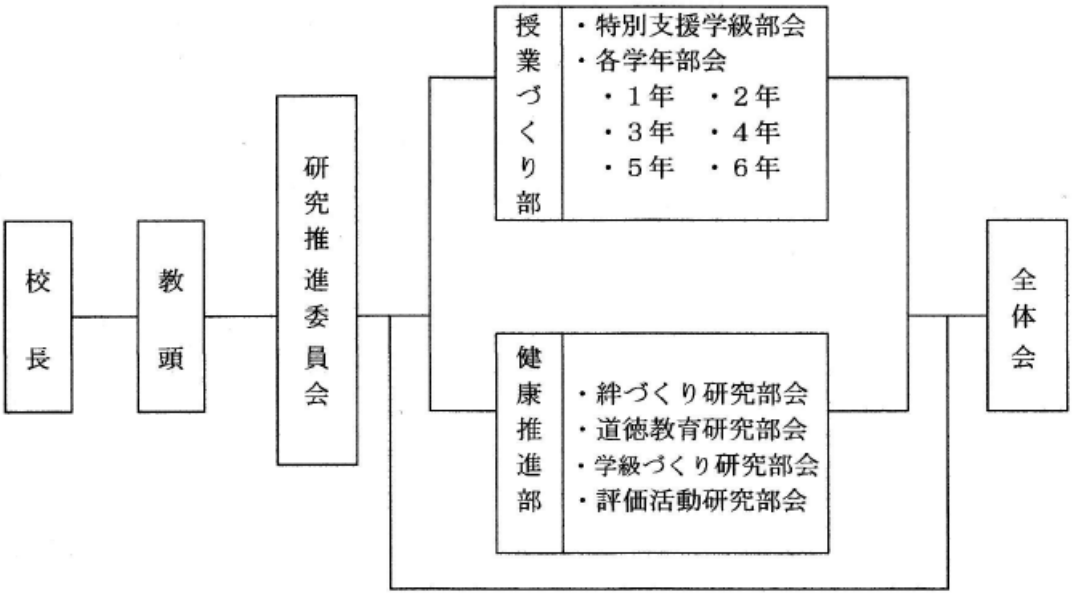
伝え合い　高め合う　城東の子ー成就感を味わい　自己効力感を高める活動の充実

○城東小学校がめざす学び
　　参加・協同・成就を基盤とした学び
　　温かな人間関係の中で認め合い高め合う学び
　　学習への動機づけを大切にした学び
　　子どもの探究と発見に基づく学び
○　城東小学校がめざす授業
　　教師が教える授業ではなく，子どもが学び合う授業
　　自分の考えを持ち，つなぎ合う中で高め合う授業
　　発信だけでなく受信（聴くこと）を大事にした授業
　　「読む」「書く」だけでなく「聞く」「話す」を大切にした授業

３　研究の基本方針

○確かな学力を形成し，自ら学ぶ力を育むために指導方法の工夫や改善に努めるとともに，子どもの姿を通して自らの指導を評価し，教師としての資質・能力の向上に努める。
○学年の発達段階に応じ，伝え合い高め合う活動の充実を図り，子どもの思考力・判断力・表現力を高め，コミュニケーション能力の向上をめざす。
○健康推進学校の取組では，全教育活動を通して豊かな心を育み，主に児童の自己効力感を高める活動を充実させる。
○子ども同士，子どもと教師の温かな人間関係づくりを大切にし，認め合い高め合う集団づくりに努める○全教員が研究的実践をもとにした授業公開を行い，教師同士の学び合いに基づく研究協議によって教師の資質を高める。

4　研究組織



①研究推進委員会・・・教育研究活動を統括・推進し，学校全体の教育力を高める。
②授業づくり部・・・・授業改善を図り，現職教育研究主題の具現化をめざす。
③健康推進部・・・・・健康推進学校の取組として，主に心を育む手立てを全教育活動から研究する。

・絆づくり研究部会・・・学校行事や集会活動を中心に，子どもの心をつなぐ取組を探究する。地域との連携も積極的に行い，人との関わりを通して，自己効力感を高めることを目ざす。
・道徳教育研究部会・・・道徳教育の立場から，学年の発達段階に応じて特に心を育む資料をそろえ，PDCA のサイクルで道徳的実践力の向上を目指す。
・学級づくり研究部会・・・特別に支援を要する子どもも含めて，認め合い高め合う学級集団作りを目ざす。エンカウンターや GWT の手法を取り入れ，自己効力感やコミュニケーション能力を高めるための指導法の研究や，教材開発を行う。
・評価活動研究部会・・・自己効力感の向上を図った手立ての実効性の検証や，各種の調査活動と考察を行い，新たに有効な手立てを探る。

5　研究の手立て

①研究組織は，研究推進委員会が統括し，そのもとに授業づくり部と健康推進部を設ける。全教員が両部会に所属し，研究的実践を積み上げる。
②授業づくり部の取り組みとして，一人一授業公開を行う。特別支援・各学年部会を中心に事前に研究を深め，教師同士が学び合う場にする。公開授業では，つなぎ合う，高め合う場を積極的に導入し，子どもが，自ら学ぶ意欲を高める授業のあり方を追究する。授業後，研究協議を行い，手立ての有効性について検証する。
③各学年部会で年間研究計画を立て，学校全体で調整を行い，年間を通して教師同士が学び

合う場を確保できるように努める。

④健康推進部は，絆づくり・道徳教育・学級づくり・評価活動の４研究部会で構成し，主に心の健康推進をめざし，その課題解決に取り組む。またその際，子どもや保護者等を対象とした調査をもとに，取り組み内容を精選し，評価しながら改善をめざす。

⑤中京大学教授杉江修治先生を招き，要請訪問を行う。要請訪問では，授業研究及び研究協議を中心に行い，全教員の資質を高める機会にする。年間９回実施する。

⑥年度末に研究の成果を研究紀要としてまとめ，次年度の研究に生かす。

⑦学びの学校づくり」を指針として，指導力の向上に努める。

平成 24 年度　授業研究の記録

	授業公開の希望と授業研究の予定
５ 月	5/17　…５年：小山：道徳 5/28　…市研修会（３年：後藤：算数） 5/31　…４年：間瀬・水野：算数
６ 月	6/5　…４年：栗本・水野：算数 6/8　…４年：原・水野：算数 6/12　…要請訪問（４年：木村・尾関：算数） 6/14　…健康推進発表会（１年：渡邉美：道徳）（３年：後藤・鈴木江：学活食育） （６年：立田・勝又：体育保健）（特支：堀部・佐光：生活単元） 6/15　…４年：北薗・水野：算数
７ 月	7/13　…６年：校長：国語 7/27・31…要請訪問（６年：西：体育）
８ 月	8/1　…要請訪問（６年：西：体育）
10 月	10/24　…５年：遠藤：音楽 10/29　…６年：西村：国語 10/30　…要請訪問（6 年：西：体育） 10/31　…1 年：山口・松浦：算数）
11 月	11/1　…1 年：渡邉美・松浦：算数 11/8　…４年：栗本：道徳，５年：藤田：国語 11/9　…６年：立田：体育 11/12　…３年：後藤：国語，５年：小山：国語 11/13　…要請訪問（5 年：河田：国語） 11/14　…１年：井口・松浦：算数 11/15　…たんぽぽ２：井塚，ひまわり１・安藤：生活単元 11/16　…３年：馬場：国語 11/19　…学校訪問（１年：溝口・松浦：算数，３年：恒川：国語， ６年：松本：国語） 11/21　…ひまわり２：杉本・細川：生活単元 11/22　…３年：田中：国語 11/29　…５年：若原：書写
12 月	12/7　…1 年：西部・松浦：算数 12/10　…５年：荒巻：国語 12/12　…６年：西：道徳 12/13　…５年：齋藤：国語
１ 月	1/22　…２年：淺野：国語 1/23　…２年：林：国語 1/24　…２年：五味：国語 1/25　…２年：小西：道徳 1/29　…要請訪問（2 年：鈴木宏：国語） 1/30　…３年：田中：道徳 1/31　…２年：小西：国語
２ 月	2/19　…４年：北薗：算数（初任者研修） 2/28　…３年：馬場：国語（初任者研修）

健康推進部 専門部会実践報告

絆づくり研究部会

仲間とつながり高め合える子供を目指して

はじめに

絆づくり部会では，本校の研究主題を受けて，児童の確かな成長を支えるため，自主・自立の力を育むとともに共生する気持ちを高める幅広い活動に取り組んできた。特に，絆づくりを意識した仲間との交流を通して，仲間の良さを知る活動を推進していきたいと考えたからである。本年度の絆づくり部会では,『仲間とつながり高め合える子どもを目指して』という研究主題を掲げて，友達・クラス・学年・ペア学年・全校・地域といった様々な相手との絆を深めていけるように一つひとつの活動の意図を明確にしたり見直したりした。相手を意識して活動することで，相手とのよりよい人間関係を築くことができ，絆を深めることができると考える。このような活動を通して，絆を深めることで，自己効力感をもち前向きに生きることができる子どもの姿を目指した。

1　研究の仮説

本校における現在行われている学校行事・集会活動・地域との連携活動・委員会活動の活動の意図を明確にしたり見直したりすることで，活動を通して児童の関わりは増え，絆を深めることができるだろう。

2　手だて

◎　学校行事・集会活動・地域との連携活動
- ○　現在ある活動をリストアップする。
- ○　活動を精選する。
- ○　活動の意図を明確にする。
- ○　よりよい活動にするための工夫をする。

◎　委員会活動
- ○　委員会活動を見直し，絆づくりができるような活動に価値付けたり取り入れたりしていく。

3　具体的な取組

①　絆の象徴となるキャラクターの作成
②　心みがき週間
③　ふれあい運動会
④　運動名人大会
⑤　感謝の集い
⑥　かがやきデイキャンプ
⑦　ヒヤリマップの作成
⑧　チャレンジ城東の里

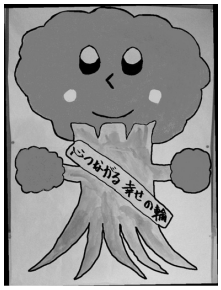


写真１　城東小学校のマスコット

4　実践の報告

（１）絆の象徴となるキャラクターの作成

１）ねらい

仲間とのつながりを高め合っていくために，象徴となるキャラクターを作成し，全校児童が同じ目標に同じ気持ちで取り組んでいくことができるようにする。

２）活動内容

年度初めの部会の中で，全校の気持ちが一つの方向を向くための目標が必要であると話し合った。そこで，全校児童からアイデアを募集し，城東小学校のマスコットキャラクターを作成

した。城東小学校のシンボルである五本松から考え出された『まっつん』である。スローガン『心つながる幸せの輪』を一緒に掲げ，学校行事や集会活動，委員会活動などのさまざまな絆づくり活動の場面で登場させた。

また，『まっつん』をさらに全校に広めるために，『まっつんシール』を作成して委員会活動や学級活動の中で活用している。『まっつんシール』は心を一つにすることができたときや仲間との絆を深めることができたときなどにもらうことができる。委員会活動のポスターの中や教室掲示の中にも登場し城東小学校のキャラクターとしてすっかり定着してきた。

写真２　『まっつん』と共にエコ運動するボランティア委員

『まっつん』の活用の例として，ボランティア委員会は，募金活動とエコ運動で，広報委員会が作成した着ぐるみの『まっつん』と共に呼びかけを行った。毎月１１日に行っている募金活動は，東日本大震災の復興のために全校の心を一つにして被災地を支援しようと取り組んでいる。エコ運動は，月末の３日間にペットボトルのキャップを収集することで，ワクチン寄贈をしている。

写真３　全校児童で完成させた『巨大まっつん』

（２）心みがき週間

１）ねらい

友達と生活する中で，互いに認め合い，仲間を大切にしようとする心を育む。また，絆を深め，協力する喜びを味えるようにする。

２）活動内容

全校児童の気持ちを一つにすることを目的として，運動会２週間前に心みがき運動を行った。これは，あいさつや友達の良いところ見つけなど，全校共通の毎日違う目標を２つ立てて,その達成を目指していく活動である。各クラスに巨大な『まっつん』のパーツを１枚配り，クラス全員が目標を達成することができたら，パーツを貼ることができ，全校が目標を達成すると『巨大まっつん』が完成するようにした。期間中は，目標に向けて精一杯取り組む児童の姿を多く見ることができた。

子どもたちの気持ちは一つとなり，絆を深める活動となった。こうした心みがきの取組は，２ヵ月に１回の割合で，各委員会の発案によって行い，そうじによる心みがき，友達の良いところを見つける心みがきなど，心と心をつなぐことができるような活動を定期的に実施した。いずれの活動も，心を見つめ直し，互いに認め合っていく児童の姿を見ることができた。心をみがくというキーワードを基に，絆づくりの取組が多くの委員会活動に広がっていった。

（３）ふれあい運動会

１）ねらい

スローガン「赤と白　一つになって出しきれ力　まとまれ心」のもと，児童の体力の向上や

団結力を高め，仲間・家庭・地域の心を一つにして絆を深めていけるようにする。

２）活動内容

ア．応援合戦

全学級を赤と白の２つに分けて団を形成した。応援の練習は，朝の学習タイムに１・６年，２・５年，３・４年のペア学年で赤白に分かれて教室を移動し，高学年が中心となって一緒に練習を行った。ペア学年で刺激をし合いながら練習をして，本番に向けて気持ちを高めていった。当日は，応援団の先導で，赤白どちらも仲間のために元気な声で一糸乱れぬ応援を繰り広げた。

写真４　応援団が中心となって応援合戦をする児童

イ．ペア学年別種目

２・５年と３・４年のペア学年で一緒に楽しくできる種目を部会で話し合った。２・５年は，フラフープをつないで電車のようにし一緒に入ってリレーしていく種目，３．４年は，おみこしの土台の上にボールを置いて運ぶ種目である。どちらも心を合わせて協力しなければならないので，ペアの絆を深めることができた。

写真５　『まっつん』と共に新犬山音頭を踊る児童

ウ．新犬山音頭

毎年地域の方から６年生が新犬山音頭の踊り方を習い，そして全校児童に広げていくようにしている。当日までに，6 年生が他学年の全学級に出掛けて，踊りの練習会を行い，踊り方のアドバイスをして，ふれあい運動会に備えた。当日は，地域の方々や保護者，児童・教職員が何重もの輪を作り踊ることができた。また，輪の中には『まっつん』も登場し，会場を盛り上げた。毎年地域から６年生，そして全校へ繋げていく城東小の伝統的な種目となっている。

エ．環境整備

運動会に向けた環境整備の一環として，ペア種目の練習時間や全校練習の後に，石拾い活動を行った。ペア学級のペアと一緒に取り組むことで，みんなでより良い環境の中で運動会をしようという意識付けができた。また，赤白に分かれて石を集めることで，運動会に向けて団結心をもつことができた。

ふれあい運動会のさまざま場面で絆づくりに繋がる活動ができた。児童は，クラス・学年・ペア学年・団の仲間と一緒に活動してきたことで，運動会に向けて，互いの頑張りを認め，絆を深めていくことができた。

（４）運動名人大会

１）ねらい

体力テストの結果を検討し，全国平均と比べ補う必要がある運動能力を中心に種目を考えるとともに，運動を楽しむ機会を設ける。また，クラスやペア学年の子と一緒に運動することで，クラスやペア学年の子と協力し，絆を深めることができるようにする。

２）活動内容

年４回，運動委員会が中心となってルールを考え，放送やポスターによる呼びかけ，道具や賞状などの準備をして，運動名人大会を行った。運動名人大会は，木曜日ののびのびタイム（昼の 30 分放課）に体育館で行い，希望者が参加した。

写真６　ペア学年で協力して名人大会のゲームに取り組む児童

第３回は，体力テストで特に全国平均を下回る児童が多かった反復横跳びで必要な，バランス能力，変換能力，リズム能力などの能力向上をめざし，11 月に，ペア学年で２人組を作り，協力して手をつないだままけんけんでゴールを目指すけんけん名人大会を行った。けんけん名人大会の前には，体育の準備運動として，けんけん競争やけんけんおにごっこを取り入れるなど，本校児童が補う必要がある力を高めていくクラスもあった。

当日は，上級生には，下級生にも楽しませてあげようと，下級生の意見を聞いてコースを決めたり，応援したりしながら挑戦している姿が見られた。最後までゴールできたペアに賞状を渡す際，下級生が上級生の手を握りながら嬉しそうに賞状をもらいに行く姿もみられ，仲良く活動できたようであった。一緒に活動したのは短い時間だったが，どちらの児童にとっても充実した時間となった。

第４回は，2 月に絆の輪名人大会を行った。ペア学級全員で手をつないで一つの輪を作り，全員がフラフープをくぐる時間を競った。事前にやってみて，どうしたら速くできるかをみんなで相談する学級もあり，1 秒でも速くしようと，同じ目標に向かってペア学級が団結し，絆を深めることができた。

（５）感謝の集い

１）ねらい

卒業を目前に控えた３月，家族に感謝の気持ちを伝え，親子の絆を確認することができるようにする。

写真７　感謝の気持ちをこめて保護者に合唱を贈る児童

２）活動内容

実行委員を中心に内容の計画や準備をした。プレゼントには，手作りのクッションを準備して当日を迎えた。感謝の集いが始まると実行委員を中心に「ゲーム」「ビンゴ」「プレゼント渡し」「ティータイム」を行い，活動に一緒に取り組む中で，保護者に感謝の気持ちを伝えた。その後６年間の思い出を写真で振り返り，最後に学年合唱を披露して，成長した姿を見てもらった。保護者にとって，６年間の生活をよみがえらせ子どもの成長を感じることができる活動となった。子どもたちは，この会だけで感謝をするのではなく，毎日の生活の中で感謝の気持ちを口に出したり，困ったときには家族に相談をしたりし卒業式までの時間を感謝の気持ちをもって生活していくことを誓った。この会は，活動のねらい通り，親子の絆を深める会となった。

（６）かがやきディキャンプ

１）ねらい

犬山市小中学校の特別支援学級の子どもが一堂に会し，他校の友達と関わりながら，みんなで仲良く協力して野外炊事をしたり遊んだりすることと，たくさん友達を作りながら，友達との絆を深めることができるようにする。

写真８　他校の児童と楽しく遊んで交流を深める児童

２）活動内容

最初に班別ミーティングを行い，野外炊事の役割分担を話し合いで決定した。その後カレー係，白玉フルーツ係，かまど係にわかれて活動した。かまど係は土を掘るところから始め，かまどが出来上がると火起こし器で火起こしをした。カレー係は，保護者の支援を受けて低学年も野菜を切った。どの班も楽しく工夫して調理をしていた。特に，カレーライスはとてもおいしくできてお代わりをする子もたくさんいた。グループごとに和気藹々と会食した。

その後，中学生や高学年の子どもたちがリーダーシップを取りながらシャボン玉遊びや風船ゲームで楽しく交流を深めた。子どもたちの絆はとても深まったように感じるが，子どもたちがゲームをしている間に，別室で保護者が日頃の悩みや進路などについての情報交換をして保護者間の絆も深めることができた。

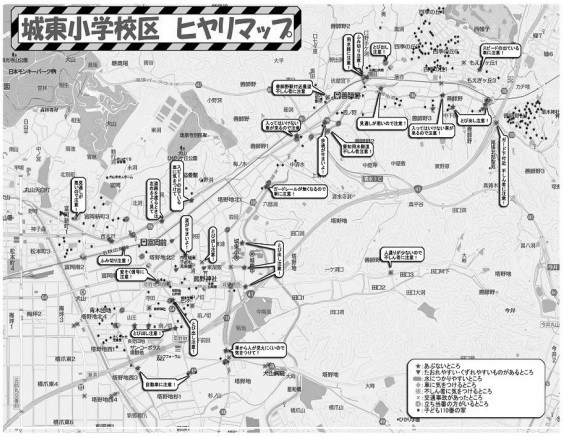
（７）ヒヤリマップ

１）ねらい

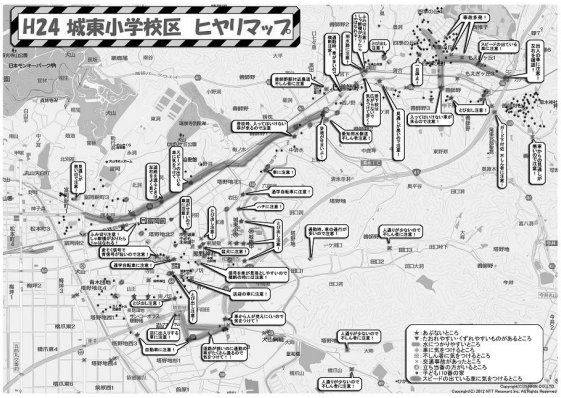
児童の安心・安全を図るため，保護者・地域から情報を集め校区内の通学路における危険箇所を一目で分かるマップを作成し，皆で児童を見守っていくという意識を高める。

２）活動内容

平成 23 年度に城東小学校区内の危険箇所が地図に記号や言葉で記されたヒヤリマップを作成した。このマップには,「水につかりやすい箇所」「不審者に気を付ける箇所」「交通事故が起きた箇所」「倒壊の危険がある箇所」「自動車に気を付ける箇所」「立ち当番のいる箇所」「子ども 110 当番の家」が記されている。



【平成 23 年度に作成したヒヤリマップ】



【平成 24 年度に作成したヒヤリマップ】

平成 24 年度は,地域や保護者から意見を集めるとさらに 34 箇所の加除修正する点が寄せられた。そして，改定版を作成し，校区の全家庭に配付した。家庭で子どもとともに，地図を見て話し合ったり，実際に子どもと歩きながら確認することで，子どもがより具体的に校区の危険箇所が分かるという利点がある。そして，常に新たに感じた危険箇所も情報として収集していくことで，変化に対応してい

る。地域・保護者や教職員で児童の安心・安全を見守るという絆を大切に，ヒヤリマップを活用している。

（８）チャレンジ！城東の里

１）ねらい

生活科および総合的な学習の時間に関連させて，また，教科の発展的な体験活動として講座を開設し，児童一人ひとりが創意工夫を生かして主体的に取り組み，さまざまな文化に触れる機会を設ける。

２）活動内容

１，２年生では，保護者の支援の必要な活動を行い，親子が触れ合う機会をもった。３年生は講師を招いて学校保健委員会を行い，よりよく生きようとする心と態度を育てる時間となった。４～６年は講師を招いて行うチャレンジ講座に参加した。特に，本校の特色であるチャレンジ講座は，長年続けられているもので，各学年６講座開かれている。６年生では，和菓子作り，茶道，フラワーアレンジメント，遊字アート，まゆ人形作り，ウッドバーニング，５年生では，韓国料理，カラクリ工作，トールペイント，手品，ミニでんでん太鼓作り，布の切り絵，４年生ではパソコン教室，木工，押し花，絵手紙，木の実で作る小動物，リード線アートと多様な講座を開講している。児童は，初めて体験する活動にわくわくしながら参加し,楽しい時間を過ごすことができた。参観している保護者も興味深々で子どもと共に文化に触れ，親子での話題も増えるようである。地域の方も含めていろいろな方々から，新たな学びを得ることができ，視野を広げることができた。児童は，丁寧に教えていただいた講師の先生へ感謝の気持ちを込めてお礼を手紙に書き，講師の先生方からも一言メッセージをいただき，交流を深めている。

写真９　保護者に見守られながら，講師の先生とともに活動する児童

５　考察

（１）成果

本年度は，研究主題『仲間とつながり高め合える子どもを目指して』を基に取り組みを進めていく中で，３つの成果を得ることができた。

一つ目は，現在の活動をリスト化し，活動の意図を再確認したことで城東小学校の絆づくりの場面が明確になり，１年間を通して活動の質が上がったことである。なかよし集会や運動会のペア種目など，活動内容からどんな価値が生まれるのかを話し合って見直し，今まで以上に意図を明確にしたことで，絆を深める活動となった。

二つ目は，部会から提案したキャラクター『まっつん』が，全校に浸透してきたことである。全校でキャラクターを作り上げたことで，学校に対する所属意識を向上させることできた。『まっつん』は，全校の絆の象徴として様々な場面で活躍し，絆づくりを呼びかけたり，全校で取り組む委員会活動や行事を推進し，盛り上げたりした。『まっつん』を全校のキャラクターに掲げたことで，全校児童の中心に，絆という柱を立てることができた。

三つ目は，絆づくりの活動に取り組んだことで，自己効力感が向上してきたことである。本

部会では，評価部会とタイアップして，絆づくりの活動の成果を計るためのアンケートを実施した。絆をつくるために行った運動会のペア学年種目を通して，児童の心には変化があったかどうかを事前と事後にアンケートをとったところ，絆づくりに関する５つのアンケート項目には明らかな変化が見られた。（資料は評価部会のページを参照。）多くの子が「自分はちゃんとできる，やれている」という気持ちをもつことができたのである。このような絆づくりを１年間通して様々な活動に取り入れてきたことが，自己効力感を高めることにつながったのであろう。

（２）課題

上記のような成果が上がった一方，２つの課題が見えてきた。

一つ目は，通学班内の絆づくりである。本年度は，クラス・学年・ペア学年で取り組む行事などの中に，絆づくり活動をたくさん取り入れてきた。通学班に目を向けると，毎日必ず子ども同士が関わっているにも関わらず,絆を深める活動をあまり取り入れることができなかった。年に３回行われている通学班集会で，班内のよいこと見つけや残った時間を使って簡単にできる遊びを行ったが，生徒指導に関わる問題がなかなか減らなかった。本校は，大規模団地から通う子どもを中心に,毎年ＰＴＡ地区委員による通学班編成替えを行う地域がある。そのため，班内の子ども同士の絆が薄く,ささいなことで言い合いになるなど,様々な問題が起きている。通学班集会では，それらの問題解決に時間を費やしてしまうことが多いので，交流の機会を設けて通学班内の絆を深める活動を取り入れ，互いを理解し合い，よりよい人間関係を築くことができれば，それらの問題も少しは軽減するのではないかと考える。

二つ目は，活動の精選である。本年度は学校内の絆を深めるために，ふれあい運動会などの学校行事に向けた心みがき週間を取り入れたり，各委員会で絆を深める活動を考え，常時活動に加えて絆づくりの活動に取り組んだりしてきた。突発的に様々な活動を取り入れたことで，年間行事で計画されていた行事や学年行事などと重なってしまった活動もあった。一つ一つの活動の意図をもう一度再確認し，見通しをもってじっくり取り組むことで，より成果も上がるであろう。絆づくり部会として，１年間でどのような活動を取り入れていくべきか，年間予定を立て直していくことも必要であると考える。

６　おわりに

本年度絆づくり部会で取り組んできたことは,今まで学校で行ってきたことを整理し,中心に絆という一つの柱を置いただけである。だが，それによって教師側の意識を統一することができ，子どもの活動は１回限りの単発の活動に終わることなく，絆を積み重ねることができた。そして，研究主題である『仲間とつながり高め合える子ども』に近づくことができたのではないかと考える。本年度多くの実践を通して積み重ねてきた絆に，来年度さらに絆を積み重ねていくために計画をしっかり立てていきたい。

道徳教育研究部会

豊かな心を育み，自己効力感を高める道徳の授業を目指して

はじめに

道徳教育研究部会では，道徳の時間のみならず，学校教育活動全般を通して道徳教育の充実を図っていくことが重要であると考えた。子どもたちの日常生活においては，道徳的な価値判断を求められることや，道徳的な心情をゆさぶられたり，人間としての在り方や生き方を考えさせられたりする場面は常に存在する。それだけに道徳の時間と各教科，特別活動及び日常生活と関連をもたせた学校教育活動全般を通しての道徳学習が求められる。

本部会では，まず本校の研究主題を受け，道徳部会の研究主題を「豊かな心を育み，自己効力感を高める道徳教育の実践」と定めた上で，心の健康に関して学年の発達段階に応じためざす子ども像を明確にした。

１　めざす子ども像

低学年…仲間の気持ちを考え，仲良く関わろうとする姿。

中学年…それぞれの感じ方・考え方のよさを認め合う中で，自分のよさに気付き，自他共に大切にしようとする姿。

高学年…仲間との対話や，自分自身との対話を通して，自分自身の内面を深く見つめ，よりよい生き方を求めて実践する姿。

２　研究の手立て

次に，23 年度に拾い出した心の健康に関する徳目に沿って，心を育む資料を収集・開発するとともに，部員全員が授業を積極的に公開・参観した。そして授業の記録をとっていき部会で交流したことを，それぞれの学年に広め，それをもとにＰＤＣＡサイクルを通して道徳的実践力の向上につなげていくようにした。さらに，一人一人を認め合う，お互いに励まし合う，仲間とともに高まることを喜ぶという豊かな関わりを育む場を「学級での生活の中で」「道徳の時間の指導の中で」「道徳的体験活動の中で」それぞれどのようにつくっていけばよいのか探ることを研究の視点として，以下のような実践を行ってきた。

３　活動内容

（１）授業実践から

１）具体的な実践例 1

①主題名　　「友だちっていいな」　（項目　２－（３）仲よし・助け合い）

資料名　　「たまちゃん　大すき」　（出典　東京書籍　※一部改作）

②ねらいと価値

２年生も後半になると，気の合う友達と一緒に遊んだり，友達と助け合ってグループで活動できるようになったりするなど集団での活動が盛んになってくる。活動範囲が広がり，内容も多種多様となる一方で，ちょっとした行き違いが生じたり，個人の意見や主張がぶつかり合ったりして，口論やけんかも珍しくなくなる。

このような時期，学習活動や様々な生活の場面を通して，友達と同じ思いをしたり，違う考えをもったりすることを経験させて，相手に共感し，意見の相違を理解することで，各々の個性を認め合い，尊重し合う大切さを気付かせることは重要だと考える。

そこで，児童一人一人に，自分の感情に支配されるのではなく，同時に友達の心情を理解しようとする気持ちや態度を育てていきたい。それらを積極的にすすめるため，友達同士，互いによく理解し合い，助け合うことの大切さについて自覚を深めていくことが必要であると考え，本授業を設定した。

③主題にせまる手だて

〇大型ディスプレイの活用：原作は絵本であり，たくさんの挿絵があるので，それらを活用して大型ディスプレイによる提示を行い，物語の世界に引き込むことで，資料の内容を理解しやすいようにした。また，象徴的な場面の絵を掲示することで，資料の内容を振り返る手立てとし，資料の終末部分は，後から提示することにした。

ペア交流

〇書く活動を位置付ける：ねらいとする価値については，児童一人一人がまる子の気持ちに共感しながら，自分の考えをもつことができるように，学習過程の中に「書く活動」を位置付けた。

〇役割演技：次に，約束を破ったことを「許す」「許さない」について考える場面では，「許すまる子」と「許さないまる子」 が，考えの根拠となる理由を役割演技で表現することによって，児童個々が相手との考え方の違いに気づくようにした。

〇交流活動：自分の考えと友達の考えを交流する場面では，ペア交流や全体交流を取り入れた。自分の立場を明らかにしながら意見をつないだり，友達の考えと自分の考えの共通点や相違点をみつけながら聴いたりすることによって，自分と違う考えを知り，互いの考えを尊重しながら自分の考えを深められるようにした。

さらに，価値の追究・価値の主体的自覚の部分では，最終的に資料から離れて自己を見つめさせた。中には自分の今までの行動を反省し，涙ながらに話す児童もいた。本授業を通して,お互いの立場を理解し仲良くしていこうとする心情を育てることができたように感じる。

わたしは，たまちゃんを許してあげたい。だって，たまちゃんは，まるちゃんが困ったとき，いつも助けてくれたんだよ。たまちゃんは大切な友達だから，ずっと仲良くしたい。

ぼくは，たまちゃんを許すことはできないと思ったけど，〇〇さんの考えを聞いたら，たまちゃんにも理由があったんだなと気付いたよ。

「許すまる子」と「許さないまる子」での役割演技

＜児童の感想＞
・ぼくは，いつもともだちからあやまられないとなかなおりできなかったから，こんどからは，自分からあやまろうと思いました。
・りゆうも聞かずに，ともだちをゆるさなかったりすると，かわいそうだから，ともだちにやさしい気持ちでなかよくしていきたいです。
・今日のじゅぎょうで，ともだちはこんなにたいせつなんだとおもったから，これからはもっとなかよしになりたい。

２）具体的な実践例２

①主題名　「いじめについて考える」（項目　４―（２）公平・公正，正義

資料名　「わたしのいもうと」（出典：松谷みよ子　作・味戸ケイコ　絵　偕成社）

②ねらいと価値

４年生になると，自立の芽が育ち始め，人間関係も広がりを見せている。一方で，まだまだ自己中心的な考えが残り，相手の立場に立って考えようとする態度が不十分である。そのため，友達どうしの些細なトラブルも起こりがちである。

このような時期，学級の中で特定の児童に対し，多くの男子が差別や偏見をもった態度で接している実態が明らかになった。そこで，「今までいやな思いをしたことはないか」という問いのアンケート調査を実施した。その結果，学校生活の中でいやな思いをしている児童が予想以上に多くいることが分かった。

そこで，正・不正を見極めることのできる心を育成し，不正があったら直そう，公平な状況を守っていこうとする気持ちを高めたい。さらに，だれに対しても，どんなことがあっても，公正に判断し，公平にふるまうためには，常に相手の人格を尊重することが大切であると考え，本授業を設定した。

③主題にせまる手立て

児童の実態から，副読本よりも他の資料を活用した方が，価値に迫りやすいと捉え，絵本「わたしのいもうと」を中心に学習を進めることにした。

児童同士距離を縮めての全体交流

絵本「わたしのいもうと」は，作者に届いた一通の手紙をもとに書かれた実話であり，いじめによって最終的には命が失われてしまうという重いテーマである。しかしながら，児童にとって，人の人生を壊してしまういじめの恐ろしさ，いじめを受けた家族の苦しさや悔しさ，そして，いじめる側の自己中心的な言動，差別や偏見をもつ心の貧しさについて気付かせるには，格好の資料であると考えた。

導入の段階で，本学級のアンケート調査の結果を提示し，友達の思いを共有するとともに，いじめの定義について考えさせるきっかけとした。この時点で児童のいじめの捉え方は，さまざまであった。

展開の段階は，場面ごとに区切りながら教師が朗読し，さまざまな問いかけを通して，いもうとや家族の思いに気付かせていくようにした。ここでは，児童全員が教室の前方に集まり，教師と児童，児童と児童の距離を縮めることにより，自分の思いを素直に伝えやすいようにし

た。児童一人一人が，いもうとや家族の立場に立ち，自分の考えをもつことができた。また，相互指名による全体交流を通して，多くの友達の感じ方や考え方があることを学んだ。

まとめの段階では，金子みすずさんの詩「わたしと小鳥とすずと」を提示し，「みんなちがって，みんないい」ことを確認した。

本授業を通して，これまでの友達への言動を振り返り，自己を見つめるよい機会となった。一週間経ち，実施したアンケートの結果，ほぼ全員の児童が相手の気持ちを考えた言動に心がけていることが分かった。

（２）道徳的体験活動から

普段の授業において，ペアやグループ交流で自分の考えを伝えたり，友達の考え方のよさに触れたりすることによって，友達と自分の考え方の違いに気づき，互いのよさを認め合えることができるようになっている。

例えば６年生の体育「バスケットボール」の授業においては，グループの作戦会議では，専門用語を使って自分の考えを伝え合う話し合いが行われるなど，教科としての力を高める学び合いができていた。また，児童相互の声掛けが活発に行われ，それによってチーム全体の力が向上した。さらに，ゲームにおいては，対戦相手に対しても，ゴールをしたら拍手をするなど励まし合いながら取り組む姿が見られ，友達のよさを認め合うことや自分のよいところを新たに発見するなど「自己受容」「他者受容」ができる児童が多くなってきている。また，授業で培ったものが，学級や学校のために役に立とうと行動する児童が増えてきており，互いのよさを伝え合うことのできる児童が増え，このような学び合い活動を通して，道徳性が培われているのである。

１）親子鑑賞会

平成 24 年 10 月 20 日（土）の授業参観に合わせ，すわらじ劇園を招いて親子鑑賞会を実施した。演目の『走れメロスを，全校児童と 400 人以上の保護者が一緒に鑑賞し，プロの演技を観るよい機会となった。また，児童に対し，鑑劇会当日までに鑑賞態度の指導をするとともに，作品を観る視点をもつよう伝えたため，作品の主題について考えながら鑑賞をすることができた。

観劇後，それぞれの家庭において，親子で感想を交流するよう依頼したところ，視点に沿って有意義な話し合いができた，などの感想が多く寄せられた。

＜児童の感想＞

- 「本当の友達って何だろう。本当の友情って何だろうな。」と考えながら見ていました。私は本当の友達は，どんな時でも信じ合えるような人のことだと思いました。
- 「走れメロス」を観る前は，“友情”とは，“友達”と助け合うこと，協力し合うことだと思っていました。でも，「走れメロス」を観た後は，命をかけてでも助けたいという気持ちが強く，本当に実現させるということが“友情”，“友達”だと分かりました。
- 注目した場面は，二人が城で再会した後，互いの頬を殴り合った場面です。そこでは一度，友情を疑った自分を恥じ，それでも互いを許し合っていることが強く心に残りました。僕は「相手のために頑張る」ことだけではなく，「相手の失敗を許し合える」ことも“友情”には入っているのではないか，と思いました。

＜保護者の感想＞

・話が少し難しいようでしたが，メロスが約束を守り王様の所へ戻ったのは，「すごくカッコイイ！！」と言っていて，ぼんやりと分かっているようでした。相手を信頼することは簡単ではないですが，とても大事なことだと思います。（低学年保護者）

・メロスが足をケガして途中でお城へ戻るのをあきらめた時に，どうしてあきらめずにもう一度頑張れたのか，を話し合いました。自分１人じゃない，待っている人がいること，子どもにもずっと覚えていてほしいと思います。（中学年保護者）

・大切な人（親や兄弟，友達など）を信じること，約束を守ることは生きていく上でとても大切なことだと思った，というような話題になりました。命をかけてまで必死に走ったメロスはすごいな，などとも話していました。（高学年保護者）

２）茶道教室

花を挿し，抹茶を立てる児童

初めて茶道を体験する児童も多くいたが，卒業を間近に控えた６年生にとってこの体験は，よい経験になった。それは，日本の伝統に気付くことができたことや，日本の心に触れることができたこと，そして，仲間との関わりで楽しく過ごせたことなどからである。自分が作った一輪挿しにさした花を愛でながら，抹茶とお菓子をいただく。そこには日本人らしい，人のために心を尽くして茶を点てるという精神があった。また，仲間とともにそれを体験し，互いの花を愛でたり茶を味わったりする中で，目には見えない温かな心のつながりが再認識できた。

体験後の感想発表では，人との関わりの中で暮らしていることに感謝の気持ちをあらたにしたり，日本のよさや仲間との関わりのよさを再認識したりした児童も多くいた。

（３）道徳的意識を高める環境づくり

友達のよさを認める道徳コーナー

児童の道徳性の発達に影響を与える環境には，人的環境，物的環境など様々なものがある。なかでも，道徳性を培う環境づくりの基本は学級経営にある。教師と児童の人間関係において教師が最大の環境であることを意識し，児童一人一人が自分の思いを素直に言え，互いに認め合い，助け合い，学び合う学級の雰囲気作りが大切になる。そして，毎日生活する教室については，無意識のうちに児童の情緒の安定や判断力，心の豊かさを生み出すような道徳意識を高める環境づくりが大事になってくる。

教室掲示は，作品や活動についての認めの評価が身近にあると，自己肯定感や所属感が高まると考える。そこで，背面掲示に道徳コーナー（見つめる心・心のオアシス）を設け，道徳の時間での価値の主体的自覚が表れた感想等を掲示した。そして，学校生活の中で折に触れて「あの時，○○が大切なことをみんなで見つけたね。」などと活用し，身近な体験と道徳の時間をつなぐことができるようにした。

朝の会では，輪番で回ってくる日直当番のよいところを発表するコーナーをつくり，日直が皆から認められ励まされることで，当番活動を気持ちよく意欲的にできるようにした。また，帰りの会で「今日の良いとこ見つけ」を行い，心がほのぼの温かくなる発表の場を設けてきた。さらに，教師が気づいた良いところを話すなど，児童の心に語りかける環境づくりを心がけてきた。

心を見つめる道徳コーナー

２　成果と課題

「豊かな心を育み，自己効力感を高める道徳教育の実践をめざして」をテーマに，各学年のめざす子ども像を設定して，道徳学習の授業だけでなく学校生活の中で道徳的な実践力を培うための実践を行った。

道徳の時間では，導入・展開・終末に適した発問の仕方や考えさせ方，学習形態などを工夫して多様な考えを引き出し，道徳的価値の自覚を深める授業を目指して取り組んできた。どの実践もそれぞれの教師の特性を生かした資料や教材の工夫がされており，教師のユーモアがあったり，究極の選択を迫る問いかけがあったり，人生経験豊富な教師の体験談が語られたりして，子どもたちの心に残る授業が行えたのではないかと考える。役割演技をして登場人物の気持ちになったり，これからの生活の中で同じような場面に遭遇したときに自分ならどうするのかを想像したりして，自分の内面を深く見つめることができた。学び合い・伝え合いの場では，自分の考えを発表したり人の意見を聞いたりする中で，新しい価値観が生まれたり，今まで気付かなかった自分を発見したりすることができた。

ペア学年活動や学校行事などを通しても，子どもたちの道徳的価値は高まっている。ペア学年活動では，学級では自己中心的な態度が目立つ子でも，下級生に優しく接したり，自分の力でやれるようにサポートしたりする姿が見られた。また，下級生も上級生に手を引っ張られながら楽しそうに活動していた。短い時間でも繰り返し活動することで信頼関係を築き，互いに認め合う心が育っている。行事では，それぞれの活動の意義をしっかり理解し，学級に合った目標を立てて取り組ませることにより，個だけでなく集団で高め合おうとする気持ちが育ってきた。時間の経過と共に，子どもたちの人間関係は複雑化し，行事に取り組んでいるときも様々な問題が起きる。しかし，それを道徳的な価値を高めるチャンスととらえ，子どもたちの本音を引き出しながら問題解決に取り組んできた。

道徳教育の充実において大切なのは，授業や行事だけでなく，学級経営が基本にある。学校生活の様々な活動を通して，学級の実態をきちんと把握し，実態に合った指導や支援をすることによって，豊かな心を育み，自己効力感を高めることができるのではないかと考える。

道徳の時間に道徳的価値の自覚を深め，自己効力感を高めることができたが，それが実生活の中で十分生かされているかというと必ずしもそうとは言えない。道徳的実践に結び付けるためには，今後も子どもの心に訴えかけるような取組を学年・学校全体で行うことを心がけていきたい。今後も，豊かな心を育み，自己効力感を高める道徳教育の実践を目指していきたい。

学級づくり部会　実践報告

互いのよさを理解し合い，よりよく人とつながりがもてる学級を目指して

はじめに

子どもは家庭、次に近所の子どもとの関わり、さらに幼稚園・保育園といういろいろな場面で人間関係の基礎を学び，小学校に入学してくる。そして９年間の義務教育のなかで，学習だけでなく人間としての関わり方や相手の気持ちを思いやる等，様々なことを学校生活の中で自然と学び成長していく。

しかし，ここ数年，子どもの閉塞的な人間関係が原因で友達との関わりがうまく出来ず，集団に溶け込めない事例をいくつか耳にする。また，いじめ等悪いことと分かっていても，集団に流されて，友達の気持ちを汲み取った行動ができない事例も少なくない。楽しいはずの「学校」「学級」が，時には「みんなと仲良く出来ないつらい場所」となっている児童がいる。一昔前までは生活や遊びを通して自然に人と関わるスキルを育んでいたが，今は，少子化・核家族化・ゲームの氾濫等でうまく関わる術を身に付けにくい社会状況だといえる。しかし，本来学級は子どもの大切な存在場所であり，友達と関わる重要な空間である。

そこで，本部会では子どもの実態に目を向け，子どもが自分の良さを発揮しながら，学級で充実した日々を過ごして成長できるよう，そして温かい人間関係が育まれる空間となるよう，様々な研修や資料提示を目的とした実践を行った。特に本年度は教員の力量向上のための研修と，学級活動で活用できる資料提示の２本柱で活動を進めた。子どももそして教員も共に支え合い，関わり合いながら成長していけるよう，活動内容を組み立て実践した。

１　活動内容

本年度，以下の９項目を中心に活動を行った。

① 学級づくりに関する校内研修実施
② 学級づくりに活用できる GWT・SST・エンカウンターの資料提示
③ 教育講演会の実施
④ 教育相談活動の充実
⑤ 通学班集会での異学年交流活動及び認め合い活動
⑥卒業を祝う会に向けた取組

２　活動の実際

（１）２つの研修会

本年度，教職員に向けて２つの研修会を行った。１つ目は，７月に実践した「学級づくりに関する研修会」，２つ目は１月に実践した「子どもたち同士が相手の気持ちを理解する」研修会である。以下，実践内容である。

１）研修会Ⅰ

実施日：平成24年７月23日（月）　9：00～11：00

研修内容：「よりよい学級づくりを目指し，日頃の実践を交流し合う」

この研修を実施するにあたり，学級づくりについて学びたい内容を事前にアンケートを取り，

それをもとに話し合いの内容を構成した。事前のアンケート結果から話し合う内容を以下の項目に絞り、研修会を実施した。

〈学級活動に関する内容について〉
A　仲間意識をもって団結力を高めるにはどんな活動を取り入れるとよいか。
B　子どもが学級のことを考え，自主的に活動できる方法について知りたい。
C　歌声が大きくならない。大きくする言葉かけや指導はどうすればよいか。

職員を６グループに分け，各グループでそれぞれ30分程度話し合い〈図１〉，その後一人一人が違うグループと交流を図るグループ間交流〈図２〉の形を取り研修を進めた。話し合いの内容とその取り組みの一部を以下に紹介する。

話し合い内容：A　仲間意識をもって団結力を高める活動について

・帰りの会で「いいところ見つけ」を実施。悪いことは見つけやすい。よいところを見つける視点を子どもにもたせる。
・生活班を重視し，学習・活動を意図的に行わせる→「みんなのクラス」を意識させる。
・学級独自のルールブックの活用。１日１つずつ読む→１日のめあてを振り返る。
・「ありがとう」「ごめんなさい」を進んで言う。カッとなる前に３回呼吸させ，落ち着かせる。
・定期的にレクリエーションを実施して楽しく関わる場を意図的につくる。
・よいところを伝え合う。・・・メッセージカードの活用。

図１：グループで話し合う

話し合い内容：B　子どもが学級のことを考えた自主的活動について

・係活動をきちんと行ったかどうか，氏名を書いたのマグネットを使い，活動したら裏返す。
・朝の会や帰りの会などで係からの連絡を積極的に伝える。
・係活動の反省，振り返りをさせる時間を定期的に設ける。

話し合い内容：C　声を大きくする取り組みについて

・教室は間違うところ，間違ってよい雰囲気を徹底する。
・歌声→低学年：大きな声で歌う事を目標にする。
　　中学年以上：恥ずかしさで声が小さくなっていくので，自信をもたせる声かけをする。
・朝の会の歌：担任も一緒に歌う。
・「今回の歌声80点だったね。」など，子どもにとって分かりやすい評価をする。
・群読練習は，学級の気持ちを一つにできる。

図２：グループ間交流

※以下，研修後の感想

・子どもの仲間意識を育てるための取り組みについて，他の先生方の様々な実践や意見を教えていただき，勉強になった。エンカウンターのショートエクササイズ，学級レクの取組など，今後クラスに合う方法で取り入れたい。また，意見交流では，普段の悩み等を交流するよい機会となり，心が軽くなった。
・身近な話題や問題が出て，それに沿って話し合えたので，他の研修とは違って，無理なく話し合いに参加できてよかった。
・テーマに対する解決方法が示されることはなかったが，日常の指導における問題点等について話し合

うことで参考となる部分がたくさんあり，よい時間となった。

２）研修会Ⅱ

実施日　平成25年１月28日（月）　15：00～16：00

研修内容：「自分や相手の気持ちを考え，心の理解を深める研修」

昨今いじめが増えたり，自分や相手の気持ちが理解できず，うまく言葉で表現できないために暴れたり，閉じこもったりするケースが増えた。そこで気持ちを理解することに焦点をあて，以下の研修を実施した。

図３：ベアーズカードによる研修

ア．「ベアーズカード」を活用し，気持ちを表現したり理解したりする研修〈図３〉

熊の表情を見て，気持ちを表す活動を行った。表情別のカードを集めたり，自分の気持ちに合った表情を選び，説明する GWT を実施した。楽しい気持ちや悲しい気持ちは人それぞれ違うことに気がつくのが狙いで，職員同士，思い思いの気持ちを交流した。

図４：「２色の気持ち」の紙芝居

イ．「２色の気持ち」の紙芝居を使い，気持ちの対処の仕方について研修〈図４〉

楽しい気持ちと悲しい気持ちがどんな風に大きくなり，どんな風にしたら気持ちが落ち着いていくのか，紙芝居を使って理解する研修を行た。紙芝居形式であると，絵があり，子ども達により分かりやすく伝わると考え，今回取り入れた。

図５：いじめ等について話し合う

ウ．各グループでいじめを未然に防いだり，子どもの心や様子の変化をキャッチするよい手立てについての話し合い〈図５〉

以下の項目に内容を絞り，子どもへの関わり方やいじめの早期発見の手立て等について話し合った。

○子どもの上手な関わり方（ほめ方・しかり方）
○人権意識の育成
○子ども同士のかかわり（仲間作り）
○いじめ防止の手立て
○ 保護者への対応

話し合いの内容と本校職員の取組の一部を以下に紹介する。

子どもの上手な関わり方（ほめ方・しかり方）

・褒めるのは全員の前で，しかるのは個別に行う。
・「ありがとう。」をたくさん言う。
・最近家庭でしかられていない児童がいる。直接しからない方がいい児童には，周りの子の指導を自分のことに置き換えて理解できるように指導している。
・子どもが何でも話せる関係をつくるため，子どもの目線になって話を聴く。

子ども同士の関わり（仲間作り）

・「がんばったねカード」を実施。クラス内でがんばっている姿を見つけあい，カードに書

いて贈る。意外な仲間から贈られうれしさを感じたり，誰かが見てくれていると感じられたりし，学級の雰囲気向上に繋がる。
・ペアでお互いのよさを認め合う活動。学級活動等でお互いの良いところを褒めあう。
・集合写真の掲示。クラスの一体感を視覚的に感じさせる。

いじめ防止の手立て

・常にアンテナを高くし，「あれ？」と思った時にはすぐ対処する。
・担任との繋がりを意識させる。→いじめに関わりやすい子と意識的に繋がる。
・道徳や学級活動の時間を活用する。
・布石を打つ→学級開きの段階で，いじめは絶対にだめだという話をする。
・朝や休み時間の子どもの様子をよく観察する。（一緒に遊ぶとよい。）
・友達関係は，こじれてしまうと自分たちで解決できない場合がある。教師が話をしっかりと聞き解決の手助けをすることも必要である。
・教師一人の力では限界があるため，他の先生の協力を得る。（連携）

人権育成について

・日頃から言葉遣いに気を付ける。日常の会話の中で人権意識を高めるような話をする。
・ふわふわ言葉とちくちく言葉を集め，学級に掲示したり、交換したりする。
・心情に訴えたり，教師の願いを伝えることが大切である。

保護者への対応

・家庭の価値観が様々なので対応に気をつけたいが，事実を正確に伝えることが大切である。
・親の思いをしっかりと聞く。

※以下，研修後の感想

・ベアーズカードはとても温かい雰囲気で，気軽に取り組める GWT だと感じた。子ども同士温かい関係が築けると思った。
・「嬉しい」「楽しい」「悲しい」という気持ち一つとっても，微妙に違い，くまの表情から気持ちを考えるいい練習になった。子どもに無理なく気持ちを理解させるいい教材だと感じた。また，「嬉しい「悲しい」を話すことで，自分を振り返るいい機会になると感じた。
・「２色の気持ち」の紙芝居は，聞いていてすとんと心に落ちた。絵本ではなく，紙芝居を使うことも一つの手だと気がついた。
・いじめについての話し合いは，具体的な方策については話し合いができなかったが，日常で気をつける点や，子どもとの関わり方について具体的な方法を聴くことができ，示唆を受けた。
・いじめの傍観者への指導の仕方や保護者への対応等，自分が悩んでいる内容の話を聞くことができた。

（２）学級づくりに活用できるＧＷＴ・ＳＳＴ・エンカウンターの資料提示

本年度，４回にわたり学級づくりに活用できる GWT・SST・エンカウンターの資料提示を実施した。資料を作成するにあたり，毎回実施時期を考え，学級の繋がりや個人の成長になるよう，内容を吟味した。

紹介月	資　料　名	重視した内容
７月	・仲間の入り方（いーれて） ・ふわふわ言葉・ちくちく言葉 ・色いろだいすき	・友達との関わり方や学級づくりを重視した内容。
９月	・ピタットウオーク・ポールポジション ・あなたならだれにする？ ・どう伝えますか？	・グループでのふれ合いを通して，互いの良さを意識する内容。
11 月	・ふくは何色？・ムシムシ教室の席がえ ・森の仲間たち（地図づくり） ・色鉛筆を忘れちゃった	・グループで協力し合って問題を解決していく内容。
３月	・ジャンケンゲーム ・先生とビンゴ等	・学級の締めくくり及び学級開きに適した内容。

また、職員会議後に職員向けにミニ講習会を実施した「GWTをやってみたいが，どんな時にどのように活動を進めるとよいのか分からない。」との声を聞き，講習会を実施した（図７）。カードを使ってグループで協力し作り上げる GWT を行い，楽しさや方法を理解する手がかりとした。事後感想として「やり方がよく分かり，学級で行ってみようという気持ちになった。」と，前向きな感想があった。教師が取り組みやすいように，資料提示も工夫していくことの大切さを感じた。

図６：職員向けミニ講習場面

（３）原田先生を招いての教育講演会

１）３年生の実態及び活動の主旨

３年生は４月当初からけんかが多く，友達に対して心無い言葉を投げ，友人関係のトラブルが絶えなかった。また，Ｉ期に実施した「心の元気チェックアンケート」では，他学年に比べて自己効力感が低いことが分かった。そこで，学年で友達の良さを見つけ，互いを温かく受容する態度を育てる取組を行うことで，自己効力感が育つのではないかと想定し，以下の取組を年間を通して実践した。そして，１月に活動の集大成として児童福祉司親業訓練インストラクターの原田洋子先生を招き，「心を元気にする魔法の言葉」の講演会を実施した。

２）活動内容及び活用方法

朝の学習タイムや学級活動の時間を使い，GWT・構成的エンカウンター等を１週間に一度継続して行った（図７）。実践後には振り返りを書き，感想を交流する時間をもつことで，楽しかった気持ちや温かな気持ちをもてたことを共有できるようにした。また，「がんばっていたねカード」「ありがとうカード」等を通して互いを認め合う活動も行った。

図７：GWTの活動場面

主な実践例

1	好きなものインタビュー	９つの項目から，お互いのことをインタビューしあう。

2	友達集まれ	言葉を使わずに仲間作りを行う。
3	聖徳太子ゲーム	単音を一斉に発声し，どんな言葉になるか当てる。
4	合わせアドジャン	相手と合わせて，あいこになるようにじゃんけんを行う。

さらに，互いを尊重し，温かな言葉遣いを身につけるため，学年全体で「ふわふわ言葉ちくちく言葉」の授業計画を立て、実践した。（以下一部紹介）

時	題　　材	活　動　内　容
1	ふわふわ言葉と ちくちく言葉	①ふわふわ言葉とちくちく言葉の書き出し。内容確認。 ②役割演技を通して，言われたときの気持ちを伝え合う。
2	ふわふわ言葉の 温かシャワー	①グループ間でふわふわ言葉をカードに書き込む。 ②グループ間で読み合い，プレゼント形式で渡し合う。 ③感想を伝え合う。
3	ふわふわになろう	①ロールプレイを見て，イライラした時の気持ちを考える。 ②気持ちの伝え方をグループで考え，発表し合う。 ③感想を伝え合う。

３）教育講演会の実施

日時：平成25年１月19日（土）

会場：城東小学校　体育館

講師：春日井児童相談センター　児童福祉司親業訓練インストラクター原田洋子先生

内容：第１部　『心を元気にする魔法の言葉』（児童対象）

：第２部　『ほめ上手・叱り上手　～ことばに愛を添えて～』（保護者対象）

図８：気持ちを発表する児童

図９：白いボールで言葉のキャッチボール

学校保健委員会として，３年生とその保護者を対象として講演会を実施した。最初は気持ちを表す言葉を児童と一緒に確認し，児童に気持ちを発表させながら，いろいろな気持ちが人間にはあることを分かりやすく説明された（図８）。次に相手の言葉に対して温かく受容する答え方と，無視したり強い口調で返したりする答え方を白いボールと赤いボールに例え，説明された（図９）。特に遊びに誘われた時の答え方という，よくある場面を具体的に取り上げたことで，子どもは自分に置き換えて考えることができ，一人一人が自分のこととして受け止めることができた。また，子どもが大好きな「ドラえもん」のキャラクターを例に出し，役割演技を行った。相手の気持ちを尊重しながら，自分の気持ちも上手く伝えるドラえもんの答え方は，子どもによい例として印象に残ったようだった。

その後，保護者に向けて「ほめ上手・叱り上手　～ことばに愛を添えて～」と題して親子の関係作りや子どもの心を大切にした言葉のかけ方を話された。ちょうどギャングエイジにさしかかり，子どもとのコミュニケーションに悩みを抱える保護者が多く，頷きながら聞き入っている様子が見られた。

（４）教育相談活動の充実

１）目的

・児童が日頃がんばっている姿，がんばろうとする意欲を褒め，自己効力感を高める。

・児童が前向きに取り組もうとすることに対し，具体的な手だてが導き出せるよう支援する。

・児童が抱える悩みや問題を知り，支援や解決に向けた手だてを講じる。

２）実施内容

相談活動をスムーズに進行するため，事前にアンケート（低学年『あのねカード』（図10）中高学年『こころのお天気カード』（図11）を実施し，学校生活全般を取り上げ，面談前に児童の思いや悩みを知る手がかりとした。面談は，教師と児童の１対１で行い，児童の小さなつぶやきも受け止め「先生に話してよかった」と思える言葉がけを心がけた。また，深刻な悩みや相談があった場合は，必要に応じて，改めて面談時間を設けることとした。また，ケースによってはスクールカウンセラーのカウンセリングを勧めたり，関係職員と連携して対応したりしている。

３）教育相談活動を終えて

実施後に「カードを有効に活用できたか」と学級担任へアンケートをとった結果，「有効に活用できた」との回答が多くあった。カードを糸口として，気になっていることを共有できたことは，児童との信頼関係をより深いものにすることができたり，子ども同士の人間関係も把握でき，気持ちよく学校生活が送れるよう手だてを講じることができりした。

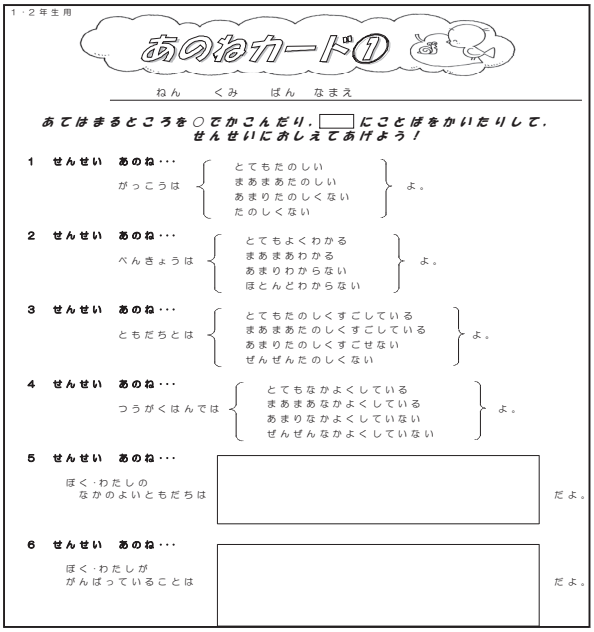


図10：低学年用あのねカード

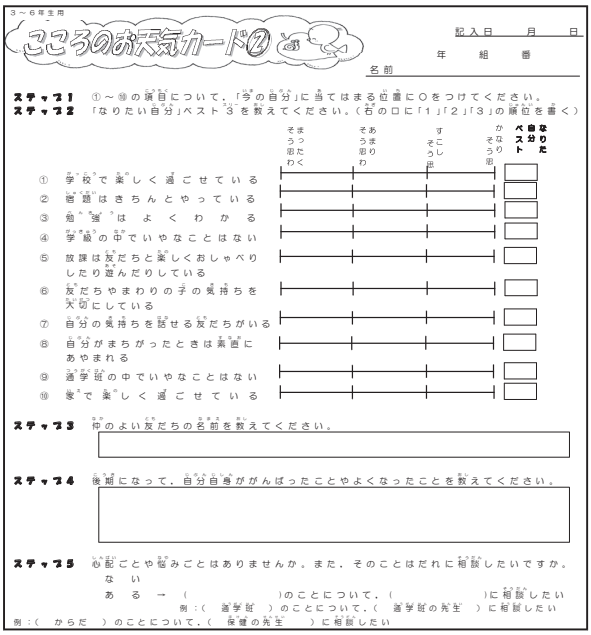


図11：中高学年用心のお天気カード

＜事例１＞中学年・女子

前期，登校を渋り保健室の来室もあり，早退することもあった児童のカードから，友達関係で悩んでいる様子がみえてきた。面談時に具体的に話をすることができ，担任・保護者・本人の３人がそろってスクールカウンセラーのカウンセリングを受けることとなった。スクールカウンセラーのアドバイスにより，生活習慣の改善と担任の声かけにより，後期から友達と遊ぶ

姿や，授業中の発表も増えるなどの変容がみられた。

（５）通学班集会での異学年交流活動及び認め合い活動

本校は,塔野地・富岡・善師野の３つの地域から児童が登校している。特に善師野地域には，四季の丘・もえぎが丘・善師野台の３つの新興住宅地があり，600人近い児童が片道約1時間かけて登下校をしている。通学にかかる時間が長い分，通学班内での人間関係に関わる問題が多く，通学班での悩みを抱えている児童も少なくない。

そこで本部会では，こうした問題を減らし，子どもたち同士の結びつきを強め,良好な人間関係を築くために，２つのことについて新たな試みに取り組んだ。

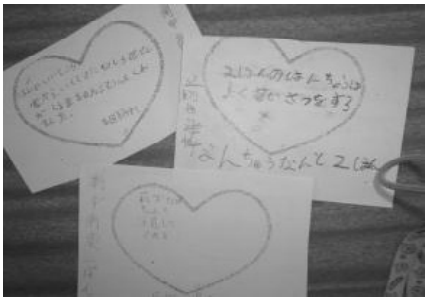


図12：ハート型の班のよいことメモ

1つ目は通学班集会で，班のよいことをハート型の型紙に記入し，掲示するということである（図12)。例えば，「班長さんが転んだ時に優しく声をかけてくれた」とか「私たちの班はいつもまとまって通学できる」などである。悪いことに目を向けるのではなく，よいことに目を向け，子どもがプラスの価値観をもてるようにするのがねらいである。また，それを班員全員で共有することで，通学班内の帰属意識や縦の結びつきを強めることもできるだろうと考えた。実際に取り組んでみると，とても多くのよいことが記入されていた。この紙は，校舎別に掲示し，児童が読めるようにした。また，昼の放送で読み上げ，学校全体で認め合えるようにした。

図13：班で楽しくじゃんけん列車

２つ目は，通学班集会で，通学班遊びを取り入れることである（図13)。普段近くに住んでいるとはいえ，なかなか揃って遊ぶ機会は少ない。また，登下校の時間だけでは楽しい時間を共有するのは難しいと考え，この取組を行った。実際に行った遊びは，じゃんけん列車・爆弾ゲーム・ハンカチ落としなどである。この取組は班全体が楽しく関わるよい期間となった。

（６）卒業を祝う会に向けての全校の取組

図14：在校生全員のエール場面

卒業式に参加する在校生は５年生のみで，他の学年は出席しないので，毎年３月上旬に全校で卒業を祝う会を開いている。５年生の児童を中心にこの会を企画・運営している。これまでお世話になったことへの感謝の気持ちを込め，各学年が歌や踊りなどの出し物を発表するほか，全校で合唱したり，在校生全員でエールを送ったりと，温かい雰囲気の中で行われている（図14)。

以下は，平成23年度の会の内容である。

①全校合唱（２月の歌）

②各学年の出し物

③委員会活動及び通学団の引き継ぎ式
④職員の出し物（歌）
⑤卒業生の出し物（歌）
⑥校長からの言葉
⑦応援クラブによるエール（在校生全員で）
⑧校歌斉唱

会の当日に卒業生へプレゼントするメダルは，１年生から５年生までが作業を分担して作り上げる。全員が関わってプレゼントを作り上げることにより，全校でお祝いしようという意識を高めることがねらいである。

〈メダル作りの分担と流れ〉

学年	担　当　内　容
5年生	メダルの用紙を切るなど，下準備をする
２年生	メダルの表をかく
３年生	メダルの裏の感謝状を書く
４年生	メダルの内側にメッセージを書く
５年生	メダルを組み立てる
１年生	首飾りとともに，完成したプレゼントを渡す

３　成果と課題

学級づくり部会では，子どもたちが，楽しく生き生きと活動できる学級づくりに向け，職員向けの研修と児童向けの資料提示の２本柱で研究・実践を進めてきた。

職員向けの研修では，日頃聞き合えない悩みや具体的な指導方法について，交流することが出来た。また，カードや紙芝居等具体物を使って子どもの気持ちを理解する研修も行い，いろいろな方法を学び合うことができた。本年度は職員間研修のみで進めてきたが，次年度は専門家や経験豊かな講師を招き，深く幅のある話を聞く研修を設定し，力量向上につなげたい。

GWT については，学級で取り組みやすい活動を随時提示し，学級の実態に合わせ活用した。定期的に取り組んでいる職員からは，「学級が温かい雰囲気に少しずつ変容した。」「友達同士，仲良く関わる姿が増えた。」「子どもが，エンカウンターをもっとやりたいと言い，楽しく活動を進めている。」との声を聞き，子どもが楽しみながらスキルトレーニングを通して人と関わり合う術を学んでいるのを感じた。学級の実態に応じて，いろいろな方法で活動を行えるようにすることが，これからの学級づくりに必要だと考えるので，今後も，活用しやすいスキルトレーニングの資料を提示していきたい。

７月に実施したアンケート結果から，他の学年に比べ３年生は自己効力感が低いという実態が浮き彫りになった。この結果を改善するために，養護教諭と３年生担任が中心になって，心を育てる取組を１年間にわたって行った。その集大成として，１月に外部講師を招いて講話を聴いた。「ふわふわ言葉で話をすると，ふわふわ言葉で返ってくる。ちくちく言葉で話をすると，ちくちく言葉で返ってくる。」と，上手な気持ちの伝え方や自分の話し言葉を振り返るいい機会となった。

教育相談活動は，担任と子どもの心をつなぐ大切なパイプ役である。子どもが悩みを抱えて

いる場合は，ゆっくりと話を聴き，一緒に解決策を考えた。また，関わりのある職員と連携を図ったりスクールカウンセラーにアドバイスを仰いだりしながら，心のサポートを行った。子どもは教育相談活動を通して，自分の心を見つめ，解決していくことで，安心感や自己効力感をもち，学校生活を円滑に送ることができている。今後も教育相談活動は，子どもの気持ちを受け止める重要な取組として継続していきたい。

通学班集会での取組は，通学班のトラブルが多い学校の実態を踏まえ，意義ある活動となった。ミニゲームを取り入れ，交流の場を設けたことで，異学年集団である通学班の結束が少し強くなったことを感じた。また，よいこと見つけでは，たくさんのよいことの記入があり，それぞれ通学班で，感じたうれしい気持ちを伝え合うことができた。班員全員で楽しい時間を共有することで笑顔が見られ，ふだんの集会とは違った温かい雰囲気が生まれた。今後，異学年の絆をより深めるためにも，この取り組みを継続していけたらよい。

おわりに

子どもは常に「勉強が分かるようになりたい」「友達と一緒に楽しい学校生活を送りたい」と願っている。自分だけではうまく友達と関わったり，仲良く出来ない児童が増えている今日，教師側が工夫ある活動を意図して盛り込んでいくことは，非常に重要になってくる。ちょっとした活動や楽しい工夫が子どもを成長させ，教師の温かい言葉かけが子どもの自信につながることは言うまでもない。今後も子どもの実情や学級の様子を汲み取り，子どもの笑顔がもっともっと溢れる学級づくりを目指して，有意義な資料や活動を提示していこうと考える。

健康推進部　評価活動研究部会

自己効力感を高めるための手立ての検証と考察

はじめに

本校では，「健やかに伸びる　城東の子」という研究主題をもとに豊かな心と健康な体をもつ児童の育成をめざしている。保護者を対象とした「健康」に関するアンケート結果から，子どもの「心の健康」に関心を寄せる保護者が多いことが分かった（平成 23 年 7 月）。そこで，児童を対象とした「心の健康」に関する調査を実施したところ，自己効力感に関する項目において課題が見られた。そのため，本研究部の主題を「自己効力感を高めるための手立ての検証と考察」と設定した。

仮説　継続的に子どもの心の状態を調査し，自己効力感の向上を図った手立ての提示や検証を行えば，新たに有効な手立てを探ることができるであろう。

＜研究の手立て＞

手立て１　定期的なアンケートの実施と考察

「こころの元気チェック」アンケートを定期的に実施し，本校の教育活動が有効であったか検証するとともに，自己効力感が高まることが期待されるような手立てを各研究部に提示する。

手立て２　他の研究部との連携

他の研究部から依頼されたアンケートに取り組み，児童の心の状態を把握し，自己効力感を高める有効な活動を見出していく。

１　活動内容

（１）児童を対象とした「心の健康」に関するアンケート「こころの元気チェック」

１）全校児童の傾向から昨年度，本年度とこれまでに 3 回の「こころの元気チェック」アンケートを実施し，本研究部で分析した。以下は，アンケート項目を「自己効力感に関する項目」と「不安に関する項目」に絞り，考察したものである。

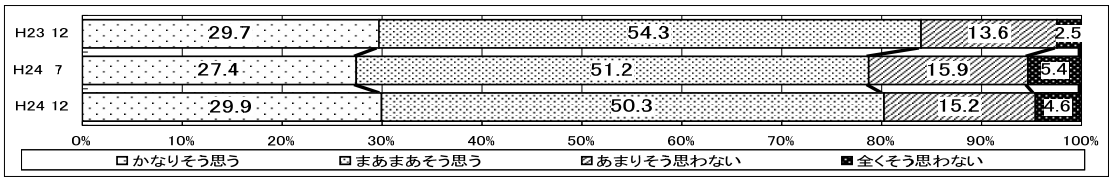
調査時期：平成 23 年 11 月下旬～12 月上旬　**調査人数**：529 名(3 年 140 名，4 年 148 名，5 年 127 名，6 年 114 名)

調査時期：平成 24 年 7 月中～下旬　**調査人数**：541 名(3 年 132 名，4 年 137 名，5 年 146 名，6 年 126 名)

調査時期：平成 24 年 12 月中旬　**調査人数**：541 名(3 年 130 名，4 年 140 名，5 年 145 名，6 年 126 名)

＜自己効力感に関する項目＞

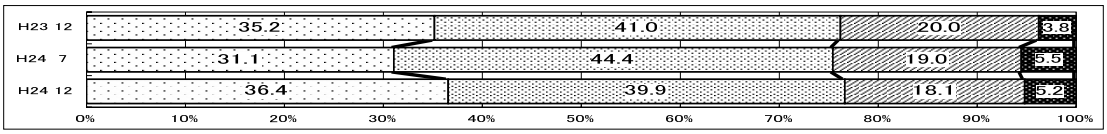
○人から好かれている，仲間だと思われていると思う



平成 24 年 7 月の調査時に，「かなりそう思う，まあまあそう思う」とした児童が 78.6%に下がったが，12 月の調査時には，2 ポイント高くなった。これは，ふれあい運動会や学習発表会などで仲間と一体感がもてたためであろう。しかしながら，昨年と比較すると 4 ポイント下

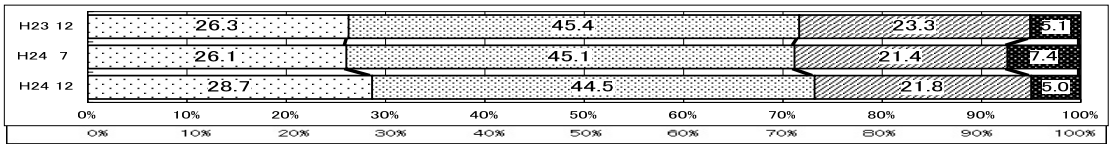
がっている。これは，3 年生の割合が下がったためである。中学年は，まだ自分中心の言動が多いためではないかと考えられる。そこで，中学年で，仲間意識を高めることのできる場を多く設定する必要があることが分かった。

○運動や勉強，係活動や委員会活動，趣味などで認められていることがある



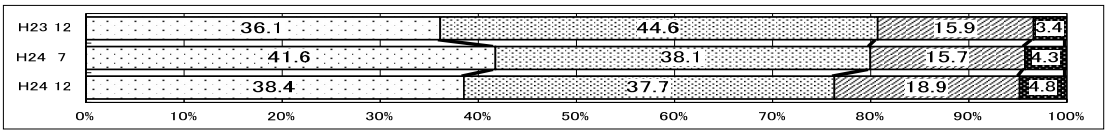
昨年度から他者に認められていると感じている児童の割合は,ほぼ変わっていない。しかし，4 年生以上の児童は，昨年度より割合が高くなっているので，今年度の各研究部での取組の成果が感じられる。

○自分の言いたいことは，はっきり言える



「かなりそう思う，まあまあそう思う」の割合が平成 24 年 12 月には約 2 ポイント上がっている。しかし，中学年は高学年に比べて低い傾向であった。これは，自分の考えや思いを分かりやすく相手に伝えるまでに成長していないからであろう。そこで，ソーシャルスキルトレーニングなどの活動を取り入れるようにしたい。

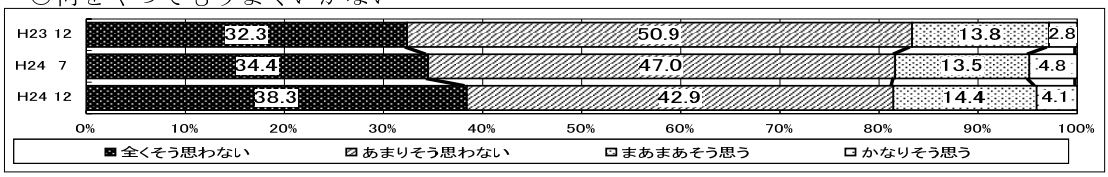
○自分は「やればできる」と思う



今年度は「かなりそう思う，まあまあそう思う」の割合が減っている。高学年になると客観的に自己を見る目が育ち始めることを考慮しても下がったことは問題である。「さすがだね。」「すごいね。」などの自信をもたせるような言葉掛けや「できた。」「頑張れた。」という達成感を味わわせたい。来年度は，年度当初から自信をもって活動できる場の設定をしたい。

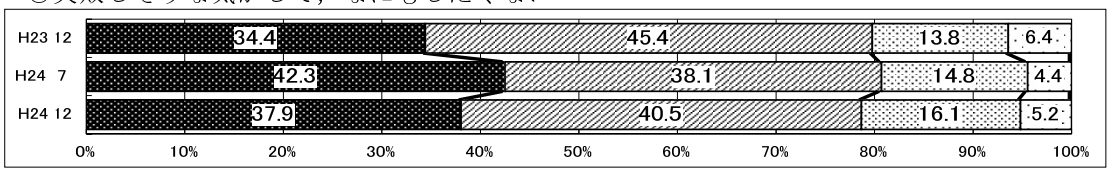
＜不安に関する項目＞

○何をやってもうまくいかない



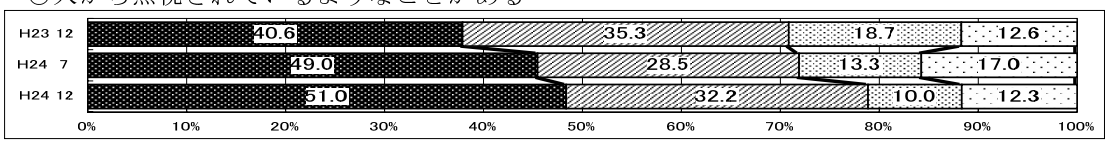
今年度「全くそう思わない，あまりそう思わない」とした児童は，減っているものの,「全くそう思わない」と答えた児童の割合は増えている。これは，目標を明確に示し，結果だけでなく過程も含めて自己の努力を認めるように取り組んできたからではないかと考える。

○失敗しそうな気がして，なにもしたくない



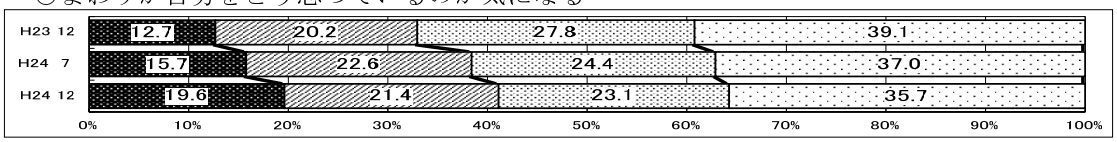
「全くそう思わない」とした児童が増えている。特に５年生の児童の変化が顕著であった。その一方で，前述の「やればできると思う」という項目での結果につながっていない。「失敗しそうな気がしてなにもしたくない」わけではないが，「やればできると思う」という気持ちまでには至っていないということであろうか。今後，児童が自信をもって取り組める活動を設定し，成功体験を増やす必要性を感じる。

○人から無視されているようなことがある



「まあまあそう思う，かなりそう思う」とした児童が約 16％いる。これは，昨年度に比べて，向上している。日ごろ関わり合いに対して様々な方面からアプローチを重ねた結果だと考える。今後も仲間意識を高めるために構成的グループエンカウンターを取り入れたり道徳の授業に力を入れたりして，温かい雰囲気づくりに努めていきたい。

○まわりが自分をどう思っているのか気になる



今年度は「全くそう思わない」とした児童が７ポイント増え，自己肯定感の高まりが感じられる。認め合う場を多く設定した結果であろう。来年度も学級経営の中でさらに自己肯定感が高められるように手立てを講じたい。

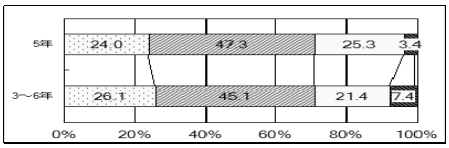
以上の結果から，全校の中で認め合う場の設定をするとよいことを全教職員に提示した。これにより，委員会による心みがき運動や学級による「よいところ見つけ」の実践へとつなげていくことができた。

２）５年生児童の実態から

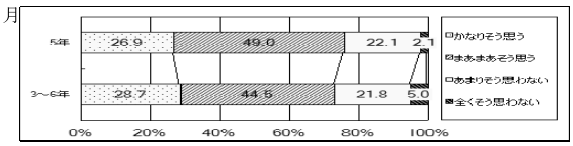
アンケート調査から浮かび上がってきた児童の実態の例として，５ 年生児童ＡとＢを抽出児として取り上げる。５年生は，７月に実施した「こころの元気チェック」のアンケートの多くの項目で，全校の平均と比べて自己効力感の低さが目立った。その中でも「人から好かれている，仲間だと思われていると思う」「自分の言いたいことは，はっきり言える」の２項目に注目し，７月のアンケート実施から，12 月のアンケート実施に至るまでの児童の様子を考察する。

○人から好かれている，仲間だと思われていると思う

7 月

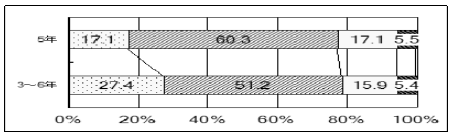


12 月

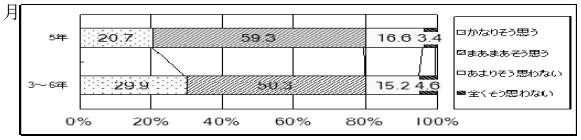


○自分の言いたいことは，はっきり言える

7 月



12 月



〈児童Ａ〉

自分から積極的に友達に話しかけることは苦手である。4 月はクラスになじめず一人で本を読んでいることが多かった。学習面で苦手なことが多く，周りから遅れがちであり，低学年のころには身体的なことでからかわれたことがある。このような経験から，児童Ａは，自分に自信がもてず，積極的に友達と関わることができなかったのでないかと推測する。

応援団長で活躍する児童Ａ

以上の実態から，行事や学習活動の場面で，仲間同士が認め合う場を設定すれば，自信をもち積極的に人と関わろうとすると考え，手立てを講じることにした。

7 月のアンケートでは，「人から好かれている，仲間だと思われていると思う」の項目で「あまりそう思わない」と回答していた児童Ａだったが 12 月には，「まあまあそう思う」と回答している。これは，ふれあい運動会で応援団長を務めたことや児童集会での低学年児童との交流が契機となったと考えられる。当初は，応援団長として自信がもてなかった児童Ａだったが，担任や応援団担当の教師の後押しもあり，夏休み明けからは，とても熱心に応援団の活動に取り組み始めた。そして，全校児童の前で大きな声を出したり応援の仕方を教えたりする中で，周りの友達から「頑張っているね。」などの言葉をかけられるようになった。また，11 月の児童集会では，2 年生の児童と手をつないだりお礼の言葉をかけられたりして嬉しそうな姿を見せた。こうした活動の後，児童Ａは，自分から友達に声をかけて遊びに行くことが多くなった。仲間からの励ましの声や下級生からの感謝の言葉によって，児童Ａの自己効力感が高まり，周りから仲間として認められているという意識が強くなったのではないかと推測する。

〈児童Ｂ〉

自分の気持ちを表現することが苦手で，4 月当初は，朝のスピーチで「5 年生で頑張りたいこと」を発表できず，泣いてしまうことがあった。作文や話し合いなどの活動はやろうとせず，根気の要る作業を嫌い，場をわきまえずにふざけたり自分勝手な言動をとったりして，授業を止めてしまうこともあった。

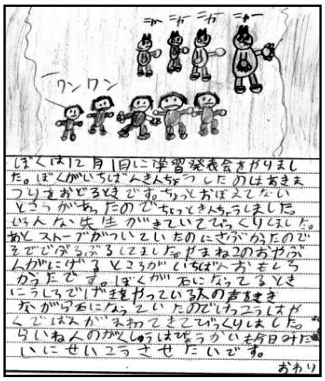
児童Ｂは，7 月のアンケートで「自分の言いたいことははっきり言える」という設問に「あまりそう思わない」と回答した。そこで，表現の仕方を提示したり関わり合う場を設定したりして，自己効力感が高まるような手立てを講じた。

文章を書く際には，例や型を示すとともに，個別の達成目標を立てた。次第に書くことに抵抗がなくなってきたため，「5 行書こう」「半分は書こう」と目標を上げていった。そうして，12 月には振り返りカードいっぱいに感想を書くようになった。

また，早く解けていても発表しようとしなかった算数や理科の授業の際には，ペアやグループでの発表を多く取り入れるようにした。最初はノートを見せることしかできなかった児童Ｂだったが，ペアやグループの友達から「なぜこうなるのか。」と尋ねられるうちに，自分の考えを説明するようになった。「Ｂさんの説明のおかげで問題が解けた。」と書いた同じグループの児

童の振り返りカードを紹介すると，児童Ｂは，その後自ら挙手して全体の場で発表するようになった。

こうした手立てを講じた結果，12 月の調査で児童Ｂは「自分の言いたいことははっきり言える」という設問に「まあまあそう思う」と回答している。これは，達成可能な目標を設定したことが功を奏し，児童Ｂが安心して自己表現できたからだと考える。また，「ペア→グループ→全体へ」と話し合いの構成人数を段階的に増やしたことが効果的であったといえよう。関わり合う仲間を少しずつ増やしていったことによって，苦手意識を克服し，自分の言いたいことをはっきり言うことができるようになってきたと考える。



児童Ｂの振り返り

1	人から好かれている、仲間だと思われていると思う	21	「おはよう」「さようなら」などのあいさつはしっかりやっている
2	運動や勉強、係活動や委員会活動、趣味などで認められていることがある	22	友達から何かしてもらった時には、「ありがとう」と言っている
3	自分の言いたいことは、はっきり言える	23	友達が何かをうまくしたとき、「上手だね」などとほめている
4	失敗しそうな気がして、何もしたくない	24	友達とよくかんかをしたり言い合いになったりする
5	体調を崩しやすい	25	学校のことや友達のことを家の人に話している
6	人と仲良くなるのがじょうずだ	26	自分から友達を遊びに誘っている
7	自分は「やればできる」と思う	27	友達が話している時は、話を最後まで聞いている
8	何をやってもうまくいかない	28	人にすぐ乱暴な言葉やきたない言葉を遣ってしまう
9	いやなことを言われたり、からかわれたりして、つらい思いをすることがある	29	友達をたたいたり、乱暴することがある
10	失敗をしてしまったときには、すぐに「ごめんなさい」とあやまっている	30	カットなるとすぐにものをこわしてしまう
11	友達が一生懸命やって失敗したときには、許している	31	目立つことが好きである
12	ひとりぼっちでさみしい	32	何かを頼むときに、相手に迷惑がかからないか考えている
13	みんなのためになることは、自分で見つけて実行している	33	誰かが困っている時は、自分から手伝いをしている
14	学校は楽しいと思う	34	嬉しいことがあった時は、ガッツポーズなどをして、自分の気持ちを表している
15	友達に暴力をふるわれるなどして、つらい思いをすることがある	35	係の仕事は最後までしっかりとやっている
16	ほしいものややりたいことがあっても言えない	36	相手の気持ちを考えて、話をしたり行動したりしている
17	みんなで決めたきまりは守っている	37	友達との約束は守っている
18	まわりが自分をどう思っているのか気になる	38	他の人に左右されないで、自分の考えで行動している
19	人から無視されているようなことがある	39	あなたは何年生ですか、自分の学年の数字を選んでください。
20	おこりっぽい	40	男女のどちらか

「心の健康」に関するアンケート「こころの元気チェック」の 38 項目

（２）他の研究部との連携

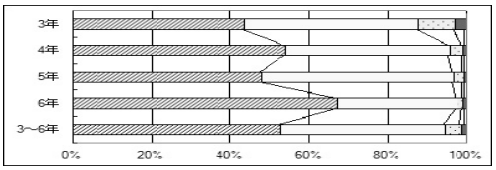
各研究部の取組の有効性を検証するために，各研究部から依頼されたアンケート調査についても実施している。これによって，児童の実態を把握し，各研究部で新たに実践できそうな有効な手立てを提示している。ここでは，絆づくり研究部より依頼されたアンケート調査の結果について取り上げる。絆づくり研究部のふれあい運動会前までの取組を検証するとともに児童の自己効力感の高まりについて把握するために，3～6 年生を対象としてアンケート調査を実施した。

調査時期：平成 24 年 6 月中旬　**調査人数**：543 名(3 年 131 名，4 年 137 名，5 年 147 名，6 年 128 名)

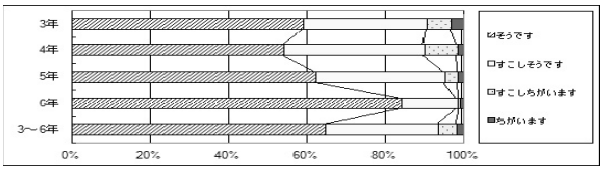
調査時期：平成 24 年 9 月下旬　**調査人数**：542 名(3 年 130 名，4 年 140 名，5 年 146 名，6 年 126 名)

①周りの人と支え合い，力を合わせて活動することを心がけた

＜6 月＞



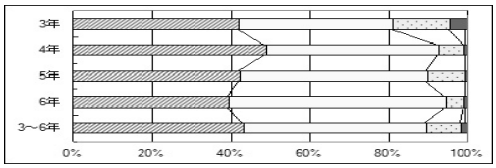
＜運動会後＞



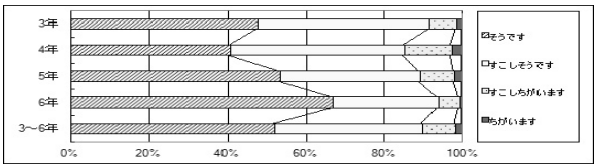
6 月には，「そうです」とした児童が，およそ 50%だったが，運動会後には，60%に増えた。「そうです，すこしそうです」とした児童は，90%を超えている。学年別に見ると，6 年生の変化が著しく，「そうです」と回答した児童が，20 ポイント以上増えている。マスコットキャラクターを登場させて委員会活動を盛り上げたり，ふれあい運動会で地域の方と一緒に協力して取り組んだりするなどして，一丸となって活動し，達成感や成就感を味わうことができたからだと考える。

②今まで取り組んだことのないものにも，自分にできそうだと前向きに考えて取り組もうとした

＜6 月＞



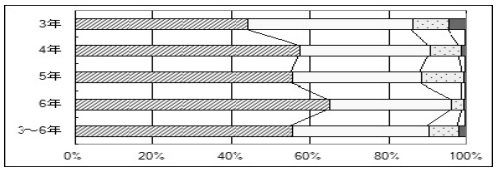
＜運動会後＞



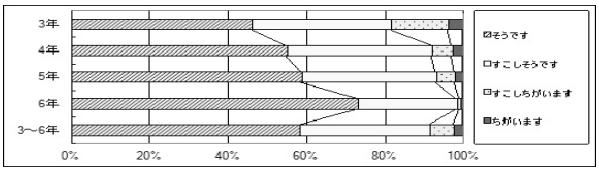
全体として，「そうです」とした児童が，運動会後におよそ 10 ポイント増えている。ここから，多くの児童が，経験したことのない学習や運動，学校生活に前向きに取り組むことができていることが分かる。また，6 年生では，「そうです」と回答した児童が，運動会後におよそ 30 ポイント増えている。運動会の運営を任されて中心となって活動をしたり，組み立て体操で仲間と励まし合いながらより良い演技になるように一生懸命取り組んだりしたことが分かる。

③周りの人とあいさつをしたり声をかけ合ったりして，仲間づくりをしようとこころがけた

＜6 月＞



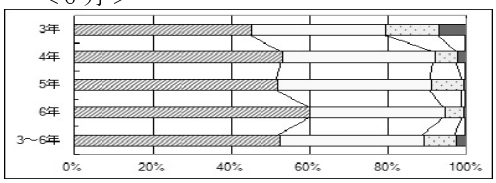
＜運動会後＞



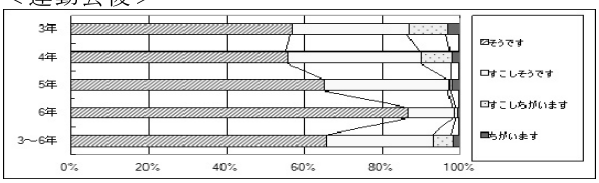
6 月，運動会後の双方で，どの学年も「そうです，すこしそうです」が 80%を超えている。全体として，「そうです」とした児童が，運動会後にやや増えている。これは，運動会前に行った心みがき週間であいさつ運動に取り組んだことがより良い結果をもたらしたと考えられる。今後も，継続的な取組によって，仲間との絆を深めていくことが望まれる。

④仲間とともに同じ目標に向かって取り組むことができた

＜6 月＞



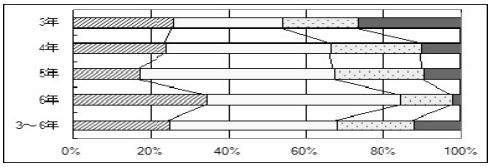
＜運動会後＞

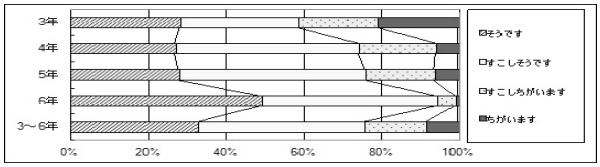


全体としては，運動会後に「そうです」と回答した児童が 60%に増え，「そうです，すこしそうです」とした児童は，90%以上を示している。学年別に見ても「そうです」とした 6 年生の児童は，80%を超えており，「そうです，すこしそうです」を併せると 100%である。ここからも，運動会に最上級生として，一生懸命取り組んだことが推察される。

⑤周りの人にがんばりを認められていると感じたことがあった

＜6 月＞　　＜運動会後＞





全体としては，「そうです，すこしそうです」と回答した児童が運動会後に 80%近くになっている。しかしながら，運動会後も「そうです」の層が 40%を下回り，6 年生以外の学年は，押し並べて 5 割に届いていない。また，3 年生は，運動会後に「そうです，すこしそうです」と回答した児童がやや増えたものの，他学年に比べると低い傾向にある。そのため，養護教諭と連携して朝の会の前に，ペア活動によるショートエクササイズを手立てとして取り入れることにした。

以上の絆づくり部会依頼のアンケート調査結果は，道徳教育研究部会，学級づくり研究部会においても，児童の実態の把握につながり，取組への手がかりとなっている。

２　成果と課題

（１）成果

１）手立て１について

継続的にアンケート調査を実施し，これまでの 3 回の結果を比較して児童の心の状態や集団としての傾向を分析した結果を全教職員に報告した。8 月の報告会で，児童の実態に即して全校の中で認め合う場を設定するという方向性を提示し，全教職員で共通認識をもつことができた。その後は，他の研究部により，委員会による心みがき運動などの取組や学級での構成的グループエンカウンターや相互評価への実践へとつながっており，児童によりよい変化をもたらしている。1 月の報告会でも 8 月同様分析結果と来年度に向けての方向性を提示するなど，今後の取組への展望を示すことができた。

<u>学年ごとの実践例</u>

3 年生・・・・・・朝のペア活動（養護教諭と連携）
　　ショートエクササイズ（エンカウンター・アサーショントレーニングなど）
4 年生・・・・・・活躍の場の設定（歌声集会・学習発表会・犬山市音楽会）
　　地域との交流（総合的な学習の時間・椎茸栽培）
　　よいところ見つけ（帰りの会）
5 年生・・・・・・活躍の場の設定（学習発表会・委員会・行事を支える活動など）
　　振り返りカードを活用した認め合い
6 年生・・・・・・活躍の場を設定する（学習発表会・委員会・児童集会）
　　ソーシャルスキルトレーニング・エンカウンター

２）手立て２について

他の研究部が取り組んだ活動の前後で児童の実態アンケート調査することによって，児童に自己効力感の高まりが見られたか，取組自体は効果的であったかどうかについて検証することができた。そのことが，自己効力感を高めるための有効な活動をさらに見出す糸口になったと考える。

また，手立て１，２の調査結果から，児童が他者から自分への評価が低いと感じている傾向

が見られることが判明した。そこで，互いに認め合う活動の手立てを講じてはどうかと各研究部に提示した。これは，学級や通学班ごとの「よいところ見つけ」等の活動の展開に繋がり，12 月実施のアンケート調査で，より良い結果が表れたと考える。

（２）課題

2 年にわたって，「こころの元気チェック」アンケートを実施し，児童の心の状態の把握に努めてきた。しかし，児童の心の状況は変化しやすいので，今後も継続して調査を実施し，資料を積み重ねていくことが重要であると考える。そのようにすることで，自己効力感を高めるための手立ての有効性を検証するための有力な材料になると考える。また，特徴的な結果を示した学年に絞り，具体的な手立てや実践内容についての検討を積み重ねて，手立てを提示することによって，実態が改善されて児童の自己効力感が向上していくと考える。これからも，他の研究部との連携をいっそう強化し，自己効力感の向上を図った手立ての実効性の検証を行い，さらに有効な手立てを探っていきたい。

授業づくり部会実践報告

第１学年　実践報告

考えたことを相手が分かるように表現できる子を目指して

はじめに

小学校に入学して以来，１年生は基本的な生活習慣や学習のルールを身に付けてきた。授業には，どのクラスの子どもたちも学習に意欲的に取り組み，よく挙手をし自分の考えを伝えたいという思いが溢れているのをとても強く感じる。また，発表者に体を向け，話を聞こうとする姿も定着が見られ，授業場面での成長もひしひしと感じることができる。しかし，一方で筋道を立てて自分の考えを整理したり，相手に分かるように表現したりするような学習は，経験の乏しい１年生には慣れない活動である。思考の道筋が見出せず思考を停止させてしまったり，表現の仕方が分からないために，できていることすら伝えられなくなってしまったりすることもある。これは，１年生の発達段階においては当然のことである。その力を伸ばすための手立てを講じ，内容を限定して同じような経験をくり返し積ませることで，子どもたちに安心して問題解決方法の習得や，考えを表現する力を身に付けさせる必要があると考えた。そこで，算数科「ひきざん（２）」の単元見通し学習に協同的な取組を用いて，自分の考えをもち，それを相手に分かるように説明できる子の育成について研究的実践を進めることにした。計算力を高めることはもちろんだが，そればかりでなく，同時にどのように思考していけば計算を確実に進められるのか，また，その考えを表現することについても重点をおいて実践に取り組むこととした。これらの取組が，子どもたちの大きな収穫となり，学習の中で生きて働く基礎的・基本的な力となることを期待して実践を進めていく。

学習を通して育てたい力

本単元では，「計算の習熟」と「知識の定着」という２点に重点をおいて授業を展開することにした。１つ目の「計算の習熟」のために，多くの計算問題にじっくり取り組むことが必要であると考えた。そこで，毎時間授業の始めに「３分間計算チャレンジ」を行い，計算力の向上を目的とした活動を取り入れた。２つ目の「知識の定着」では，自分の考えを相手に分かるように表現することを通して，論理的な思考の方法を理解させ，確実な知識の定着を図る取組を入れることにした。具体的には，繰り下がりのひきざんをどのような考え方で解くのかをまとめた合言葉カードを活用し，自分の考えをさくらんぼ計算（被減数を10といくつに分け10から減数をひいて考える方法）を文で整理し，話す内容を明確にした後，多くの友達と計算の仕方を説明し合うという活動を考えた。こうすることで，児童が自信をもって二つの力を無理なく習得でき，かつ表現力についても研究主題に近づくことができるであろうと考えたからである。

実践　　算数（ひきざん２）

１　本単元の指導構想

今回は，１年生の算数「ひきざん２」の単元で，学年全体で単元見通し学習に取り組んだ。単元見通し学習では，ある１時間を深め，研究するのではなく，単元全体をどのように指導していくのか，その指導計画を立ててから指導していく。単元を見通すことで，１時間ごとの指

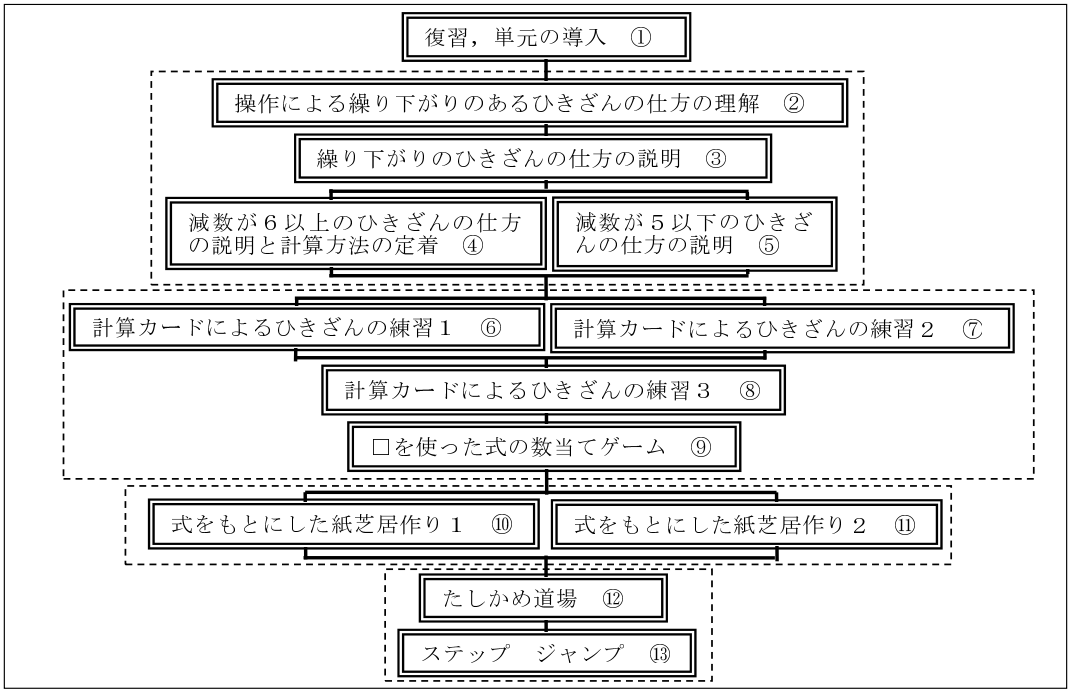
導内容や指導の連続性を明確にして授業を行うことができる。子どもたちが，その単元でどんなことを学習していくのか見通すことができるように，単元の第１時に振り返りカードと教科書を使って単元全体の学習内容を伝える。従って子どもたちは，最終的に何を身につければよいか，自分がどのようなことができるようになるのかという学習のゴールを単元の始めから意識して学習を進めることができる。自分がどんな学習をしていくのかが明確になれば，学習活動の価値を理解することが容易になり，意欲的・継続的に学習に取り組むと考える。本単元は，13 時間完了の繰り下がりのひきざんを学習する単元である。今回の実践では，学年で少しずつ進度をずらしながら学習を進めていくことにした。進度をずらすことで，毎時間の学習について学年で検証し，再計画を立て，より良い実践にしていくことができると考えたからである。

２　実践の手立て

①単元の見通しをもてるように，第１時に単元の学習内容についてガイダンスを行い，授業の始めに示した授業の進め方で，毎時間繰り返し学習していくようにする。
②個人思考の時間を確保し，自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。
③合言葉カードを用いて考えを整理し繰り下がりのあるひきざんの説明の仕方を学ばせる。
④ペア交流やグループ交流，全体交流の場面を繰り返し設定する。
⑤計算の仕方を定着させ，自分の成長に気づかせるために，毎時間授業の始めに計算問題を解く時間を設ける。
⑥練習問題を用意し，学び合いの成果を別の問題で活用できるようにする。
⑦ＴＴの特性を活かし，効果的な学習活動になるようにする。

３　単元の構想（13 時間完了）

・・・本単元　・・・学習内容　・・・小単元　○・・・時数



４　実際の授業

実践Ⅰ　（２／13）　　山口尚美・松浦主

（１）本授業への思い

本時は，繰り下がりのあるひきざんの仕方を多様な方法で考える学習内容である。第１時で学習した数え引きという方法以外に，もっと簡単にできる良い方法を数図ブロックを使って見付けていく。数図ブロックを用いて具体的に操作させることで，繰り下がりのある減法の数の動きを理解させ，多様な考えを引き出し，思考力を養うようにしたい。また，数図ブロックの丸が書かれたプリントの○を消していくことで，どのように考えたか思考の足跡を残せるようにし，自分の考えに自信がもてるようにしたい。そして，出てきた多様な考えを見比べて，その中から簡単にできる良い方法を見付けさせる。しかし，ここでは減加法の良さに気づかせることができるようにしたい。第１時に学習した数え引きでは一つ一つ動かしていかなければならないが，減加法ではまとめて動かすことができるという違いを感じさせたい。また，減減法の良さと比べてしまうと混乱を招いてしまうので，できるだけ減加法に焦点をあてて考えさせたい。授業の最後には，良い方法として選んだ減加法を，考え方をまとめた合言葉カードの言葉の穴埋めをしてまとめ，次時につなげたい。

（２）本時の目標

（十何）－（１位数）で繰り下がりのあるひきざんについて，数図ブロックを操作し，計算方法を見付けることができる。

（３）学習過程

□本時の目標　　⬚評価

学習形態：個－個別　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階分	学習活動	教師の活動と支援	
		Ｔ１	Ｔ２
つかむ 10	１　計算チャレンジ問題に取り組む。　個	○　消し法（数え引き）で行うことを伝える。 ○　時間を区切り，能率良く活動するよう促す。	○　答え合わせやチャレンジカードの記入に戸惑っている児童の支援をする。
	２　本時の学習内容と流れをつかむ。　斉	○　黒板に問題を提示し，児童に立式させ板書する。 ○　学び時計を用い，学習の流れを説明する。	○　問題場面を把握させるため学習コーナーに柿の木を提示する。 ○　学習内容と流れを黒板に提示する。
		評１　本時の課題をつかみ，学習意欲をもつことができたか。（表情）	
	１３－９のけいさんのしかたをかんがえ，ともだちにつたえよう。		

と り く む 30	3　数図ブロックを動かして，１３－９の計算の仕方を考え，プリントに書く。 個	○　枠にブロックを置かせ，１０のまとまりと，はしたの３で１３と表すよう指示する。 ○　ブロックで解決できたら，どこから，どのように取ったのかプリントに記録するように伝える。	○　円滑に取り組めるように，机間指導をする。 ○　１３個の中からどこの９個を取ったらよいのか，ブロックを動かして考えさせるようにする。 ○　机間指導をして発表させる児童を選出し準備させる。
	4　速くて簡単で正しくできる方法はどれか話し合う。 斉	○　どの考え方も答えが同じであることを確認する。 ○　速く，簡単，正確の３観点から減加法が手際がよいことに気付かせる。	○　発表した考え方についてブロックで方法を確認する。 ○　それぞれの１３－９の計算の仕方を分類する。
		A 【数え引き】 13 から1ずつひいて残りを数える。 ○○○○●　●●● 9　3 2 1 ●●●●● 6 7 8 5 4	B 【数え引き】 10のまとまりから1ずつひいて残りを数える。 ●●●●●　○○○ 1 2 3 4 5 ●●●●○ 6 7 8 9
		C 【減加法】(ひきたしざん) 10 のまとまりから9をひく。 ●●●●●　○○○ ●●●●○ →	D 【減々法】(ひきひきざん) 9を3と6に分ける。 ●●●●●　●●● 6　3 ●○○○○
	5　まとめる。 ①　減加法の考え方をブロックを動かして確認する。 個 ②　さくらんぼ計算のやり方を合言葉カードをヒントに考える。 個→斉 ③　ペアで減加法の合言葉を唱えて考え方を確認する。 ペ 【伝え合う力】	○　減加法の考え方をブロックとさくらんぼ計算で説明する。 ○　合言葉カードを掲示して，説明に合わせて板書する。 ○　説明できたら相手の合言葉カードにサインするように指示する。 ○　早く終わってしまった児童は，プリントの裏の練習問題に取り組むよう促す。 ○　時間を区切り，意欲的に	○　戸惑っている児童に助言しながら活動を見守る。 ○　数図ブロックを動かしながら，合言葉カードの言葉を押さえる。 ○　うまく交流できないペアを中心に声かけをする。 ○ 数図ブロックを操作しながら動かし方と着眼点を示して合言葉カードの答え合わせをする。 ○　理解できていない児童には個別に支援し学習内容の

合言葉：１０からひいて，のこりたす。

① ３から９はひけない。
② １３を１０と３にわける。
③ １０から９をひいて１。
④ １と３で４。

１３－９のけいさんのしかた
１３－９＝４
10　3　1

		活動するよう促す。	確実な定着を図る。
		評２　繰り下がりのあるひきざんの方法を友達に説明することができたか。（プリント）（活動・発言）	
	6　練習問題を解く。個 ①１１－８ ①1から8はひけない ②１１を１０と1にわける ③１０から８をひいて２ ④1と2で3 ②１５－９ ①5から9はひけない ②１５を１０と5にわける ③１０から９をひいて１ ④1と5で6	○　終わった児童は，数図ブロックを操作し，合言葉カードの記述が正しいかどうか確認するように促す。	○　必ずさくらんぼで数を分けて計算を進めることを指示する。 ○早く終わった児童には，練習問題の計算の仕方が説明できるように指示する。
		評３　繰り下がりのあるひきざんを計算することができる。（プリント）	
まとめる5	7　本時を振り返り，学習の姿についてまとめる。個	○　振り返りの視点と基準を示して学習の到達度と学び合いの取り組みを客観的に振り返れるようにする。	○　振り返りカードの記録に戸惑っている児童を支援する。

（４）研究協議

１）授業者反省・感想

※Ｔ１

・活動に時間がかかり，時間が足りなかった。

・思考の場面の授業実践だったので，1時間でまとめることが難しかった。

・様々な考え方を出させたかったが，数え引きの方法がほとんどだった。どんな発問をしたらよかったか。

・練習問題までたどり着くことはできなかったが，繰り下がりのひきざんの考え方をまとめるところまではできた。

・役割分担をして授業にのぞんだが，ＴＴの形態をうまく活用できなかった。

※Ｔ２

・児童の個別支援にまわってしまう場面が多く，Ｔ２の役割をなかなか務めることができなかった。

・単元全体を見通すと第2時では計算チャレンジ問題をする必要はなかったのではないか。

・10から引くという思考の活動にじっくり取り組む時間にしてもよかったのではないか。

２）協議内容

○チャレンジ問題について

・毎時間の始めにチャレンジ問題に取り組むことで，計算力の定着という意図があるが，第2時で本当に必要だったのか。チャレンジ問題で取り組んだ数え引きの計算の仕方が，本

時のまとめてひくという考えの妨げになってしまっていたのではないか。
・もっといい点が取りたいという学習意欲にはつながっているし，何度も繰り返して取り組むことに価値はあるので，取り組む場面の精選が必要だと感じた。
〇発問について
・数え引きの考えからなかなか離れることができなかった児童が多かった。
・児童の思考を助けるような手立てが必要である。
・もう少しヒントとなるようなキーワードを出してもよかったのではないか。
・10からまとめてひく考えが本単元の柱となるので，しっかり押さえておきたい。
・他の考え方を促すような問いかけ方を，次に実践する授業者は考えていく必要がある。
３）指導・高評
・１年生として，学年全体で取り組んでいることに価値がある。
・授業のたびに学年で話し合って，よりよい授業ができていく。
・単元を通して研究を進めていく中で，だんだん良くなっていくことが大切である。
・子ども自らが，学習する喜びを感じられる実践であってほしい。

（５）学年検討会

13－９の計算の仕方を考える場面で，ワークシートの数図ブロックの丸を消して自分の考えを記録するという形で，個人思考の時間を設定した。いろいろな考え方が出てくることを期待した時間だったのだが，ここでは数え引きの考えばかりが出てきてしまった。チャレンジ問題を第１時に続いて数え引きで取り組ませたことで，児童に数え引きの考え方を刷り込んでしまったかもしれない。「他の考え方はない？」「ブロックの動かし方を工夫してみよう。」といった教師からの追加の発問・助言もあったが，減加法や減減法の発想に辿り着くことは難しかったようである。教師が期待した，減加法の「10からまとめて引く」という方法を思いつく児童は，１人しかいなかった。ワークシートの数図ブロックを消すことでいろいろな方法を出させようとしたのだが，それがかえって子どもたちの思考を狭めたように感じた。やはり児童の多様な考えを引き出すための方法が，課題となった。「まとめて引く」という１人の児童の発表を基に，さくらんぼ計算の考え方を合言葉カードに記入していった。授業の最後には，合言葉カードをペアで読み合うという活動を予定していたのだが，時間が足りずに取り組めなかった。この授業で，どの活動に重点をおいて児童のどんな力を育てるのか，さらに明確にした上で，活動の精選が必要であることに気づいた。授業の構成と手立てについて改善すべき点が出てきた。

一つ目は，ワークシートを用いるのではなく，数図ブロックを動かすことだけで子どもたちの多様な思考を引き出すということである。せっかく数図ブロックで構築した思考がワークシートに書き込むところで失われてしまい，多様な考えを引き出せないという問題が起こった。そこで，数図ブロックを使って考えることだけに児童の思考を集中させ，できた児童には何度も繰り返しブロックを動かすという方法で活動させることにした。こうすることで，自分なりの考え方をしっかりもつことができると考えた。

二つ目は，第２時では計算チャレンジの活動を行わないことである。

三つ目は，第２時では合言葉カードには触れず，数図ブロックで確認した減加法の数の動きを計算の中でさくらんぼ計算として子どもたちにしっかり理解させるというものである。

二つ目と三つ目については，どちらも本時の学習内容として何を大切にすべきかをもう一度

考え直していく中で出てきた改善点である。この授業では，自分なりの考え方をもってよりよい解法を見つけ出すことに重点を置いた活動をすべきである。そのため，それ以外の活動は極力減らすことにした。こうして，以下の指導案が完成した。

（６）学習過程２　　□本時の目標　　[ ]評価

学習形態：個－個別　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階分	学習活動	教師の活動と支援	
		Ｔ１	Ｔ２
つかむ 10	１　本時の学習内容と流れをつかむ。　斉	○　黒板に問題を提示し，児童に立式させ板書する。 ○　学び時計を用い，学習の流れを説明する。	○　問題場面を把握させるため学習コーナーに柿の木を提示する。 ○　学習内容と流れを黒板に提示する。
		評１　本時の課題をつかみ，学習意欲をもつことができたか。（表情）	
	１３－９のいろんなけいさんのしかたをかんがえよう。		
とりくむ 30	２　数図ブロックを動かして，１３－９の計算の仕方を考える。　個 ３　いろんな方法について発表し合い，どの方法でも答えが出ることを確認する。斉	○　鉄板の枠に自分のブロックを置かせ，１０のまとまりと，はしたの３で１３と表すように指示する。 ○　どの方法で考えているか１G～４Gをチェックし，T2と確認する。 ○　発表させる児童を選出し準備させる。 ○　発表する児童と黒板で一緒にブロックを動かして手助けをする。 ○　どの考え方も答えが同じであることを確認する。	○　１３個の中からどこの９個を取ったらよいのか，ブロックを動かして考えさせるようにする。 ○　どの方法で考えているか５G～８Gをチェックし，T1と確認する。 ○　発表させる児童を選出し準備させる。 ○　発表した考え方について，ブロックで方法を確認する。 ○　それぞれの１３－９の計算の仕方を分類する。
		A　【数え引き】 13から1ずつひいて残りを数える。 ○○○○●　●●● 9　3 2 1 ●●●●● 6 7 8 5 4	B　【数え引き】 10のまとまりから1ずつひいて残りを数える。 ●●●●●　○○○ 1 2 3 4 5 ●●●●○ 6 7 8 9
		C　【減加法】（ひきたし算） 10のまとまりから9をひく。 ●●●●●　○○○ ●●●●○	D　【減々法】（ひきひきざん） 9を3と6に分ける。 ●●●●●　●●● 6　3 ●○○○○

	4　減加法の考え方をブロックを動かして確認する。個	○　速く，簡単，正確の３観点から，本時は減加法が手際がよいことに気付かせる。 ○　黒板で見本を見せてから児童に自分の机で動かすように指示する。 ○　どうやって動かしたのか説明しながら動かすように指示する。	○　戸惑っている児童に助言しながら机間指導する。 ○　まとめてとることを意識して動かすように支援する。 ○　数え引きと区別できていない児童を中心に支援する。
	5　ブロックを使って減加法で練習問題を解く。個 ①１１－８ ②１５－９	○　さくらんぼで数を必ず分けて計算を進めることを指示する。	○早く終わった児童には，多くの問題に取り組むことができるように，プリントを準備しておく。
		評２　繰り下がりのあるひきざんをブロックを用いて減加法で計算することができる。（プリント）	
	6　減加方の考え方からさくらんぼ計算のやり方を知る。全 さくらんぼ計算 １３－９のけいさんのしかた １３－９＝４ 10　3　1	○　さくらんぼ計算のやり方を説明しながら黒板に板書する。 ○　板書を見ながらさくらんぼ計算をやってみることを指示する。 ○　早く終わった児童には，プリントの裏の練習問題をさくらんぼ計算を用いて取り組むよう促す。	○　数図ブロックを動かしながら，さくらんぼ計算のブロックの動きを確認する。 ○　理解できていない児童にはブロック操作をさせながら，さくらんぼ計算の記入を進めていくなど個別に細かな支援し，学習内容の確実な定着を図る。
		評３　繰り下がりのあるひきざんの方法を理解することができたか。（プリント）（活動・発言）	
まとめる5	7　本時を振り返り，学習の姿についてまとめる。個	○　振り返りの視点と基準を示して学習の到達度と学び合いの取り組みを客観的に振り返れるようにする。	○　振り返りカードの記録に戸惑っている児童を支援する。

（７）考察

児童に多様な考えをもたせたいという思いをもっていたために，多くの手立てを準備してしまっていたが，本当に必要な手立てなのかをじっくり検討することが必要であると感じた。1年生にとって本当に必要な手立ては数図ブロックを何度も繰り返し動かすことだった。数図ブロックで考えた後，全体発表の場面を迎えたのだが，児童はブロックを使ってじっくり自分の

考えを何度も繰り返していたので，黒板でブロックを動かしながら友達に考えを伝えることができた。また，１回目の実践ではあまり出てこなかった多様な考え方が，２回目の実践では４つとも出てきた。ワークシートを使うのやめて，数図ブロックを動かすことで，児童の思考は確実に深まっていったことを感じた。児童が考えを表現するために，１年生にとって数図ブロックを使うことが，より効果的であるということがよく分かった。1 回目の実践をもとに，学年で話し合ったところをしっかり改善して授業につなげることができたと実感した。

しかし，多様な考えの中からどの方法が自分にとってよりよい解法なのかを考えさせることができなかったので,減加法の良さを児童の言葉から感じとらせるところまでは考えておらず,教師主導での活動となってしまった。児童は出てきた多様な考えの中で，自分の考えと他の考えを比較することができなかった。よりよい解法というのがどのような視点で判断すればよいのか，まだ１年生には分からないようであった。これは，発達段階に応じて身に付けていく力ではあるが，１年生なりに考え方を比較し，判断するような活動を取り入れていくことも必要であると感じた。

実践Ⅱ　（３／１３）　　渡邉美和子・松浦主

（１）本授業への思い

第３時は，前時に学習した減加法のさくらんぼ計算を言葉にして説明する活動に取り組む時間である。ただ計算ができるようになるだけではなく，どのように考えているのか理解を深めることができるようにしたい。そこで，さくらんぼ計算を使って計算の仕方の説明ができるようになることを目指す。「10 からまとめて引く」という言葉をキーワードにして説明するためのヒントとなる合言葉カードを準備した。本時でこの合言葉カードの使い方をしっかり理解させ，次時からの活動につなげていくために，合言葉カードに書き込んだ繰り下がりのあるひきざんの考え方の説明を，繰り返し言葉で表現して友達と交流することで，考え方を定着させようと考えた。交流はペアで説明し合い，終わったら次のペアを見つけてできるだけ多くの人と交流する。説明ができたら相手の合言葉カードに名前を書いてサインすることで交流した人数が把握できるようにする。また，本時から授業の始めには３分間計算チャレンジ問題を解くこととした。前時で学習したさくらんぼ計算を使って問題を解く。これから毎時間続けていくことで計算の習熟を図っていく。

（２）本時の目標

・（十何）－（１位数）で繰り下がりのあるひきざんについて，計算方法を理解し，問題を解くことができる。

（３）学習過程

□・・・本時の目標　　[ ]・・・評価　学習形態

個－個別　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階 分	学　習　活　動	教　師　の　活　動　と　支　援	
		Ｔ１	Ｔ２

つかむ 8	1　計算チャレンジ問題に取り組む。　個 2　本時の学習内容と流れをつかむ。　斉	○　タイムや正解数を記録することにより，意欲をもたせるようにする。 ○　黒板に問題を提示し，“残り”，“とる”などの減法になるキーワードを押さえる。 ○　学び時計を用い，学習の流れを説明する。	○　答え合わせやチャレンジカードの記入に戸惑っている児童の支援をする。 ○　問題場面を把握させるため学習コーナーに問題のパンを提示する。 ○　本時に学習する式を提示する。 ○　学習内容と流れを黒板に提示する。
		評１　本時の課題をつかみ，学習意欲をもつことができたか。（表情）	
	ひきざんのけいさんをブロックをつかってかんがえ，ともだちにせつめいしよう。		
とりくむ 30	3　数図ブロックを動かして，１２－７の計算の仕方を確認する。　個→斉	○　黒板で数図ブロックを操作しながら，合言葉カードの書き方を確認する。	○　円滑に取り組めるように，机間指導をする。
		合言葉：１０からひいて，のこりたす。 ① １２を１０と２にわける。１２－７のけいさんのしかた ② ２から７はひけない。　　１２－７＝５ ③ １０から７をひいて３。 ④ ３と２で５。　　10　2　3	
	4　合言葉カードを使って，１５－６の計算の仕方を考える。 個→グ	○　ブロックで解決できたら，どこから，どのように取ったのか合言葉カードに記録するように伝える。 ○　グループの全員が合言葉カードに書き込むことができるように協力することを伝える。 ○　グループで答え合わせをしたら全員が説明できるようにすることを伝える。 ○　理解が不十分な児童をチェックし，次の活動で支援できるように，T2と確認する。	○　理解できていない児童には，ブロック操作をさせるなど個別に支援し，学習内容の確実な定着を図る。 ○　戸惑っている児童に助言しながら活動を見守る ○　理解が不十分な児童をチェックし，次の活動で支援できるように，T1 と確認する。

		合言葉：１０からひいて，のこりたす。 ① １５を１０と５にわける。 ② ５から６はひけない。 ③ １０から６をひいて４。 ④ ４と５で９。 １５－６のけいさんのしかた １５－６＝９ 10　5　4	
	5　ペアで減加法の合言葉を唱えて考え方を確認する。全 【伝え合う力】	○　説明できたら相手の合言葉カードにサインするよう指示する。 ○　グループの中で説明することができたら他のグループの友達に説明するように指示する。 ○　Ｔ２と情報交換してチェックした児童を中心に支援する。	○　８人の友達と説明し合うことができたら席に戻って練習問題のプリントに取り組むように指示する。 ○　Ｔ１と情報交換してチェックした児童を中心に支援する。
		評２　10 からひいて，残りととっておいた数とを合わせる仕方を説明できたか。（ペア活動）	
	6　練習問題を解く。個	○　合言葉カードで考えて問題を解くように指示する。	○　多くの問題にチャレンジできるように声かけをし，つまずいている児童の支援をする。
		評３　繰り下がりのあるひきざんを手際よく計算することができる。（プリント）（活動・発言）	
まとめる	7　本時を振り返り，学習の姿についてまとめる。個	○　振り返りの視点と基準を示して学習の到達度と学び合いの達成度を振り返れるようにする。	○　振り返りカードに本時の振り返りをして，記入するように指示をする。

（４）研究協議

１）授業者反省

※Ｔ１

・前時に合言葉カードの言葉の部分がなかなか書けず，今日も全体で書き方を確認したが，押さえが足りず，その後の合言葉カードでもあまりできていなかった。

・合言葉カードの言葉が，子どもたちにとっては長かったかもしれない。

・12－７の，途中の計算（10－７）の答えを書く位置を決めておくと良かった。

・10 から引くのに数え引きをする子は，計算に時間がすごくかかってしまっていた。

・ペアで説明し合うことができたらサインをする場面は，初めの頃は名刺交換のようになってしまっていたが，だんだん相手にきちんと説明してサインを書けるようになった。

※Ｔ２

・計算のためのさくらんぼは書けても，それを言葉で説明するために，□に数字を入れるのには抵抗がある子が多い。

・グループでの相談だけでは間違えていることがあるので，ペアでの交流の前に，全体で答え合わせをする必要があった。

２）協議内容

・ペア交流で計算方法を「仲間に伝える」ことが目標なのか。その後の練習問題が十分解けていなくても，振り返りの学習到達度は一番良いところに印がついてしまっていた。合言葉カード記入後のグループ交流でも学び合っているので，解き方を説明し合う５分のペア交流を短くして，練習問題の時間を増やして問題を解かせると良いのではないか。

・振り返りの基準が設定されていて良かった。

（学習の到達度：よく分かった，分かった，少し分かった，ちょっと心配）

（学び合い：6 人以上と交流できた，4 人以上，2 人以上，1 人）

（５）考察

授業の始めに行った３分間の計算チャレンジ問題では，第１時に学習した丸を消していく数え引きの方法ではなく，第２時に学習した 10 からまとめてひく減加法という考え方を使うようにした。さくらんぼ計算を使った計算練習がまだ十分ではないため，さくらんぼに正しく数字を入れることができない子，どうしてよいかわからず手が止まってしまう子がいた。これから毎時間，授業の始めにこの計算チャレンジ問題を続けて，たくさん計算練習をしていくことで，計算の仕方を確実に覚え，時間内によりたくさんの問題が解けるようになっていくことを期待している。

合言葉カードには，まずは個人で考えて記入し，グループでそれぞれの考え方を相談するようにした。子どもたちは，自分の数図ブロックを動かしながら順に合言葉カードを埋め，時間が足りなかったり分からなかったりしたところは，グループの友達に教えてもらいながら，シートを完成させていた。自分一人ではできなくてもグループの仲間と協力して完成させることができればよいとしたことで，子どもたちは安心して活動に取り組むことができていたように感じる。この合言葉カードを持って，グループや他のグループの友達と説明し合う活動では，子どもたちの意欲的に取り組む姿が見られ，その活動の様子から多くの人と交流してサインをもらおうという気持ちが伝わってきた。考え方の説明を全て覚えた子はシートの裏の式とさくらんぼ計算の式を見ながら，頭に入っていない子は合言葉カードを見ながら取り組んだ。だれでも正しく説明ができれば，シートにサインをもらうことができるので，どんどん新しい相手を見つけてサインを書いてもらい，楽しく活動できたようだ。初めは合言葉を読んでいた子が，目標の８人と交流する間にだんだん考え方の説明を覚え，シートを見ないで言えるようになっていった。このことから，繰り返し説明し合うことが考え方の定着を図ることにつながっていると感じた。毎時間この活動を繰り返していくことで，どんどん減加法の思考は定着していくであろう。

しかし，一方で，グループでの話し合いで正しい答えを書くことができず，ペア交流のときにも間違った説明をしている児童がいた。正しい答えで取り組まなければ活動の意味がなくなってしまう。次回からは，考え方を頭に入れるためのペア交流であるため，グループでの話し合いの後には，全体で答え合わせをして，全員が正しく説明できるようにしたい。

最後に，減加法を使って各自で練習問題を解いた。しかし，残り時間が少なくなってしまい，あまり解くことができない子もいた。この授業の中心となる活動として，考え方を説明し合う

ペア交流の時間を設定したが,時間をとりすぎてしまっていた。考え方の定着を図るためには，授業の最後に１時間の活動を振り返ってじっくり練習問題に取り組む時間も必要である。学び合い活動と問題練習の時間とのバランスを考えて，授業を組み立てていかなければいけないと感じた。

実践Ⅲ　（４／１３）　　溝口修平・松浦主

（１）本授業への思い

第４時は，前時までの学習で理解した減加法の考え方の過程を合言葉カードに書き込み，それを繰り返し説明することで，学習の理解を深め知識の定着を図る時間である。前時でも減加法の考え方を説明する活動に取り組んだが，本時でも同様に説明する活動に取り組む。学習活動をパターン化することで，活動をより充実したものにしていきたい。単元を通して繰り返し取り組むことで，理解は深まり知識は定着するだろう。そして児童は前時よりも説明する活動に自信をもつことができるのはないかと考える。さらに，活動の効果を高めるために，説明する際の話す側と聞く側に明確な目的をもたせたいと考えた。これまでの実践では，ただ説明することだけで終わってしまい，慌てて説明して人数集めの活動になってしまっている児童が多くいた。そこで，合言葉カードにサインする活動を改善することにした。二重丸付サイン，丸付サイン，普通のサインという３種類のサインを用意したのである。何も見ないで言えていれば二重丸，さくらんぼ計算を見て説明したら丸，シートの文を見て説明したら普通のサインをする。聞く側は相手の説明を聞きながらどのサインをするか考える。ただ聞くだけというのでなく，相手の説明を評価しなければならないのである。話す側は，二重丸のサインをもらうために考え方を何も見ないで説明することを目標として活動することができる。児童には，より高い目標を設定した授業である。

（２）本時の目標

・繰り下がりのあるひきざんの計算原理や方法を理解し，説明することができる。
・求差の場面の（十何）－（１位数）の繰り下がりのあるひきざんの問題を解くことができる。

（３）学習過程　　□本時の目標　　⬚評価

学習形態：個－個別　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階分	学習活動	教師の活動と支援	
		Ｔ１	Ｔ２
つかむ 10	１　計算チャレンジ問題に取り組む。　個 ２　本時の学習内容と流れをつかむ。　斉	○　タイムや正解数を記録することにより，意欲をもたせるようにする。 ○　掛図を見て本時の学習の式を確認する。	○　答え合わせやチャレンジカードの記入に戸惑っている児童の支援をする。 ○　問題場面を把握させるため黒板に玉入れの

	まなびどけい ○じゅぎょうのながれがわかる ○ひとりでかんがえる ○ぺあでまなびあい ○れんしゅうもんだい ○ふりかえり	○　“どちら”，“多い”などの減法になるキーワードを押さえる。 ○　学び時計を用い，学習の流れと本時の課題について説明する。	問題の掛図を提示する。 ○　求差の問題なので減法を使って解くことを確認する。 ○　学習内容と流れを黒板に提示する。
と り く む 30	3　数図ブロックと合言葉カードで１３－７の計算の仕方を考える。 個→グ 【伝え合う力】 合言葉カード ① １３を１０と３にわける。 ② ３から７はひけない。 ③ １０から７をひいて３。 ④ ３と３で６。 １３－７のけいさんのしかた １３－７＝６ 10　3　3	○　自分のブロックを置かせ，１０のまとまりと，はしの３で，１３と表して考えることを確認する。 ○　グループの全員が合言葉カードに書き込むことができるように協力することを伝える。 ○　グループで答え合わせをしたら全員が説明できるようにすることを伝える。	○　理解できていない児童には，ブロック操作をさせるなど個別に支援し，学習内容の確実な定着を図る。 ○　理解が不十分な児童をチェックし，次の活動で支援できるように，T1と確認する。
	4　減加法の合言葉を唱えて考え方を３人以上の友達と説明し合う。 ペ 【伝え合う力】 学び合いの方法 1　グループの友達３人と説明し合う。 2　グループ外の友達と説明し合う。	○　理解が不十分な児童をチェックし，次の活動で支援できるように，T2と確認する。 ○　説明できたら相手の合言葉カードにサインするよう指示する。 ○　T1と情報交換してチェックした児童を中心に支援する。	○　グループの中で説明することができたら他のグループの友達に説明するように指示する。 ○　８人の友達と説明し合うことができたら席に戻って練習問題のプリントに取り組むように指示する。 ○　T2と情報交換してチェックした児童を中心に支援する。
		評１　繰り下がりのひきざんの仕方を説明することができたか。（合言葉カード・活動の様子）	
	5　減数が９の問題から，減数を８，７，６と段階的に小さくして減数を固定したひきざんの計算の仕方を知る。 斉	○　減数が９の問題を，被減数を次々に変えて考えるようにする。 ○　被減数だけ変えた計算式を黒板に書い	○　10－1の１に，残りの数をたせばよいことに気づかせる。 ○　減数が変わらなければ１０からひいた答え

	□－９ □－８ □－７ □－６ ６　練習問題を解く。 個 ①11－9　⑤14－8　⑨11－7 ⑬14－6　②12－9　⑥15－8 ⑩15－7　⑭11－6　③16－9 ⑦12－8　⑪16－7　⑮15－6 ④17－9　⑧17－8　⑫12－7 ⑯12－6	て変わらない数があることに気づかせる。 ○　減数を減らすにつれて，徐々に式だけから考えることができるようにする。 ○　できたところまで答え合わせして確認するように指示する。 ○　Ｔ２と情報交換してチェックした児童を中心に支援する。 評２　繰り下がりのあるひきざんを正しく計算することができたか。（プリント）	はすぐに出てくることを確認する。 ○　被減数が変わっても減数が同じなら手際よく計算できるようになることに気づかせる。 ○　早く終わってしまった児童もより意欲的に取り組むことができるように，プリントの裏に問題を準備しておく。 ○　Ｔ１と情報交換してチェックした児童を中心に支援する。
まとめる 5	7　本時を振り返り，学習の姿についてまとめる。 個	○　振り返りの視点と基準を示して学習の到達度と学び合いの取り組みを客観的に振り返られるようにする。	○　振り返りカードの記録に戸惑っている児童を支援する。

（４）研究協議

１）授業者反省

※Ｔ１

・単元を通して，合言葉カードを行う中で，知識の定着を図った。

・展開の場面で，説明し合うことを取り入れた。

・たしざんの授業でも，同じ学習パターンで授業を展開をしているので，子どもたちは見通しをもって学習していた。

※Ｔ２

・学び合いの活動の場面で，子ども同士がつながることが大切だと考えた。

・計算の習熟のために，授業の最初と最後に，計算学習に取り組んだ。しかし，練習問題の途中で終了してしまったのが残念だった。

２）本日の授業について（全体にかかわる質問・意見）

・振り返りの場面で，学び合いの評価を，交流できた人数で示していた。学びあいについてどう考えているか？

→１年生として，最終の目標は，自分の考えを伝え合うことだが，今回は，まだその前段

階である。今回は，みんなで合言葉カードを完成させて，自分の言葉で伝えることにした。今回は，学び合いのモデルを示した。話すとき・聞くときの姿勢にも少しずつ成果が出てきていると思う。相手の話を聞く力を高めていきたい。サインを集めるときに，達成度によってサインを変えることで，話す方も聞く方も両方に課題を与えた。

３）テーマ別意見交換

ア．児童は，個人思考で，自分の考えをワークシートに書き，学び合いに参加することができたか。

・数図ブロックの操作と立式，その後の合言葉カードへの記入の流れにつながりがあまり感じられず，さくらんぼ計算をイメージして解いていた。（第４時は，具体物の操作から，抽象思考への移行段階なので，ブロックと式がつながるような手立てが必要である。）
・個人思考でのブロックの操作で，ブロックの動きを確実に理解させたかった。
・合言葉カードへの記入時間の確保が短いように感じた。
・聞く・話す姿勢がとれている。
・子ども同士が交流する内容は，暗記したことを伝えるだけになっていないか。

イ．児童は，自分の考えを相手に分かるように表現し，意欲的に友達と伝え合うことができたか。

・分からない児童に，分かっている児童は，答えをそのまま教えている。友達から答えを教えてもらっている児童に対して，もう少し工夫ができるのではないか。
・学年の研究主題よりは，まだ下位の段階である。自分の考えではないが，合言葉カードを繰り返し言うこと（再表現）は，知識の再構成をしているという捉え方でよいのではないか。
・学び合うスタイルを学ぶことが大切な活動であった。
・話型にあわせて話す練習の段階であると考えている。

ウ．児童は，繰り下がりの計算の仕方を繰り返し説明することで，計算方法の理解を深めることができたか。

・展開５は教師主導で進んでしまっていたので児童主体でじっくり取り扱えると良いのではないか。第３時の学習との差が薄いと感じた。
・展開５をメインにしてもよかったのではないか。主活動をもっとスムーズに行い，展開５の時間を多く配分するとよかったかもしれない。
・合言葉カードが効果的であった。
・展開５で，気づきを発表させていくことやパターン化してやり方を説明していくことが大事である。

４）その他

・子どもたちは，意欲的に活動していた。話すことと，聞くことのそれぞれに目標があってよかった。
・毎回，学習の見通しを持つことで，児童が安心して取り組むことができている。
・授業の中に，児童が疑問をもつような場面を設定し，そこから学び合いをつくると良いのではないか。毎時間のスキルワークと，新しい学習との出会いが，学習の定着につながる。
・一人一人のレベルで，個に応じた満足感を与えることが大切である。

５）指導助言

＜教科指導員：小川先生（城東中学校教諭）＞

・指導案がよく練られている。研究主題も意識されており，子どもたちは成就感や自己効力感を感じていたのではないか。

・全体の学習の流れができている。

○指導案について

・指導案の手立てについては，単元を通して，注意することが書かれていて良い。

・単元の見通しをもたせるガイダンスが設定してあったり学び時計が示されたりすると，子どもたちは，活動の見通しがもつことができ，どの子も安心して授業に取り組むことができる。

・個人思考の確保と，ペア・グループ・全体へと集団を広げていくことができていた。

・展開５でのＴＴの役割分担もよくできていた。特別な支援が必要な児童も含め，教師の分担を細かく明確にしておくことで，一人一人を見ることができる。また，１年生の段階では，１ヵ所にとどまっての支援も必要なこともあると感じた。臨機応変な対応ができていた。

・教室を二人の教師が，Ｉの字で行き来すれば，すべての児童の状態を把握できる。能率的で効率的である。

・目標が，明確で分かりやすかった。

・グループの構成人数が３～４人と機能的であった。

・グループの活動は，

①自分の考えを伝え，より多くの知識を知る　→広げる。

②個人の思考だけでは，ぼやけているところをはっきりとさせる　→追究

③クラス全体での活動につなげていく　→準備

④知識の定着のための反復練習　→かかわり　　の４つがあると考えている。

今回は，④の活動で，合言葉を覚え，理解の定着をはかる時間であった。授業のねらいである伝達を繰り返して行うことで，知識の定着につながったと思う。

○展開５について。

この場面で，「今までの学習と違うところ，一緒のところはどこ？」と比較したり，「減加法の便利なところはどこ？」など，発問の仕方を工夫すると，さらに子どもたちの思考が広がっていくのではないか，子どもたちの言葉が出てきて，子どもが，自分の問題として捉え，意欲的に取り組めるのではないか，計算の良さや，算数の合理性などにつなげていけるとよいのではないかと感じた。

算数科において，思考力・判断力などの力を高めていくことが大切だといわれているが，そのためには，基礎・基本の定着が必要と考えている。しかし，基礎・基本の定着の過程で，思考力を高めていくような仕掛けを組み込んでいくことも大切だと思う。ぜひ，そういった授業の展開を考えてほしい。

（５）考察

児童は，学習の見通しをもって活動に取り組んだ。13－７の計算の仕方を考える場面では，多くの子どもたちがすらすらと合言葉カードに答えを書き込んでいった。前時までの学習で計算の仕方を理解できている様子がうかがえた。また，学習の流れをパターン化して授業に臨ん

だので，児童は次の活動で何をするのか分かった上で取り組むことができた。特に合言葉カードについて，個人で考え，グループで相談する場面の子どもたちの動きはとてもスムーズであった。合言葉カードを使って友達に説明する活動では，ペア活動の話す側と聞く側の両方の目標を具体的に示した。双方にとって活動の目標がより明確になり，どちらも集中して活動することができた。また，目標を段階的に示すことで，子どもたちのチャレンジする意欲がわき，少しずつ説明の仕方がスムーズになっていった。この活動で，子どもたちはシートを見ないで計算の仕方を言えるようになるので，知識が深まり自信がうまれ，さらに高い目標にもどんどん挑戦する姿勢が出てきており，研究主題にせまる大きな成果を得ることができたと感じた。一方で，言葉で説明することに苦手意識をもち，なかなかうまく活動ができない児童の姿も見られた。その際，Ｔ２はまだ理解に不安のある子の傍にいて，説明に耳を傾けさりげなく効果的に支援をしていた。グループで相談して合言葉カードを完成させる活動中に，Ｔ１とＴ２はそれぞれ決めておいた範囲で児童の学習を観察し，理解が不十分な児童の情報を互いに共有する時間を設けていたのである。こういった細かな支援が，全体の指導の裏に必ず必要であることを感じた。Ｔ１とＴ２の役割分担が明確になっていなければできない活動である。次の学習活動でも，ＴＴを活かした指導をすることができた。１？－９の？の数字が変わっても，減数が固定されているときは，10 から引いた答えはいつも１であるということをＴＴの二人で連携しながらスムーズに説明したので，児童は計算が素早くできることを確認することができた。しかし一方で，ここでの活動で，もっと子どもたちが主体的に自分の言葉で意見をつないでいくことができれば，学習している減加法の便利さに自分で気づけたのではないかという意見もあった。問題に対して自分のこととして捉え，考えることができれば，この学習で学ぶ計算方法の便利さを，さらに実感できるのではないかと思う。この活動以前の合言葉カードの作業に慣れている分，１時間の授業の中で新しいことに出会うこの場面は，じっくり時間をかけることができればよかった。一つ一つの活動にしっかり意図をもって取り組んでいくのだから，ＴＴを活かして指導する場面と児童が主体となって活動していく場面をしっかり見定めて活動に取り組ませていかなければならないと感じた。

授業公開という，緊張感のある場面でも，のびのびと元気よく活動を進め授業を終えた後の子どもたちの表情は，１時間の学習を終えた達成感や満足感がうかがえた。実践を進め，研究協議を重ねることで授業は改善され，活動が充実してきている。一つ一つの活動が，子どもたちの確実な学びにつながってきているように感じる。

実践Ⅳ　（５／１３）　　井口友香・松浦主

（１）本授業への思い

第５時は，教科書やカリキュラムでは，減数が５以下の繰り下がりのあるひきざんについて減減法で解くという学習内容となっている。しかし，学年での検討の中で，単元を見通して考えると，本時に減減法を扱うことは，これまで繰り下がりのあるひきざんを減加法を用いて習熟を目指してきた子どもたちの思考に混乱を招くのではないかということになった。そこで，本時は，前時まで積み上げてきた減加法の「知識の定着」を目指すべく，繰り下がりのある計算か繰り下がりのない計算かを，児童自身が見極めることができるようになるための授業を設定することにした。

前時までの学習から，多くの児童が減加法の計算の仕方を理解してきている。しかし，既習の繰り下がりのないひきざんは，減加法で計算する必要がない。本時は，児童自身が，式を見て繰り下がりがあるかないかを見極め，これまで学習してきたどの解き方を選択するのが最良なのか自分で考えていけるようにしたい。本時は，これまでの合言葉カードを使った減加法の知識の定着に加えて，計算式を見極めるという新しい課題に出会う学習になるので，児童が取り組む時間を十分に確保したい。また計算の習熟という点において，数多くの問題を解く時間を確保したいので，児童のペースに合わせて，プリントを複数用意して，反復練習で知識の定着を図りたいと考えた。

（２）目標

・（十何）－（１位数）で繰り下がりのあるひきざんについて，計算方法を理解し，問題を解くことができる。

・（十何）－（１位数）で繰り下がりのないひきざんについて，繰り下がりのある計算と区別して，問題を解くことができる。

（３）学習過程　□・本時の目標　[ ]・評価

学習形態：個－個別　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階分	学習活動	教師の活動と支援	
		Ｔ１	Ｔ２
つかむ８	１ 計算チャレンジ問題に取り組む。 個 ２ 本時の学習内容と流れをつかむ。 斉	○ タイムや正解数を記録することにより，意欲をもたせるようにする。 ○ 黒板に問題を提示し，“残り”，“たべる”などの減法になるキーワードを押さえる。 ○ 学び時計を用い，学習の流れを説明する。	○ 答え合わせやチャレンジカードの記入に戸惑っている児童の支援をする。 ○ 問題場面を把握させるため 黒板に玉入れの問題を提示する。 ○ 学習内容と流れを黒板に提示する。
		評１ 本時の課題をつかみ，学習意欲をもつことができたか。（表情）	
	ひきざんのけいさんのしかたをかんがえ，ともだちにつたえよう。		
と	３ 数図ブロックと合言葉カードで１３－４の計算の仕方を考える。 個→グ→斉	○ １０のまとまりと，はしたの３で１３と表すことを確認する。 ○ ブロックで解決できたらどこからどのように取ったのか合言葉カードに記録す	○ 円滑に取り組めるように，机間指導をする。 ○ １３個の中からどこの４個を取ったらよいのか，ブロックを動かして考えさせるようにする。

り く む		るように伝える。 ○　減加法の考え方をブロックとさくらんぼ計算で説明する。 合言葉カード 合言葉：１０からひいて，のこりたす。 ①　３から４はひけない。１３－４のけいさんのしかた ②　１３を１０と３にわける。　１３－４＝９ ③　１０から４をひいて６。 ④　６と３で９。 10　3　6 評２　10 からひいて，残りととっておいた数とを合わせる仕方が理解できたか。（ペア活動）	○　戸惑っている児童に助言しながら活動を見守る。
30	4　減加法の合言葉を唱えて考え方を確認する。 ペ 【伝え合う力】	○　説明できたら相手の合言葉カードにサインするよう指示する。 ○　グループの中で説明することができたら他のグループの友達に説明するように指示する。 ○　T2 と情報交換してチェックした児童を中心に支援する。	○　うまく交流できないペアを中心に声かけをする。 ○　理解できていない児童には，ブロック操作をさせるなど個別に支援し，学習内容の確実な定着を図る。
	5　１５－３の計算の仕方を考える。 斉 6　練習問題を解く。 個	○　被減数の一の位から，減数が引けるときは，減加法で解く必要がないことを確認する。 ○　早く終わった児童もより意欲的に取り組むことができるように，プリントを準備しておく。 評３　繰り下がりのあるひきざんを手際よく計算することができる。（プリント）（活動・発言）	○　減加法を使うと繰り上がりの計算になり素早く解けないことに気づかせる。 ○　一の位同士をよく見て，計算の仕方を考えるように指示する。 ○　多くの問題にチャレンジできるように声かけをし，つまずいている児童の支援をする。
まとめる7	7　本時を振り返り，学習内容についてまとめる。 個	○　振り返りの視点と基準を示して学習の到達度と学び合いの達成度を振り返れるようにする。	○　振り返りカードに本時の振り返りをして，記入するように指示をする。

（４）研究協議

１）授業者反省

※Ｔ１

・ひきざんの合言葉は随分言えるようになってきた。今回も大切だと思い，引き続き入れた。

・繰り下がらない 15－３の計算の押さえが甘かった。

・困惑している児童に対して，ＴＴをうまく活用し，支援できたらよかった。

※Ｔ２

・ＴＴは，やれるところとやれないところがある。子どもがつまずいていたら，その子に付きたい。後は補助として動くように心がけている。

・単元の進み具合で，授業の進み方も変えていく必要を感じた。

２）協議内容

ア．本時の授業のねらいが子どもたちに伝わっていたか。

・本時は５時間目であるが，ブロック操作で減加法がさっと出なかった。前時の２時の押さえが甘かったということか。

・さくらんぼシート・合言葉カード・ブロック操作の全部がつながっていなければならないが，困惑している子もいる。そこは教師が押さえていくようにしたい。

イ．目標に迫るための教師の手立ては効果的だったか。

・さくらんぼのやり方をきちんと押さえてから，チャレンジ問題を始めてもよいのではないかと考える。できない子はずっと引きずっている。

・ＴＴは，時にはできない子を取り出して個人指導も必要である。単元によってＴ２の出番が異なる。

ウ．自ら学び，自ら考える主体的な学習活動の場面が用意されていたか。

・１５－３の押さえが甘かった。１５－３・１５－６と，並べて示してもよかった。比べて考えさせ，選んでやることの必要性を押さえたかった。

・「１かくし」のやり方で，数に着目させる方法もよい。

エ．児童は，協同の場で，人の話を聞いて理解し，自分の考えを伝えることができたか。

・答え合わせで，お互いの間違いに気が付かず，正解としてしまう。今回は，教師の確認がありよかった。お互いの意見が分かれたときは，丸を付けないという方法もある。

・聞く側のめあてももっているとよい。子どもたちはサインを集めるのに必死になっている８人は多いので，時間（５分）で切ってもよい。

３）指導・高評

・１時間の活動の流れがスムーズになってきた。１年生なりによくやっている。

・ＴＴの活用法としては，できない子を１か所に集めて指導するのもよい。

・交流するときは，合言葉カードを見なくても言えるようにしたい。

・子どもたちができるようになった喜びを感じるような実践であってほしい。

（５）考察

授業の最初に行う３分間計算チャレンジは，反復練習の成果もあり，回を重ねるごとに解ける問題数も増えてきており，児童のやる気も計算の処理能力も向上してきていることがうかがえる。

本時は，繰り下がりのないひきざんと繰り下がりのあるひきざんを児童自身が見極め，さくらんぼ計算をどのように行うべきかを確認できるようにする時間であった。しかし，教科書に出てくる 13－４の計算式をそのまま扱ったことで，数図ブロックの操作で減減法の考え方をしている児童がいた。合言葉カードはスムーズに完成させることができたが，ブロック操作とさくらんぼ計算を使った合言葉カードの学習が別々の活動になっていることを感じた。減減法を取り扱わないことにしたのならば，問題自体を変えた方が，子どもたちの思考がスムーズになったのではないかと考える。

その後に提示した 15－３という計算式は，さくらんぼ計算で合言葉カードを使わなくても問題が解けることに気付くことができる児童が多くいた。しかし，これについても，教科書に載っていた問題をそのまま扱ったために，13－４と 15－３は別々の学習になってしまった。１時間の学習の流れを考えると,扱う問題を 15－７と 15－３というように被減数を同じ数にして構成すると，児童は２つの計算式を比較して考えることができ，見極めるときに必要な視点を見つけやすかったのではないかと考える。教師主導で確認した場面であったが，２つの式を並べて考えれば，児童自身が２つの式の相違点を見つけ出し，計算の仕方の違いにも気付くことができたとも考えられる。また，繰り下がりがあるかないかを見極める方法を確認する際に，もう少し時間を取る必要があった。さくらんぼ計算がまだ十分に理解できていない児童は，混乱したままになってしまった。被減数の十の位を隠して考える方法など，解き方を伝えることができなかったので，時間配分を再考する必要がある。

最後の練習問題では，どの児童も自分のペースでじっくり問題に取り組むことができた。しかし，学習でつまずきがみられる児童への配慮が必要であると感じた。今回は，Ｔ１がプリント学習の際に，Ｔ２も丸付けをしたが，単元を見通して学習を進める中で，早い段階でつまずきのある児童を把握したときには，Ｔ２は分からないままで進まないようにその児童を取り出して支援していくなどの工夫が必要だと感じた。

実践Ｖ　（８／１３）　　西部舞・松浦主

（１）本授業への思い

本時は,「どんな問題でも，計算の仕方がすらすらと説明できること」と,「話す側も聞く側も，合言葉カードがなくても自由に活動できること」の２点を目標に行う。本時は，計算カードを使った計算練習の２時間目である。計算カードを使った練習では，これまでと違い，クラスの半数は空いている席に移動してその席にあるひきざんの考え方を説明し，残りの半数は，聞く側になり隣の席に来た人の説明が間違っていないか注意して聞くという交流を行う。前時では，全員が同じ問題の考え方を相手を変えながら説明することを繰り返し行い，クラスの半数ずつ動くという交流の仕方に慣れさせた。そして，本時では，ペアごとに違う問題の書かれた計算カードを配付し，どんな計算でも合言葉カードに記入しなくても，その場で計算の仕方を説明できるようにしたいと考えた。ペア交流の中で，間違った説明をしているということがないように，計算カードの裏には合言葉の解答を載せ，自分の問題の合言葉を確実に理解したうえで，交流させるようにしたい。

（２）目標

・（十何）－（１位数）で繰り下がりのあるひきざんについて，計算方法を理解し，どんな問題でも計算の仕方を説明して解くことができる。

（３）学習過程　　［　］本時の目標　　［　］評価

学習形態：個－個別　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階	分	学習活動	教師の活動と支援 Ｔ１	教師の活動と支援 Ｔ２
つかむ	8	１　計算チャレンジ問題に取り組む。 個 ２　本時の学習内容と流れをつかむ。 斉	○　タイムや正解数を記録することにより，意欲をもたせるようにする。 ○　学び時計を用い，学習の流れを説明する。	○　答え合わせやチャレンジカードの記入に戸惑っている児童の支援をする。 ○　学習内容と流れを黒板に提示する。
			評１　本時の課題をつかみ，学習意欲をもつことができたか。（表情）	
		どんなひきざんでも，けいさんのしかたをせつめいできるようにしよう。		
とりくむ	32	３　１６－８の合言葉カードの書き方を確認する。 斉	○　数図ブロックを動かして，どこからブロックを取るのかを思い出せるようにする。	○　さくらんぼの図を板書する。
			１６－８のけいさんのしかた　①１６を１０と６にわける。 １６－８＝８ ２ 10　6 ②６から８はひけない。 ③１０から８をひいて２。 ④２と６で８になる。	
		４　カードにあるひきざんの計算の仕方を考える。 個→ペ 1 計算カードをペアで1枚受け取る。 2 カードの式を見て，合言葉カードを書く。 3 ペアで話し合い，カードを完成させる。 4 カードの裏を見て，答え合わせをする。	○　ペアに１枚ずつ，裏に合言葉のついた計算カードを配る。 ○　ペアで答えが違う場合には，どちらが正しいのか考えてから答え合わせをするよう伝える。 ○　理解が不十分な児童をチェックし，次の活動で支援できるように，Ｔ２と確認する。	○　戸惑っている児童や，違う答えを書いたペアに助言しながら活動を見守る。 ○　理解が不十分な児童をチェックし，次の活動で支援できるように，Ｔ１と確認する。
		５　合言葉を唱えながら，たくさん問題を解く。 ペ	○　説明の仕方によって３種類のサインを使い分けるように伝える。	○　うまく交流できないペアを中心に声かけをする。 ○　分からないときには，未

	【伝え合う力】 6　計算カードの問題を解く。 個	○　聞く人も，合言葉カードをできるだけ見ないで，相手の合言葉が正しいか聞くよう伝える。 ○　Ｔ２と情報交換してチェックした児童を中心に支援する。 ○　３分間で，合言葉を唱えながらできるだけたくさんの問題を解くよう指示する。	記入の合言葉カードやさくらんぼの図をペアに見せてもらうように，声をかける。 ○　Ｔ１と情報交換してチェックした児童を中心に支援する。 ○　多くの問題にチャレンジできるように声かけをし，つまずいている児童の支援をする。
	評２　繰り下がりのひきざんの仕方を説明し，正しく計　算することができたか。（合言葉カード，活動の様子）		
まとめる５	７　本時を振り返り，学習内容についてまとめる。 個	○　振り返りの視点と基準を示して学習の到達度と学び合いの達成度を振り返れるようにする。	○　振り返りカードに本時の振り返りをして，記入するように指示をする。

（４）研究協議

１）授業者の反省

※Ｔ１

・計算カードを使った授業は２回目で，全体交流はスムーズにできた。

・交流時間を前時２分から３分に増やして実践してみた。多くの問題に触れさせることができた。

・時間内に活動をたくさん詰め込んだため，説明が伝わっていないところがあった。

・本時（７／13）の段階になると，随分計算の仕方を正しく説明できるようになったと感じた。

・学び合い目標を５人としたが，少し目標が高かったかもしれない。

※Ｔ２

・いつもの授業ペースよりも速めだと感じたが，授業の流れがたしざん（２）～ひきざん（２）まで同じ活動を繰り返してきたので，児童は見通しをもって学習できていた。

・全体を見通しても，個別支援を必要とする１，２名以外は，大半が本時の目標を達成できていた。

・前時は自分の計算カードを使わせたが，本時用に用意したカードの方が，使い方が分かりやすかった。

・３分で何人に説明できたのかを振り返らせると，励みになってさらによかったのではないか。

２）協議・感想など

○学年研究を進め，見えてきた課題について

・計算はできるが，思考でつまずいている児童への対応の方法を考えていく必要がある。
・暗算とさくらんぼ計算が一致していないから，それぞれの計算はできているが，つながっていない。
・Ｔ２の活躍場所と活動意義をしっかり位置づけて，効果的な指導の場面を持つことが必要である。
・計算力向上のため，どの段階から「計算の仕方の定着」から「補数のみの計算で表現・処理する能力の向上」に比重をシフトさせていくか見極めなければならない。
・しばらく時間をおいて，再度取り組んでみることで，手立てが子どもたちの思考の手助けとなったがどうかを確かめる。
・単元を通して解ける，できるという喜びを感じさせることができるかどうかが大切だ。
・減加法の定着を目指して取り組んできたが，減減法の取り扱いの難しさを感じた。
・ 数図ブロックを使って具体的な量的変化をつかみ，いろいろなパターンを思いのまま操作させる場面に十分な時間確保をすることが後々の学習に繋がってくることが分かった。
・数図ブロックの操作は児童の思考を作り上げるのに最重要事項である。

３）指導・高評

・授業の流れの定着はパターン化により，児童にしっかりと浸透しており成功と言える。システマティックな学びは，児童が見通しをもち，安心して学習に取り組めるのに効果があった。(手立て…合言葉カード・ペアでの学び合い・答え合わせ等)
・サイン分けの効果
説明する側…目指す姿，意欲の向上
説明を聞く側…相手の説明を聞くシビアな評価者（聞き分け）である。
・学習規律の徹底がなされていた。やるまで待つという許さない厳しさをもって指導していた。低学年指導には必要なことである。
・何を，どのように，どうすべきかを常に見本を示して取り組ませていた。
・子どもたちが動ける指導がされていた。
・やる気十分な児童の姿から，学習意欲の向上や自己効力感を高める取り組みだったと感じた。
・「計算の仕方を説明する」取組は，「何となくできた」とは違い，きちんと論理的に思考して解く，「算数」そのものを理解させていくのに意味があり，高学年になったときに差が出てくる。
・本時（７／13）の段階でのＴＴ活用の仕方が物足りない。個別指導に T2 が専念するなど，全ての児童を伸ばすためには，ＴＴ授業を活かした手立てをさらに研究しなくてはいけない。

（５）考察

計算カードを使った練習では，表面に計算式が書かれ，裏面に合言葉カードの解答が添付された特製の計算カードを使用した。ペア毎に違う問題の計算カードを受け取り，個人で合言葉カードを完成させ，説明者の話を理解しながら聞くための準備をした。このカードは，解答でもあり，説明の正誤判断が困難なレベルの子へのヒントカードにもなっていた。自分たちが担当した問題に責任をもち，友達の説明を正しいか判断させるためのこの手立ては，聞く側の構

えを作るのに大変意味のあるものだと感じた。

話す側･聞く側双方に課題を与えサインの使い分けを示したことで,初めて出会う問題でも，しっかりと語尾まで話す・聞く活動を，交流の時間中継続して行うことができた。その後の各自の計算カードを使った練習でも同じような姿が見られ，これまで積み上げてきた取組の成果が，しっかりと子どもたちの姿として現れてきたことを嬉しく思った。

しかし，暗算とさくらんぼ計算が一致していないために，計算はできるが思考でつまずいてしまっている児童がおり，その児童たちにとっては，計算の仕方を合言葉として唱えながら計算するという手立てが思考の手助けになっていなかった。また，しばらく時間をおくと，計算のやり方自体を忘れてしまっている子どももいた。このような児童に，合言葉を思い出させ，意味を理解したうえで交流に入れるよう，Ｔ２が個別に指導をする場を作ることも必要だったと感じた。

全体の考察

（１）成果

①この実践に取り組むに当たって，学年内で学習内容や学習活動の共通理解や共通認識はが必要不可欠であった。そうなれば，学年全体の子どもたちの目指す方向を学年全員で定めることができれば，学年スタッフ全員が同じ方向を目指して取り組むことができるからである。そこで，毎日授業の反省点や改善点について話し合う時間を設け，学年でより良いものを作り上げていく意識をもって取り組んだ。また，学習進度を各学級でずらし，毎回の授業の反省を共有し，次の授業に生かしていくことで，教師自身が教材を多角的に見ることができるようになり,指導上の留意点や手立てが増えていった。そして,より単元の目標に近づく実践となった。

②単元を通して，毎時間同じような流れで授業を構成していくことで，子どもたちは見通しをもち，安心して学習に取り組むことができた。そうすることで，子どもたちの動きが速くなり，スムーズに授業を進めることができた。また，授業で毎回使う算数ファイルの使い方や片付けるタイミングなどをしっかり指導し，それを繰り返すことで，学習規律も徹底させることができた。

③教科書では,第５時に減減法を取り上げ,どちらを使っても良いという扱いになっていた。しかし，減減法と減加法では，計算の仕方が大きく異なるため，減加法がしっかり定着していない状態で減減法を取り上げるべきではないと話し合って判断し，今回は単元の後半に取り上げるだけにとどめた。そうしたことで，子どもたちは減加法の計算の仕方を確実に習得することができた。実践を進めていく中で，児童の実態を確実に把握し，授業の検討をしてきたからこそできたことである。

④単元の始めは，計算の仕方を合言葉カードに書き込むだけの活動であった。次のステップでは，合言葉カードに書き込んで，計算の仕方を説明する活動になり，最終的にはどんな問題でも合言葉カードを見ないでも説明できるという姿にまで大きく成長した。計算の仕方を暗記するのではなく，減加法の仕組みをさくらんぼの図と合言葉カードを使って繰り返し説明することで，計算の仕方を理解して解けるようになった。また，繰り返し練習するだけでなく，サインを集める活動やサインを区別して使い分ける活動を取り入れることで，話す側と聞く側の双方に明確な目的を定めることでき，活動がとても充実したものとなった。子どもたちの充実した活動の様子から，繰り下がりのあるひきざんについての知識は定着してきたといえる。

⑤授業の始めに取り組んだ３分間計算チャレンジでは，回数を重ねるごとに点数が上がっていった。だんだんできるようになることで，子どもたちの意欲はどんどん高まっていった。毎回の結果を記録表に残していくことで，子どもたちは自分の成長を実感することができ，達成感を味わうことができたといえる。

⑥授業で使用した合言葉カードや３分間計算チャレンジがんばり表，振り返りカードなどを算数ファイルにとじ，それらを毎回回収してチェックし，コメントを書いた。毎日全員分をチェックするにはとてもたくさんの時間がかかり大変だったが，そこから，３分間計算チャレンジ問題の点数の伸びだけでなく，子どもたち一人一人の理解度やつまずきを的確に把握することができた。その情報をＴ１とＴ２で共有したことで，それぞれが誰にどのような支援をするべきかが明確になったり，個に応じた指導をすることができた。

（２）課題

①単元を通して，Ｔ１とＴ２で役割を分担して指導に臨んだ。理解が不十分な子どもにＴ２が寄り添って活動を支援したり，一斉指導を二人で分担して行ったりするなど，ＴＴを活かした授業を考えて取り組んだ。しかし，次の活動にうまく入っていくことができない子どもがいる場合には，Ｔ２がその子どもたちを集めて，教室内を習熟度別に分けて授業を進めるような場面も必要であったように感じた。場面に応じてＴＴの役割を変えて，子どもたちに適した指導をしていけるようにしなければならない。

②ＴＴを組む非常勤の職員と打ち合わせをする時間を十分確保するこができなかった。授業の役割分担をしたり，子どもたちの理解度を把握するための情報交換をしたりする時間が必要だった。しかし，子どもがいる時間に落ち着いてじっくり話し合いをするような時間はない。短い時間の中で細かいところまで打ち合わせることの難しさを感じた。

おわりに

今回の実践では，一つの教材を通して，学年の子どもたちを育てていこうという意識が高まり，学年で取り組むことの大切さを感じた。また，子どもたちの算数の授業に対する構えが変わってきたように感じる。ただ計算を解くだけではなく，どのように計算を解くのかをじっくり考えることができるようになってきた。なぜ，どうしてを考え，友達と交流するという活動を一つの学習スタイルとして定着させることができてきたように思う。児童は活動に慣れ，安心して自信をもって活動に取り組めるようになってきた。研究主題である，「考えたことを相手が分かるように表現できる」という児童の姿に一歩近づくことができたのではないだろうか。子どもたちの成長のために，これからも効果的な方法を模索し，様々な実践に取り組んでいきたい。

第２学年　実践報告

自分の考えをもち，進んで伝え合う子を目指して

五味　公人・小西　陽子・林　千鶴・淺野　祥子・鈴木　宏実

はじめに

学校生活にも慣れ，元気いっぱいの子どもたち。学習にも意欲的に取り組む姿勢が徐々に身に付いてきている。そんな２年生を，自分の考えをもち，進んで伝え合い友達と関わり合いながら，学習を進めることができるようにしたいと考えた。そこで，伝え合う場面が多い学習である国語を選び,「詩」を書く教材に焦点を当て，単元見通し学習に取り組むことにした。単元を見通すことで，学習の流れが明確になり，さらに，１時間ごとに検証することで授業を練り上げることができると考えた。

２年生の「詩」の学習は,「詩」のもっているリズムに親しみ，擬声語や擬態語，比喩表現などの様子を表す言葉を用いてリズムのよい詩を作成することをめあてにしている。そこで，単元を通して，詩の情景を想像し，リズムのよい詩の書き方を身につけることができるように指導計画を練り上げ授業実践を行った。

単元見通し学習に取り組むねらいと仮説

２年生の単元見通し学習に取り組むねらいと仮説を次のように考えた。

①研究のねらいを「自ら創作する意欲を高める」とする。

ただ単に詩を作るのではなく,様子を表す言葉を考えたりその使い方に注意したりしながら，自分の力で題材から想像を膨らませて詩を創る活動に取り組ませることで，学習に主体的に取り組み続け，自ら創作する意欲を高めることができるであろう。またそのために，他者との関わりの中で互いに高め合いながら学習を追究していく「協同」の理念に従って学習を進めていく。

②単元全体を研究し，全６時間の指導案を作る。

今までの授業研究と違い，単元全体を通しての指導計画を立てることにより，１時間１時間の指導内容や指導の連続性がより明確になり，児童の理解を深めることにつながるであろう。

③単元全体を通した学習ノートを用意する。

多様な表現方法に気付くための「今日の詩」や，毎時間のめあてとともに，それに近づくための手立てや自己評価を書く学習カードや振り返りカードを１冊にまとめることで，児童自ら学習の軌跡が把握でき，見通しをもって学習に取り組めるようになるであろう。

④毎時間終了後，学年会で研究協議を行い，授業の改善を図る。

同じ指導案を使っても，教師一人一人授業の展開が違ってくる。そこで，毎時間後に検証することで，授業の組み立てや目標へのアプローチが改善されるであろう。

学習を通して育てたい力

（１）単元　見たこと，かんじたこと

（２）単元への思い

子どもに身につけてほしい力や態度（子どものすがたをとらえて）	
○　様子を表す言葉の使い方を工夫しながら，詩を書く力。 ○　様子を表す言葉により多く気付き，それを場に応じて活用する力。 ○　人によってちがう見方や感じ方があることに気付き，互いに肯定し，学習を深めようとする態度。	
単元の目標	○　様子を表す言葉の使い方に注意して，教科書などの詩を参考にしながら詩を書くことができる。 ○　書こうとする詩の題材から想像を膨らませて，様子を表す言葉を考えて書くことができる。 ○　書いた詩を聴き合い，よいところを見つけて感想をもち，交流することができる。
手だて	1　単元を通して，授業の導入で教科書以外の詩を紹介し，多様な表現方法に気付くことができるようにする。 2　見通しをもって学習できるように，単元を通して使うワークシート，授業で紹介する詩，振り返り用紙を綴った学習ノートを用意する。 3　人によって違う見方や感じ方，表現の仕方に気付いたり様子を表す言葉の語彙を増やしたりするために，個の気付きをもとにペアやグループなどで交流する。

（３）単元計画（６時間完了）

① 詩の繰り返しのリズムや表現のおもしろさに気付く。

② 詩で使われている擬声語や擬態語，比喩表現に気付き，何がどんな様子を表しているかを想像する。

③　詩の題材となる言葉を探して 集め，詩作りに興味をもつ。

④ 詩のテーマについて様子を表す言葉を考えて書き，詩を書くための準備をする。

⑤ 様子を表す言葉を使って，言葉の響きに気を付けながら詩を

⑥　書いた詩を読み合い，表現のおもしろさやよさを見つけて感想を伝え合う。

実践Ⅰ　国語　「見たこと，かんじたこと」　本時１／６

１　本授業への思い

本単元では，全体を通して様々な詩に出会う時間を設け，詩の世界の楽しさを味わい，詩の文学性にも触れさせていきたい。前単元「しをよもう」「ことばについて考えよう」の学習を通して，詩への関心が湧いてきている。本時では，まず，いろいろな詩を音読して，詩とはどんなものかを確認し，それらの詩の中から言葉の繰り返しやリズムのおもしろいところを見つけ出させていきたい。短い詩の中から，楽しみながら自分だけの発見や感動を見つけ，友達と交流し合うことで，一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことも大切にしていきたい。「詩っておもしろいなあ。」と感じ，自分でも詩が作ってみたいと意欲がわいてくる時間にしたい。

２　実際の授業

（１）目標

・詩を音読し，繰り返しのリズムや表現のおもしろさに気付く。（言語）
・学習の課題を知り，詩作りへの意欲をもつ。（関心・意欲・態度）

（２）準備

教師・・・教科書の詩の拡大掲示物，「詩を書こう」学習ノート

（３）学習過程

□・・・本時の目標　学習形態：個－個別　ペ－ペア　斉－一斉　全－全体交流

段階	学習活動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 10	１　学習ノートで，単元のめあてを確認する。 斉 ２　本時の流れと学習のめあてをつかむ。 斉 いろいろな詩を音読して，詩のおもしろいところを見つけ出そう	○学習ノートを配付し，単元のめあてを知らせ，学習の見通しをもたせる。 ○いろいろ詩を音読して，お気に入りを見つけることを知らせる。	
	３　前単元で学習した詩「だれかしら」を音読し，詩の形を知る。 全 短い言葉で書く。 行をかえながら書く。 繰り返しがある。 リズムがある。	○詩を音読する時に，気をつけた「言葉のまとまり」や「繰り返し」を意識させる。 ○詩のおよその形を確認しリズムや繰り返しなどがあり，いろいろな表現を工夫して作られていることに気付くようにする。	詩のかたちについてどんなものか考えることができたか。（発表）

とりくむ 30	4　教科書の３つの作品を声に出して読む。 斉→ペ→個 ・追いかけ読み，交互読み，個人読みなどで，何度も読む。 5 お気に入りの詩を決めて，どんなところが好きか，どうして好きかを書いて交流する。 個→ペ→全 〔伝え合う力〕 ・「きんぎょのあぶく」 ・「つき」 ・「そうっと　そっと」 ［予想される児童の意見］ 「きんぎょのあぶく」の「ぷくぷく　ぷくん」が，4 回もでてきてリズムがあるからおもしろい。 「つき」は，「まんまるいぼんのようなつき」の言い方は，月を丸いおぼんにとたとえているところが気に入ったよ。 「そっとうた」の「そうっと　そっと」は，なんだかやさしい感じがするので好き。 6　他の詩も音読し，もっと詩のおもしろさやリズム感のよさを味わう。　斉 ・「おちば」 ・「くまさん」	○様々な音読をし，工夫していくように指示する。何度も声に出すことで，音やリズムやことばのまとまり方を感じ，詩に親しませるようにする。 ○３つの詩の中から，よいと感じた詩やお気に入りの言葉を見つけた詩を１つ選び，その理由も考えるように指示する。 ○お気に入りを決めるときには，リズムや繰り返しや表現（たとえ）に注目するように声かけをする。 ○ペアでの交流活動が円滑にできるように話型を提示しておく。 ・「お気に入りの詩は，どれですか。」 ・「わたしのお気に入りは，・・・です。・・・だからです。」 ○同じ詩を選んでも，一人一人の感じ方は，様々で違っていることを意識しながら交流するように伝える。 ○より多くの詩に出会うことで，詩のおもしろさをさらに体験できるようにする。	詩全体から感じること，繰り返しのリズム，表現のおもしろさに気付いた音読ができたか。（活動の様子） 詩のおもしろいところを見つけ出し，交流することができたか。 （ノート・活動の様子） それぞれの詩のよさを味わいながら，読むことができたか。　（活動の様子）
まとめる 5	7　学習内容を振り返り，次時の学習内容を知る。　斉	○　振り返りカードに，詩作りに対する気持ちも書くように指示する。 ○　次時は，３つの詩のようすを表すことばに注目することを伝える。	本時の活動を振り返り，詩作りの意欲をもつことができたか。　（ノート）

（４）評価

・いくつかの詩を音読して，詩のおもしろいところを見つけ出し，詩を作る意欲をもつことができたか。

３　研究協議

（１）反省

・学習ノートを渡した時から興味をもち，やる気を出していた。学習ノートを生かした学習ができると思う。

・時間が足りないという懸念があったので，音読に十分に時間を取れなかった。詩の音読をもっと楽しむ時間があったら良かった。
・ペア交流の時，話型を用意することで，どの子もうまく交流することができた。
・ふだんよりやる気が感じられた。学ぼうという気持ちが高かった。

（２）協議内容

・伝え合うことは，
①言葉にすることで，自分の考えがはっきりする。（考えの自覚）
②友達の考えを聞き，自分の考えと同じところを見つけたり足りないところを付け足したりすることで，自分の考えに自信がもてる。
③友達の考えを聞くことで，自分の考えを広げることができる。
④友達の考えを聞くことで，自分の考えを見つめ直し，深めることができる。伝え合う前に，何のためにやるのか具体的に話し，見通しをもたせる事が大切。
・話型を示すことが，意見の交流につながった。また，ノートを持たずに交流すると，子どもたちは，何を話すのかはっきりさせようと考え，意識が高まる。
・ペアで交流した後の取組をどうしたらよいのか，いつも悩んでいる。→今日のように，意見を多く出させるときは，ペア交流だけで終わってもよいのではないか。話をまとめていくような時は，全体交流をした方がよい。
・話型があったので，理由までしっかり述べることができてよかった。また，話すことが苦手な子も安心して発表することができた。
・詩のポイント（リズムがよい，短い言葉で構成されている，繰り返しがある等）を押さえていたので，お気に入りの詩を選んだ理由につながった。
・単元を通して身につけさせたい力は，詩を創作する意欲を高めることであるが，教科の力を高めるために，学習のめあてをしっかりもたせることや聞くことを今後十分指導していきたい。

４　考察

単元の導入として見通しをもって学習に取り組めるように，学習ノートにより，これからの学習の流れをみんなで確かめ共有する時間を大切にした。今まで学習した詩を振り返り，教科書の３編の詩を声に出して読むことで，言葉のリズムの良さをおもしろいと感じたり，言葉の繰り返しが何度もあることに気付いたり，様子を表す言葉から詩の世界の雰囲気を感じたりすることを楽しんだ。

自分の考えを言葉にしてより多くの友達に伝え，友達の考えもたくさん聞くことで自分の考えたことをはっきりさせ，いろいろな感じ方があることに気付くために交流した。しかし，だた，伝え合っていただけで，友達の考え方が様々であることに気付いたり自分の考えを深めたりすることができた児童がどれだけいたか不安が残る。交流を始める前に，交流するためのめあてを明確にしてから活動すると，伝え合う活動が有意義なものとなると思う。

詩のおもしろさに触れた子どもたちは，もっといろいろな詩を読みたいという気持ちが膨らみ，自分も感じたことや発見したことを詩の中に表現したいという意欲付けができた。

実践Ⅱ　国語「見たこと，かんじたこと」　本時２／６

１　本授業への思い

前時で「詩」は，楽しい，おもしろいと思った子どもたちに，本時では教科書に出てくる詩を参考に擬声語，擬態語，比喩表現に気付き，何がどんな様子を表しているのか自由に想像を膨らませる活動を行う。詩の感じ方は，人それぞれに違うので，自由に楽しみ，詩から感じるイメージの世界に浸ることができる１時間にしたい。そして，自分の想いを友達に伝え合い，さらに，想像したことを広げていきたい。そのために，伝え合う場面では，相手の話をよく聞き，思いや想像したことを共有し合うことが大切だと考える。そこで，友達の考えに対し，自分はどう思うのか常に意識して，友達の考えを肯定したり，感想を述べたりしてから自分の考えを述べるようにした。自分の考えを友達が誉め認めてくれることで，より発表してよかったという満足感を味わうことができるだろう。そして，情景を想像した後で，『そっとうた』の続きを作り，詩作りは楽しい，書いてみたいという思いを膨らませて，次時の活動につなげていきたい。

２　実際の授業

（１）目標

・教科書の３編の詩から，擬声語や擬態語，比喩表現が使われているところに気付き，どんな様子を表しているか想像することができる。（言語）

（２）準備

教師・・・今日の詩と教科書の３編の詩を拡大したもの
児童・・・「詩を書こう」学習ノート

（３）学習過程

□・・・本時の目標　学習形態：個－個別　ペ－ペア　斉－一斉　全－全体交流

段階	学　習　活　動	教師の支援　と　留意点	評価（評価方法）
つかむ 10	1　今日の詩を読む。 斉 2　教科書の詩を読み，学習の流れとめあてをつかむ。 個→斉	○　本時に紹介する詩を音読し，表現の工夫に気付くように声をかける。 ○　個人読みや交互読みなど声に出して読み，詩の楽しさが味わえるようにする。	それぞれの詩を楽しみながら読むことができたか。（表情）
	ようすをあらわすことばに気づき，どんなようすをあらわしているかそうぞうしよう		
	3　様子を表す言葉を見付け，それが表す様子を考える	○　様子を表す言葉をまず見付させる。 その後，それが何を表してい	擬声語や擬態語，比喩表現を見つけ，それが何を表してい

とりくむ 30	（1）きんぎょのあぶく 個→全 ・ぷくぷくぷくんは，金魚が話しているようすだと思います。 ・ぷくぷくぷくんは，歌を歌っているようすです。 （2）つき　斉 （3）そっとうた　個→ペ 〔伝え合う力〕 4　『そっとうた』の続きをつくる。　個→全 5　3編の詩を音読する。 個	るのか考える時間を十分とり，詩の世界に浸ることができるようにする。 ○　様子を表す言葉からイメージする情景を自由に想像するように声掛けをする。 ○　友達の考えに対し自分は，どう思うのか常に意識しながら発表するように伝える。 ○　多くの友達と交流することで，いろいろな思いに触れることができるようにする。 ○　『そうっと　そっと』することを想像し，自由に楽しむ場となるようにする。 ○　好きな詩を擬声語や擬態語，比喩表現などをいかした読みができるように言葉がけをする。	るのか考えることができたか。 （発表・活動の様子） 簡単な詩作りを楽しむことができたか。 （発表） 様子を表す言葉を生かした読みができたか。（活動の様子）
まとめる	6　学習内容を振り返り，次時の学習内容を知る。　個	○　振り返りカードに，様子を表す言葉の中から気に入った言葉を，理由を添えて書くように指示する。 ○　次時は，詩を書くために，言葉集めをすることを伝える。	本時の学習を振り返り，次時の学習に，意欲をもつことができたか。　（ノート）

（4）評価

・擬声語や擬態語，比喩表現がどんな様子を表わしているか想像し，友達と交流する中で，詩のイメージを膨らませることができたか。

3　研究協議

（1）反省

・語彙が少ないふだんの子どもたちの様子から，様子を見つけ出した活動の後，どんな様子なのかを自分の言葉で話すことができるかどうか，心配しながら授業に臨んだ。

・3つの詩の読み取りが単調にならないように，それぞれの読み取り方に変化をもたせた。「きんぎょのあぶく」は，個から全体，「つき」は，個から一斉，「そっとうた」は，個からペアで読み取った。その後，続きの連を作って全体交流にしたかったが，続きの詩を紹介する形に変えた。

・「聞く」を意識した交流の発表の仕方を1月から少しずつ取り組み始めた。発表する時は，前に発表した子の話を受けて，つなげていくような話し方を指導した。

（２）協議内容

・導入の大切さを感じた。「今日の詩」で，子どもたちが授業に乗ってきた。動作化しながら読むことで「詩は楽しい」を体感した。
・「きんぎょのあぶく」では，「あぶくは何？」から始まり，どんな様子か，はじめ戸惑う子もいたが，先生の発問や板書のイラストを手がかりにして，おもしろい意見が出た。相互指名でつなげていたが，発表の仕方がとても身についている。2 年生の段階に応じてやればできる。途中に入る先生のあいづちや声かけが効果的で，児童が安心して発表していた。
・意見の交流では，話すことに力を入れたいので，「書くこと」は簡単に書き，メモ程度にしていた。「書くこと」に時間をとってしまいがちだが，こういうやり方があることがわかった。その後の交流で，始めは書いていなかった子が，繰り返していくことによって，他の子から聞いたことをイメージし，自分のイメージを膨らませることができていた。「書くこと」だけでなく「言葉で伝える」「絵で伝える」ことも想像を膨らませる時には，有効である。
・書けない子の支援で「友達のいいところをまねしてごらん」という言葉かけで，気持ちが楽になり，書けるようになっていった。
・最後の音読では，いろいろ想像したことで，音読が変わった。「そっとうた」の「そうっと　そっと」の言い方をいろいろ想像していた。
・発表の指名・応答がすばらしい。何よりも子どもたちの学びの姿が素直で，どんどん吸収していく姿が，見て取れた。

４　考察

友達の思いをただ聞くだけではなく伝え合いを意識して授業構成を考えた。友達の考えに対して同調したり感想を述べたりすることは，２年生の児童でもできることが分かった。さらに，聞くことが意欲的になり，友達がどんなことを言っているのか意識しながら聞くようになったと感じた。そして，多くの友達の考えや思いを聞き，自分の想像したことをさらに膨らませ，詩のもつ創造的な世界に浸ることができたように思う。簡単な詩作りや詩の音読をしているときに，何よりも詩の世界を楽しんでいることを実感することができた。

詩の情景を想像する場面では，語彙数が少ない児童が多い中で，どのように思ったことを言葉にするのか不安があった。最初に問いかけたとき，児童の反応はやはり鈍い感じがした。自分の思いを言葉にすることは，かなり難しいことだと思った。つたない言葉を教師が容認することで，少しずつ思いが言葉になってきた。今後は，語彙数を増やすことも念頭に置きながら，指導を続けていく必要がある。本の読み聞かせをしたり読書を推奨したりしていきたいと思う。さらに，詩を書く学習を今回だけにとどめず，機会があるごとに書かせることで，書くことへの抵抗をなくすと同時に，語彙数を増やしていきたい。

実践Ⅲ　国語「見たこと，かんじたこと」　本時３／６

１　本授業への思い

本単元では，全体を通じて様々な詩に出会い，詩を作る楽しさを味わったり，詩の文学性に

触れたりさせたい。毎時間出会う詩により，詩の創作への意欲が高まりつつあるのを子ども自身感じて，本時を迎えているはずである。本時では，その意欲がさらに高まるように，自由に詩作りの題材収集に取り組ませたい。またそれは，単に出来事や名前を集めたり，上滑りな形容を集めたりするに留まらず，五感を使ってものを捉えることまで発展する児童が出てくることを期待したい。そこで，より自分らしい表現に結び付けることができるように，学習のフィールドを教室にとどめず，子どもたちの欲求に合った場所に広げることにする。ここでの収集活動が，次時の詩作りのためのマッピング，そして詩の創作へと続く。ゆえに，粗削りであったり未分化であったりしても，より多くの「自分らしい言葉」との出会いの時間とさせたい。

２　実際の授業

（１）目標

・身の回りから，詩の題材にしたい，または題材にできる言葉を探して集める。（言語）
・言葉集めから，詩作りに興味をもつ。（関心・意欲・態度）

（２）準備・・・児童：「詩を書こう」学習ノート

（３）学習過程：［　　］本時の目標，［個］－個別　［ペ］－ペア　［全］－全体交流　［斉］－一斉

段階 分	学　習　活　動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5	1　今日の詩を読む。［斉] 2　本時の学習の流れとめあてをつかむ。［斉] 詩を作るための もととなることばを たくさんあつめよう	○　本時に紹介する詩を音読し表現の工夫に気付くように声をかける。 ○　身の回りから，詩のテーマとなる言葉を集めることを知らせる。	
とりくむ 35	3　詩の題材となる言葉を身の回りから集め，学習ノートに書き込む。［個] ＊予想される題材 ・季節（冬，雪，氷，正月，寒いなど） ・出来事（縄跳大会，初詣，凧作りなど） ・身の回りの物（鉛筆，消しゴム，ランドセルなど）	○　季節や出来事，身の回りの物などのうち，自分の心に響いたことや愛着のあること，好きなことなどから，自由に思いついたことをノートに書き込むよう促す。 ○　筆が進まない児童には，見本となる題材を提示し，言葉の選び方がつかめるようにする。	発想をつなげながら，詩作りに使う言葉を集めることができたか。 （活動の様子，ノート）

	・好きなこと（縄跳，鬼ごっこ，ピアノなど） 4　集めた言葉をペアで紹介し合い，自分の集めた言葉を見直したり，新たに書き加えたりする。 ・互いの表現の違いや，よいところを見つける。 ・学習ノートに書いた言葉を見直す。 ペ→個 〔伝え合う力〕	○　自由に発想して書くために，教室外で活動することもよいことを伝える。 ○　自分の集めた言葉との相違に着目するように言い，同じ題材でも違う表現やよい表現を見つけるように指示する。 ○　ペアで，書いた言葉について紹介し合うとともに，他によい表現はないか考えたり，友達のよい言葉をもらって学習ノートに書き加えたりするように指示する。	交流を通して，詩作りにつながる言葉を集めることができたか。 （活動の様子，ノート）
まとめる 5	5　本時の学習を振り返り，まとめを書く。　個 6　次時の予告を聞く。　斉	○　振り返りカードに，次回，もっと言葉をつなげたい言葉を選び，その理由を書くように指示する。 ○　次時は，選んだ言葉をもとにマッピングして，さらに言葉の世界を膨らますことを伝える。	次時に膨らます言葉を理由とともに書くことができたか。 （ノート）

（４）評価

・詩の題材にしたい言葉集めに，興味をもって取り組むことができたか。

３　研究協議

（１）反省

・言葉を見つけるとすぐに教室へ引き返してくる子に対しては，手触りや匂いはどうだったか言葉かけすることで，語彙を増やせるように対応した。
・振り返りの時間が足りなかったが，本時は特に次時と関連した学習だったため，導入を 15 分間と十分に取った。
・振り返りに書いたまとめは，個人で書くだけに終わらず，それを生かしてさらに交流へとつなげていきたかった。

（２）協議内容

・個人で書く時間を 15 分間とったが，書き出しに 5 分程かかる子もいた。しかしながら，あえて意図的に見守ることで，考える時間を確保することができる。その後，十分に交流を

経ることで，感化を受けて新しい考えを思いついたり，よい考えをもらって書き足したりすることが出来ていた。
- 学習のフィールドを教室の外へ広げたことによって，触る，匂いを嗅ぐなどの実体験を積むことが出来た。それによって，言葉を探す活動がより活発になっていた。
- 以前より，語彙を広げるための取り組みとして，言葉連想ゲームをしたり，名詞について様子を表す擬音語や擬声語，擬態語などを考えたりする活動を取り入れていた。
- ２年生でも，課題についてじっくりと考える時間をもちたい。動く，書く，伝え合うだけではなく，考える時間も学習の活動量を測る指標に入れる。

４　考察

本時の学習の目的は，詩を書く意欲を高めるために，自由に詩作りの題材収集に取り組ませることであった。そして，本時の収集活動が，次時の詩作りのためのマッピング，そして詩の創作へと続くので，教室外の活動も認め，より多くの「自分らしい言葉」との出会いの場としたかった。本時では，児童は，確かに意欲的に言葉集めに取り組むことができたが，出来事やものの名前などの名詞を連想ゲーム的に集めることが主になっていた。教室外でも活動したので，実際に心に残ったものを手に触れたりにおいや音を感じたりする活動に，さらに取り組ませる手立てを考えるべきだったと感じている。その一つとして，本時の学習活動の説明時に，実際に五感で感じる言葉を一つの題材を例にとって児童に考えさせながら，示すことも考えられるだろう。しかし，当初の目的の，自由に詩の題材を集め，発想を膨らませることには，取り組めたと考える。

実践Ⅳ　国語「見たこと，かんじたこと」　本時４／６

１　本授業への思い

次時で詩を書くために，本時では，題材についての様子を表す言葉を集めて詩作りの準備をする。それによって語彙を広げることもねらいとしている。前単元「ようすをあらわすことば」では，擬態語，擬音語，擬声語などや，形容詞，比喩表現などを学んできた。そこでの子どもの活動の様子を見てみると，擬態語，擬音語，擬声語などについては子どもらしく発想が豊かではあるものの，形容詞等については極端に語彙が少なく，「細かい」の対となる言葉（「粗い」）を聞いてみても答えられない程であった。

題材について自由に想起される考えを五感をもとに書き起こし，それを交流することによって多様な表現に気付くとともに，一つでも語彙を増やすことにつながってほしい。また，ある言葉から連想　されるイメージは，人それぞれ異なるのでその感じ方や表現の面白さを感じるとともに，不正解はないことを確認したい。さらに，互いに認め合い学び合う活動を経ることで，子どもの自己効力感の向上に通じることを願いたい。

２　実際の授業

（１）目標

- 題材についての様子を表す言葉を考えて書くことができる。（書く）
- 書いたものを読み合い，よいところを見つけたり，間違いを見つけたり正したりして，よ

りよいものにすることができる。（言語）

（２）準備

・教師・・・五感のイラストカード
・児童・・・「詩を書こう」学習ノート

（３）学習過程

□ …本時の目標　学習形態：個－個別　ペ－ペア　全－全体交流　斉－一斉

段階 分	学　習　活　動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5	1　今日の詩を読む。 斉 2　本時の学習の流れとめあてをつかむ。 斉 だいざいについてようすをあらわすことばを考えて書き，詩作りのじゅんびをしよう。	○　本時に紹介する詩を音読し表現の工夫に気付くように声をかける。 ○　前時に書いた詩の題材となる言葉から詩のテーマを選び出し，様子を表す言葉を集めることを知らせる。	
とりくむ 35	3　前時に書いた詩の題材の言葉について，様子を表す言葉をマッピングしながら書く。斉→個 ・前単元を振り返り，どのような言葉を考えて書けばよいのかを全体で確認する。 ・見本の話題から，言葉の広げ方，マッピングの仕方を知る。 4　語彙を広げるためにマッピングしたものを交流する。 ペ→個 〔伝え合う力〕 ・ペアで紹介し合う。 ・自分のマッピングを見直す。 5　マッピングして書いた言葉を読み，友達のよい考えを見つけたり，学習ノートの言葉をつないで書き直したりする。	○　前時の学習を振り返り，詩のテーマとなる言葉を１つ選び出し，それについて様子を表す言葉を考えてノートに書くよう指示する。 ○　戸惑う児童には，題材についてどのような経験があるか思い出すように声をかける。 ○　ペアで，マッピングしたものについて聴き合うとともに，他によい表現はないか相談するように指示する。 ○　話し合う中で，友達の考えに共感したら学習ノートに書き足すよう指示する。 ○　ノートを読み合うことで考えを広げたり感化されたりすること，リズムの整った詩を書けるように言葉を練り直	題材について様子を表す言葉を考えて書くことができたか。 （ノート） 交流を通して，考えを広げながら，推敲できているか。 （活動の様子，ノート）

	全→個	すことをねらいとしていることを伝える。 ○　交流の後，友達の考えを参考にして言葉を書き足したり，言葉を書き直したりするとともに，新しく思いついた言葉も書き込むとよいことを伝える。	
まとめる5	6　本時の学習を振り返り，まとめを書く。　個	○　振り返りカードに，特に詩に使いたい言葉を選び，その理由も書くように指示する。 ○　次時は，本時に書いた言葉を基に，リズムに気を付けながら詩作りすることを伝える。	

（４）評価

・題材について様子を表す言葉を，交流によってよりよいものにしたり，ノートに書いたりすることができたか。

３　研究協議

（１）反省

・予想していたよりも,題材について様子を表す言葉を考えて書く活動に広がりがなかった。前時では，詩のテーマを探すために名詞つながりの言葉集めをしたが，本時の学習との違いを詳しく押さえておくべきだった。「様子を表す言葉」の定義について理解が曖昧になり，児童は名詞と混同していた。

・学び合いの活動では，自分のマッピングしたものを紹介する形になっているペアがいた。もっと気軽に，読み合い，訊き合い，助言し合う中で発想を広げて欲しかった。話型を用意する，教師がより具体的な手本を見せるなどの，低学年という発達段階を考慮した手立てを講じるべきだった。

・本時の活動のゴールをより明確にするために，導入段階において振り返りカードに触れることを忘れていた。また,「20 個以上書けたら◎, 10～19 個で○･･･」と基準を設定したが，詩の題材によってはその達成が困難なものが多かった。予想される事態をより細かに想定して，基準の数値を考える必要があった。

（２）協議内容

・名詞ではなく様子を表す言葉を考えて書くことができるように，五感を順番に提示していくなど，ワークシートや発問に工夫があるとよかった。

・前時の活動と似ていたために，名詞で言葉を連想する児童が多く見られた。本時のめあてとその目的，前時との活動の違いを明確に説明するとよかった。

・低学年では語彙が少ないので，実際にものを見せたり触らせたりして，五感を働かせて色々な言葉を引き出せるような手立てが必要である。
・全体交流で友達のマッピングしたものにサインをする活動では，様子を表す言葉とそれ以外の名詞など関係なく，気に入った言葉にサインをしている児童も見られた。両者の違いと，よいと感じる様子を表す言葉にサインする活動の意義について押さえるとよかった。

４　考察

本時では，様子を表す言葉を考えて書き，それを交流することによって詩作りのための言葉を集めるとともに語彙を増やすことをねらいとしていた。実際には，名詞つながりの言葉の連想をしている児童が多く，様子を表す言葉からぶれずに考えを書くことができるように，ワークシートに「目で見て」「手で触って」という記入欄を予め設けておくなど，記入する内容を指定することで，活動の的が絞れたのでは内科と考える。また，詩のテーマが，一人一人違う中で，考えを交流したので，自分とはちがうテーマについて助言することや，話し合う中で多様な感じ方に気付き学びを得ることが交流のねらいとなった。しかし，テーマが違うのでどのような助言をすればよいのか分かっていない児童がいた。テーマを分類してグループ別に交流する，詩のテーマを広がりすぎないように教師側から指定するなど，詩の創作の入門編であることも踏まえて考慮すべきであったかもしれない。

低学年という段階を考慮しつつ，子どもの思考を円滑にするための手立てを講じていくことが，今後に続く課題と言える。

実践Ⅴ　国語「見たこと，かんじたこと」　本時６／６

１　本授業への思い

前単元で，擬態語，擬声語，比喩を効果的に使う表現方法を学習したので，本時では，一人一人が考えた表現を受け入れ，認め，褒めることによって表現することの楽しさに気づかせと考えた。児童は，前時までに既習内容を使って，それぞれが詩を書き，自分の発見や感動を表現する楽しさを感じてきていると思われる。

そこで本時では，児童が書いた詩を互いに読み合い，目（見たこと），耳（音），鼻（におい），手（さわって），舌（味）を使って様子を表す言葉を工夫しているところや，表現のおもしろさを見つける活動を行う。その過程で，自分の発見したことや感じたことを読んだ相手に伝える喜びを味わわせたり，友達の表現のよさを見つけ，言葉を吟味する大切さや，事柄に合った言葉の働きに気付かせたりしていきたい。また，これまでの詩の授業を通して，教科書や友達の詩を読むことで終わることなく，様々な詩に親しむきっかけとなることを期待したい。

２　実際の授業

（１）目標

・友達の書いた詩を読み合い，友達の詩の表現のよさを見つけることができる。
（関心・意欲・態度）
・友達の作品のよいところや感想を伝えることができる。（話す・聞く）
・様子を表す言葉の働きに気付くことができる。（言語）

（２）**準備**・・・教師：話形を示したフラッシュカード，五感のイラストカード
児童：「詩を書こう」学習ノート

（３）**学習過程**：□本時の目標，個ー個別　グーグループ　ペーペア　全ー全体交流　斉ー一斉

段階 分	学　習　活　動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5	1　今日の詩を読む。　斉 2　本時の学習の流れとめあてをつかむ。　斉	○　本時に紹介する詩を音読し，表現の工夫に気付くように声を掛ける。 ○　友達の書いた詩を読み合い，表現のよいところやおもしろいところを見つけることを知らせる。	意欲的に取り組もうとしているか。　（態度）
	詩のはっぴょう会を行い，友だちの詩のよいところやおもしろいところを見つけてつたえ合おう		
とりくむ 35	3　詩の発表会を行い，友達の詩のよいところやおもしろいところを見つける。 ①友達の詩を読み，よい表現だと思ったところに線を引く。　個 様子を表す言葉・・・赤 おもしろいところ・・青 ②グループで詩の発表会を行い，表現のよいところを見つけて伝え合う。 グ 〔伝え合う力〕 ・○○さんの詩は，パイナップルを人のように書いてあったのでおもしろかったです。 ・「グツグツ。グツグツ」と音がしている様子がよく分かるので○○さんの詩はいいなあと思いました。 ③グループで話し合ったことを全体の場で発表す	○　独自のおもしろい表現や擬態語の工夫，繰り返しや比喩表現のなどのよさに気付かせるために，見つける視点を板書して示す。 ○　３～４人のグループになって，お互いの考えを交流し合うように指示する。 ○　表現の工夫やそのよさに気付くようにするために，よいと思ったわけも話すように促す。 ○　伝えることが苦手な児童には，安心して発表できるように話型を提示する。 ○　自分と友達の考えの違いに着目して聞くように伝え，友達の考	表現のよいところを見つけようとすることができたか。 （活動の様子，ノート） 表現のよいところに気付き，伝えることができたか。 （活動の様子） 交流を通して，表現のよさやお

	る。 斉 4　より多くの友達の詩のよさを知るために交流する。 ペ	えのよさに気付くように促す。	もしろいところに気付くことができたか。 （活動の様子）
まとめる5	5　学習内容を振り返り，学習ノートに記入する。 個 6　学習のまとめをする。 斉	○　本時の学習を通して，単元で学習したことを振り返るように指示する。 ○　感想を発表するように促し，交流させることによって学習のまとめをする。	詩の学習に意欲的に取り組むことができたか。 （活動の様子）

（４）評価

・友達の書いた詩を聞いたり，読んだりして表現のよいところを進んで見つけようとすることができたか。（言語）

・表現のよいところを，理由とともに友達に伝えることができたか。（話す・聞く）

３　研究協議

（１）反省

・友達の詩の良さを見つける活動について，１つの詩についてよいところを数多く見つけられるようにするのか，出来るだけ多くの詩に触れてよいところを広く浅く見つけられるようにするのか，どちらがより子どもにとって詩のよさに触れる活動となるか迷った。

・グループでの交流では，１人の詩について話し合う時間を２分と限定した。しかし，以前パイナップルに関する詩を書いて交流した時ほど，子どもの伸びやかな交流の姿が見られなかった。グループトークの時間を設定するに留めて，後は子どもに任せてもよかった。

・振り返りを読んでみると，「友達と書いた詩を聞き合って楽しかった。」「友達の色々な詩の　書き方を読んで，自分と違っていて面白かった。」などというものがあった。教師としては，様子を表す言葉や詩のリズム，比喩表現のよさに着眼して，学びの締めくくりとしたかった。

（２）協議内容

・本時の詩の発表会以前に，自分で自分の詩を音読する時間を別に設定していた。それにより，交流の際に読み方を工夫しながら表現することができていた。そうすることで，聞き手はさらに詩のリズムのよさを感じながら聞くことができていた。

・振り返りについては，本時では，「友達の詩を読んで気付いたこと」という観点についてまとめを書くようになっていた。しかしながら，６時間完了の本単元の締めくくりとなる本時では，単元全体を通したまとめとなるように，今回初めての詩の学習を通して得られた学びとは何かについて振り返るように設定すべきであった。

・資料となる詩を学習ノートに，もっと多く綴じておけばよかった。授業の中で取り上げなくとも，子どもが詩を書く時などに自分で読み，感性を育てる元となるはずである。

・授業の終わりに，「もっと詩を作りたい人は？」と子どもに問い掛けた際，多くの子ども

が意欲的な姿勢を見せていた。詩について学び，詩を自作する本単元のねらいが，達成されていた。

４　考察

本時では,「友達の書いた詩を読み合い，友達の詩の表現のよさを見つけること」そして本単元のまとめの授業として「詩を創作する意欲を高めること」をねらいとした。

友達の詩のよいところやおもしろいところを見つける活動において，まず個人で考えるために「様子を表す言葉」に赤線を引かせたが,「様子を表す言葉」が分かっていない児童もおり，知識としてしっかり押さえておくべきだった。また，グループで交流する際，１人の詩について話し合う時間を２分と限定したため，活発な交流を促すことができなかった。グループトークでは，児童の主体性に任せることが大切であることを痛感した。さらに，「聴く」側の児童に聴きながら感想を書かせたが，無理があった。２年生という発達段階に合った学習活動を仕組むべきであった。また，全体交流で，児童が見つけた作品のおもしろいところを紹介する時間が少なかった。児童がより多くの作品に出会い，そのよさに気付き，相手に伝えることができるように，作品を交流するための手だてを構築していきたい。ただ，ほとんどの児童が，自分の創った詩を認めてもらい，褒められる喜びを体感したことは，今後の創作意欲に繋がったと感じる。

成果と課題

（１）成果

学習ノートは，毎時間のめあてとともに，それに近づくための手立てや自己評価を書く学習カードや振り返りカードを１冊にまとめることで,児童自ら学習の軌跡を把握することができ，見通しをもって学習に取り組むことができた。また,「今日の詩」は，２年生のものの見方に応じた作品を選んだため，児童に詩のおもしろさを味わわせたり，多様な表現方法に気付かせたりすることができた。

「様子を表す言葉」については，毎時間のように目（見たこと），耳（音），鼻（におい），手（さわって），舌（味）をフラッシュカードを用いて説明していたため，２年生なりに理解することができていた。また，マッピングなどの学習活動を通して，ものを観察するには，多面的にものを見つめ，イメージを広げることが大切であることに気付かせることができた。単元を通して，詩を味わう楽しさや詩を創作する喜びをほとんどの児童が味わうことができ，詩に親しむ気持ちが高まったように感じる。

（２）課題

本単元では，様子を表す言葉を用いてリズムを整えながら詩を書く力をつけることが目標であった。実践を通して，詩を読んだり書いたりする楽しさやおもしろさを経験し，子どもたちの詩の学習は，次への意欲につながるものになった。しかしながら，本単元では題材について様子をあらわす言葉を見つけ，それを詩作りに活用することが学習の流れの１つである。そこでの子どもたちの様子を見ていると,やはり語彙が少ないことがうかがえた。本単元を通して，語彙の広がりをもたせることをねらいの１つとして設定していたが，今後も課題として改善の手立てを講じ続けなければならないだろう。

まずは，形容詞や形容動詞，副詞，擬音語・擬態語など，様子を表す言葉にはどんなものがあるのか，低学年という段階を考慮しながら，その段階に合った理解を深めるべきであった。また，子どもたちが混同していた名詞との違いを明確に説明し，様子をあらわす言葉を考えて書く活動にぶれが生じないように留意すべきであった。そうすることで，友達のマッピングや詩を読む際に，様子を表す言葉に正しく着眼することができ，子どもたちの語彙に広がりをもたせるというねらいに近づくことが出来たと考える。

おわりに

単元を終えたときに，子どもたちが「もっと，詩を作りたい。」「詩を作ることは，楽しいね。」と口々に言っていた。詩のおもしろさを味わい，詩を創作する楽しさに気付いた子どもたちの姿がそこ　にあった。私たちも単元見通し学習を進め何度も話し合い検証していく中で，めざす子ども像に迫っていく子どもたちの学びの姿勢を見，手ごたえを感じ取ることができた。教師として，うれしい限りである。また，今回授業研究を行ってみて，成果とともに課題も見えてきた。また，学習が進み，子どもたちが成長したからこそ，新たな課題も見つかった。それらを精査し，子どもたちがさらに成長するように，研鑽を積んでいきたいと思う。

第３学年　実践報告

自分の考えをもち，仲間に分かりやすく伝えようとする子を目指して

はじめに

３年生の子どもたちは小学校生活に慣れ，毎日元気よくのびのびと生活している。友達と遊ぶことが大好きであるが，その反面，友達と関わり合う中で自分の気持ちを十分に伝えられなかったり，相手の気持ちが理解できなかったりして，うまく意志の疎通が図れずトラブルに発展することも多い。また，話し合いでは自分の考えがまとまらなかったり，人の意見に左右されたりして，話し合いが深まらないこともある。

今回の国語「ちいちゃんのかげおくり」では，場面ごとの情景や主人公であるちいちゃんの心境が大きく変化していく様子を正確に読み取り，主人公の気持ちを考えることが大切である。さらに，その考えを言語化し，より多くの子と意見交換をすることで，相手に分かりやすい伝え方が身に付くのではないかと考え，以下のような手立てを実践することにした。

手 立 て

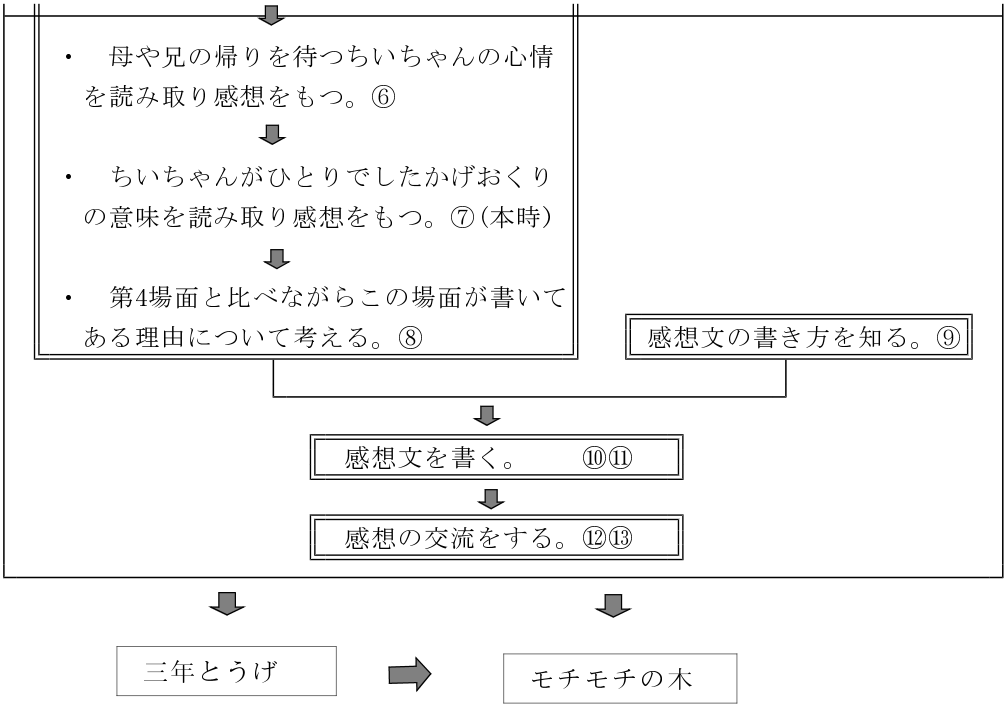
○　自分たちで考えた問題集を解くことで，自分の考えをもち，自信をもって意見発表をする。
○　自分自身の考えを，全体の場ではっきりとハンドサインなどで意思表示する。
○　多くの子が話を聞いて，質問したり，感想を伝えたりする場面を設定する。
○　みんなが自信をもって話すことができるように，グループで話し合う折の話型を示す。

単元の構想（13時間完了）

□…本単元　□…系統的に関わる単元　□…学習内容　○…時数

きつつきの商売 ➡ 海をかっとばせ

- 物語を読んで場面分けをし，各自課題を作る。①
- 言葉の意味を調べたり，課題の問題を各自で考える。②
- ２つのかげおくりを比べ，場面ごとの課題を話し合う。③
- 家族みんなでかげおくりをする様子や心情を読み取り感想をもつ。④
- ひとりぼっちになっていくちいちゃんの心情を読み取り感想をもつ。⑤



単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	場面の移り変わりや情景を想像しながら読み，進んで人物の気持ちを発表する。
話す・聞く能力	聞き手に分かるように自分の考えを話したり，自分の意見との相違を考えながら聞いたりしている。
書く能力	読み取った内容について，自分の思いや考えを書いている。
読む能力	叙述に即して，場面の移り変わりや情景，登場人物の気持ちを想像しながら読んでいる。
言語についての知識・理解	文章中に使われている難語句の意味や表現の工夫を理解し，語彙を増やそうとしている。

実践Ⅰ　国語　「ちいちゃんのかげおくり」（３／１３）

後藤　眞之介

１　本授業への思い

本単元「ちいちゃんのかげおくり」は，戦争時の様子を，ちいちゃんを主人公として描いた物語である。子どもたちは，もちろん経験しておらず，その親はもちろん祖父母もまた実際には経験していない方々がほとんどである。よって戦争について話を聞いたことがある子も少なく，戦争とはどういったものなのか，ただ「悲しい」「ひどい」「殺される」といった簡単な思いをもっている子がほとんどである。そのため少しでも，戦争とはどういったものなのかイメージをもつために，映画「ホタルの墓」を観た。その映画から，自分たちとかわらない小さな子どもが，目を覆いたくなるような悲しい出来事の末，親を亡くし，必死に生きようとする姿を目の当たりにした。最後にその映画の主人公である二人

の兄弟は命を落としてしまう。子どもたちの中には涙ぐむ子もおり，戦争とはどのようなものなのか，少しはイメージできたのではないだろうか。

今回の授業のポイントは,「ちいちゃんのかげおくり」の二つの場面を簡単に比べることと，これから物語を読み進めていく上で重要な学習課題を場面ごとに選ぶことである。学習課題というのは，あらかじめ子どもたち自身が物語を読んで考えたものである。例えば,「ぼうくうごうとは何でしょう。」といった言葉の意味を問うものや,「このときちいちゃんは何をしたでしょう。」と主人公の行動を問うもの，また「このときのちいちゃんの気持ちは。」といったように物語から気持ちを想像する問いなどである。

二つの場面を比べる際には，視覚的に分かりやすいように大きな掲示を用意する。主人公を取り巻く環境の変化を短い言葉で対比してまとめた表である。そして，その言葉を穴埋にすることで，子どもたちが環境の変化を理解しやすくなるのではないかと考えた。さらに，環境が変化したことによって，何が起こったかを詳しく読み取るために学習課題を子どもたち自身に考えさせた。子どもたちが考えた学習課題は冊子にして，みんなで解き合うことで，意欲的に取り組めるのではないかと考えた。

２　実際の授業

（１）　単元への思い

子どもに身につけてほしい力や態度（子どものすがたをとらえて）	
○　場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読む力。 ○　物語の内容を読み取り，場面をまとめたり，文を引用したりして感想を書く力。 ○　話題に沿って自分の考えをもち，友達に分かりやすく伝えようとする態度。 ○　仲間とともに課題に取り組み，意見を出し合って解決しようとする態度。	
単元目標	○　場面の移り変わりに注意しながら読み，人物の行動，情景，会話などの表現に着目して読むことができる。 ○　細かい点に注意しながら読み，場面をまとめたり，文を引用したりして感　想を書くことができる。
手だて	１　自分たちで問題を作ることによって自主的に学習に取り組み，物語を深く読み取ることができるようにする。 ２　ワークシートを活用し，場面ごとに読み取ったことをまとめ，心に感じたことを書くことによって最後の感想文に生かすようにする。 ３　自分の考えを友達に分かりやすく伝えるために，話し方の話型を示したり，意見が伝わりやすいように座席を工夫したりする。 ４　自信をもって意見が発表できるように，ペアやグループでの話し合いを随時取り入れる。

（２） 本時の学習

１）目標

・ 二つのかげおくりの共通点や違いを見つけることができる。（読む能力）

・ 自分の考えを進んで発表したり，友達の考えを聞いたりして，グループで協力して課題を見つけることができる。（話す・聞く能力，意欲・関心・態度）

２）準備

教 師・・・ワークシート，掲示用シート，挿絵

児 童・・・振り返りカード，課題集

３）学習過程

学習形態：個ー個別 ペーペア グーグループ 斉ー一斉

段階	学習活動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 3	1 前時までの学習を想起する。 斉 2 めあてを知る。 斉 ちいちゃんの気持ちを読み取るための課題を見つけよう	○ 課題集を見て，前時の学習内容を思い浮かべるようにする。 ○ 皆の考えた学習課題の中から大切なものを見つけることを伝える。	
とりくむ 37	3 二つのかげおくりを比べる。 ① 第一場面をペアで音読する。 ペ ② 二つのかげおくりに共通する言葉を確認する。 斉 ③ 異なるところを探す。 斉 4 二つのかげおくりの間に起こった出来事や，ちいちゃんの気持ちを知るため，どのような課題が大切なのか考える。 ① 課題見つけのポイントを知る。 斉 ・ 登場人物の気持ちを考えるような課題	○ 第一場面と第四場面に出てくるかげおくりを比べることを伝える。 ○ 第一場面の言葉を意識し，情景を思い浮かべながら音読するよう伝える。 ○ 掲示用シートを用いて，分かりやすいようにする。 ○ 共通する言葉の前後に注目するよう伝える。 ○ どのような課題を選ぶと良いのかポイントを提示することで，後のグループ活動のヒントになるようにする。	○ ふたつのかげおくりの相違点を見つけることができたか。（発表）

	・　場面の様子が分かる課題 ・　友達の思いを知りたい課題 ②　第一場面で大切な課題を考える。 斉 5　グループで第二～五場面の大切な課題を見つける。 グ ［伝え合う力］	○　課題見つけのポイントを参考に，第一場面で大切な課題を皆で考えることで，より具体的な見本を提示する。 ○　司会などの役割を確認し，自分の考えを言う時は，理由もつけて言えると良いことを伝える。 ○　見つけた課題をより良いものにするために，言葉を変えたり，付け加えたりしてもよいことを伝える。 ○　グループで協力し，良い課題を見つけることができた班とその課題を紹介する。	○　大切な課題が分かり，見つけることができたか。 （活動の様子） ○　自分の考えを友達にはっきりと伝えることができたか。 （活動の様子）
まとめる 5	6　本時のまとめと振り返りをする。 斉	○　振り返りカードに記入するよう指示する。 ○　次回から，見つけた課題を皆で考えていくことを伝え，意欲がもてるようにする。	

4）評価

・　課題見つけのポイントを理解し，大切な課題をグループでの話し合いによって見つけることができたか。

・　自分の考えを友達に分かりやすく伝えたり，友達の考えをしっかり聞くことができたか。

3　研究協議

（1）反省

・音読のめあてとなるポイントを示すことで，子どもは積極的に取り組めた。

・二つのかげおくりを比べるところでは，音読がいき，スムーズに進めることができたが，課題選びのポイントの幅が広くあいまいだったために，子どもが困惑してしまった。

・グループでの話し合いの前に個で考える時間を取っていなかったため，子どもは，自分の考えをもたないまま話し合いに参加することになった。そのため，友達の考えを聞くだけになった児童がいた。

・授業展開の中に二つの大きな活動を入れたために，時間が足りず，また二つの活動のつなぎ方が難しかった。

（２） 協議内容

・課題集は，すべてのクラスで作成しており，本時までに各自で解いている。
・各クラスによって課題集の内容に差はあるが，本文に即して課題を作成している事と，教師側がある程度の観点を共有して選んでいるため，大きな差異はない。
・課題集を作る際に，一問一答のような簡単な課題はあらかじめ省いてある。また，簡単に答えられるものは比重を少なくしてある。
・二つのかげおくりを比べる学習は，違いを確かめ，その相違がなぜ起きてしまったのか読み解いていこうという意味で行った。
・課題選びのポイントについては他の人の意見を聞いてみたいことを重視した。しかし，三つのポイントがそれぞれ抽象的でぼやけており，子どもに伝わりにくいように感じられた。
・ポイントをあまり絞ってしまうと，逆に読みの幅を狭めてしまう可能性もある。
・登場人物の気持ちを考えることがめあてなので，一番大切な気持ちを選ぶようにすると良いのではないか。また，情景を読み取ることも重要なポイントなので，「気持ち」と「場面の様子」の二点に絞ると分かりやすい。
・課題選びを行った際に，グループによってばらけたが，どれも不正解というわけではなく，ちいちゃんの気持ちに迫るには重要な課題であることは間違いない。課題をどれか一つに絞ってしまう必要はないので，二～三個の課題を候補にすると良いのではないかと思う。
・課題選びの学習活動が子どもたちにとってはレベルが高く，思った以上に手間取ったことで時間の余裕がなくなってしまった。もっと子どもがじっくり考え，伝え合う場面が必要ではないか。
・伝え合う力を育てるためには，意見交流をして自分の考えを伝えたり深めたりする学習を設定したい。
・第一場面の課題選びを例として全員で行い，第二場面から第五場面までの課題選びを一斉に行ったが，時間配分から見ると，本時は第二場面にとどめ，第三場面からは，その時間ごとに前時に行っていくほうが良いのではないかと思う。
・課題についての話し合いや感想を書く時間を取る必要があるため，本時に一斉に課題決めを行う必要があった。随時課題選びを行っていくと，毎時課題選びに時間を取られなければいけないため，難しい面もある。
・課題選びも回を重ねるごとに，早く良い課題を見つけられるようになった。
・一斉に選んでしまって後でまた選びなおす必要があるなら，やはり場面ごとに毎回選んでいくようにするほうが結局はスムーズにいくのではないかと思う。
・課題選びに時間がかかるため，振り返りの時間の確保が難しい。
・子どもはとても一生懸命課題集に取り組み書き込んでおり，どの子もすべての課題の答えを書いてあったことがすばらしかった。

４　考察

二つの場面でそれぞれ描かれている「かげおくり」を比べることは，日ごろから宿題で毎日音読をしていることから，とてもスムーズに進めることができた。授業の中で行う音読では，情景を思い浮かべながら読むことを伝えるとともに，四つの点に注意している。それは，「１．向かい合って」「２．両手で持って」「３．背筋を伸ばして」「４．相手に声を届けよう」

である。ペアで音読をする際には，１～４を皆で復唱して音読を開始している。ダラダラとただ声を出すだけではなく，ポイントを示すことで子どもは目的をはっきりもち，音読に生き生きと，さらに楽しく取り組むことができた。さらにペアで行うことにより，一人ではなく皆で学ぶという意識をもてたのではないだろうか。そして，二つの「かげおくり」を対比するために作成した大きな表も効果的であった。言葉をところどころ隠し，それを確認しながらはがしていくという方法をとり，子どもたちは視覚的に捉えることができ，より違いを意識することができたのではないだろうか。

次に今回の授業でのポイントとなる，場面ごとに大切な学習課題を見つけるということについては，のはなかなか思うようにはいかなかった。学習課題は，子どもたち自身が物語を読んで，疑問に思ったことや学級の皆で考えたいことを課題として作ったものである。少なくとも一つの場面につき一人一つは学習課題を考え，ほとんどが二つ三つと多くの学習課題を考えた。自分が作ったもの，あるいは友達が作ったものということもあり，学習課題を解くということに関しては，どの児童も意欲的に取り組んでいた。しかし，その数多くの学習課題の中から重要なものを自分たちで見つけるというのは，子どもにとって，とても難しいものとなった。重要な学習課題を見つけるポイントとして，三つを提示した。〔１．登場人物の気持ちを考えるような課題〕〔２．場面の様子が分かる課題〕〔３．友だちの思いを知りたい課題〕である。このポイントのどれもがぼんやりとしており，さらに，ほとんどの学習課題が三つのうちのどれかには当てはまるため，どれを重要な課題として良いのか困惑した様子だった。欲ばらずにポイントを絞ることで，重要な課題を選ぶヒントとなるようにすべきであったと感じた。

今回の学習で行ったように，自分で学習課題を考え，それを皆で共有して解き，交流するいうのは，いろいろな視点で物語を見，考えを深めていくという点で，とても大切なことである。また多くの学習課題の中から重要な課題を見つけるということも，どのようなことが物語を読み進めていく上で大切になってくるのかを把握するためには，必要なことである。引き続きこのような学習方法を続けていくことが，大切であると考える。

実践Ⅱ　国語　「ちいちゃんのかげおくり」　本時４／１３

馬場　洋子

１　本授業への思い

物語を読み，簡単な設問に答えることはできても，登場人物の心情に迫るような問いにはなかなか答えることができない児童は多い。しかし，だからと言って読み取りの力に乏しいわけではない。自分が感じたことをうまく表現できない場合や，読み取り，と言われると身構えてしまう場合が多いように感じられる。そこで，今回は自分たちが考えた課題集を作るという試みを実践した。自分で課題設定をし，事前に解いておくことで，自分の考えをもって授業に参加できると考えた。

さらに，本授業では第二場面の本文を掲示した。情景の分かるところへ線を引く学習では，本文掲示にも線を引きながら読み取っていくことで，全体で共通理解ができるようにした。さらに，その後の読み取りの場面でも，本文を基に読み取りを進めた。自分の考えを話し合うだ

けでなく，文章から読み取る力が育つよう，指導を行った。

２　実際の授業

（１）目標

・情景の分かる文に着目して場面の様子を読み取り，ちいちゃんの気持ちを考えることができる。（読む能力）

・ 自分の意見と友達の意見の相違を意識しながら話したり聞いたりすることができる。（話す・聞く能力，関心・意欲・態度）

・第二場面で心に残ったことを，話し合いをもとにして感想を書くことができる。（書く能力）

（２）準備

教師・・・掲示資料，ワークシート

児童・・・ワークシート，課題問題集プリント

（３）学習過程

□・・・本時の目標　　学習形態：個ー個別　ペーペア　グーグループ　全ー全体交流　斉ー一斉

段階 分	学習活動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5	1　前時までの学習を振り返る。斉 2　本時の学習課題と１時間の流れをつかむ。斉 くうしゅうのなかで，ちいちゃんにおこるできごとを読み取り，ちいちゃんの気持ちを考えよう。	○　第一場面までの，ちいちゃんに起こった出来事を振り返るように促す。 ○　空襲のなかで，ちいちゃんに何が起きたのか読み取っていくことを伝える。	
とりく	3　第二場面を音読する。ペ 4　場面の様子が伝わってくるところに線を引く。個→ペ→斉 5　お母さんを呼ぶちいちゃんの気持ちを考える。	○　戦争のなかで，ちいちゃんはどのような気持ちで逃げていったのか想像しながら読むように伝える。 ○　空襲の恐ろしい様子や怖いところが分かるところに着目させる。 ○　お母さんとはぐれたときの「お母ちゃん」と，お母さん	○　情景の分かる所に線を引くことができたか。（書き込み） ○　２つの「お母ちゃん」の，ち

む 35	〔伝え合う力〕 個→ペ→全 6　第二場面の課題について話し合う。　個→全	を見つけたときの「お母ちゃん」を音読し，ちいちゃんの気持ちの違いを考えるようにする。 ○　それぞれの気持ちの違いをワークシートに書き込ませ，全員が自分の考えを持てるようにする。 ○　児童の考えた課題について触れながら，第二場面でのちいちゃんの気持ちを考える。	いちゃんの気持ちの違いを読み取ることができたか。 （ワークシート） ○　友達の意見と比べながら，自分の考えを伝えることができたか。　（発表）
まとめる 5	7　ワークシートにちいちゃんの気持ちをまとめ，第二場面を読んだ感想を書く。 個	○　ちいちゃんが空襲のなかで失っていったものや，みんなの話し合いのなかで心に残ったことについて感想を書くよう促す。	○　本時の学習を振り返り，感想を持つことができたか。 （ワークシート）

（４）評価

・本文の叙述をもとに，ちいちゃんに起きた出来事やちいちゃんの気持ちを読み取ることができたか。
・自分の考えを友達に分かりやすく伝えたり，自分の意見と友達の意見を比べながら聞くことができたか。
・話し合ったことや読み取ったことをもとに，自分の感想をまとめることができたか。

３　研究協議

（１）反省

一つ一つの活動に時間をかけ過ぎてしまい，時間配分がうまくいかなかったので，グループの話し合いがもてなかった。また，感想を書くための時間をしっかり確保することができなかった。

（２）協議内容

・子どもの課題の中に，おじさんに関するものが多かったため，課題として取り上げたが，その必要はなかったのではないか。
・ 教師がしゃべりすぎのように感じられた。一つ一つまとめるのではなく，ある程度発言をつなげてからまとめると良い。
・一人一人を認めながら，意欲をもたせて授業を進めていた。
・情景を丁寧に押さえた分，授業の盛り上がりに欠けた。
・相互指名はあまり慣れておらず，時間がかかってしまう。

・４月から，たくさん書くよう指導を続けているので，課題集への書き込みも多かった
・子どもの意見を多く拾い，学び合いの場をつくることができた。
・課題集を確認することにより，いろいろな考えが出ていた。
・本文をもとに例を挙げながら説明することで，児童がイメージしやすかった。
・意見に対する付け加えはできたが，意見の練り上げはできていなかった。
・発表が苦手な子どもでも意思表示できるような，意見発表の仕方があると良かった。
・多くの児童が発言できる場づくりを心がけたい。参加度を上げる取り組みが必要である。
・「お母ちゃん」を実際に音読させたのは良かった。
・子どもは粘り強く学習に取り組んでいた。
・課題集を自分たちでつくったことで，意欲的に取り組むことができた。
・教師の問いかけや指示に対する子どもの反応が良かった。
・発表に間を持って，考えさせる問いかけをしたり，考えを深めるため，間違った意見を出させたりしても良い。

４　考察

今回の授業では，事前に課題集をしっかりと解いてあったため，意見交換も活発に行うことができた。しかし，教師が前面に出すぎたために，児童主体の学び合いの場面に乏しく，十分に考えを深めることができなかった。グループでの話し合いを多く行うことで，自分の意見をより良いものにしていきたい。また，課題集に関しては，事前に一通り個人で読み取りをしておくことで，自分の意見をスムーズに伝えることができたと思う。どの子も，課題集にはびっしりと書き込みがしてあった。その様子を見て，読み取りの力が乏しいわけではないことを再度実感した。また，課題集を設定して事前に解くことの良さとして，全体交流の場面で子どもの意見を把握しておける，ということが挙げられる。今回は，授業の前に個々の課題集から子どもの意見を拾い上げておき，授業のなかで意識的に取り上げた。良い意見があっても，埋もれてしまうことは少なくない。その点，事前に意見を把握できる課題集は有効であると考える。また，良い意見として取り上げ，賞賛することで子どもも自信をもつことができる。課題集という取り組みは成功したが，意見を深めるという点では課題が残った。今回の授業では，自分の意見をもつことができていても，他の友達の意見などを書き足す子どもは少なかった。学び合いという観点で見ると，友達の意見を受けて自分の考えを深めることができていなかったように感じられる。今後は，グループでの話し合いや全体交流の場面での指導を充実させていきたい。

グループでの話し合いでは，友達の意見を書き足す学習を入れたり，ワークシートに「友達の考え」の欄を作ったりすることで，意見を取り入れることができるようにしたい。さらに，全体交流でも，友達の意見にハンドサインで反応することや，発表の際に「〇〇さんに付けたしで」などの発表の仕方を身につけることで，常に他の人の意見を意識できるよう指導を行っていきたい。そして，子どもが，より広い視点をもって読み取りが出来るよう，今後も指導していきたいと考える。

実践Ⅲ　第７時

恒川　九射美

１　本授業への思い

本学級の子どもたちは活発な子が多く，じっくりと文章を読むことが苦手な児童が多い。文章は読めるが語彙が少なく，その意味するところをしっかりと理解できていないこともよくある。そんな子どもたちに，少しでも興味をもって物語文に向かい合ってもらいたいと思い，文章の意味を考えるための課題集作りを考えた。「自分で疑問に思うところ」「友達の考えを聞いてみたいところ」などを問題として学級の皆で考え合う。そうすることで，読み取りの学習に意欲的に取り組み，文章に書かれている内容を深く考え，作品の主題に迫る読みを味わうことができると考えた。また，課題を読み取るための意見交換で，友達に分かりやすく伝える話し方や友達の意見と自分の意見との違いを意識する聞き方を身に付ける学習の場になると考えた。本時は「ちいちゃんのかげおくり」の第四場面で，物語のクライマックスである。第一場面で「家族みんなで行ったかげおくり」とこの場面の「ちいちゃん一人で行うかげおくり」を比べ，ちいちゃんが天国に旅立ったことを文章から読み取ることが鍵となる。そのために，場面の違いをつかみやすくする掲示資料を用意した。また，児童の課題集からもポイントとなる課題を２，３絞って話し合うことにした。特に，「ちいちゃんがきらきらわらいだした」という表現をキーワードとして，ちいちゃんの気持ちに迫らせたいと考えた。

２　実際の授業

（１）目標

・記述の違いに着目して物語の場面の様子を読み取り，ちいちゃんの気持ちを考えることができる。（読む能力）

・自分の考えを発表したり，友達の意見との違いを意識して聞いたりすることができる。
（話す能力・聞く能力，関心・意欲・態度）

・ 第４場面で心に残ったことを簡単な感想に書くことができる。（書く能力）

（２）準備

教師・・・掲示資料，ワークシート、児童・・・課題問題集プリント

（３）学習過程

□・・・本時の目標

学習形態：個－個別　ペ－ペア　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階 分	学　習　活　動	教　師　の　活　動　と　支　援	評価（評価方法）
つ	１　第三場面でのちいちゃんの様子を確認する。　斉 ・ひとりぼっち ・暗いぼうくごうで眠った ・朝が来て，昼がすぎ，ま	○ひとりぼっちで，壊れかかった暗い防空壕で眠る心細いちいちゃんの気持ちを児童の発言からまとめ，みんなで共有できる ○　第三場面の様子を表す挿絵を	○今までのちいちゃんの様子を想起するか。

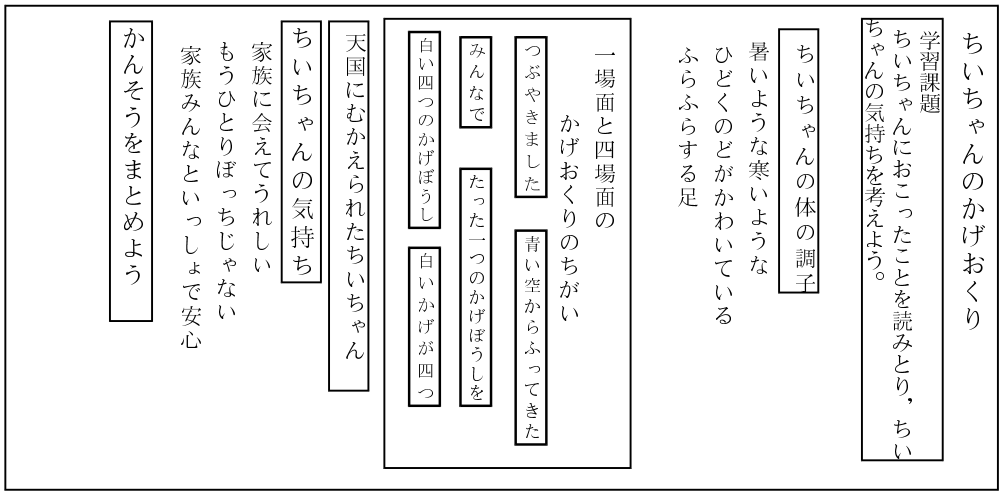
か む 5	た，暗い夜が来た。 2　本時の学習課題を知る。 斉	参考に提示する。 ○　本時の課題をワークシートで確認し，各自の読み取ったことを発表できるように意欲づけをする。	（発表の様子）
	ちいちゃんにおこったことについて読みとり，ちいちゃんの気持ちを考えよう。		
と り く	3　第四場面を音読し，学習場面の情景を思い浮かべる。 グ 4　第四場面の課題について話し合いをする。 (1)ちいちゃんの様子について分かる記述を発表する。 斉 ・暑いような寒いような気がした。 ・ひどくのどがかわいている。 ・ふらふらする足をふみしめて立ち上がると (2)ちいちゃんが行ったかげおくりについて，家族みんなと行ったかげおくりと比べながら分かったことや考えたことを発表する。 斉→ グ→ 全 ・声が青い空からふってきた。 →天国からかな。 ・たった一つのかげぼうしを見つめながら →ひとりぼっち ・青い空に，くっきりと白いかげが四つ。 →家族みんないる ・体がすうっとすきとおっ	○グループで役割分担することで，会話文が誰の発言であるのかを確認し，この後の話し合いに生かせるようにする。 ○児童の課題に触れながら，学習課題につながるように話し合いを進める。 ○ちいちゃんのからだの調子を示している言葉から，ちいちゃんの体調の悪さに気付けるようにする。 ○　前の日に食べたほしいいの量のことも思い出すように助言する。 ○第一場面と第四場面のかげおくりについて比べた資料を掲示し，違いを見つけやすいようにする。 ○かげおくりの場面で第一場面と違っている記述のところを探して，その言葉の意味を考え，発表するように促す。 ○　発表に戸惑うようであれば，グループで話し合う時間を設定する。 ○第一場面の「つぶやきました」「言いました」と第四場面の「空からふってきた」という表現の違いに着目させる。 ○「白いかげが四つ」とか「空に	○ちいちゃんの具合が悪くなっていることが分かったか。 （発表の様子） ○記述の違う言葉に気付いたか。 （発表の様子） ○ちいちゃんが

む	て，空にすいこまれていくのが分かった。 →ちいちゃんも天国にいくのかな。 〔伝え合う力〕	すいこまれていく」という表現に気付かせ，ちいちゃんの状況を考えるようにする。 ○みんなの意見をまとめることにより，ちいちゃんが天国の家族と会えたことが理解できるようにする。	天国に召されたことが分かったか。 （話し合いの様子）
33	（３）家族と出会えたちいちゃんの気持ちを考え，話し合う。 全 ・空色の花ばたけの中に立っていた。 ・きらきらわらいだした。 ・わらいながら，走りだした。 〈ちいちゃんの気持ち〉 ・家族に会えてうれしい。 ・もうひとりぼっちじゃない。 〔伝え合う力〕	○ちいちゃんの様子を表す叙述の意味を考えながら，ちいちゃんの気持ちを想像する。 ○「ちいちゃんがきらきらわらいだした」という表現から，家族と会えたときのちいちゃんの気持ちを考える手がかりとする。 ○最後の「小さな女の子の命が消えた」という表現から，戦争の残酷さにも気付かせたい。	○ちいちゃんの気持ちを考え，進んで発表したか。 （発表の様子）
まとめる 7	５　ワークシートにちいちゃんの気持ちをまとめ，第四場面の感想を書く。 個→斉	○皆で話し合ったことを基に自分の考えを書き，その後いちばん心に残ったことを感想に書くように指示する。 ○代表児童の感想を全体に紹介する。	○読み取ったことを基に感想を書くことができたか。 （ワークシート）

（４）評価

- ２つのかげおくりの叙述の違いからちいちゃんが天国の家族と会えたことを読み取り，ちいちゃんの気持ちを考えることができたか。
- 友達に分かるように自分の考えを発表したり，友達の意見に付け足したりして，話し合いに参加することができたか。
- 話し合ったことを基に考えを深め，自分の感想をまとめることができたか。

（５） 板書計画



３　研究協議

（１）反省

・一人かげおくりをするちいちゃんが，天国に旅立つ場面の話し合いをグループで行うように指示したが，指示が不十分だったため，グループでの意見交流を効果的に行えなかった。
・ちいちゃんの死を読み取らせるための叙述を教師側が焦点化して考えさせた方が分かりやすかった。
・自作課題集によい意見を書いていた児童がいたのだが，この場面でうまく生かすことができなかった。
・「きらきらわらいだした」ときのちいちゃんの安心した気持ちは読み取れていたが，そのちいちゃんの失われた命について考えさせるところまで深く読み進められなかったのが残念だった。

（２）協議内容

１） テーマ別意見交換（小グループ）

ア．課題問題集は，一人一人が場面の内容を読み深める手立てとなっていたか。
・単元学習の最初の頃に記入しているので，何を書いたか覚えていない子もいた。課題問題集を振り返る時間が必要であった。
・課題問題集に◎が付けられているのに，自信のなさからか発言できず残念である。
・発言するための手立てとして課題問題集をもっと活用してもよかった。
・友達の意見を書き込めるようなワークシートを作成してもよい。
・課題問題集は一人読みの手立てであり，読み深めていくものとしては有効ではないと思われる。

イ．友達の意見と比べながら，自分の意見を発表することができたか。
・ハンドサインを活用しながら，３年生なりに意見の整理をしていた。
・発達段階に応じた話型を示し，練習していくことも必要である。
・聞いたことに対してどう反応するかが大切である。

・発表し合うのではなく，話し合いにしていきたい。
ウ．学習したことを生かして感想を書くことができたか。
・挙手した児童に発表させるのではなく，机間指導で戦争の悲惨さについて感想をまとめている児童を見つけ，意図的に指名し，発表させるとよかった。
・もっと多くの子どもの感想を交流させたかった。
エ．めあてに迫るための教師の手立て（掲示資料・発問・助言など）は，有効であったか。
・かげおくりを対比させる模造紙は効果的であった。
・手描きの挿絵は子どものイメージ化を図ることができた。
・学習の流れの提示の仕方が適切であった。
・「ちいちゃんは本当に幸せだったのか」という発問から子どもの意見をもっと引き出せるとよかった。

４　考察

この単元で作成した自作の課題問題集は，物語の細かな叙述やちいちゃんの様子に着目して気持ちを考えるという点では，子どもたちの意欲を刺激し，進んで各自考えることができた。しかし，場面の中で，さまざまな表現について個々がいろいろ考え，さまざまな感想をもつため，授業時間内で大勢の意見を交流することが難しかった。掲示資料で，一場面と四場面の違いをつかませることはできたが，さらに「ちいちゃんが天国に行ってしまった」と分かる叙述について，話し合う視点を教師側がもっと明確に示すことが必要であったかもしれない。そうすることによって，終末の話し合いや感想交流にもっと時間をかけることで，学級全体の読みを深め，読み取った内容を共有することができたと考える。

各自が意見をもって，学習に臨み発表するように声掛けをしてきたので，今まで発表しなかった児童も少しずつ発表できるようになってきた。友達の意見を聞いて，同じ考えか少し違うのかは意識して聞くようにもなりつつある。しかし，グループの話し合いでは意見を出し合うものの，内容を考えて取捨選択したり，まとめたりするところまではなかなか難しいのが現状である。これからは，話し合うべき事柄に沿って，意見を聞き合い，みんながもっている意見を整理できる力を付けるようにしていきたい。

実践Ⅳ　　国語　「ちいちゃんのかげおくり」　本時８／１３

田中　久徳

１　本授業への思い

本時の授業は，第五場面を書いた筆者の思いを読み取る時間である。第五場面は５行という短い文章であるが，時代背景が違っており，町が変化した様子やちいちゃんが失ったものを考えながら戦争によって多くのものを失ったことに気付かせたい。そのために，板書を見やすく端的な言葉や文章でまとめ，子どもが２つの時代を対比しやすいように計画した。２つの時代の違いをしっかり読み取っていれば，戦争で得られるものは何もなく，戦争を２度と起こしてはならないという筆者の思いや願いを理解することができるであろう。また，まとめの段階で筆者の人物像にも触れることにより，課題に迫っていきたい。

意見発表では，特定の子どもに偏りがちであるため，挙手して意見を発表するだけでなく，

つぶやきが言える雰囲気や教師からの投げ掛けをしていきたい。意見交換では，一方的に自分の考えを伝えるだけで，人の意見を聞いて自分の考えを深めたり，反対や賛成意見を言い合う活動ができていないため，本時ではグループでよい意見や感想を選ぶことにより意見交換ができる場面を設けたい。

２　実際の授業

（１）目標

・第一場面から第四場面の情景と違う様子を読み取り，第五場面が書いてある理由を書くことができる。（読む能力・書く能力）

・自分の意見と友達の意見の相違を意識しながら，話したり聞いたりすることができる。（話す・聞く能力，意欲・関心・態度）

（２）準備

教師・・・掲示資料，ワークシート、児童・・・課題集，振り返りカード

（３）学習過程

□・・・本時の目標　　学習形態：個－個別　　ペ－ペア　　グ－グループ　　全－全体交流　　斉－一斉

段階分	学　習　活　動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5	1　前時までの学習を振り返る。 斉 2　本時の学習課題と学習の流れを知る。 斉	○　第一場面～第四場面でちいちゃんに起こった出来事や町の様子について振り返るようにする。 ○　学習の見通しをもち，いくつかのヒントを基に，第五場面が書かれている理由について考える意欲をもつようにする。	○　今までのちいちゃんに起こった出来事や町の様子を想起することができたか。（表情）
	何十年後の町の様子を読み取り，第五場面が書いてある理由を考えよう。		
とり	3　第五場面を音読する。 ペ 4　第五場面の課題について考える。 斉 (1)　第一～第四場面でちいちゃんが失ったもの	○　何十年後の町の様子を頭に描きながら読むように伝える。 ○　児童が作った課題に触れながら，学習課題につながるように進める。 ○　第一場面～第四場面を振り返って，ちいちゃんが失った	○　何十年後の世の中がどのように変化したかが分かったか。（ワークシート・話し

く む 35	(2)　何十年後の町の様子 (3)　「きらきらわらっている」子どもの様子	ものを考えるようにする。 ○　町の様子が分かるように，短い言葉でまとめる。 ○　第四場面の「きらきらわらっている」と比較しながら，相違点を見つけるように支援する。	合いの様子)
	5　第五場面が書かれている理由を考える。 個→グ 〔伝え合う力〕	○　ワークシートに自分の考えだけでなく，考えた理由も書くように指示する。 ○　グループで役割を決め，話し合いが円滑に進むようにする。	○　友達の意見と比べながら，自分の考えを伝えることができたか。　（発表）
	6　第五場面が書かれた理由を発表する。　全 〔伝え合う力〕	○　グループの考えが一つにまとまらない場合は，２つでもよいことを伝える。 ○　他のグループの考えと似たところや違うところがないか，自分たちの考えと比べながら聞くように促す。	
まとめる 5	7　本時の学習を振り返り，まとめをする。　全	○　作者の人物像に触れる。 ○　本時の学習を振り返り，カードに記入するように支持する。	○　本時の学習を振り返えることができたか。 （ワークシート）

（４）評価

・第一場面から第四場面の情景と違う様子を読み取り，第五場面が書いてある理由を書くことができたか。

・自分の考えを友達に分かりやすく伝えたり，自分の意見と友達の意見を比べながら聞くことができたか。

３　研究協議

（１）反省

・指導案通りではなく，学習活動の４の（１）を後にして，４のまとめとした。その方が５の学習につながりしやすいと考えた。

・全体での話し合いでは教師が話し過ぎないように意識をしたが，やはり少し話しすぎたところがあったように思った。

・場面との違いを考えるところでは，まだ，読み取りの深まりが足りないと思って，繰り返

し投げ返したが，そのため，後半で時間が少々足りなくなった。後半のグループで話し合う場面でもう少し時間を取りたかった。

（２）協議内容

・教師が何度も児童に投げ返していたので，授業者の読み取りをもっと深めたいという意図が伝わってきた。
・児童のつぶやきが素直に出ていた。先生とのやり取りが気軽に行われていてよかった。
・「町の様子」について発表しているとき児童がいろいろ発言をしていたが，児童の意見に引きずられず，教科書本文に戻って，時間をかけずに終わってもよかったのではないか。
・板書が整理されていて，児童の思考を促すものであった。戦争時代と今とを比べてまとめられていたので，最後の児童の感想にも生かされていた。
・グループの感想発表のところで，ホワイトボードにまとめたものを黒板に貼って，発表したことを視覚的に残すとよかった。発表という音声言語だけでなく，目視することで理解が深まることがあると思う。
・グループの話し合いでは，それぞれの役割にそって進んで話し合いに参加して，グループの意見を早くまとめていた。しかし，グループで練り上げて一つのよい意見にまとめるのは，まだ難しい。誰の意見がよいのかを選ぶ段階である。
・なんとなく分かっているけれど，深まりがまだまだ足りないような気がする。そういうときは，全体交流することによって，他の児童のよい意見を知ることで自分の考えを深めることができる。また，よいものを示しておいて，他のものとどこが違うか見つけることも一つの方法である。
・今回，子どもが作る課題集というものに取り組んでみて，物語を児童に読み取らせる一つの方法としての手応えを感じた。課題も回数を重ねることによって，内容のあるものが出来てくるようになった。学習活動にどう生かすかは，授業者がどの課題を取り上げるか，焦点を絞ることが大切である。

４　考察

本単元では，５つの場面ごとに自分たちで課題を作り，それを解きながら場面の移り変わりや情景，主人公の気持ちを読み取ることにした。他の単元でも課題作りに取り組んでいたため，子どもたちは要点を的確に捉えた課題を考えることができた。また，自分たちで考えた課題を解くということが意欲につながり，戦争の悲惨さやちいちゃんの悲しい気持ちを真剣に読み取ろうとしていた。

本時は，第一～第四場面と第五場面の違いに気付き，第五場面が書かれた理由を考える場面である。第五場面はそれまでの場面と違い，平和で幸せな世の中の様子が描かれていたが，違いが分かる部分を抜き出して比較することによって，時代が変わったことに気付くことができた。第四場面の「ちいちゃんは，きらきら笑い出しました」と第五場面の「子どもたちが，きらきらと笑い声を上げて・・・」は，同じ『きらきら』でもその人物が置かれた状況により，気持ちには大きな違いがある。こうした部分の違いを考えながら，第五場面に込められた筆者の思いや願いに迫っていったが，事前に戦争の様子が描かれたビデオを鑑賞したり，ちいちゃんの気持ちを深く読み取ったりしたため，ほとんどの子が戦争で家族がばらばらになってしま

った悲惨さや，戦争を二度と繰り返してはならないという筆者の願いに気付くことができた。また，まとめの段階で筆者の顔写真や読者へ送った手紙を紹介したことで，物語についての感想だけでなく，筆者の人物像について感想を書いていた子もいた。

伝え合う場面では，第五場面が書かれた理由を友達の意見と比べながら，自分の考えを伝えることを目標にしていたが，自分の考えをまとめ上げることができない子がおり，話し合いが盛り上がらなかった。また，自分の考えを書けた子でも発表するのに精一杯で，人の考えを聞いて意見交換することができなかった。しかし，自分の考えを文章にまとめることが苦手な子には，時間を与えればよいかというと必ずしもそうではなく，感性を豊かにし，表現力を身に付けることも大切だと考える。この力は，短時間に身に付くものではなく，日ごろから自分の感じたものを言葉や文章に書く機会を設けることも必要である。今後も，五感で感じたものを言葉に置き換える取り組みを国語の授業だけでなく，様々な活動の中で組み込み，自分の考えを言語に表したり，人の意見に対してどう思ったかを伝えたりすることができる子を育てていきたい。

実践Ⅴ　算数　「１けたをかけるかけ算の筆算」　本時１／１４

石田　成美

１　本授業への思い

３年生は，低学年からの移行期なので，具体物を用いて実際の場面を想定させ，考えやすいようにしている。

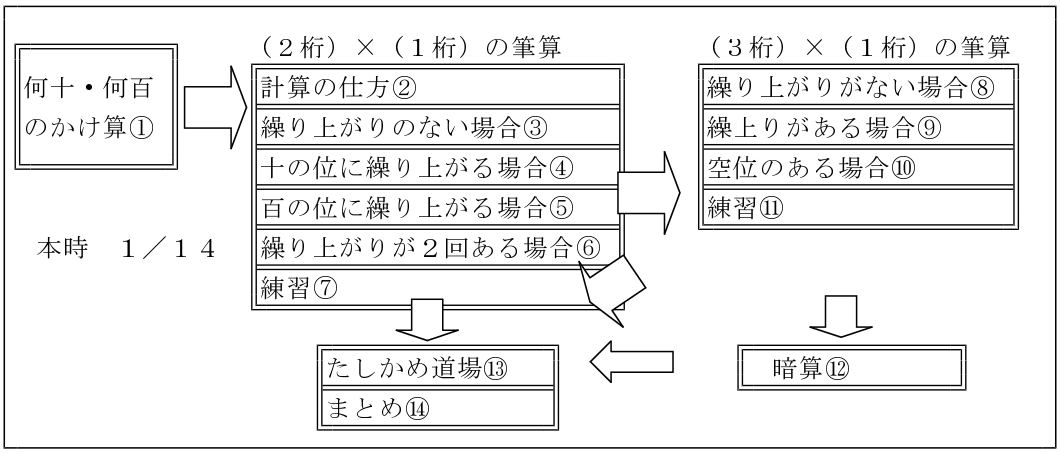
ここでは，児童が好きな食べ物を買いに行く場面設定を行い，既習事項の10×１桁，１桁×10を想起させ，10や100を単位にして考えられるように指導を進めたい。導入でフラッシュカードを用いて復習するが，問題の中に本時で学習する20×３や200×３の問題も含めるようにした。さらに，終末段階でフラッシュカードで練習をたくさん行い，習熟を図るようにした。

<table>
<tr><th colspan="2">子どもに身につけてほしい力や態度（子どものすがたをとらえて）</th></tr>
<tr><td colspan="2">○　（２，３位数）×（１位数）の計算の仕方を理解し，生活の中で筆算や暗算を活用して，正しく処理していく力。
○　進んで問題を解決しようとし，自分の考えを分かりやすく説明しようとする態度。
○　友達と進んでかかわることで，自分の考えを深め，共に高まっていこうとする態度。</td></tr>
<tr><td>単元の目標</td><td>○　（２，３位数）×（１位数）の計算方法を考え，筆算や暗算のよさに気付く。
○　（２，３位数）×（１位数）の計算の仕方を，数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることが出来る。
○　（２，３位数）×（１位数）の計算を筆算や暗算でできる。
○　（２，３位数）×（１位数）の計算の仕方が分かる。</td></tr>
<tr><td>手だて</td><td>１　単元の学習内容が分かる，「ふり返りカード」を提示することにより，見通しをもって学習することができるようにする。
２　ペア学習の場面を意図的に設定し，考えたことや分かったことを自分の言葉で進んで表現できるようにする。
３　自分で問題を作ったり，ペアで解き合ったりすることを通して，計算の仕方や考え方が正しいか確認することができるようにする。</td></tr>
</table>

２　実際の授業

（１）単元の構想（14時間完了）

□・・・学習内容　　○・・・時数



（２）本時の学習

１）目標

・（何十・何百）×（１位数）のかけ算を立式し，計算の仕方を考えることができる。
（数学的な考え方）

・（何十・何百）×（１位数）のかけ算を１０や１００を単位にして，九九を使って計算することができる。（数量についての技能）

２）準 備

教師・・・掲示用資料（チョコレートの絵，お金の模型），ふり返りカード

３）学習過程

□・・・本時の目標　　- - -・・・評価

学習形態：個－個別　ペ－ペア　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階	学　習　活　動	教　師　の　支　援　と　留　意　点	
		Ｔ１	Ｔ２
つかむ ８	１　１個10円のチョコレートを３個買う時の式と答えをノートに書く。 斉 ２　１個20円のチョコレートを３個買う時と，１袋200円のチョコレートを３袋買う時の代金を求める式を立てる。 斉 ３　本時のめあてを知る。 斉	○　十円玉を思い出し，答えの求め方を考え，10×３＝30を導く。 ○　（１つ分の値段）×（幾つ分）で（代金）を求められることを確認する。 ○　本時のめあてを板書する。	○　ノートに十円玉の絵をかいて，立式できるように促す。 ○　10×３＝30の式と同様に，立式するように促す。 ○　めあてをノートに書くように促す。
	（何十）×１けた，（何百）×１けたのかけ算を九九を使ってできるようになろう。		
	４　20×３，200×３の計算の	○　十円玉や百円玉の模型を	○　ノートに十円玉

と り く む 32	方法を理解する。 p．13　①　個→全	使って考えるように促す。 ○　10や100を単位にすれば，２×３という九九を使って計算出来る事を知らせる。	や百円玉の絵をかいて考えるように促す。
		評１　(何十)×1けた，(何百)×1けたのかけ算を九九を使って計算することができたか。(ノート)	
			○　話し合いが出来ていないペアがあれば出来るように支援する。 ○　分からない児童に10や100のかたまりで考えるように促す。
	５　３０×４，300×４の計算の方法を説明し合う。 p．14　②　個→ペ ［伝え合う力］	○　10や100の幾つ分になるのかを考えるように助言する。	
		評２　10や100を単位にして答えを求められているか。(ノート)	
	６　教科書p．14　③の問題を解く。　個→ペ	○　解き終えたらペアで確認し，合っていたらＴ１に丸付けをしてもらように指示する。 ○　教科書の問題が解けたら，プリントに進むように指示する。	
		評３　教科書の問題が解けているか。(ノート)	
まとめる ５	７　本時の学習を振り返り，ふり返りカードに記入する。	○　個別やペアで頑張った事や分かった事をカードに記入するように促す。	○　ふり返りカードが書けていない子に書くように促す。

４）評価

・(何十，何百）×（１位数）のかけ算を１０や１００を単位にして，九九を使って計算することができる。

３　反省

・今回の授業は，グループで考える時間を多くしたため，練習問題をする時間を十分に取ることができなかった。

・ホワイトボードを用いて話型を示したが，子どもはその形にこだわりすぎて，自分の言葉で説明することができなかった。
・十円玉や百円玉を用意して，何枚分かで考えられるようにしたかったが，十円玉と百円玉の使い分けができておらず，百円玉を使う場面でも十円で考えようとしていた。また，20×３＝（10×２）×３＝（２×３）×10と中学生が学ぶ結合法則まで指導してしまった。

４　考察

１けたをかけるかけ算の仕方を，十円玉や百円玉の模型を使って一斉指導を行い，グループでも模型を使って計算の仕方を考えさせたことによって，どの子も理解することができた。しかし,計算方法を言葉で説明する段階では模型を使って考えたことがうまく生かせなかった。教科書にある話型にあてはめて考えさせた方が，子どもにとっては説明しやすかったのではないかと感じた。

説明を書くことに四苦八苦しているグループが多く，全てのグループが書き終えるまで　待ってしまったため，練習問題や発展問題に取り組む時間が確保できなかった。そこで，早く説明文を書くことができたグループからホワイトボードを使って説明し，全体に広げるようにした方がよかった。また，理解の定着を図るために用意しておいたフラッシュカードも使う時間がなかったので，子どもの理解を深めることができなかったように思う。

おわりに

今回の国語「ちいちゃんのかげおくり」の実践で，国語の単元見通し学習によるメリットを実感することができた。複数の教師が知恵を出し合い，指導法や教材などを検討していく中で，普段では得られない成就感を味わうことができた。同じ指導案でも，学級の実態や指導者によって子どもの活動の様子は変わってくる。同じ学年で授業を見合う中で，うまくいった点や改善を要する点を探し，次時の学習につなげながら単元目標に近づけていくことができた。

本単元「ちいちゃんのかげおくり」では，場面ごとの情景の変化や主人公の気持ちを読み取る内容であったが，事前に自分たちで作った課題集を解くことが，子どもたちの学習意欲を刺激し，読みを深めることで，主人公の気持ちに共感することができた。そのことは，毎時間書いていた感想文からも感じ取ることができた。正確に読み取ることにより，自分の考えにも自信をもつことができ，意見交流の場でも自分の思いを素直に伝えることができた。意見交流の活動では，人の意見を聞いて自分の考えを述べることは十分できなかったが，このような活動を今後も様々な場面で取り入れることで「自分の考えをもち，仲間に分かりやすく伝えようとする子」の育成に努めたい。

第４学年　実践報告
相手の思いを受け止めながら，
互いに意見を伝え合うことができる子を目指して

はじめに

児童数の増加で，１学級増えて５学級となってのスタートとなった。進級したことに加えて，１学級あたりの人数の減少で，子どもたちは，落ち着きある生活を見せるようになった。もちろん，この年齢の子どもたちは，まだまだ元気さが目立ってトラブルや衝突も少なくない。そんな子どもたちの一人一人が新しいことに意欲的に挑戦し，実りある一年になるように，４年生全員が心を一つに活動が進められるように，「相手の思いを受け止めながら，互いに意見を伝え合うことができる子を目指して」を学年目標にして１年間の活動に取り組んだ。

本年度，学年共通の単元見通しによる授業研究に取り組み，一人一人が自分の考えを分かりやすく伝えることで，自分の考えを深めていき，共に高め合うことをねらいとした。そこで，次の研究仮説を立てた。

仮説

- 仲間とともに課題解決する場を取り入れることにより，児童は互いの考えを聴き合いながら，課題に対する自分なりの考えを深めることができるであろう。
- 実態を踏まえてＴＴを生かした支援を工夫することにより，児童はできる喜びを味わいながら，基礎基本を身に付けることができるであろう。

以上の仮説から，本単元では，言葉で説明できないときには，ワークシートや図を使用して個人思考の時間を確保し，自分の考えをもてるようにしたいと考えた。また，グループ学習の場面を意図的に設定し，友達と関わる機会を増やし，互いに高め合うようにしたいと考えた。

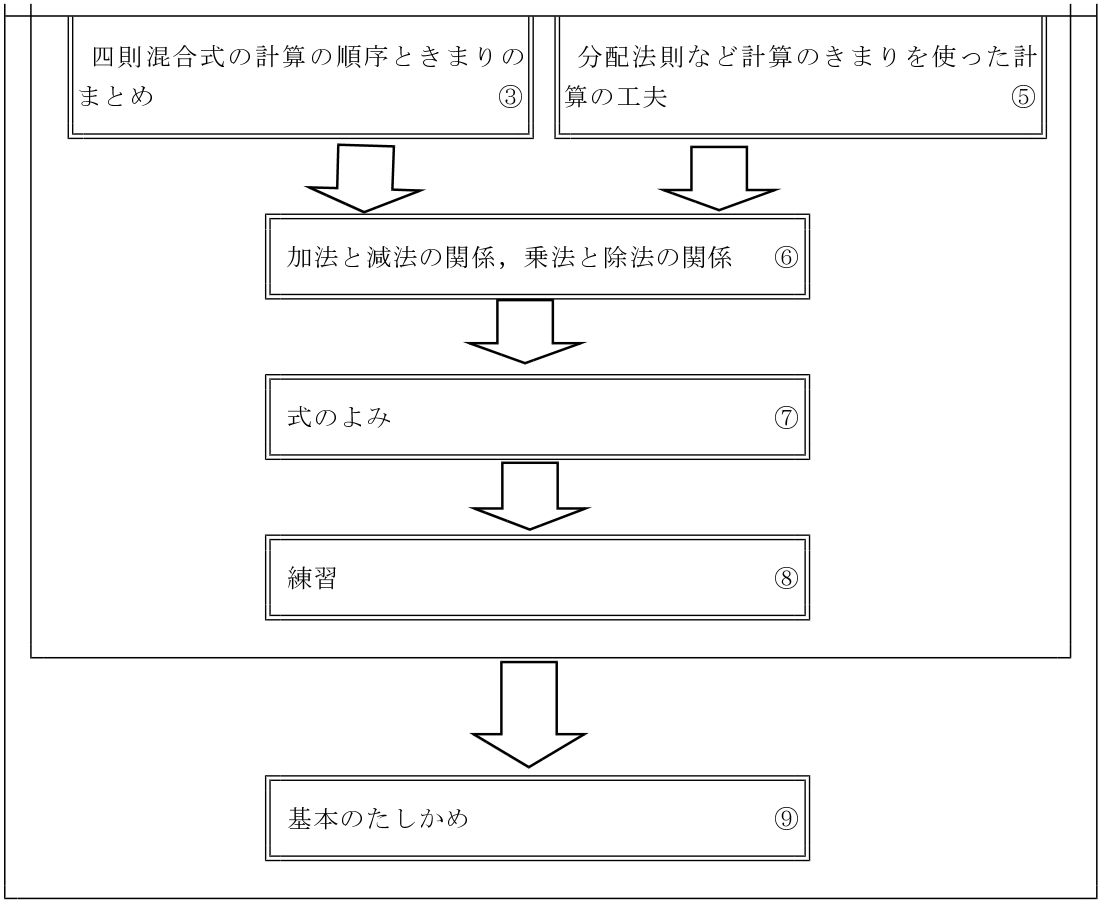
１　単元の構想（９時間完了）

□…本単元　　◻…学習内容　　○…時数

括弧を使った式づくりによる動機づけ　①
括弧を使った式

四則混合式での乗除先行について　②

分配法則を中心とした計算のきまり　④



2　単元指導計画（９時間完了）

小　単　元	時	本 時 の ね ら い	主　な　学　習　活　動
課題設定 1　式とその計算の順じょ	1	○　加減混合の式になる問題を，ことばの式をもとに，括弧を用いて一つの式に表すことができる。	1　買い物の場面を想起し，おつりの求め方について式を立て，ことばの式を考える。 2　立式を考え，どのように考えたのかをことばの式をもとに，説明し合う。 ・５００－１８０－９０＝２３０（つばさ） ・１８０＋９０＝２７０ ５００－２７０＝２３０（みらい） 課題　ことばの式をもとに，括弧を使って一つの式に表そう。 3　みらいさんの考え方を括弧を使って一つの式に表し，ことばの式をもとに，説明し合う。 ・５００－（１８０＋９０）＝２３０

			4　$\boxed{2}$ の問題を括弧を使って一つの式にして解く。 5　③の練習問題をする。
	2	○　括弧を使って式に表し，四則が混合している式の計算のきまりを知り，その計算を正しく行うことができる。	1　おつりや代金を求める計算をことばの式をもとに考える。 課題　括弧を使って一つの式に表し，計算の順じょをことばで説明しよう。 2　ことばの式をもとに括弧を使って立式し，理由を説明し合う。 ・出したお金－代金＝おつり ５００－（９０×４）＝１４０ ・筆箱のねだん＋鉛筆のねだん＝代金 ３００＋（４８０÷２）＝５４０ ・絵の具のねだん＋筆のねだん＝代金 （１２０×４）＋（１５０＋３）＝９３０ 3　乗除のきまりをまとめる。 4　⑤の練習問題をする。
	3	○　四則計算の混合している計算の順序を考えて計算し，計算の順序を説明することができる。	1　式を見て気付いたことを話し合う。 課題　計算の順じょを考え，図やことばで説明しよう。目ざせ計算名人！ 2　３つの式の計算の順序を考え，答えを求め，説明し合う。 ・１２÷２×３＝１８ ・１２÷（２×３）＝２ ・１２＋２×３＝１８ 3　計算のきまりを整理する。 4　$\boxed{7}$ の練習問題をする。 5　$\boxed{8}$・$\boxed{9}$の練習問題をする。
2　計算のきまり	4	○　具体的な場面に照らして分配のきまりを考え，加法と乗法の計算のきまりを知ることができる。	1　問題を読み，さし絵と照らし合わせて，内容をつかむ。 課題　いろいろに考えて一つの式で表し，式の意味のちがいを図を使って説明しよう。 2　いろいろに考えて立式し，どのように考えたか説明し合う。 ア　・２枚１組の代金の和 （６０＋４０）×５＝５００ ・それぞれの代金

			６０×５＋４０×５＝５００ イ　・１枚分の代金の差 （６０－４０）×５＝１００ ・それぞれの代金の差 ６０×５－４０×５＝１００ ３　■，●，▲に数をあてはめて計算のきまりが成り立つことを確かめる。 ４　たし算やかけ算の計算のきまりをまとめる。 ５　④の練習問題をする。
	５	○　計算のきまりを工夫して活用し，簡単に計算することができる。	１　[1]の計算を筆算で計算する。 [課題]　計算のきまりを使って簡単に計算する方法を考え，説明しよう。 ２　計算のきまりを使い工夫して計算し，数や式，ことばを使って説明し合う。 ・９２＋８＝１００を使って ４５＋９２＋８＝４５＋（９２＋８） ＝４５＋１００ ＝１４５ ３　[2]の問題を[1]と同じように簡単に計算する方法を考え，説明し合う。 ４　③の練習問題をする。
３　計算の間の関係	６	○　乗法と除法，加法と減法の関係をとらえて計算に利用することができる。	１　花の図を見て，題意をつかむ。 [課題]　関係図を使って，□の数はどんな計算で求められるか考え，説明しよう。 ２　ことばの式をもとに，□を使って式に表し，□の数の求め方を考え，説明し合う。 ア　１束の本数×束の数＝全部の本数 □×４＝３２ イ　１束の本数÷人数＝一人分の本数 □÷４＝６ ３　２の問題を□を使った式で表し，□の数を求める。 ４　③の練習問題をする。
４　式のよみ方	７	○　個数を求める式の形に注目し，式の表す意味を具体に即して説明する	１　黒石の数を求める。 [課題]　式の意味を友達に分かるように説明しよう。 ２　黒石と白石の全体の数を求める式がどのよ

		ことができる。	うな考え方で立てられているか考える。 ・２×６＋３×６ ・６×２＋６×３ ・（２＋３）×６ ３　おかしの数を求める式について考える。
	８	○　繰り返し練習し，学習した内容を確実に身に付けることができる。	課題　計算のきまりを活用して，問題がすらすらとけるようにしよう。 １　練習の１～５の問題に取り組み，学習したことを確認する。
５　たしかめ道場	９	○　学習内容の理解を確認することができる。	課題　学習した内容を確かめ，さらにステップアップしよう。 １　たしかめ道場の1～4の問題に取り組み，学習内容の理解を確認する。 ２　達成度に合わせて，コースを選択して問題に取り組む。 ・ジャンプコース ・ステップコース

実践Ⅰ　算数　式と計算の順じょ（本時１／９）

１　本授業への思い

算数の学力はすでに遅れのはっきりしている児童がおり，それはそのままやる気の欠如につながっている。新しいクラスになってまだ間もない６月に，１年間一緒に学ぶ仲間意識を定着させ，ペアやグループでの学び合いの学習形態を通して，クラス全体の底上げを図った。そのため，普段，少人数で行う算数の授業をＴＴの形にして，仲間と一緒に学習を進めていく上でサポートしやすいようにして，今後の学び合いにつなげていくことをねらいとした。座席についても学力の違いだけでなく，友達との関わり方の上手下手を考慮して編成した。

授業は，ＴＴの形を生かしてロールプレイを取り入れることで子どもの興味を引いて，単調で退屈にならないように配慮した。ともすれば，人に頼って自分で考えようとしない子の為に，ヒントコーナーを設置して，困った時にそこへ出向いてＴ２の教師からアドバイスをもらい，自分で考える助けとなるようにした。

このように授業を進める中で，括弧を用いた式や四則混合の式という算数にとって基礎的な計算方法をしっかり身に付けさせ，やればできるという経験をもたせることで，これからの算数の学習への意欲につなげていきたいと考えた。

２　実際の授業

（１）　単元への思い

子どもに身に付けてほしい力や態度（子どものすがたをとらえて）	
○　進んで学習に取り組み，分かったことを自分の言葉で仲間に分かりやすく説明しようとする態度。 ○　友達と進んで関わることで自分の考えを深め，共に高まっていこうとする態度。	
単元の目標	○　式の扱いに関心をもち，括弧を使って一つの式に表したり，具体に即して式をよみ取ろうとする。 ○　式の意味を考え，具体に即して式の意味を説明することができる。 ○　数量の関係を括弧を使って一つの式に表すことができる。また，括弧を用いた式や四則混合の式の計算が正しくできる。 ○　括弧を用いた式や四則混合の式の計算の順序をまとめる。
手だて	１　個人思考の時間を確保し，その考え方が生かされるように友達と関わる場面を設定する。 ２　グループ学習の場面を意図的に設定し，考えたことや分かったことを自分の言葉で説明する機会を多くする。 ３　ワークシート,図を使用して式を説明する学習が充実したものになるようにする。

（２）本時の学習

１）目標

ア　式と計算の順序の学習について関心・意欲をもつことができる。（関心・意欲）

イ　ことばの式をもとに，括弧を使って一つの式に表すことができる。（表現・処理）

２）学習過程

□…本時の目標　学習形態：個－個別　ペ－ペア　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階 分	学　習　活　動	教師の活動と留意点	
		Ｔ１	Ｔ２
つかむ	１　!マークの問題を読み，買い物の場面を想起し，おつりの求め方について式を立て，ことばの式を考える。	○　ジュースを買ったとき，ドーナツを買ったとき，それぞれの式を確かめる。 ○　使うことばの確かめをする。	○　ジュース，ドーナツ，５００円の図を掲示し考えやすくなるように支援する。 ○　ことばの式を板書する。

5	2　本時の学習課題を知る。 斉	ことばの式をもとに，括弧を使って一つの式に表そう	
と り む 35	3　!!マークの問題を読み，つばさ，みらいの求め方の違いを見つけ説明する。 個→ペ→グ	○　つばさは順々に引いて，みらいは，まとめて引いていることに気づくように助言する。	○　つばさの求め方 500－180－90＝230 みらいの求め方 180＋90＝270 500－270＝230 を掲示する。
	4　みらいの求め方を一つの式に表し，どのように考えたか説明できるようにする。 500－(180＋90)＝230 ・　ペアごとに他グループと入れ替わり，考え方を説明しあう。 個→グ→全 ［伝え合う力］	○　みらいの考え方を一つの式にできないか問題提起する。 ○　ことばの式から考えるとよいことを助言する。	○　代金は，ジュースとドーナツの合計で，まとめるとよいと助言する。 ○　式でまとめるには，括弧を使うとよいことを助言する。
	評１　括弧を使って一つの式に表すことができたか。（活動の様子）		
	5　板書を使って考え方の確かめをする。 斉	○　乗除計算に置いても括弧を先に計算することを確認する。	○　机間指導から，１人を選ぶ。 ○　困ったら，ヒントを参考にすることを伝える。
	6　2 の問題を括弧を使って一つの式にして解く。 個→ ペ	評２　括弧を使った立式の良さを使って問題を解くことができたか。（活動の様子）	
	7　③の練習問題をする。 個	○　ことばの式から考えるよう助言する。	○　困ったら，ヒントを参考にすることを伝える。
まとめる 5	8　学習を振り返る。 個	○　振り返りカードに本時で分かったこと，友達との関わりなどを振り返りカードに書き，次時の学習へつなげる。	○　本時の自分の学習や友達の関わりについての評価の基準を簡単に説明する。

３）評価

・ 数量の関係を括弧を使って一つの式に表す仕方を理解することができたか。

３　研究協議

（１）反省

- 導入部分の簡単な計算で時間がかかり，時間配分がうまくいかなかったという課題が残った。
- 個人活動→ペア活動→グループ活動の流れがスムーズにいき，今までなかなか参加できなかった児童も参加できるようになり，全体の参加度が向上した。
- グループ活動で，自分の考えに自信がもてず，自分の解答を消して他の児童の解答を写してしまう児童がいたので，自信をもたせることが今後の課題である。

（２）協議内容（質疑応答・感想など）

- グループ学習時，机を寄せずに椅子だけ反転させていたが，その形態の意図は何か。メモをするときに机上が狭かったのではないか。
  → 児童と児童の距離を近づけることが目的で，机上が狭くならないように持ち物はプリントと筆記用具だけと指示をして対応できた。
- 教科書を使わずに授業を進めたが，教科書がメイン教材ではないのか。
  → 今回は児童に考えさせたかったが，教科書に説明が多く載っていたので，見せたくなかった。プリントの裏に教科書の問題を解かせる箇所があったが時間不足で予定通り進まず，教科書を使わない授業になってしまった。
- 教科書を導入時，まとめ時など，場合によって有効に使ってみてはどうかと思う。
- Ｔ１とＴ２の役割分担はどのようになっていたのか。
  → Ｔ１がメインでＴ２が板書という大まかな役割分担をしていたが，それにとらわれずにできればもっとよかったと思う。
- ＴＴの役割については，少人数担当の先生の専門性と，児童の実態を把握した担任の特性を生かしていきたい。
- Ｔ１とＴ２のロールプレイが非常によかった。児童が学習に取り組みやすくなった。
- 授業時の目標をより明確にするとよい。書くことが目標なのか，答えることが目標なのかを明確にし，授業を展開できるとよりよい。
- 「書くことで授業に参加しよう」という目標であったので，みんなしっかりと書けていた。児童が参加できた授業になったと思う。
- 児童の発言から課題を作ることができればよりよかった。
- グループ活動中のＴ２の介入具合についてはケースバイケースで対応するとよい。教えるときには教えることが必要だが，教え込み過ぎないように注意が必要である。
- ジュースとドーナツの値段を足す（180＋90）の時，なぜ＋になるのかを押さえるべきではなかったか。足すと何になるかを児童に考えさせるとよかった。
- 学年で全体を見通して授業をする必要がある。単発の授業を5人がそれぞれ実施するのは，単元見通し学習ではない。今回の課題を改善し，次回以降授業を進めていくことで，

めざす子ども像に迫っていけるとよい。

- ２人の教師で授業をするのであれば，2人で授業を行う必然性がある授業をすることが大事である。
- 前学年の学びをしっかりと引き継いで，去年の財産を活かしていくことを考えるべきで，新学年になり，またゼロからということのないように学習を積み上げていきたい。
- 児童にどんな力を付けるかを学年で共通理解し，皆が同じ方向を目指すことが大事である。
- 活動を始めたら教師は指示をしない。児童に静かに考えさせることも大切である。児童の活動中の教師の指示は極力控えたい。
- 浮きこぼれの対策を充実させるとよい。上位の子，下位の子両方に対応するためにはＴ１Ｔ２の連携が不可欠である。
- 小さな知識ではなく，これから自分自身で学んでいくための道具を身に付けさせることが大である。
- 教え込みの指導ではなく，児童がやりたいと思ったときに手助けをする支援が大事である。
- 自分がどこまでできたか，子ども自身による振り返りを重視したい。

４　考察

今回は，意図的にグルーピングしたことで，子どもの学び合う姿が期待していたような形で現れていた。昨年，算数嫌いできちんと授業に取り組めていなかった子が，ペアやグループでの学び合いで楽しく学習に取り組めていたことが，表情からも読み取れた。遅れた力を取り戻すというよりも，これからの学習に前向きに取り組もうとする気持ちが芽生えたという手応えが，感じられた。ただ，自分の考えに自信がもてないことで，確かめることもなく，すぐに他の子の考えに取り替えてしまう様子が見られ，今後は，互いの考えを出し合って学習を進めていけるように工夫していきたい。反対に，よく理解のできている子は，自分の考えをしっかり仲間に伝える力を伸ばし，ペアやグループ，さらにはクラス全体が力をつけていくことの喜びを感じられるようにしていきたい。

今回の授業で感じ取ったであろう，学び合いで互いに力をつけていく喜びを，様々な学習活動や学校活動の中で発揮できるように，これからもこうした指導を積み重ねていきたい。

実践Ⅱ　算数「式と計算の順じょ」（本時３／９）

１　本授業への思い

前時までに児童は，数量の関係をことばの式をもとに括弧を使った一つの式で表し，加減乗除が混合している式では，乗除を先に計算することを学習してきている。本時は，計算のきまりに即して計算しないと正しい解答が得られないことの理解をねらいとしている。まず，同じ数値を意図的に使った計算式を提示し，解き方を考えることに意欲をもたせていきたい。次に，なぜこのように計算したのか，どのようなきまりを活用したのか説明する算数的活動を取り入れ，ただ単に計算するだけにとどまらず，学習の過程を筋道を立てて説明する力や，分かりやすく伝える力を育てていきたい。そこで，児童同士が関わり合う場（グループ・ペア）を位置

づけ，一人一人の児童に，課題解決の喜びや学び合いの楽しさを感じさせたい。また，思考過程をことばで表現することは，学習内容の一層の理解につながると考える。さらに，個々の力に十分配慮しながら，より多くの練習問題に取り組むことで，自ら解決する力を身につけさせ，学習内容の定着を図りたい。

２　実際の授業

（１）目標

・　四則計算の混合している計算の順序を考えて計算し，計算の順序を説明することができる。　（数学的な考え方，技能）

（２）準備

教師・・・ヒントカード，プリント，振り返りカード

（３）学習過程

□…本時の目標　学習形態：個－個別ペ－ペアグ－グループ全－全体交流斉－一斉

段階 分	学　習　活　動	教師の活動と留意点 Ｔ１	Ｔ２
つかむ ５	１　式を見て気付いたことや答えが同じになるかを話し合う。斉 ２　本時の学習課題を知る。斉 計算の順じょを考え，図やことばで説明しよう。目ざせ計算名人！	○　三つの式を提示し，数値が同じでも挿入された記号によって答えが相違することに気付かせ，学習の見通しがもてるようにする。	○　一つの式を黒板に掲示する。 ○　黒板に掲示し，学習の意欲付けをする。
と	３　三つの式の計算の順序を考え，答えを求め，説明し合う。 あ１２÷２×３ い１２÷（２×３） う１２＋２×３ 個→グ→斉 ［伝え合う力］	○　ノートに式，計算の順序を表す番号，答えを書き，説明の仕方を考えることを指示する。 ○　グループ学習では，自分の考えを説明したり，教え合ったりしながら，みんなで確かめ合うことを伝える。 ○　グループ全員が説明できるようにすることを促す。 ○　グループごとに問題を書いたプリントを用意し，互いの考えを共有しながら，話し合えるようにする。	○　あの問題を使って計算の順序を可視化して図で示し，整理する方法を確認する。 ○　学び時計で活動の流れを確認する。 ○　机間指導を行い，円滑に取り組めるように助言しながら，活動を見守る。

り		○　式と決まりを結びつけて説明することを確認する。 ○　「まず」「次に」「最後に」と筋道を立てたり，計算のきまりを根拠にしたりした説明を称賛し，分かりやすい説明の仕方を全体に広げることができるようにする。	○　児童の説明を板書する。
		評１　計算の順序を図や言葉で説明することができたか。（ノート，活動の様子，発表）	
く	4　計算のきまりを整理する。斉	○　計算の順序のきまりを確かめることを伝える。	○　計算の順序のきまりをまとめたものを提示し，活動に生かすようにする。
む	5　ゲーム形式で7の練習問題をする。　個→ペい，［伝え合う力］ 6　8・9の練習問題をする。個	○　計算のきまりを使って正確に問題が解けることを確認する。 ○　互いに計算の順序を説明し合答えを確認することを促す。 ○　ゲームが終わったペアには，答え合わせをすることを指示する。 ○　式が複雑であっても，括弧の中であっても，計算の順序は変わらないことを確認する。 ○　計算の順序を根拠にして，まちがいであることを説明することや正しい答えを求めることを確認する。 ○　終わった児童には，次の活動の指示をする。	○　学び時計で活動の流れを確認する。 ○　計算スコアボードゲームの説明する。 ○　円滑にゲームが進んでいるか，机間指導を行い，声掛けをする。 ○　学び時計で活動の流れを確認する。 ○　戸惑っている児童に計算のきまりをもとにし，計算の順序を可視図で示しながら計算することを支援する。
35		評２　計算の順序のきまりを使って，正しく解くことができたか。（ノート）	
まとめる 5	7　学習を振り返る。　個	○　確かめ問題，分かったこと，友達との関わりなどを振り返りカードに書き，次時の学習へつなげる。	○　本時の自分の学習や友達の関わりについての評価の基準を簡単に説明する。

（４）評価

・　計算の順序を考えて計算し，根拠を明らかにして図や言葉で説明することができたか。

３　研究協議

（１）反省

・　他の学級で実施した授業を参考に修正を加え，本時の授業を進めたが，最後の問題まで進めない児童が多くいたため，振り返りの時間が延長してしまった。説明などの時間を短くして，時間不足にならないような学習計画を立てる必要があった。
・　練習問題７では，児童同士が関わり合い，教え合いながら取り組めるようにと考え，ゲーム形式にした。しかし，プリントを一人一人に渡したため，ペア活動が十分生かされず，個人の活動になってしまった。できる児童はどんどん進めてしまい，できない児童は取り残されてしまった。
・　計算のきまりは理解していても，速く正確に計算することができず，練習問題を全部やり終えることができた児童が限られていた。基礎的な計算力のしっかり定着していない児童が多いことを感じた。
・　振り返りカードの確かめ問題では，①の問題では28名中24名，②の問題では28名中26名が正解していた。どちらも不正解だった児童はいなかった。

（２）協議内容

・　机間指導の時のＴ１・Ｔ２の分担がされていたのか。
　→　もっと役割を明確にしていくとよかった。
・　児童がどんな力をつけなければいけないかが分かっていた方が，よかった。シンプルに計算のきまりを押さえる授業も大切ではないか。
・　計算スコアボードゲームでは，ゲームがメインになっていたので，計算のきまりを定着させることを重視することが大切ではなかったか。計算の順序の定着を図るためにも，プリントの中に書くようにした方がよかった。
・　ゲームは，ペアで１枚のプリントにした方が，説明し合いながら実施できたのではないか。また，「一緒にやるんだよ」と伝えることが大切であった。
・　学び時計を常に同じ流れにして，パターン化していくと児童にも分かりやすくなるのではないか。また，説明はなるべくなくしていくと時間短縮にもつながるのではないか。
・　振り返りの前に，児童にもう一度本時のめあての確認をさせると，感想を書く時の観点が明確になったのではないか。
・　お助けコーナーが設置されていてよかった。机を配膳台ではなくワークの物を使用するとよい。
・　ゲーム形式はおもしろいが，ペアで１枚のプリントを使用することにより協力して活動をすすめることができたと思われる。説明までしっかりさせることが必要である。
・　Ｔ１，Ｔ２の児童への関わり方を明確にし，それぞれが分担したグループや児童をしっかり見ていく必要がある。
・　グループやペアの活動の中には，教師があまり早い段階から児童に関わり過ぎない方がよい。子ども同士に任せることも必要である。

・　グループ活動の中で問題の取り組みがしっかりできていれば，一斉でもう一度確認する必要はない。その時間を練習問題に取り組む時間に活用することができた。

４　考察

学習活動への積極的な取り組みから，「計算名人になりたい。」という児童の意欲を強く感じることができた。また，学習後の確かめ問題の結果を見ると，問い①85％・問い②では92％の正答率であった。２問とも不正解であった児童はなく，計算の順序のきまりについては，ほぼ理解できていた。反面，計算の順序のきまりは理解しているものの，速く正確に計算することのできる児童が限られており，基礎的な計算力が確実に定着していないことを実感した。児童同士の関わり合いの中で，学びを深めることはとても大切であるが，個々の問題解決の時間を多く確保することにより，算数的な学力を確かなものにしていく必要性を感じた。今後，基礎的な計算力を高めるための手立てや支援の方法を工夫しなら，児童一人一人の学力を高めていきたい。

グループ活動の様子

実践Ⅲ　算数「式と計算の順じょ」（本時６／９）

１　本授業への思い

子どもたちは，既に□を使った式について３年生で学習しており，線分図に表すことも学習してきている。本時は，計算のきまりと計算の間の関係としてまとめることをねらいとし，花の図を使い，具体的な場面に即して，乗除の計算の関係について，図を使用してイメージ化を図っていく。まずは，黒板掲示物やワークシートを使って，視覚的に関係を捉えるようにしたい。乗法と除法の関係を関係図を使って可視化することによって，□の数の求め方を考え，解を求めていく助けとしたい。また，友達との関わりを通して，自分の考えを深めたり，式の意味を説明したりできるようにしたい。

２　実際の授業

（１）目標

・　乗法と除法，加法と減法の相互の関係を捉えて，計算に利用する。（知識・理解）

（２）準備

教師・・・黒板掲示物，ヒントカード，ワークシート，マーカー

（３）学習過程

□…本時の目標　　学習形態：個ー個別　グーグループ　斉ー一斉

段階 分	学　習　活　動	教師の活動と支援 Ｔ１	Ｔ２
つかむ 5	１　既習事項である「□を使った式」を復習する。 斉	○　簡単な問題を見せて，課題へつなげるようにする。	○　問題を提示する。
とりくむ 35	２　本時の学習課題を知る。 斉	○　１束の本数を求めることを伝える。	○　めあてを提示する。
	□の数はどんな計算で求められるのかを考えよう		
	３　１束の花の本数を求める計算を考える。 個→グ→斉 ［伝え合う力］ □×４＝３２ □＝３２÷４ □÷４＝６ □＝６×４	○　１束の花の本数がどんな式で求められるか考えるように指示する。 ○　提示することばを使って式を立てることを押さえる。 ○　関係図を見て□の数の求め方を考えるように助言する。 ○　グループ活動では，式を立てた意味を仲間に分かりやすく説明するように助言する。 ○　グループ活動では，自分の考えを伝えたり，分からない子に教えたりして，みんなで話し合うことを促す。	○　黒板掲示物を貼って，視覚的に考えることができるようにする。 ○　「１束の本数」，「束の数」，「全部の本数」「人数」という言葉を提示する。 ○　机間指導を行い，助言しながら活動を見守る。
	評１　被乗数を求める場合には，積÷乗数で，被除数を求める場合は，商×除数で求められることを理解できたか。 （活動の様子，ワークシート）		
	４　子どもの人数を求める計算を考える。 個	○　乗法と除法，加法と減法の相互の関係を想起し，考えるように助言する。 ○　相手の意見を最後まで聞いてから申し出るように助言する。	○　ヒントカードを見せたり助言をしたりして，つまずいている子に支援をする。 ○　ヒントカードを見ても分からない子のために，教室の後ろに相談コーナーを設け，支援をする。
	５　計算の間の関係を活用させて，練習問題を解く。 個	○　ワークシートが終わったら，プリントを進めることを知らせる。	

		評２　式を見て関係を理解し，順に戻して問題を解くことができたか。（活動の様子）	
まとめる5	6　学習を振り返る。 個	○　振り返りカードに，分かったことや仲間との関わりなどを書くように促し，次時の学習へつなげるようにする。	○　本時の自分の学習や友達の関わりについての評価の基準を簡単に説明する。

（４）評価

・　乗法と除法，加法と減法の相互の関係を捉えて式を立て，解を求めることができたか。

３　研究協議

（１）反省

・　言葉の式を考えるところから進めていく予定であったが，学級の実態に合わせて，式に必要となる言葉を最初から提示した。

・　算数の苦手な児童が多いので，どこまで説明し，どこから児童に進めさせていくとよいか迷った。

・　練習問題に取り組む場面では，お助けコーナーをどのような形で進めていけば効果的な支援ができるのか，児童がヒントコーナーを活用するか，お助けコーナーを活用するかなど，自ら判断できるようになっていけるとよいと思う。

（２）協議内容

・　Ｔ１，Ｔ２の関わり方が前回と変わっていた意図は何か。

→　Ｔ１が主になって授業を進め，Ｔ２は導入と個別の支援をするように役割を決め，児童が惑わないようにした。フラッシュカードを用いて苦手な児童も参加できるように進めた導入の場面は，本時への動機付けになった。

・　学年として，これまで進めてきて，目ざす子ども像や単元を通して身に付ける力はどのようになってきたか。

→　上手に説明できる児童が多くなり，一方的に話すのではなく，分からない児童に教えたりヒントを出したりできるようになってきている。また，同じ価値がもてるようになり，自分だけではなく，周りのことを考えることができるようになってきている。

・　「共に高まる」ことについてはどうか。

→　説明が伝わらないときには，違う説明の仕方をしている児童が増えてきており，説明できた子を手本にして，苦手な児童が話し合いに参加できた。子どもは前向きであり育ってきているが，計算力が弱いので四則計算の定着が図れるような学習を取り入れていきたい。

・　少人数ではなく，ＴＴで授業を行ったのはなぜか。

→　算数の苦手な児童が多いので，２人の教師の目で見ながら，グループ活動をしっか

りと行うようにしたかった。本時の前から，お助けコーナーを気軽に活用する児童の姿が見られるようになり，つまずきへの対応を図ってきている。教師の適切な指摘や励ましの言葉によって，学習意欲が増しているものと感じる。不得手な児童にもわかる喜びを実感させたことは，意欲の高揚につながっている。

４　考察

ＴＴの動きについては，これまでの授業で，２人の教師の立場が不明確なままで，子ども が混乱しかねない指導になっていたことが指摘されたため，そのことを配慮して，本時 ではＴ１は授業全体の進行を担当し，Ｔ２はフラッシュカードを活用した導入の場面や板書，「相談コーナー」を担当するというように役割分担をして，動きを明確に分けるようにした。そのため，児童は落ち着いて授業の流れに乗ることができた。また，「ヒントカード」と「相談コーナー」を取り入れたきめ細かい支援により，理解が進み，うれしそうに学習に取り組む児童の姿が見られた。この二つの仕かけは，子どもの理解を深めたり，学ぶ意欲を高めたりするものとして効果的であった。また，グループ活動では，互いに関わり合いながら理解を深めていく場として設定した。児童は，相手の考えを知り，自分の考えに自信をもつことができた。理由をもう一度聞き返す児童もいて，高め合おうと努力している場面が見られた。しかしながら，相手の間違いを指摘するのを避ける児童がいたので，「いいです。」と反応するだけでなく，間違いについても指摘し合い，学びを深めていけるようにすることが今後の課題である。

実践Ⅳ　算数　「式と計算の順じょ」（７／９）

１　本授業への思い

本単元は，括弧を用いた式や四則混合の式について，計算の順序を知り，計算のきまりについての理解を深めたり，式を見て具体的場面を想起し，説明したりすることができることをねらいとしている。本授業においては，前時までに学習した交換・結合・分配法則や乗除の法則を使って，並べられた碁石の数の式を，どのような考えに基づいているかを言葉にしたり，いろいろな式を見て，具体に即して説明したりすることをねらいとしている。そのため思考力を高める場を多く設けることにした。

碁石の描かれた学習プリントを用意し,碁石をまとまりごとに鉛筆で区切りながら考えたり，友達に説明したりすることで理解しやすいものとなるようにしたい。

また，まとまりを意識しながら「まず」「次に」というような言葉を用いることで，式とその式の表す意味がより密接になることを期待したい。

２　本時の実践

（１）目標

・　個数を求める式の形に注目し，式の表す意味を具体に即して説明することができる。

（数学的な考え方）

（２）準備

教師・・・黒・白石の提示図，ワークシート，ヒントカード，振り返りカード

（3）学習過程

□…本時の目標　　学習形態：個ー個別　ペーペア　グーグループ　全ー全体交流　斉ー一斉

段階 分	学　習　活　動	教師の活動と留意点 T１	T２
つかむ 5	1　黒石の数を求める。 斉 2　本時の学習課題を知る。 斉	○　黒石の数の求め方を考え，立式して答えを求めるようにする。 ○　黒石と白石の全体の数を求めることを知る。	○　黒板に黒石だけが見えるように図を貼って，考えやすくする。 ○　黒板に提示し，学習の意欲付けをする。
	式の意味を友達に分かるように説明しよう		
とりくむ	3　黒石と白石の全体の数を求める式がどのような考え方で立てられているか考える。 ・２×６＋３×６ ・６×２＋６×３ ・（２＋３）×６ ［伝え合う力］ 個→グ→斉	○　式の違いに注目させ，式と図がどう対応しているか説明できるようにすることが，課題であると押さえる。 ○　まず，あ・い・うの図がどの式になるかワークシートに記入するよう指示する。 ○　考えが言葉で表せない子どもに対して，「まず～」「次に～」という話型を使って書くことを助言する。 ○　グループ学習では，自分の考えを発表したり，分からない子に教えたり，みんなで話し合ったりするように指示する。 ○　グループ全員が説明できるようにすることを伝える。 ○　同じ考えでも，繰り返し発	○　三つの式とあ・い・うの図を提示し，活動に生かすようにする。 ○　机間指導を行い，円滑に取り組めるように助言しながら，活動を見守る。 ○　子どもの説明を「まず～」「次に～」を使って板書する。

35		表するように促す。 評１　計算のきまりを使って，式の意味を理解できたか。 （活動の様子）	
	4　おかしの数を求める式について考える。　個	○　ワークシートにアとイの式の説明を書くことを指示するが，戸惑ってしまったときには，ヒントカードを使って考えることを伝える。 ○　ワークシートに説明が書けたら，プリントを進めることを知らせる。 評２ 式の持つ意味を言葉で表すことができたか。 （ワークシート）	○　ヒントカードを使っても説明できない子には，教室の後ろに相談コーナーを設け，支援をする。
まとめる5	5　学習を振り返る。　個	○　本時の課題を１問解き，分かったこと，友達との関わりなどをカードに書き，次時の学習へつなげる。	○　本時の自分の学習や友達との関わりについての評価の基準を簡単に説明する。

（４）評価

・ 全体の数を求める式の意味を，図を用いて説明することができたか。

３　研究協議

（１）反省

・　ＴＴの役割については，Ｔ１を中心にした。Ｔ２は，うまく機能していたか。
・　Ｔ２は，分からない子の指導を中心にしたが，果たしてよかったか。
・　本時は，式の意味を考えることであって，答えを出すことではない。子どもとしては，「あれ，答えは出さなくていいのか。今まで答えを求めてきたのに。」と思ったかもしれない。
・　子どもは，4月に比べて話が聞けるようになった。
・　途中でＴ１とＴ２のどちらが授業を進めるのか分からなくなった。
・　グループの話し合いに入る前に個の取り組みをチェックし，十分でない子を支援するつもりだったが，うまくできなかった。そこで，全員書けていなかった班を支援した。
・　２番の問題でのＴ２のデモンストレーションは，少し出過ぎだったか。

（２）協議内容

・　教科としての力を高める学び合いができたか。

→　数字で説明させたら数字だけで終わってしまうので，まず何を求めるのか言葉で宣言させてから，指さしながら式を説明させるとよかったのではないか。

→　長蛇の列はもったいないので，子ども同士で見合ってはどうか。

→　式の説明を「短い言葉で書く」ことは，国語の力が必要。グループの話し合いの中でうまく説明できなかったので，図を使いながら説明をしていくとよかった。

→　“学び合い”のためではなく“学力を高める”ために，話し合いを通じて，力をのばす活動を意識できると望ましい。

・　Ｔ１とＴ２が機能し，一人で指導するよりも効果的であったか。

→　単元の途中でも少人数で取り組んでもよかったのではなかったか。特に本時の内容は，よりきめ細かく効果的に支援できたのではないだろうか。

→　２人の教師がよく役割を分担して動いていた。

→　Ｔ１Ｔ２とも，たくさんの児童がきて，さばき切れていなかった。改善が必要である。

→　説明を書くことができた人は，プリントをさせておき，全員できた班や列から確認する。または，相互に確認させる等の対応をする。

→　Ｔ１とＴ２の役割分担がしっかりされており，テンポよく進んでいた。しかし，2人が話すため，子どもはどちらに集中してよいか分からなくなる。

・　教師の支援は，自己効力感を高める活動につながったか。

→　学力低位の子どもには，お助けコーナーがあり，自己効力感が高まった。中位上位の子どもは，発展問題に取り組めた子どもが少なかった。４人程で互いのノートを見るとか，点検を後にして発展問題に取り組ませるなど，回転をよくする工夫が必要である。

→　数字を言葉に置き換えるのが難しいので，空欄補充の問題で練習したり，数字が何を表しているかを子どもに考えさせたりという段階を経てから，行ったほうがよかった。

→　話型を提示し，短い言葉で書こうと指示したため，自由に説明することができなかった。力のある子にとっては，自分の言葉で説明させたほうが達成感を感じることができたのではないか。

・　自分の考えをしっかりもって，筋道を立ててはっきり話したか。

→　グループの話し合いは，ただ発表するだけで終わってしまっていた。上手に説明している子の考えもただ聞くだけで終わっていた。グループで練り上げられていないので，グループの中でどの子の説明が一番よいか考えさせ，ほかの子も説明できるようにしておくと，自信がついて発表できた。そうすれば，全体発表の時にもっと手が挙がった。

→　４の学習活動では，能力の高い子はグループでうまく説明するので，それを聞きながら，能力の低い子も学べるようにしてもよかった。

・　子どもは，はっきりと伝えるとともに，友達の意見をしっかりと受け止められたか。

→　話を聞く態度がとてもよかった。
→　「めあてに式の意味と書いてあるから，式は入れない。」という友達の意見を聞いて，説明の仕方を変えていたグループがあった。

指導助言（杉江先生より）

- 毎時間の導入の時に，今日は単元の中でどこを学習するのか意識させて，学習に取り組ませたい。
- 授業の流れを説明する時に，本時のゴールを示し，なぜそれをするのか，その価値を説明することにより，授業への取り組みを主体的なものにさせたい。

２　考察

子どもは，頑張って自分なりの言葉で説明しようとする様子が多く見られた。グルーでの学び合いの力も向上してきた。それは，この単元を通しての成果だと思う。ただ，深め合いが不十分という課題が上がった。

「わたしの考えは～です。」「～さん，わかった」などという言葉を使ってグループ内の話し合いがまだうまくできない。主体的に学習しようとする集団が，信頼に支えられた関係の中で，さらに高め合うことが学びにつながる。

自分の意見をもって仲間を高めようという意識で学習に臨んでいきたい。ただ「いいです」と答えるだけではなく，友達の考えにつなげながら，高め合あえる集団を作ることが今後の課題である。

実践Ｖ　算数「式と計算の順じょ」（７／９）

１　本授業への思い

本学級の児童は明るく元気な子が多く，学級の諸活動にも活発に取り組む様子が見受けられる。学習面においても進んで発言する児童が多い。

一方，単純な解答を問う問題に対しては発言できても，説明を要する問題に対しては自信がもてず消極的になりがちな児童が多い。また，発言しても自分の考えを順序立てて相手に分かりやすく説明できる児童は少ない。そこで，一人一人が自分の考えをもち，それを伝え合いながら考えを広めて深める活動を取り入れたいと考え，ペアやグループで活動する場面を多く設定した。

本授業においては式の意味を考えさせ，その式のもつ意味を説明するという授業を行い，伝え合う活動を通して，児童の説明する力を伸ばそうと取り組んむことにした。

２　実際の授業

（１）目標

- 個数を求める式の形に注目し，式の表す意味を具体に即して説明することができる。

（数学的な考え方）

（２）準備

教師・・・黒・白石の提示図，ワークシート，ヒントカード，振り返りカード

（３） 学習過程

□ …本時の目標　　学習形態：個―個別　ペ―ペア　グ―グループ　全―全体交流　斉―一斉

段階 分	学習活動	教師の活動と留意点 Ｔ１	Ｔ２
つかむ 5	１　黒石の数を求める。 斉	○　黒石の数の求め方を考え，立式して答えを求めるようにする。 ○　黒石と白石の全体の数を求めることを知る。	○　黒板に黒石だけが見えるように図を貼って，考えやすくする。
	２　本時の学習課題を知る。 斉		○　黒板に提示し，学習の意欲付けをする。
	式の意味を友達に分かるように説明しよう		
とりくく	３　黒石と白石の全体の数を求める式がどのような考え方で立てられているか考える。 ・２×６＋３×６ ・６×２＋６×３ ・（２＋３）×６ ［伝え合う力］ 個→ペ→斉	○　全体で㋐の式の意味をキーワードを使って考えさせる。 ○　ペアで㋑・㋒を図の式をキーワードを使い，言葉での説明を考えさせる。 ○　考えが言葉で表せない児童に対して，「まず～」「次に～」という話型を使って説明することを助言する。 ○　全体で㋑・㋒の式の意味を確認する。	○　三つの式と㋐・㋑・㋒の図を提示し，活動に生かすようにする。 ○　机間指導を行い，円滑に取り組めるように助言しながら，活動を見守る。 ○　児童の説明を「まず～」「次に～」を使って板書する。
	評１　計算のきまりを使って，式の意味を理解できたか。 （活動の様子）		
	４　おかしの数を求める式について考える。 個→グ→全→斉	○　全体で出てくる数字の意味を考えさせる。 ○　解く問題を指示し，自分の説明を考えさせる。 ○　グループ全員が説明できるようにすることを伝える。 ○　他の問題を解いた子と交流	○　ヒントカードを使っても説明できない子には，教室の後ろに相談コーナーを設け，支援をする。 青カード：Ｔ１ 赤カード：Ｔ２ ○　児童の説明を「まず～」「次

む 35		させ，メモを取らせる。 ○　早く終わる児童には交流のまとめをするよう伝える。 ○　全体で説明を確認する。 評２ 式のもつ意味を言葉で表すことができたか。 (ワークシート)	に～」を使って板書する。
まとめる 5	5　学習を振り返る。 個	○　本時の課題を１問解き，分かったこと，友達との関わりなどをカードに書き，次時の学習へつなげる。	○　本時の自分の学習や友達との関わりについての評価の基準を簡単に説明する。

（４）評価

・ 全体の数を求める式の意味を，図を用いて説明することができたか。

３　研究協議

（１）反省

・　これまで学年で取り組んできたことを意識しながら，本時の授業を進めた。
・　学習活動の３では，説明を書くのではなく，式からキーワードを出し，指で図で示しながら進めていくことにした。
・　計画していた時間通りに進められず，最後のグループ間交流ができなくなってしまったので，指示のことばを減らす工夫をしたい。
・　Ｔ１，Ｔ２の役割を事前に十分話し合い，授業を進めることができたのでよかった。
・　単元見通し学習は初めてで，新鮮な取り組みであった。
・　学年の先生方の授業を参考にして，改善しながら取り組んだ。いろいろな状況を想定して授業に臨めたので，スムーズに展開できた。
・　これまでのアドバイスを生かして，Ｔ２のしゃべりすぎをなくすようにした。

（２）質疑・応答

・　なぜ，第７時を２回取り組んだのか。その意図は何か。
→　改善した授業を進めることで，児童一人一人に説明できる力が身に付いたか確かめるために，もう一度第７時に取り組んだ。
・　改善したポイントは何か。
→　一人一人の児童が説明をしっかりできるようにするために，説明を簡素化したり指を使って説明するようにしたりした。
　ピンクや青のカードを活用すること。(ヒントカード)
　出てくる数と物を確認すること。

１の問題は，全員でつかむことを重視した。

２の問題は，グループの中で全員の児童が説明できるようにすることをポイントとした。

- 手応えはどうか。

→　全員の児童が用意したカードに全部書くことができなかった。時間が足りなくなったことが悔やまれる。

→　グループごとに一つの考え方を担当し，確認し合った後，他のグループに出かけ説明をする活動ができなかった。説明を言葉に書き表そうとすると，まだまだできないことが分かった。

（３）協議内容

- ２の問題では，説明を書いたカードを見ながら発表する児童が多かったので，１の問題のときのように，思考を助けるためにも，指で図を示しながら説明できるとよかった。
- 全体での発表のときには，何が分かりやすい説明なのか教師が話すことにより，子どもの基準となる。
- Ｔ１の話のテンポが早く，しゃべりが多くなったように思われる。
- 上位の児童は「説明名人になろう」というめあてで取り組めており，伸びてきているが，下位の児童もグループの活動を通して，自分の考えに自信がもてるようにしていけるとよい。
- 個の思考を大切にしながら，授業の中で，社会のルールや友達を大切にすることを身に付けていけるとよいのではないか。
- １の問題のところの繰り返しが多くなりすぎてしまったように思われる。「とりくむ」段階の時間配分をしっかりしておくとよかった。
- 評価１がしっかりできていなかったように思われる。教師が座席表をもって児童の活動の様子を見て回り，よい考えやできていない児童を把握するとよかった。
- 「つかむ」段階の一斉の場面では，児童からよい意見が出ていた。
- 「とりくむ」段階の３では，挙手が少なかったときはどうするかを考え，児童が考える時間を確保し，メモをとる方法も取り入れていくとよかった。
- 「とりくむ」段階の４では，キーワードを使って説明を書き表すことに時間がかかり，予定していた学習活動の最後まで取り組むことができなかったので，改善が必要である。
- ２の問題の言葉をかえたのが気になった。問題文にある言葉をかえすぎると，分かりにくくなるように思われる。（丸いいれもの→丸いかん）
- 指導案については，本時の目標や評価のところに算数の観点を書いておくこと，授業者の意図が分かるように，手立てのところに改善点を示すこと，板書計画は授業通りのものを示しておくことが必要である。

４　考察

本授業のねらいは，式の意味を考えさせ，その式のもつ意味を説明する力を，ペア活動などの伝え合う活動を通して伸ばそうとするものだった。そして，その手立てとして，グループ活動を多く取り入れ実践した結果，児童は自分の考えを順序立てて説明しようと意識し，相手に

分かりやすい説明をし，互いに高め合おうとしたことは大きな成果だった。

ただ，互いの意見をつなぎ合いながら高めることは難しかった。友達の考えと自分の考えを比較し，よりよい説明を作り上げるためには，相手の考えを理解し，受け止め合える関係作りが不可欠だと思った。

授業だけでなく，日頃から人間関係を構築していくことで，学び合いは生まれると感じた。

成果と課題

今年度の授業研究では，学年の児童の実態を把握し，「話すこと」「聞くこと」「関わり方」のめざす子ども像を設定し，話す力・聞く力・関わり方を身に付けることができるように，目標や具体的な手立てを設定しながら実践してきた。その結果は次の通りである。

「話すこと」では，発表の仕方を提示したり，グループ活動の中で「だれもが発表できるようにしよう」という課題を示したりすることにより，話す力が付いた。「聞くこと」では，うなずきながら聞く態度が身に付いてきた。また，「関わり方」では，発表を苦手とする児童も，自分の考えを伝えたり，友達の考えを聞いたりすることで，授業への参加度がより高まった。その一つには，算数の学習を通して，説明し合う活動に重点をおき，単元を見通した授業実践に取り組んだことによるものである。１時間１時間の実践が終わるたびに学年全員で共通理解を図りながら，改善や工夫を行ったことは，次の実践につながる意義深いものであった。児童同士が関わる場面を意図的に設定したこと，説明の仕方の手順として「はじめに・次に・終わりに」などの話型を示したこと，児童の考えを示すことができるようなワークシートを工夫したことなどにより，学習を積み重ねるごとに自信をもって伝え合うことができる児童が増え，学習が充実したものになっていった。

反面，次のような課題も見えてきた。「話すこと」では，発表意欲はあるが，教師の後押しやグループの関わりがまだまだ必要であること，「聞くこと」では，次の意見につながるように自分の考えと比べながら聞くことの大切さ，「関わり方」では，友達との関わりはできているが，言葉ではっきりと伝え合うことが不十分であることが明らかとなった。これらの算数の授業実践において，児童同士のやり取りが，どこまで理解を深め合うことができるのかが重要であることを感じた。

おわりに

その後の授業実践を通して，「話すこと」「聞くこと」では，友達同士互いの表情や反応を見合うこと，「関わり方」では友達との交流を増やし，自分と異なる考えに触れ，自分の考えを練り上げていけるようにした。また，教科としての基礎的・基本的な技能の定着を図る取り組みを試みることにした。夏休み以降，授業の始めの１分間学習（百マス計算・音読み計算）を継続的に実施している。これにより，学習意欲・集中力を高めることができ，学ぶ意欲が向上してきたのを感じる。

今後は，算数の学習だけにとどまらず，他の教科においても，個々の学力・語彙力・表現力を高めていくための手立てを検討し，さらに実践を積み上げていきたい。

第５学年　実践報告

自信をもって自分の思いを表現し，仲間と高め合う子をめざして

はじめに

５年生は，落ち着いて話を聞くことはできるが，進んで発言・発表する児童が少なく，発信しようとする意欲に欠ける面がある。また，人の考えを漫然と聞いているだけで，それに対する意見が出ない。そこで，学年では「相手意識をもって伝える」ことができるように実践をしてきた。

まず，自分の考えをもち，進んで発表できるようにするために「書く」活動を大切にしてきた。そして，聞き合う場面では，「～さんと似ていて（ちがって）」という話型を意識してつなげ，話し合いを深めたいと考えた。また，交流の際には意図を明確にして行い，子ども同士が積極的に関わることができるように心がけた。

学年研究では，国語の物語文「大造じいさんとガン」を取り上げ，以下のようなねらいをもって取り組んだ。

まず，「書き込みノート」を使うことで，自分の考えをもち，自信をもって発表する手助けとなるようにした。また，一つ一つの言葉に着目することで，読解力の向上にもつながると考えた。次に，全体での話し合いでは，子ども同士で聞き合い，つなぐ意識をもたせ，学級全体としての高まりを目指すようにした。そして，文型を示して書く活動を通して，理由や根拠を明確にして話す力につなげたいと考えた。

単元の指導計画（10 時間完了）

次	時	本時の目標	学習活動
第一次 単元の見通しをもつ。	1	○　全文を通読し，感想を書き，単元名・リード文から学習の見通しをもつことができる。	●　物語の舞台の背景や，前書き部分と４つの場面に分かれていることの解説を聞き，物語に興味をもつ。 ●　本単元の目標が「自分の思いや考えが伝わるように朗読をする」ことであることをつかみ，音読と朗読の違いを理解する。 ●　教師の範読を聞き初発の感想を書く。 ●　感想を書く際には，「なぜ―？」「どうして―？」など，場面ごとに疑問をもったところを中心に感想を書くようにする。
	2	○　前書き部分から，語り手の設定と物語の背景を知り，本作品が大造じいさんの気持ちに寄りそって書かれたものであることを理解し，全文を一人読みすること	●　本文の，大造じいさんの人柄や，家の様子が分かる部分に傍線を引き，分かったことをまとめる。 ●　分かったことを交流し，大造じいさんや，大造じいさんの家の様子や雰囲気をつかみとる。 ●　本作品の語り手は「わたし」であり，語り手が，大造じいさん自身から聞いた話をもとにこの作品を書いたということを理解し，この作品の舞台は３５，６年も前であることに気付く。

		ができる。	● 一人読みの仕方を理解し，読み取って気付いたことを書き込みノートに書き込む。
第二次場面ごとの読み取り	3	○ 情景について理解し，第一場面での，大造じいさんの心情の変化を読み取ることができる。	● 大造じいさんの様子が分かる表現を見つけ，大造じいさんの心情を読み取り，書き込みノートに書き込む。 ● 書き込みノートに書き込んだ考えを交流し，ガンを捕まえたときの大造じいさんの喜びや，残雪に出し抜かれた時の大造じいさんの心情をまとめる。 ● 直接的に書かれていなくても，登場人物の気持ちを映し出している「情景」の意味を確認する。 ● 読み取って分かったことが聞き手に伝わるように意識しながら，朗読したい一文を選び朗読する。
	4	○ 第二場面での，大造じいさんの心情の変化を読み取ることができる。	● ガンを捕まえる準備を進める大造じいさんの思いや，またしても残雪にしてやられたときの大造じいさんの気持ちが分かる表現を見つけ，そこから分かる大造じいさんの心情を書き込みノートに書き込む。 ● 1年前に残雪に出し抜かれた時と，今回とを比較して考える。 ● 書き込みノートに書き込んだ考えを交流し，大造じいさんの心情をまとめる。 ● 読み取って分かったことが聞き手に伝わるように意識しながら，朗読したい一文を選び朗読する。
	5	○ 第三場面での，大造じいさんの残雪に対する見方の変化を読み取ることができる。	● 今年こそ残雪に勝とうと計画する大造じいさんの気持ちや，残雪に対しての見方が変わっていくことが分かる表現を見つけ，そこから読み取れる大造じいさんの心情を書き込みノートに書き込む。 ● 第一場面で残雪のことを「たかが鳥」と表現していたことと，第 3 場面での残雪に対する見方とを比較し，大造じいさんにどのような心情の変化があったのか考える ● 書き込みノートに書き込んだ考えを交流し，大造じいさんの残雪に対する見方がどのように変化したかまとめる。 ● 読み取って分かったことが聞き手に伝わるように意識しながら，朗読したい一文を選び朗読する。
	6	○ 第四場面での，大造じいさんの心情の変化を読み取り，大造じいさんの人物像をまとめることができる。	● 大造じいさんの様子が分かる表現を見つけ，大造じいさんの心情を読み取り，書き込みノートに書き込む。 ● 「晴れた春の朝」「らんまんとさいたスモモの花」などの情景描写にも着目する。 ● 書き込みノートに書き込んだ考えを交流し，大造じいさんの心情をまとめる。

			● 大造じいさんの人物像をノートにまとめ，交流する。 ● 読み取って分かったことが聞き手に伝わるように意識しながら，朗読したい一文を選び朗読する。
	7	○ 朗読発表会で朗読する場面を決め，伝えたい思いや様子を文章にまとめる。	● 本文から朗読に適した場面を 2 ページ前後の範囲で選ぶ。 ● 朗読する場面のワークシートをノートに貼り，朗読で伝えたい思いや様子を文章でまとめる。 ● どのように朗読したらよいか，ワークシートに書き込む。
第三次 朗読発表会と学習のまとめ	8	○ グループで朗読発表会に向けて，朗読練習をする。	● グループの友達に朗読で伝えたい思いや様子を伝えてから朗読練習をし，アドバイスや良かった点を伝え合う。 ● 友達から受けたアドバイスをもとに，他のグループの友達とも朗読練習をしアドバイスや良かった点を伝え合う。 ● 朗読をするときの姿勢や聴くときの姿勢にも気を付ける。
	9	○ 朗読発表会を行う。	● どの場面を朗読するか，伝えてから朗読を行う。 ● 朗読発表会の感想や，朗読を聴いて伝わってきた登場人物の心情や場面の様子をノートに書く。
	10	○ 短い文を続けて書く表現の効果について理解し，短文を続けて文章を書くことができる。	● 第三場面の，残雪とハヤブサの戦いの場面を読み，短い文が常体で続く表現の効果について気付く。 ● どんな場面を表現するときに，短い文を続けて書くと効果的か考え，文章を書く題材を決める。 ● 動きを短文で表す文章を書き，表現の効果を確かめる。

実践Ⅱ　国語　「大造じいさんとガン」　本時４/10

小山　晃範

１　本授業への思い

本単元のゴールは，「大造じいさんとガン」の朗読である。何も意識しないで読む音読を，読み取った気持ちを表現として加えた朗読に繋げるためには，①作品全体像の把握，②登場人物の心情の変化，③登場人物の細かな心理描写，④音読技法の習得，⑤朗読方法の決定，⑥朗読練習，⑦朗読発表の段階を経る必要があると考えた。本時は 10 時間中４時間目，第二場面の読み取りの場面であり，特に前述の①，②，③を中心に授業を構成した。第二場面のあらすじの確認，気持ちの大きな変化の確認，気持ちが現れている表現の選出，というステップで行えば，リ

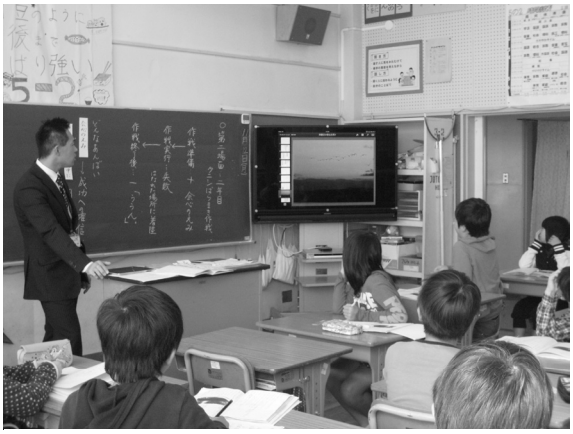


図１　“あかつき”の様子を画像で説明する様子

心情の大きな変化を読み取り，その時々の細やかな心情を掴むことができ，朗読に繋げる準備ができると考えた。

また局面を限定し，第一場面の「ううむ」と第二場面の「ううん」を比較検討させることで，大造じいさんの心情に深く迫れると考え，授業を構成した。

授業では，タブレット型端末とモニターを使い，教科書の本文を拡大提示し，児童の思考が集中するようにした。また，場面の様子を写真で提示することにより，風景がイメージしやすいだろうと考えた。

児童には書き込みノートを事前に配布し，大造じいさんの気持ちや情景に現れる気持ちを書き込めるようにした。また授業では，挙手指名，意図的指名を織り交ぜながら，児童の思考や話し合いを活発化させようと計画した。

２　実際の授業

（１）目標

- 登場人物の心情の変化を，叙述に沿って読み取り，朗読に生かすことができる。（読む能力）
- 自分の意見を根拠を明らかにして伝えたり，友達の意見と比較しながら聞いたりすることで，考えを深めたり広げたりすることができる。（話す・聞く能力）

（２）準備

教師・・・タブレット型端末，モニター

児童・・・書き込みノート

（３）学習過程

□・・・本時の目標

学習形態：個－個別　ペ－ペア　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階分	学習活動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5	1　前時の学習内容を振り返る。斉 2　本時の学習の流れと，めあてをつかむ。斉	○　前時の第一場面の大造じいさんの心情の変化を想起させる。 ○　大造じいさんの心情を読み取り朗読に反映させることを，知らせる。 ○　授業の流れと時間を伝える。	
	第二場面の大造じいさんの気持ちの変化を読み取り，朗読に生かそう		
	3　第二場面を音読する。個	○　内容を理解しながら微音読するように指示する。 ○　立って読み，終わったら座るよう指示する。時間差調整のため，座ってからは，同じ場面を黙読するよう指	

とりくむ 35		示する。	
	4　第二場面の概要と大造じいさんの気持ちの変化を確認する。 ①あらすじの確認　斉 ②出来事と大造じいさんの気持ちの変化 斉（ペ） ・作戦計画時（下準備）の気持ち ・作戦実行後（失敗）の気持ち ・第一場面「ううむ」と第二場面「ううん」の違い ［伝え合う力］	○　年数と作戦名を問い，第二場面の概要を知らせる。 ○　第二場面の概要を板書し，ノートに記入するよう指示する。 ○　大造じいさんの心情を，＋かーかを判断するよう全体に問うなど，思考を促すと共に心情の大まかな変化を捉えさせる。 ○「感嘆」と「うなる」の意味を問い，思考のヒントとなるようにする。	○　大造じいさんの心情について根拠を示し伝えることができたか。 （発表の様子）
	5　本文表現から大造じいさんの気持ちを読み取り，伝え合う。　［伝え合う力］ ①大造じいさんの気持ちが表れている部分に線を引く。　個 ②大造じいさんの気持ちを記入する。　個 ③大造じいさんの気持ちについて，考えを伝え合う。　全	○　書き込みノートに線を引くよう指示する。 ○　机間指導をしながら，児童の考えを確認する。 ○　座席を話し合いができる隊形に変化するよう指示する。	○　叙述に沿って大造じいさんの心情を想像して，書くことができたか。 （ノート）
	6　朗読方法の確認をし，練習をする。 ①様々な表現方法について知る。　斉 ②どのように読むか決め，書き込みノートに記入する。 個 ③朗読の練習をする。　ペ	○　具体例を示し実際に表現させることで理解するようにする。 ○　書き込みノートの線を引いた部分の横に，読み方の注釈をつけるよう指示する。 ○　ペアの児童と発表し合いながら感想を交換するよう伝える。 ○　終わったら座り，朗読表現を書き加えるよう指示する。	○　読み取った大造じいさんの心情を基に，聞き手を意識しながら朗読の練習をすることができたか。　（朗読）

まとめる 5	7　本時の学習のまとめと振り返りをする。　個	○　国語ノートに，友達と朗読を発表し合い，気付いたことや，今後朗読で注意したいと思ったこと書くように指示する。 ○　次時は第三場面の読み取りをして，大造じいさんの残雪に対する見方の変化について学習することを伝える。	

（４）評価

・　大造じいさんの心情の変化を読み取り朗読に生かすことができたか。
・　叙述に沿って読み取り，話し合いを通して考えを深めたり広げたりすることができたか。

３　研究協議

（１）反省

・　あまり意見が出なくて，盛り上がりに欠けた。普段から話し合い活動を取り入れたり意見を言いやすい雰囲気作りをしたりする必要性を感じた。
・　子どもの理解が低かった。
・　授業の意図は，物語全体の流れ，場面ごとの流れを大事にした。
　（第二場面での「ううん」「ううむ」の違いを押さえることで）
・　タブレット型端末を使って視覚的に確認できるようにした。
・　机の配置を工夫し，話し合いのときはコの字で，書き込みのときは整列で行ったので視線を黒板や話している児童に集中させることができた。
・　自分の意見を明確にして授業に参加するための手立てとして，「＋（プラス）」「－（マイナス）」の気持ちで，全員参加できるようにした。，
・　難しい言葉に触れさせたいので，自信喪失，茫然自失などの言葉を扱った。

（２）協議内容

・　白黒はっきりさせ，テンポよく，たたみかける感じが小山先生らしい授業であった。
・　国語は白黒はっきりさせる必要はないのではないかと思う。
・　大造じいさんはどんな気持ちなのか，子どもの言葉で表現させたい。
・　３組では「してやられた」というところに返り，くやしい，感心という気持ちが出た。色々なとらえ方があるので，子どもの言葉で表現させたい。
・　本文のどの部分から，どんな感じ（気持ち）がするのか，本文の言葉に戻らせたい。
・　音読と朗読の違いとして，朗読は「○○の気持ちが伝えたいから△△と読む。」という理由をつけて読むことが大事ではないか。
・　朗読のとき，「(このとき）どういう気持ちか。」に焦点をあてて，考えさせるとよい。
・　朗読に向けて，子どもから出た言葉（表現）でまとめた方が，この後，朗読をしてい時にイメージしやすいのではないか。難しい言葉に触れさせることも大事であるが，子どもはイメージがもちにくいと思う。

- 板書をノートに写すのに必死で，聞けていない子がいた。やはり聞かせたい。
- 色々な言葉を教えることも必要である。
- 画像提示、資料提示などすぐに行えるため，タブレット型端末の利用が素晴らしい！
- 指導案が素晴らしかった。しかし，城東小の子には盛りだくさんであったのではないかと思う。
- テンポがとてもよいが，どれくらいの子がそのテンポについていけたか疑問である。
- 話し合い隊形（コの字型）にしても，先生に向けて発表している。子どもに向けて発表させたい。
- 授業の山のところで，考える時間（ゆさぶり）を確保したい。
- たくさんの知識があるが，それをどう児童に与えていくか考えるとよい。そのためには児童理解が必要である。児童のレベルにあったものを与えるとよい。

４　考察

物語の大略を理解させるため，大造じいさんの気持ちをプラスとマイナスの二者択一にした。第二場面は第一場面と同じく，プラス→マイナスへの変化である。作戦前に成功を確信した大造じいさんであったが，残雪にまんまとやられて，大きく落胆する，という流れを理解させるのに有効であったと思う。しかし、大造じいさんの細やかな気持ちを読み取ること，それを朗読表現に生かすことは上手くいかなかった。書き込みノートを配布し，あらかじめ自分で読み取った内容を書き込ませたが，児童の記述量は少なかった。どこに線を引くのか，どう読み取るのか，どう表現するのか，という指導をほとんど行っていなかったことが考えられる。児童の読み取りと朗読表現を紹介し，広めるという方法も考えられる。時間をとり，その機会を増やすことが必要であると感じた。

図２　ペアで朗読をし合う児童

タブレット型端末とモニターを活用した画像提示は、児童にとって分かりやすかったが，イメージが固定化されてしまうことが問題である。「あかつき」など，画像ではなく，文字から伝わる感覚を大切にしたい。今後の課題である。

実践Ⅴ　国語　「大造じいさんとガン」　本時４/10

齋藤　友希

１　本授業への思い

本学級には，学習面で支援が必要な児童が数名在籍しており，そのうちのほとんどが，特に文章を読み書きするのを苦手としている。それ以外にも国語に対して苦手意識をもっていたり，読書をあまり好まない児童の姿も目立つ。しかし，明るく素直な子が多く，友達に共感したり相手を思いやったりすることができるので，きっかけさえ上手に与えれば，うまく登場人物の心情を追い，それを表現することができるのではないかと考えた。その１つとして，書き込みノートを活用することで，子どもの読解や朗読の手がかりとしたいと願い，実践に取り組んだ。

2　実際の授業

（１）目標

- 登場人物の心情の変化を，叙述に沿って読み取り，朗読に生かすことができる。（読む能力）
- 自分の意見を根拠を明らかにして伝えたり，友達の意見と比較しながら聞いたりすることで，考えを深めたり広げたりすることができる。　（話す・聞く能力）

（２）準備

教師…キーワードを書いた短冊，児童…書き込みノート

（３）学習過程

□・・本時の目標

学習形態：個－個別　ペ－ペア　全－全体交流　斉－一斉

段階 分	学　習　活　動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5	1　前時の学習内容を振り返る。　斉 2　本時の学習の流れとめあてをつかむ。　斉 大造じいさんが残雪をつかまえなかったのはなぜか考えよう	○　第二場面までの大造じいさんの行動や心情を確認する。 ○　大造じいさんの心情や，残雪に対する見方の変化を読み取ることを知らせる。	
とりくむ 35	3　本文の表現から大造じいさんの心情を読み取り，交流する。 個→全 〔伝え合う力〕	○　大造じいさんの心情を考えながら黙読した後，書き込みノートに記入するように指示する。 ○　戸惑う児童には，会話文や大造じいさんが主語になっている文に着目するように助言する。 ○　じいさんの行動や会話文，情景描写から，心情を考え，発表するように促す。	○　叙述をもとに，大造じいさんの心情を考えることができたか。（書きこみノート）
	4　大造じいさんが残雪をつかまえなかった理由をノートにまとめ，意見を交流する。　個→全 〔伝え合う力〕	○　じいさんが残雪をつかまえなかったのはなぜか，残雪に対する心情の変化をふまえてノートにまとめるように指示する。 ○　戸惑う児童には，書き方の例を示し，参考にするように促す。 ○　敬意をもって対等に戦うべき相手として残雪を見るようになったことを確認する。	○　大造じいさんの心情の変化を基に，残雪に対する見方の変化を書くことができたか。（ノート）
	5　読み取ったことを手がかりに，教科書 P116L12～P117L6 まで，朗読練習をする。　ペ	○　大造じいさんのどのような心情を表現したいか，めあてを考えてノートに書くように指示する。書き終えたペアから朗読を聞き合うように指示する。	○　読み取った大造じいさんの心情を基に，朗読の練習をすること

		○　聞き手は手に何も持たず，読み手のめあてを確かめながら聞くように指示する。	ができたか。（朗読）
まとめる5	6　本時の学習を振り返る。 個	○　ノートに，朗読についての自己評価や，友達の朗読を聞いて気付いたことなどを書くように指示する。	

（４）評価

・　大造じいさんの心情の変化を読み取り，残雪に対する見方の変化をまとめることができたか。
・　話し合いを通して読み取りを深め，朗読に生かそうとすることができたか。

３　研究協議

（１）反省

・　第一場面，第二場面の授業から，物語のあらすじをつかめない児童の多いことが分かった。そのため本時では，第三場面を①作戦のはじまりの場面，②ハヤブサに襲われたおとりのガンを残雪が助ける場面，③傷を負った残雪と大造じいさんが向かい合う場面の３つに分けて流れを押さえた後，読み取りの活動に入った。
・　読み取りの段階では，書き込みノートを使用し，叙述に基づいた読み取りができるように心がけた。授業中に書き込む時間を取ったが，個人差が大きく，なかなか書き込めない児童もいた。グループで交流させるなどして，底上げを図るとよかった。
・　大造じいさんが銃を下ろした部分から，「おとりのガンを守るため」，「残雪の仲間思いな行動に感動したから」，「卑怯な方法でしとめたくないと思ったから」という３つの意見があがった。そこで，児童にもう一度考えさせ，意見を発表させたため，時間が足りなくなってしまい，ノートまとめの後の全体交流ができなかった。

（２）協議内容

・　最も力を入れたい後段のため，導入がさらっと流れて良かった。
・　第三場面は内容が多いため，どこを取り扱うか焦点化が必要であり，今回はそれができていた。内容を大きく３つに分けて示したため，分かりやすかった。
・　板書が整理されており，話のあらすじや学習の流れがよく分かった。
・　的外れな意見が挙がったときが，教師の腕の見せ所である。（発表してよかったという気持ちになれるような配慮が大切。）他の意見を聞く中で，自分の意見はやや方向が違うということを自覚させたい。
・　本時の課題を，「大造じいさんが残雪をつかまえなかったのはなぜか考えよう」としていたのは，明確で分かりやすかった。
・　クライマックスの場面で，大造じいさんが銃をおろした理由について，子どもから多様な意見が出た。それを教師が３つに分類し，整理し，子どもに返したため，思考が生まれた。それを繰り返すことで，選択する力，他の意見を聞く力，思考する力がつく。
・　ノートまとめの場面では，型を示したため，子どもが書きやすかった。心情の変化や，理由が

まとめられるようになっていた。

- 朗読の評価基準は何を設定しているか。「気持ちをこめて読む」というような抽象的な基準ではいけない。ペアでアドバイスをし合うのは学び合いの姿としてはよいが，その判断基準が「音読」と区別できていたかどうかが疑問である。

４　考察

今回，書き込みノートを用いることで，本文の叙述にそった読解に取り組んできた。特に，文章を読むことや自分の考えを書くのが苦手な児童にとっては，本文に線を引いて考えたことを書き込むという方法は取り組みやすく，これまでよりも物語の世界に近づくことができた。また，もともと読解力の高い児童や，想像力が豊かな児童にとっても，より確かな根拠を挙げながら考えを深めることができたようだ。朗読で，心情や情景を表現する段階においても，書き込みノートに書かれた意見が反映されていたのは，大きな成果だといえる。

その反面，書き込みノートを活用する上での課題も浮かび上がった。まず，物語のあらすじや，主な出来事をしっかりと確認してから書き込ませることが大切だということである。特に，本時で取り扱った第３場面はとても長く，話が大きく展開していく場面である。そのため，話のおおよその流れがきちんと理解できていない児童は，なかなか線を引いたり書き込みをしたりすることができない様子が見られた。ポイントとなる出来事を事前に押さえておき，そこを中心として書き込みの内容を考えるように助言すれば，より多くの児童が読み取りを深めることができるだろう。

もう一つは，書き込みノートに書いたことをどのように次の活動へつなげていくかということである。今回は全体で相互指名による発表を行ったが，時間がかかるわりにはあまり意見が広がりきらなかった。そのため，本時の課題である「じいさんがなぜ残雪をつかまえなかったか」考えたり，朗読をしたりする部分に，時間を十分割くことができなかった。発表はある程度簡単に済ませ，課題や朗読のしかたについてじっくり考える時間をとった後，根拠として書き込みの内容を挙げるようにする方がよかったかもしれない。

これらの点について検討や改善を重ね，今後の実践に生かしていきたい。

実践Ⅲ　国語　「大造じいさんとガン」　本時５/10

河田　改

１　本授業への思い

本学級は，進んで読書をする児童も多く，日頃のノートを見る限り，読解力の高い児童も見受けられる。しかし，全体的な話の内容は理解できていても，一つ一つの言葉を吟味して，叙述に即した読み取りができるまでには至っていない。また，優れた読み取りができていても，その考えを発表することに消極的な児童も多いため，授業を通してクラス全体としての読み取りが，深まりきらない。

そのため，本単元では書き込みノートを活用した。根拠のある読み取りができるようにするため，主人公である「大造じいさん」の心情が分かる叙述を明らかにした。また，一人読みの時間を十分に確保しようと考えた。個人の考えを十分に練り上げることで，自信をもって仲間と意見交流ができるように授業を組み立てた。

単元の目標として朗読を掲げ，朗読発表会に向けてクラス全体で朗読のレベルが上がっていくように，毎時間ペアで朗読の練習を行うようにした。

2　実際の授業

（1）本時の学習

1）目標

・　登場人物の心情の変化を，叙述に沿って読み取り，朗読に生かすことができる。（読む能力）

・　自分の意見を根拠を明らかにして伝えたり，友達の意見と比較しながら聞いたりすることで，考えを深めたり広げたりすることができる。　（話す・聞く能力）

2）準備

教師・・・挿絵，児童・・・書き込みノート

3）学習過程

□・・・本時の目標

学習形態：個－個別　ペ－ペア　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階分	学習活動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5	1　前時の学習内容を振り返る。　斉 2　本時の学習の流れとめあてをつかむ。　斉 大造じいさんの心情の変化から，残雪に対する見方の変化を読み取ろう	○　前時までの書き込みノートを振り返り，第二場面までの大造じいさんの心情を想起させる。 ○　大造じいさんの心情から，残雪に対する見方の変化を読み取ることを知らせる。	
とりくむ 35	3　第三場面を音読する。個 4　前時を踏まえ，本文から読み取ったことを書き込みノートに記入し，交流する。 個→全 5　大造じいさんの残雪に対する見方がどのように変化したか考えをノートにまとめ，意見を交流する。 個→グ 〔伝え合う力〕	○　大造じいさんの心情に着目しながら，読むように指示する。 ○　書き込みノートに，第一・二場面の読み取りを踏まえ，新たに気付いた大造じいさんの心情を書き加えていくように指示する。 ○　情景描写にも着目するように促す。 ○　教科書 P115～P117 にかけて大造じいさんの残雪に対する見方が大きく変わっていることを確認する。 ○　残雪に対する，第一場面や第二場面での大造じいさんの見方と，P117 で残雪と対峙する場面での見方とを比較して考えるように助言する。 ○　グループの中で順番を決め意見を交流するように指示する。 ○　大造じいさんが，ガン狩りの対象ではなく，敬意をもって対等に戦うべき相手として残雪を見るようになった	○　大造じいさんの心情の変化を基に，残雪に対する見方の変化を書くことができたか。 （ノート） ○　意見交流を通して，大造じいさんの残雪に対する心情の変化を，叙述に沿って読み取り，まとめること

	6　教科書P116L12～P117L6まで，読み取ったことを手がかりに朗読の練習をする。 ペ	ことを全体で確認する。 ○　大造じいさんの残雪に対する心情の変化を，どのように表現するか考えて，朗読をするように指示する。 ○　聞き手は手に何も持たず，読み手の思いが伝わる朗読になっているか，確認しながら聞くように指示する。	ができたか。 （活動の様子） ○　読み取った大造じいさんの心情を基に，聞き手を意識しながら朗読の練習をすることができたか。（朗読）
まとめる5	7　本時の学習のまとめと振り返りをする。 個	○　振り返りカードには友達と朗読を発表し合い，気付いたことや，今後朗読で注意したいと思ったこと書くように指示する。 ○　次時は第四場面の読み取りをして，大造じいさんの人物像に迫ることを伝える。	

４）評価

・　大造じいさんの心情の変化を読み取り，残雪に対する見方の変化をまとめることができたか。
・　話し合いを通して，読み取りを深め朗読に生かそうとすることができたか。

３　研究協議

（１）反省

・　単元の目標が，自分なりの思いを朗読で表現することなので，毎時間まとめとして朗読をする時間をとっているが，時間配分が難しく，本時はそこまでたどり着かなかった。
・　朗読発表会につなげるために，読み取りをしっかりと深めたかったが，少々欲張りすぎた。
・　読み取りに時間をかけた分，書き込みノートをもとにした発表では，教師の意図していた意見は，だいたい上がった。
・　書くことが好きな児童は多いが，なかなか手が挙がらない。グループでの話し合いは活発にできるのだが，全体での発表に対しては消極的であるのでこれからの課題としたい。

（２）協議内容

・　書き込みノートを使って，事前に書き込みをしていることと，それに教師によるチェックがされていることで，子どもたちは自分の意見に自信を持つことができた。しかし，その自信を増やしてあるはずの意見を積極的に発表する子は少なかったので，子どもの活発な姿を引き出すための手立てを今後課題として講じるべきである。
・　全体交流が上滑りな問答になっていたので，子どもの思考を深めるための切り返し，発問，問答を工夫するとよい。
・　叙述に基づいて読み取りを的確に行っていくために，教科書に戻って言葉について考える活動に戻ることも手として考えられた。

・　前時までの取り組みにより，子どもは用意された考えをもとに安心して交流できた。
・　発言の声が小さかったのが残念だった。自分の意見の羅列になっていたのは，聴くことの指導で改善されると思う。
・　『他の鳥だったらどうした？』と，指導案には無かったゆさぶりをかけたことは，再度考えを深めたり，読みを広げたりすることに繋がって行き，よかった。
・　ノートに書く見本があり，参考にしている児童も４～５人いた。慣れて来ると，自分なりのスタイルになり，例にこだわらずに書けるようになっていく。

４　考察

本授業では，あらかじめ書き込みノートに，自分で読み取った内容を書き込んでいたため，自分の考えに自信をもって発表できる児童も増えてきた。しかし，グループの話し合いでは意見が発表できても，全体交流になると意見が言えなくなってしまったり，グループでの話し合いでもノートに書いたことをただ読むだけになってしまったりする姿も見られる。全体交流で意見を出し合うものの，「意見をつなげて深め合っていく」ことがどういうことなのか，子ども自身がイメージできていないところがあると思われる。今後も教師からの言葉がけを繰り返し行い，より高レベルでの意見交流ができる学習集団を育てていきたい。

実践Ⅳ　国語　本時（４／１０）

荒巻　歩美

１　本授業への思い

これまで児童は，書き込みノートを使って物語文を読み取る学習を１年に一度は取り組んできた５年生では物語文を２つ学習し，それぞれ読み取りを進めてきた。しかし，登場人物の気持ちを読み取ったり，行動をまとめたりしても，一部の児童だけが発表して終わってしまったり，恥ずかしいからといって，よい考えでも発表せずに埋もれてしまっていたりして，思うように深い読み取りが進まなかった。また，音読をしても，読み取った気持ちや様子を反映させて音読できる児童も少なかった。今回は今までの経験を生かし，登場人物の気持ちを読み取る時間を十二分にとることで，少しでも人物の読み取りができるのではないかと考えた。また，事前に書き込みノートをしっかりチェックし，子どもの意見の中で鍵となる意見を把握し，意見が出なかった際に意図的に指名することで，発表する機会やよい意見に触れさせる機会になるのではないかと考えた。また，１時間一回は発表することを目標にするよう意識付けた。更に朗読の時間には，どんな気持ちを朗読に生かすかを必ず具体的に目標を立て，朗読する前に目標を発表してから行うなど，子どもがどの活動でも明確な目的をもって取り組めるようにした。

２　実際の授業

(1)本時の学習

１）目標

・　登場人物の心情の変化を叙述に沿って読み取ることができる。（読む能力）
・　意見を交流し，人物に対する考えを深めたり広げたりすることができる。（話す・聞く能力）

２）準備

教師・・・キーワードとなるカード，児童・・・書き込みノート

３）学習過程

□・本時の目標

学習形態：個－個別　ペ－ペア　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階分	学習活動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5	1　前時の学習内容を振り返る。 斉 2　本時の学習の流れとめあてをつかむ。 斉	○　前時までの書き込みノートを振り返り，大造じいさんの心情を想起するよう促す。 ○　大造じいさんの心情の変化を読み取ることを知らせる。 ○　見通しをもって取り組めるよう，学習の流れを確認する。	
	大造じいさんの心情の変化を読み取ろう		
とりくむ 35	3　２の場面を音読する。 個 4　大造じいさんの心情を読み取り，交流する。 （1）残雪の様子が分かる部分に線を引く。 （2）大造じいさんの心情を想像して，書き込みノートに記入する。 （3）大造じいさんの心情の変化について話し合う。 個→全 〔伝え合う力〕	○　大造じいさんの心情に着目しながら，読むように指示する。 ○　書き込みノートに新たに気付いた大造じいさんの心情を書き加えていくように指示する。 ○　情景にも着目するように助言する。 ○　大造じいさんの行動や様子，情景描写から，大造じいさんの心情を考え，発表するように促す。 ○　大造じいさんや残雪の行動や様子，情景などキーワードとなる言葉を板書し，児童の意見をつないでいくようにする。	○　大造じいさんの心情が分かる部分を明確にして，考えを発表することができたか。 （話し合いの様子）
	5　大造じいさんの心情の変化をまとめ，話し合う。 個→全 〔伝え合う力〕	○　大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化に着目してまとめるよう促す。 ○　書き出しに戸惑う児童がいたら「最初は～という気持ちだったが，－に変わった。」と書くよう促す。	○　大造じいさんの気持ちの変化を考えて，自分なりにまとめることができたか。（ノート）
	6　読み取ったことを手がかりに朗読の練習をする。 ペ	○　読み手は朗読のめあてを伝えてから朗読し，聞き手は手に何も持たず，読み手の思いが伝わる朗読になっているか，確認しながら聞くように指示する。	○　心情を伝えることを意識して朗読の練習をすることができたか。（朗読）

まとめる5	7　本時の学習のまとめと振り返りをする。 個	○　友達と朗読を発表し合い，気付いたことや今後朗読で注意したいと思ったこと書くように指示する。	

4）評価

- 大造じいさんの心情の変化を読み取り，残雪に対する見方の変化をまとめることができたか。
- 話し合いを通して読み取りを深め，朗読に生かそうとすることができたか。

5）板書計画

大造じいさんとガン

大造じいさんの心情の変化を読み取ろう

見通しのきく所をえさ場に選んで
会心のえみ
あかつきの光が…
しめたぞ…
ほおがぴりぴりするほど
油断なく地上を見下ろしながら
様子の変わった所には…
残雪のためにしてやられた
「ううん。」とうなってしまいました

学習の流れ

3　研究協議

（1）反省

- 子どもの実態に合わせて，めあてを「大造じいさんの心情の変化を読み取ろう」と設定した。
- 挙手が多くあった。一人一１回挙手をすることが目標だった。心情を読み取る授業では，多くの表現に触れさせ，視野を広げさせたい。
- 朗読と音読の違いを理解している子がまだ少ない。しかし，心情を表現しようと試みている姿も見えたので，今後クラスで追究していきたい。

（2）研究協議

- たくさんの意見が出た。また意見に対する先生の切り返しが良かった。
- 全員挙手が目標だったが，発言できない児童もいた。教師からの指名も必要ではないかと思う。
- 授業の中心部分では，自分の意見を見つめ，深めるためにペア交流を取り入れるなどして，授業に変化をもたせるとよい。
- 心情の変化をまとめる際の文型をもっと提示しても良かったのではないかと思う。
- 自分たちで「タニシばらまき大作戦」と名付けるなど，主体的な学びの仕掛けがあった。
- 「ううん」に込められた思いを読み取る際に，「呆然としている」「感心している」「悔しい思い」などのパターンが出ていた。これだけたくさんの意見が出ることが，話し合いの力なのではないか。また，上記の３つのパターンのどれに自分の考えが近いか立場を決めさせ，議論をさせる授業の進め方もあったのではないかと思う。
- 朗読をさせる箇所は絞らせたい。

４　考察

一人で読み取る時間をしっかりとり，場面ごとに登場人物の気持ちを読み取る数の目標を決めたことで，多くの児童が前向きに読み取りに取り組んだ。毎時間，前時の学習を終えて変わった登場人物の気持ちも加えて書き込みをさせたことと，１時間１発表を目標にしていたことで，ほとんどの児童が挙手をし，様々な意見が出たので，多くの意見に触れられたと思う。しかし，発表できなかった児童もいた。事前に書き込みノートをチェックし，子どもたちの意見を把握していたので，意図的に指名するなど，もっとうまくノートをいかさなければならなかった。どの教科でも，子どものよい意見をいかにいかすかよく考えて授業を進めていきたい。

実践Ⅰ　国語　「大造じいさんとガン」　本時６/10

藤田　芳枝

１　本授業への思い

本単元では，書き込みノートを活用して，まず自分の読み取りを文章化し，それを基に発表できるように授業を組み立ててきた。また，学級全体での話し合いによって読み取りが深まったことを確かめるために，毎時間ノートに５行程度でまとめを書くようにしてきた。本時は物語の最終場面で，物語全体の読み取りのまとめでもある。前時までとは異なり，物語すべてを振り返り，「大造じいさんの人物像」を考えることになる。今までの学習を基に，一人一人が自分の考えをもち，根拠を明確にして伝えられるようにしたいと願い，授業づくりを行った。

また，単元の目標は朗読であるため，読み取りを生かした朗読のめあてをもち，ペアで聞き合うことができるようにしたいと考えた。

２　実際の授業

（１）　本時の学習

１）目標

- 登場人物の心情の変化を叙述に沿って読み取ることができる。（読む能力）
- 話し合い，意見を交流することで，人物像に対する考えを深めることができる。

（話す・聞く能力）

２）準備

教師・・・掲示用カード，児童・・・書き込みノート

３）学習過程

［　　］・・・本時の目標

学習形態：［個］－個別　［ペ］－ペア　［グ］－グループ　［全］－全体交流　［斉］－一斉

段階 分	学習活動	教師の支援と留意点	評価（ 評価方法）
つかむ 5	１　前時の学習内容を振り返る。［斉］ ２　本時の学習の流れとめあてをつかむ。［斉］	○　前時の学習のキーワードを参考にして，大造じいさんの心情の変化を想起するように促す。 ○　大造じいさんの残雪に対する見方の変化を読み取ることを知らせる。 ○　意欲的に取り組めるように，学習の	

	大造じいさんの心情の変化を読み取り，人物像をまとめよう	流れを確認する。	
とりくむ 35	3　４の場面を音読する。 個 4　大造じいさんの心情を読み取る。 ①残雪の様子が分かる部分に線を引く。 個 ②大造じいさんの心情を想像して，書き込みノートに記入する。 個 ③大造をじいさんの心情の変化について話し合う。 全 〔伝え合う力〕 5　大造じいさんの人物像について話し合う （1）大造じいさんの人物像をノートにまとめる。 個 （2）考えを発表し合う。全 〔伝え合う力〕 6　読み取ったことを手がかりに，朗読の練習をする。ペ	○　大造じいさんの心情に着目しながら，一人一人が自分のペースで読むように指示をする。 ○　残雪が主語になっている文に着目するように助言する。 ○大造じいさんの心情をさらに書き加えるように指示をする。 ○　情景に着目するように、助言する。 ○　大造じいさんの残雪への思いが表現されている言葉を板書して，児童の発言をつなぐようにする。 ○　大造じいさんの残雪への見方が大きく変わった場面を確認する。 ○　残雪との関わりの中で，人物像を考えるように助言する。 ○　大造じいさんの残雪への畏敬の念や猟師としての誇りに気付くように支援する。 ○　読み手はめあてを伝えてから読み，聞き手は，読み手の思いが伝わる朗読になっているかを確認しながら聞くように指示する。	○　大造じいさんの心情が分かる部分を明確にして，考えを発表することができたか。 (話し合いの様子) ○　大造じいさんの人物像を考えて，自分なりに書くことがきたか。 （ノート） ○　心情を伝えることを意識し，朗読の練習をすることができたか。 （朗読の様子）
まとめる 5	7　本時の学習のまとめと振り返りをする。 個	○　本時の学習を振り返り，自分の朗読を振り返るように指示する。 ○　次時は，好きな場面を選んで朗読の練習をするることを知らせ，意欲付けを図る。	○　学習を振り返りまとめることができたか。 （振り返りカード）

３　研究協議

（１）反省

- ３の場面の「ひきょうなやり方」と今回の第４場面の言葉の結びつけが弱かった。
- 書くことは得意だが，発表が苦手な児童が多いので，教師からも促していきたい。
- 子どもの語彙が少ないので，言いたいことを表現できない。読書や国語辞典の活用を推奨していきたい。

（２）協議内容

・子どもの意見を教師がつなげているのが良かった。
・書き込みノートを事前に読んで，子どもの意見を把握していることが良かった。
・ふりかえりの場面で，書き出しの指導などされていて良かった。
・子どもの意見を，教師の発問により深めていて良かった。
・教室掲示に，学びの足跡が見えて良かった。
・「いいです。」と子どもが反射的に言っていたが，本当に良いのか疑問である。
・ペアの組み方を毎時間変えるなど，工夫している。
・短冊の色分けがしてあり，分かりやすかった。
・ノートチェックを細かくしており素晴らしい。
・子どもがとても落ち着いて，集中して授業を受けていた。
・つなぐことは，子どもだけでなく，教師もつなぐことが大事である。

４　考察

子どもは，あらかじめ一人読みをして書き込みノートに書いていたため，進んで発表できていた。しかし，発表するだけに終わってしまい，友達の考えに対して意見をもち，さらに深めていこうとすることが難しい。また，毎時間書く活動を取り入れてきたので，どの子も自分なりにまとめて文章で表すことができるようになった。しかし，「自分の考え」となると，尻込みして進んで発表することができない。今後も，ペアやグループの中で，声に出して伝え合う活動を充実させていきたい。また，教師からも働きかけ，大いに褒め，認めることで自信がもてるようにしていきたい。

朗読については，大造じいさんのどんな気持ちを表現するのか，具体的にめあてを書くことができるようになってきた。しかし，実際に声に出して読んでも，その気持ちが伝わらない場合がある。「読み取り」と「朗読」をどのようにつないでいくかを意識して，今後も指導していきたい。

実践Ⅵ　国語（書写）　「手紙を書く」　本時１/２

若原　公代

１　本授業への思い

本来，書写の学習は，心を落ち着かせ個人で課題に向かう時間と思われる。しかし，本校の現職教育のテーマである「伝え合い　高め合う　城東の子　～成就感を味わい自己効力感を高める活動の充実」を目指し，本時の授業に取り組んだ。

日頃から，日本の伝統である毛筆に親しみ，書くことの楽しさを実感させるような授業を心がけるようにしてきた。本時では，以前に学習した「暑中見舞い」や「遊字アート」の学習を生かして，さらに味わいのある自分らしい文字を毛筆で表現し，年賀状を作成することにした。また，友達と作品を鑑賞し合う時間を設定した。それぞれの文字の個性や良さを見つけ，伝え合うことにより，自分の文字に自信をもち，心のこもった手書きの年賀状を作成することに対する意欲を高めたいと考えた。

２　授業の実際

（１）単元への思い

子どもに身につけてほしい力や態度（子どもの姿をとらえて）
○　書写で学習した内容を，他教科での学習や日常生活の中でも生かして書こうとする態度。

○　自分の身の回りや学校生活の中で，文字を書いて伝え合うことの意義や役割について考え，表現する力。 ○　文字を書くときの姿勢と筆記具の持ち方に気をつけて丁寧に書こうとする態度。 ○　書写学習を通して，伝統と文化を尊重し，我が国と郷土を愛する態度。	
単元の目標	○　日本の文字の特徴について理解し，毛筆の良さを生かして，丁寧に書くことができる。 ○　手紙やはがきの形式を理解し，配列を整えて書くことができる。 ○　日本に受け継がれてきた伝統を感じ取りながら，心を込めて，表現することができる。
手立て	1　より効果的な学び合いが進められるように，必ず個の考えをもってからペアやグループの学習に臨むことができる学習過程を工夫する。 2　学習の流れが分かり，見通しをもって学習を進められるようなワークシートを工夫する。 3　児童が自分の考えを自由に記入することができるようなワークシートを作成する。

（２）単元の構想（２時間完了）

□・・・本単元　▭・・学習内容　○・・・時数

話し合い活動を通して，日本の文字の特徴や良さを理解し，配列や文字の大きさに気を付けて書く。①　本時１／２

⇩

相手意識をもって心を込めて丁寧に年賀状を書く。②

（３）本時の学習

１）目標

・　日本の文字の特徴や良さについて話し合い，作品に生かそうとする意欲をもつことができる。（関心・意欲・態度）

・　用紙全体の大きさに対する文字の大きさや余白のとり方に気を付け，配列を整えて書くことができる。（言語についての技能）

２）準備

教師・・・ワークシート・掲示用資料，児童・・・習字道具

３）学習過程

□・・・本時の目標

学習形態：個－個別　ペ－ペア　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階分	学習活動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5	1　年賀状の例を見て，それぞれの目的や良さについて考える。斉 2　本時の学習の流れとめあてをつかむ。斉	○　それぞれの年賀状の違いに気付き，どのような年賀状がもらって嬉しいかを考えるように呼びかける。 ○　本時のめあてを示し，学習の流れを伝える。	

	日本の文字の特徴や良さについて話し合い，配列に気をつけて自分らしい年賀状を書いてみよう		
とりくむ35	3　三種類の書体を比較し，それぞれの特徴や良さを考え，交流する。 ①文字の特徴からその良さを見つけてワークシートに記入する。 個 ②ワークシートをもとに全体で考えを交流する。 全 4　話し合ったことを参考にして練習する。 ①自分が書きたい書体を選び年頭のあいさつ文を練習する。 個 ②友達の文字を鑑賞し，良いところを伝える。 グ 〔伝え合う力〕	○　かな，楷書，行書で書いた文字を提示する。 ○　文字を見て，個人で気付いたことを自由にワークシートに記入するように指示する。 ○　友達の考えを最後までしっかり聞くことを確認する。 ○　はがきに対する文字の大きさや余白のとり方に気をつけて配列よく書くように指示する。 ○　ゆっくり，丁寧に書くように助言しながら個別指導する。 ○　鑑賞の視点を示し，友達の文字の良さを見つけて伝えるように促す。	○　自分の考えをワークシートに記入することができたか。 （ワークシート） ○　友達と考えを交流することにより，それぞれの文字の味わを感じ取ることができたか。 （話し合いの様子） ○　配列を整えて丁寧に書くことができたか。 （活動の様子）
まとめる5	5　本時の学習のまとめと振り返りをし，友達から学んだことを伝え合う。 全	○　本時の感想をワークシートに記入するように指示する。 ○　友達から学んだことを伝え合う時間を確保する。 ○　次時は，年賀はがきに書くことを知らせる。	○　学習を振り返り感想を書くことができたか。 （ワークシート）

（4）評価

- 日本の文字の特徴や良さについて，話し合ったことをもとに配列を整えて丁寧に練習することができたか。

3　研究協議

（1）反省

- 本来，書写の授業では個人で静かに練習することがのが大切であると思う。しかし，本校の現職教育のテーマを考え学び合いを取り入れると，本時のような授業になったが，書く時間が減るという，ジレンマがあった。
- 今回の年賀状を書く授業は，はがきに書く初めての授業ではなく，夏休み前に暑中見舞いを書く体験をしている。その時は，フェルトペンを使用したが，楽しそうに書いていた。
- 遊字アートやはがきに書く体験なども取り入れて書くことを楽しむ授業を進めている。
- 習字を習っていないから，字が下手だから書写が嫌いというのではなく，一人一人が味わいのある字が書けるということを感じてほしかった。
- 一枚目は戸惑っていたが，二枚目以降は思い切って書いていた。
- 子どもは，意図したことをきちんと学べていたと思う。

（２）協議内容

- きれいな字でお手本を示せるのは，やはりよい。
- 練習用紙が４枚だったが，適当であった。子どもは集中して書けていた。
- 小学校は基本的に楷書を指導するが，今日は行書も扱い，子どもが意欲的に取り組んでいた。
- 導入時に実物の年賀状や毛筆で書かれためあてを提示するなどの工夫が見られたので，子どもはとても引き込まれていた。
- しっかり振り返りの時間が取られていてよかった。１時間の授業の中で，交流する時間，個で練習する時間，振り返りの時間が，それぞれしっかり取られており，時間配分もよかった。
- 字の美しさを子どもが実感できるということは，とても大切である。
- 子どもらしさが出た字で，のびのびと書けていた。
- 書写は「字をきれいにする」授業と捉えがちであるが，本時は，字を書く楽しさを感じられる授業だった。「字をきれいにする」授業では上手下手の差が出るだけだが，今日の授業はその差が個性になった。
- 「友達のよいところを見つける」ことで，自己効力感を高められた。
- 次の時間は実際にはがきに書くなど，次の授業への期待（楽しみ）をつないでいく授業になっていた。

４　考察

子どもたちは，それぞれの個性を大いに発揮し，予想以上に素晴らしい年賀状を書き上げることができた。振り返りカードには「どんな文字で表現しても，必ずそれぞれの個性が出て，味わい深くなることが分かった。」と書かれており，指導者の思いが伝わったようで喜ばしい限りである。友達との交流を通して，互いの良さを見つけることで，自分の文字に対する自信にもつながってくれたらと願う。

今後も，一人一人の個性を大事にし，それぞれの個性が認められるような心温まる雰囲気作りに努め，自己効力感にもつながるような学びを創り出していきたい。

実践Ⅶ　音楽「アンサンブルの魅力」　本時３／６

遠藤　久美子

１　本授業への思い

本クラス５年４組は，明るく活発ではあるが，意見を述べる児童が限られてしまう傾向にある。昨年，市の音楽会で本格的に合唱に取り組んだが，教師主導による学年での全体練習が中心であった。５年生になり，２部合唱曲「君をのせて」でクラスを２パートに分け，リーダーや鍵盤楽器で音取りをする児童を中心に，自分たちでパート練習をした。ただ，１パートの人数が１５～１６人と多いため，意見が出にくいなどの問題点があった。本題材の教材曲「ハロー・シャイニング　ブルー」（２部合唱曲）では，パートをさらに２つに分け，全体で４つのパートにして１グループの人数を７～８人にした。そうすることで，クラスの中で２つの合唱ができ，それを互いに聴き合うことでより客観的にアドバイスし合い，自分たちの合唱は自分たちの思いでつくりあげていくという態度の育成を目指して授業を立案した。また，表現の工夫など少人数のほうが，より意見が出しやすく，まとめやすいという効果を期待した。

本時は３時間完了の２時間目で，音程・リズム・言葉の発音についてパート練習した後，クラスを

２つに分け，互いの合唱を聴き合いアドバイスし合って，よりよい合唱にしていくというねらいで実践した。

２　実際の授業

（１）手立て

- 音取り用のテープの用意をした。(音取り担当の児童が欠席したり，弾ける段階まで達していない場合の為)
- グループでの話し合いをまとめやすくする為に，ミニホワイトボードに楽譜を貼って，意見を書き込めるようにした。
- 学習カードを工夫し，楽譜に友達の合唱を聴いての気づきや感想を記入したり，表現の工夫を考えるために歌詞を読み取ったり，音楽の要素に着目するようにしたりした。

（２）学習指導案

□・・・本時の目標

学習形態：個－個別　ペ－ペア　グ－グループ　全－全体交流　斉－一斉

段階 分	学習活動	教師の支援と留意点	評価（ 評価方法）
ひらく 5	1　前時の学習内容を想起し，各パートの問題点を確認する。 斉 2　本時の学習課題をつかむ。 斉 互いの声をよく聴き合って二部合唱をし，音程やリズム・言葉の発音についてアドバイスし合う	○　学習カードを振り返ること　で，前時の反省の上に本時があることを，意識するように促す。 ○　学習の見通しがもてるよう活動の流れを示す。	
とりくむ 35	3　各パートに分かれ音程・リズム・言葉の発音に気を　付けて練習し，課題点をホワイトボードの楽譜に書き込む。 グ 4　学級を二つに分けて合唱を聴き合い，アドバイスし合う。 全	○　母音・子音の違いや，のばす音の長さ，お腹の支えを意識するよう促す。 ○　リーダーを中心にまとまるよ　う，各パートを巡回しながら，支援する。 ○　前時に書き込んだ点をふまえ　て，練習するよう促す。 ○　楽譜に気付いた点を書き込み　ながら聴くよう指示する。 ○　グループ練習でのホワイトボ　ードを参考にし，アドバイスされた点を拡大楽譜に書き込み、練習に生かすようにする。 ○　二部合唱の部分を取り出して練習	○　グループで協力して練習し，問題点を楽譜にチェックすることができたか。 (活動の様子や楽譜) ○ 友達の声を聴いて，気付いたこと

	〔伝え合う力〕 5　４で出た課題点をもとに全員で合唱を練習する　。斉	するように支援する。	を観点に基づいて発表できたか。 （発言・楽譜）
まとめる5	6　本時を振り返り次時の予告を聞く。　個	○　次時の学習への意欲付けを図　る。 ○　曲想を工夫して表現することを伝える。	○　学習内容を振り返ることができたか。 （学習カード，発言）

（４）評価

・ グループで協力して，課題を意識しながら，パート練習をすることができたか。
・ 友達と一緒に声を合わせて歌う楽しさを感じながら合唱するとともに，よく聴き合ってアドバイスし合うことができたか。

３　研究協議

（１）反省

・　以前，合唱の教材ではパート練習は２グループ（１５人ずつ）だったが，まとまりにくかった。そこで，今回は，意見が出やすいように４グループに分けた。しかし，人数が少ないと，心細いのか，声が小さくなることもある。ただ，意見などは話しやすいのか，和気あいあいとやっていた。
・　学習カードを工夫して，自分の気付きや友達の意見を書き込めるものにした。評価にもつなげていきたい。

（２）協議内容

・　グループの中で，聞き役を作る手立てが効果的であった。しかし，聞き役がいないグループもいたので，聞き役になる回数や時間を区切る等，具体的な指示があると分かりやすい。
・　楽譜には赤（前時）と青（本時）で色分けして書き込むことで，前時の学習と結び付けやすいようになっていた。
・　まとめ役のリーダーと音楽的なリーダーが互いに補い合って，グループをまとめていた。
・　お互いに声を聞き合うことがすばらしい。子どもの気づきと教師の専門的な助言で子どもたちが高まっていった。
・　教師の的確な助言が子どものやる気を引き出し，子どもも自信をもって歌うことができるようになった。最後まで全員が集中して歌うことができていた。
・　学級での「今月の歌」の指導のポイントを以下のようにしたい。
〇子音をはっきりと
〇高音の発声に気をつけて（腹式呼吸）
〇男子の発声を低い地声から頭声発声へ

４　考察

パートの人数を減らすことで，話し合いは活性化され，互いの合唱を聴き合うことでアドバイスし合うこともできた。反面，グループをまとめるリーダーや音取りのピアノ係など人材が必要となる。また，人数が減ることで一人一人が自信を持って声を出していかなければいけない点などを，逆にプラスの方向へつなげることができるよう，手立てを考えていくことが大切と感じている。また，いろいろ感じ方の違いが出てくる表現の工夫を，グループや学級でどうまとめていくかが今後の課題であると感じている。

おわりに

本年度は，国語の「大造じいさんとガン」を学年研究で進めてきた。それぞれの授業の問題点を改善しつつ，次につなぐことでき，意義あるものとなった。また，学年共通の基盤があっても，それぞれの学級の子どもの実態とそれに対する授業者の思いによって，指導過程や授業展開は異なる。学年全体が共通理解の基で指導を進めていく必要性と共に，常に子どもを見つめ，子どもに寄り添う大切さも感じた。

音楽，書写の授業研究では，担任の授業では見られない子どもの姿に触れたり，客観的に子どもの伝え合う力を見つめたりすることができた。専門性の高い授業ではあるが，伝え合うことにより，技術だけではなく，子どもの心を育てることを学ぶことができた。

学年では，伝え合う力を育てるために，理由や根拠を明らかにして書く活動を重視してきた。そのため，書く力は随分身に付き，文章を基に考えを述べることで，ペアやグループの中で伝え合うことができるようになった。

今後も，交流の意図を明確にして，いろいろな形で交流することにより，聞き合い，高め合おうとする気持ちを育てていきたい。

第６学年　実践報告
伝え合い自分の考えを深めることができる子を目指して

はじめに

本学年は，1年生の頃より，伝え合う活動に力を入れて取り組んできた。話し合いなどは上手にできており，成果は確実に出ていると感じる。しかし，教科の力を伸ばすための手立てや伝え合った結果何を身に付けさせたいのかというところが不十分で，考えを深めるところまで至ってないように思う。

本年度は体育と国語の2教科について重点的に取り組み，伝え合う場面を教科の力を伸ばすために有効に設定できるよう学年で協力して実践に取り組んだ。

実践Ⅰ　体育　バスケットボール

西　沙織

１　本授業への思い

児童が主体的に学習に取り組み，互いに高め合うための手立てを以下に示す。

①　主体的に課題解決に取り組むためにウォーミングアップドリルを活用する。

- 主運動に備えた準備運動を行う。
- ドリブル・パス・シュート・２対２・２対３をチームの課題に応じて行う。
- カットインプレー・速攻作戦など，チームの課題に応じて行う。

毎時８分間とし，授業の始めに各チームの課題に沿った練習を行う。

②　自分の役割が分かるように，フォーメーションを学習する。

カットインプレーと速攻作戦の２つのフォーメーションを学習し，ゲームで活用する。

③　学び時計によって学習の流れを示し，活動を円滑にし，運動量を確保する。

学習目標に到達するための手順を伝えることで，一つ一つの活動をより意欲的に取り組めるようにする。

④　コンビチームを用いて仲間と交流し，互いの動きのよさに気付き，より正しい動きへと高めていけるようにする。

⑤　「ナイスチームワーク6か条」を提示し，その中の一つができるとシールがもらえる取り組みをし，児童が勝ち負けにこだわらずに試合に臨み，運動が苦手な児童にとっても意欲がもてるようにする。

この４つの手立てをもとに，バスケットボールが楽しいと感じ，さらには，運動を苦手とする児童も成就感や達成感を味わってほしいとの願いをもちながら，本実践に取り組んだ。

２　実際の授業

第１時　<u>単元の目標と内容を知る。ルールを守って，試しのゲームの中で課題を見つける。</u>

○　城東中学校バスケ部の練習風景のビデオを観て，単元のゴールのイメージをもつ。

○　試しのゲームをして，自分たちの動きと比較して課題を明確にする。

○　審判のやり方を学習し，ルールを知る。

第２時　ウォーミングアップドリルの内容を学習する。シュートが入りやすい場所を見つける。

○　３対１を行い，効果的なパスやドリブルの仕方について考えさせ，どういう時に活用すると有効かを明確にして練習に取り組む。

○　ゴール下からシュートを撃ち，入った場所にシールを貼る。シールの集まるところが，入り易い場所であると認識する。

第３時　ウォーミングアップドリルを練習する。簡単なルールでゲームをして，ボールに集まらない方法を考える。

○　パス・ドリブル・シュート，３対１のパスゲームなどを練習する。

○　コートの両サイドに制限を設け，工夫したルールで行う。横に広がってパスを回すと，よりスムーズにボールがゴール下に運べるということを体感する。

第４時　カットインプレーの仕方を学習する。簡単なゲームをして，自分がどう動いて，だれにパスをするのかを理解する。

○　カットインプレーの仕方を学習する。

○　作戦ボードを使って，自分の場所や動き方を明確にする。

○　ハーフコートでカットインプレーを使った確かめのゲームをする。

第５時　カットインプレーをマスターする。得点しやすい場所でパスを受けてシュートができるようになる。

○　カットインプレーを練習する。

○　作戦ボードを使って，自分の場所や動き方を明確にする。

○　得点しやすい場所に動きながらパスがもらえるように練習する。

第６時　速攻作戦を知り，チームで作戦を立てて確かめのゲームをする。

○　速攻作戦の仕方を学習する。

○　作戦ボードを使って，自分の場所や動き方を明確にする。

○　ゲームの中で，速攻作戦を生かす練習をする。

第７時　自分の役割を理解し，ゲームの中でカットインプレーや速攻作戦を１回でも多く成功させる。

○　カットインプレーと速攻作戦の仕方を確認し，ゲームの中で一回でも多く活用する。

○　作戦ボードを使って，自分の場所や動き方を明確にしてゲームを行う。

第８時　チームで作戦を立てて確かめのゲームをする。

○　既習した動きをチームで確認して練習する。

○　作戦ボードを使って，自分の場所や動き方を明確にする。

○　ゲームの中で，チームが考えた作戦を生かすための練習をする。

○　確かめのゲームをする。

第９時　チームで作戦を立てて確かめのゲームをする。
○　チームで考えた作戦で，どの動きが成功し，逆に失敗したのかを話し合う。
○　話し合った作戦ができるように練習をする。
○　作戦ボードを使って，自分の場所や動き方を明確にする。
○　まとめのゲームをする。

（２）指導例　第7時

１）目標

・　自分の役割を理解しゲームの中で，カットインプレーと速攻作戦を生かすことができる。（思考・技能）

・　チームで作戦を立てて，安全に楽しく運動することができる。（関心・意欲・態度）

２）準備

・　教師・・・ホワイトボード，学び時計，作戦板，得点ボード

・　児童・・・学習カード，筆記用具

３）学習過程

□……本時の目標　　学習形態：個－個別　ペ－ペア　グ－グループ　斉－一斉

段階分	学習活動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5	1　健康観察・人員点呼をする。 斉 2　前時をふり返り課題を確認する。 個 3　本時の学習内容をつかむ。 斉 自分の役割を理解し，ゲームの中でカットインプレーや速攻作戦を１回でも多く成功させよう	○　見学者は，安全な場所で見学するよう指示する。 ○　味方が走る方向にパスを出すと，ディフェンスにパスカットされにくいということを確認する。 ○　めあてを確認するとともに，本時の学習の流れを説明する。	○　本時の学習内容をつかみ，意欲をもつことができたか。 （態度・姿勢）
とり	4　準備運動・ウォーミングアップドリルをする。 グ ・３対１ ・シュート ・カットインプレー ・速攻作戦 ・コピードリブル	○　主運動に備えてけがをしないようにしっかりと行うよう指示する。 ○　パスを繋ぐことが一番早くゴール下までボールを運ぶことができると伝え，スムーズなパスを目指した練習するよう指示する。	○　チームの課題を解決するため内容を選択して取り組めたか。 （活動の様子）

く む 36		○　自分たちのチームの課題を解決するために，練習するよう指示する。	
	5　チーム会議をする。グ ・自分の場所を確認する。 ・サインの確認をする。	○　事前にチームで考えた作戦ボードをもとに，自分の役割を確認することを伝える。	
	6　ゲームを行う。　グ **【伝え合う力】** ・４分間で交代し，その都度チーム会議をする。 ・４対４で行う。 ・３秒ルールは，なしで行う。	○　カットインプレーと速攻作戦をゲームの中で１回でも多く活用できることを目標として行うことを伝える。 ○　ゲームを観る側のチームには，パスがもらいやすい場所やシュートが入りやすい場所に移動できているかを観るよう指示する。 ○　パスの仕方・走る方向・声など，具体的にアドバイスするよう促す。	○　パスがもらいやすい場所やシュートが入りやすい場所に走り込むことができたか。 （活動の様子） ○　シュートにつなげるためのパスの出し方や走り方に気づくことができたか。 （観察）
	7　カットインプレーが上手にできているチームを観て全体で確かめる。斉 ・　動きに合わせてパスを出すことができている。 ・　声をかけ合ってできている。 ・　パスがもらいやすい所に移動できている。 ・　シュートが入る場所に移動できている。	○　ボールをゴールまで，上手に運べたのはどんな動きができていたからなのかを考えるよう促す。 ○　気づいたということは，自分の中で，きちんと理解できている証拠であり，次時に生かしていけることであると伝える。	
	8　確かめのゲームをする。 ・　ハーフコートで行う。 グ	○　チーム会議でアドバイスしてもらったことや，上手にできたチームから得た技能のポイントに気を付けてゲームするよう伝える。	
ま	9　整理運動をする。　斉	○　運動してよく使った部位を	

とめる 4	10　チームで振り返りをする。 ㋗ 11　次時の予告を聞く。㋙	しっかりとほぐすよう促す。 ○　ボールにたくさん触れたことやシュートに繋がるようになったことなど，よかった所も伝え合い互いに賞賛し合うよう指示する。 ○　作戦ができたかどうかを振り返るように促す。 ○　次時は，学習してきたこと生かして，ゲームすることを告げる。	

4）評価

・　カットインプレーや速攻作戦を活用してゲームを組み立てることができたか。

3　研究協議

（1）反省

①　教科としての力を高める学び合いができていたか。

・　グループでの作戦会議では，専門用語を使って自分の考えを伝え合うなど，互いに高め合う話し合いができていたグループがあった。

・　児童相互の声かけが活発に行われ，それによってチームの力が向上していると感じた。

・　7時間目だからかもしれないが，指示がなくても動くことができている。隠れた指示がいきていて，主体的に運動ができている。

・　１グループ4人にしたことで，運動量の確保や技術的な指示が有効に機能していた。

・　的確なアドバイスをしていた児童を見て成長を感じ，驚いた。

・　ウォーミングアップドリルが，チームの技能向上に役立っていた。

②　児童が自ら考え，主体的に運動できる手立てがとれていたか。

・　プレー中，「速攻！」など，めあてを意識した声が出せていた。

・　作戦板が効果的に使えていた。

・　児童たち自身がよく考えて動いていた。　→　指導の積み重ねの賜物である。

・　学び合う技能のポイントをとらえており，指導が的確だった。

・　ポイントを意識させ，デモンストレーションをさせていたので，理解しやすい児童が多かったと思う。

・　全体に指導するとき，腰を落とし児童と同じ目線で指導するという支援は児童と一緒に取り組むという姿勢を伝えるものとして効果的だったと思う。

・　チームワークを大切にするという指導がよかった。

・　皆，積極的に動こうとしていた。

③　教師の支援は自己効力感を高める活動につながったか。

・　苦手な児童も逃げずにパスをもらい，皆と一緒に活動することができていた。

・　作戦ボードをうまく使って，役割分担や動きなどを的確にアドバイスしていた。

・　難しいルールの中で，楽しくゲームができていた。

・　「速攻」と「カットインプレー」という目標が明確で，児童にも浸透していた。
・　「ナイスチームワーク6か条」の中の一つができるとシールがもらえるという取り組みは，児童が勝ち負けにこだわらずに試合に臨むことができ，運動が苦手な児童にとってもやる気につながっていた。
・　教師の児童に対する語りかけが，子どもの目線の高さになっていて，とてもよかった。
・　バスケットボールのルールがよく理解できていない児童に対して，教師が具体例を示して説明するなど，目立たないところでの支援がなされていた。

④　児童は，自分の役割を理解し，仲間と関わりながら積極的に運動することができたか。

・　観戦している児童が，全体の動きを見て，的確なアドバイスをしていた。
・　男女混合の4人1チーム設定がよく，お互いを認め合えていた。
・　8人組の交流がしっかりとできていた。
・　友達が言ったことを素直に受け止めていた。
・　どの活動でも児童は自分の役割を理解していた。
・　ナイスチームワーク6条が，自己評価の基準になっていたので，意欲的に動くことができていた。
・　審判をしている児童も一生懸命取り組んでいたし，試合をしている児童も審判の判定に従っていた。
・　児童が自分の役割をよく理解していたので，チーム内で協力して試合をすることができていた。
・　チームが４人なので，児童がボールに触れることがたくさんできていた。また，それぞれの役割分担がしっかりされているので，仲間と関わりながら楽しんで運動することができた。

⑤　児童は，互いの動きを見合い，技術向上につながるアドバイスができていたか。

・　審判をしている児童も，チーム会議などに積極的に参加し，的確なアドバイスしていた。
・　ホワイトボードを活用して，それぞれの動きを反省したり，改善点を伝えたりするなどして，技能向上につながるアドバイスができていた。
・　同じチームでの話し合いが多かったが，対戦したチームとの話し合いの場を設定すると，新たな視点でのアドバイスができたのではないか。
・　苦手な児童も逃げずにパスをもらい，皆と一緒に活動することができていた。

⑥　その他

・　役割分担がはっきりしていたので，自信をつけた児童や配慮できる自分に気づいた児童がいた。
・　１グループ4人にしたこととナイスチームワーク6条を提示したことで，運動能力の低い児童が目立たず，有効に運動するもととなっていた。
・　キビキビとした動きができていた。日頃の指導がしっかりなされているからだと思う。
・　ダブルドリブルやトラベリングなどの違反はあったが，厳しく違反にしなかったことで，今回のめあてをより意識して活動ができたと思う。ただ，違反であることをしっかりと指導しているので，問題はないと思う。

・　運動量をしっかりと確保しながらの学び合いは，よかった。

4　考察

９月と実践を終えた11月に同じアンケートを行った。以下はその項目と結果である。

①バスケットボールは好きですか？

＜事前＞

1	とても好き	８人
2	まあまあ好き	１３人
3	あまり好きではない	９人
4	嫌い	２人

＜事後＞

1	とても好き	１６人
2	まあまあ好き	１４人
3	あまり好きではない	２人
4	嫌い	０人

②３，４の人に聞きます。なぜ好きではないのですか？（記述式：事前）

- どこに行けばいいかが分からない
- だれにパスをしたらよいのかが分からない。
- ボールになかなか触れない。

③１，２の人に聞きます。なぜ好きになったですか？（記述式：事後）

- どこに行けばいいかが分かるようになった。
- だれにパスをしたらよいのかが分かるようになった。
- ボールによく触れられる。
- チームで考えた作戦が成功した。
- コンビチームからアドバイスをもらえて上手になった。

④バスケットボールの審判ができますか？

できる	４人
できない	２８人

できる	２７人
できない	５人

⑤試合中，いつも同じ人がボールを触っている状態になると思いますか？

思う	２５人
思わない	７人

思う	４人
思わない	２８人

①のアンケート結果から分かるように，バスケットボールを好きと答える児童が，実践前では65％だったのに対し，実践後は，９３％の児童が好きと答え，増加している。好きになった理由の中には，「自分がどこに行き，だれにパスをすればいいのかが分かる。」また，「ボールにたくさん触れるようになった。」とある。このように，児童一人一人がチームにとって必要な存在であり，皆で上手になっていこうとする今回の取り組みは，ボール運動が苦手とする児童も含めて，達成感・成就感を味わうことができたのではないかと思う。さらに，84％

もの児童が審判できるようになった。特定の児童が審判をするのではなく，互いにルールを教え合い，ルールを守って安全に楽しく運動しようとする姿勢が，十分に伺える結果である。事前の記述式のアンケートにあった，ボールにほとんど触れられないという児童も，チームで互いにアドバイスをしながら高め合うことで，パスが繋がる喜びや，繋がることで得点に結び付くという経験が，多くできたのではないかと感じる。また，授業の後半では，与えた２つのフォーメーションを応用し，ホワイトボード上で，人に見立てた磁石を使ってチームで作戦を立てた。自分の場所を確認するとともに，いかに相手チームが思いつかないものを考え出し，それを成功させるためにはどんな動き，練習が必要かということについて，児童が主体的に学び合う様子も見られた。

このように，運動を苦手とする児童も含めて，一緒に上手になっていこうとする意識に立った今回の実践では，勝ち負けに執着することなく，運動すること自体に充実感を味わうことができたように思う。一方，シュートがなかなか入らないという児童がいた。シュートが入るようになるには，もう少し練習をする時間が必要である。限られた時間数の中で，児童にたくさんの成功体験を積ませていくためにも，今後も，簡易化したルールで行うようにしたり，主体的に考えて動けるような工夫をしたりして，実践を重ねていきたい。

実践Ⅱ　体育２

１　指導例　第７時

立田　美樹

（１）目標

- 自分の役割を理解し，チームで考えた作戦を１回でも多くゲームの中で成功させることができる。（思考・技能）
- チームで作戦を立てて，安全に楽しく運動することができる。（関心・意欲・態度）

（２）準備

- 教師・・・ホワイトボード，学び時計，作戦板，得点ボード
- 児童・・・学習カード，筆記用具

（３）学習過程

□　・・・本時の目標　　学習形態：個ー個別　ペーペア　グーグループ　斉ー一斉

段階	分	学習活動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ		1　健康観察・人員点呼をする。 斉 2　前時をふり返り課題を確認する。 斉	○　見学者は，安全な場所で見学するよう指示する。 ○　速攻作戦とカットインプレーなどの作戦を成功させるためには，自分の役割を理解していることが大切だということを確認する。	

5	3　本時の学習内容をつかむ。 斉	○　めあてを確認するとともに，本時の学習の流れを説明する。	○　本時の学習内容をつかみ，意欲をもつことができたか。 （態度・姿勢）
	自分の役割を理解し，チームで考えた作戦を，１回でも多くゲームの中で成功させよう。		
とりくむ 36	4　準備運動・ウォーミングアップドリルをする。 グ ・３対１ ・シュート ・カットインプレー ・速攻作戦 ・コピードリブル ・チーム作戦	○　主運動に備えてけがをしないようにしっかりと行うよう指示する。 ○　自分たちのチームの課題解決に向けた練習をするよう促す。 ○　事前にチームで考えた作戦を，自分の役割・チーム作戦の合図を確認しながら行うことを伝える。	○　チームの課題を解決するために内容を選択して取り組めたか。 （活動の様子）
	5　ゲームを行う。 グ **【伝え合う力】** ・　４分間で交代し，その都度チーム会議をする。 ・　４対４で行う。 ・　３秒ルールは，なしで行う。	○　自分たちの考えた作戦を１回でも多く成功させることを目標として行うことを伝える。 ○　ゲームを観る側は，「ここを観る！！」をもとにアドバイスするよう指示する。 ○　コンビチームは，考えた作戦を頭に入れながら，パスのもらう位置，動きなど具体的にアドバイスするよう促す。	○　パスがもらえる位置，シュートが入りやすい場所に動くことができたか。 （活動の様子）
	6　オリジナルの作戦を成功したチームを全体に紹介し賞賛する。 斉	○　他のチームのオリジナル作戦の成功したところを観て，自分の役割を理解して動いていること，パスがもらいやすい位置でパスを受けていることを確認する。	
	7　確かめのゲームをする。 ・　ハーフコートで行う。 グ	○　必要に応じて，もう一度作戦会議をし，自分たちの作戦を成功させようという意欲を起こす。 ○　チーム会議でアドバイスしてもらったことや作戦会議で確認したことに気を付けて行うよう促す。	
	8　整理運動をする。 斉	○　運動してよく使った部位をしっかりとほぐすよう促す。	
まとめ	9　チームで振り返りをする。 グ	○　ボールにたくさん触れたことやシュートに繋がるようになったことなど，よかった所も伝え合い互いに賞賛し合うよう指示する。	

る 4	10　次時の予告を聞く。斉	○　作戦ができたかどうかを振り返るよう促す。 ○　次時は，単元の最終であることを確認し，今まで学習してきたことを生かして最高のゲームを行うことを確認する。	

（４）　評価

・　自分の役割を理解し，自分たちで立てた作戦を成功させることができたか。

２　研究協議

（１）反省

・　学習を始めた段階では，ボールから逃げる児童がいたが，６箇条の約束が苦手児童に対して有効であった。
・　「ソニック，……」等　　速攻に名称をつけて各チームが取り組んでいる。
・　本時のオリジナル作戦は，話し合いを教室で行ったが，考えた内容を試合で実行するタイミングが難しい。
・ 作戦にたどり着かない面が見られたことを確認したので，再度取り組みたい。

（２）協議内容

・　コンビチームの声かけがよい。
・　チームワークがよく仲良く活動できていた。
・　特別支援学級児童にも声をかけボールを回すことができていた。
・　生き生きと楽しんでいる姿が見られた。
・　ウォーミングアップでオールコートを使ったが，安全の確保はどのように指導したか。
→基本的に右半分の一方通行を指導したが，どうしても夢中になり，危ない場面があったので注意が必要である。
・　練習しているとオールコートでないと，速攻ができない。
・　変わった作戦として，
①１列にならぶ　　②大きい児童がいるチームはポストプレイを行う。
③チェンジと言ったらダッシュで変わる。
・　あるチームはスクリーンができていた。
・　３秒ルールのないことが，動きの良さに繋がっていた。
・　ボードに当てた後に速攻に移るという練習が，よい。
・　ボールがない時の動きが考えられていた。
・　６箇条→技能だけでなく，協同という観点からも良い。
・　今日は相手チームのマグネットも用意されており，それが作戦を立てる上で有効であった。
・　楽しそうであったことが印象に残った。規律も十分見られた。
・　運動が苦手そうな児童もボールをもらっていた。

・　作戦にチャレンジすることができていた。
・　児童は自分の役割を理解し，必要な動きをすることができた。その結果，児童は試合の中で積極的にプレーし十分な運動量を確保することができた。
・　チーム内に尊重し合う姿勢が見られ，良かった。その雰囲気がないと，技能も向上しない。

３　考察

授業に取り組む前と実践後にアンケートを実施した。

①バスケットボールは好きですか？

＜事前＞

1	とても好き	９人
2	まあまあ好き	１１人
3	あまり好きではない	１１人
4	嫌い	１人

＜事後＞

1	とても好き	３０人
2	まあまあ好き	２人
3	あまり好きではない	０人
4	嫌い	０人

②３，４の人に聞きます。なぜ好きではないのですか？（記述式：事前）

・　どこに行けばいいかが分からない
・　だれにパスをしたらよいのかが分からない。
・　ボールになかなか触れない。

アンケート結果より考えると，クラス全員が，バスケットボールに対して，前向きな意見になり，今回の手立ては有効であったと考えられる。特に，チームの中で高め合う形をとった結果，チーム内で教え合う姿が多くみられた。また，手立ての一つであるフォーメーションを教えることで，一人一人にゲームの中で役割ができ，自分の役割を意識して練習を進めることができた。授業の中でも，作戦ボードを使いながら，頭をつき合わせて作戦を確認し，練習の中でそれぞれの役割を確認した上でゲームに臨むことができた。また，コンビチームを用いたことで，客観的に試合を見て，苦手な児童にもアドバイスをすることができていた。それによって，試合中の瞬間瞬間で「もうちょっと右！」「もっと前に走る！」などのアドバイスを聞き，正しい動きをする児童が増えた。試合後の反省でも，「○○さんがボールをもっているときに，△△さんがもらいにいけばパスがスムーズになる」など，具体的なアドバイスをし，コンビチームみんなで伸びていこうとする姿が見られた。このような結果から，コンビチームを用いた手立ては有効であったと考える。

実践Ⅲ　国語－１

作品の世界を深く味わおう　「やまなし」〈資料〉イーハトーヴの夢

西村　賢治

１ 本授業への思い

子どもに身につけてほしい力や態度（子どものすがたをとらえて）

	○　友達と交流しながら自分の考えを深め，主体的に課題を解決しようとする態度。 ○　優れた叙述や表現に触れ，進んで読書をしようとする態度。 ○　自分の考えや思いを，目的や意図に応じ適切に書く力。
単元の目標	○　宮沢賢治の作品を進んで読み，作者の生き方や考え方を考えることができる。 ○　叙述に基づいて情景を想像し，それらに対する自分の考えをまとめることができる。 ○　作品の中で使われている豊かな表現（色彩語，擬音語，擬態語，比喩，対比）や語感，及び言葉の使い方に関心をもつ。
手だて	1　学習の流れをパターン化すると共に１時間の流れを視覚的に示し，児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 2　効果的な学び合いが進められるように，個の考えに基づき交流活動に臨むことができる学習過程を工夫する。 3　物語の流れをイメージし，深く読み取るために音読練習を毎時間取り入れる。 4　振り返りでの指示を明確にしたり，書き方の型を提示したりして，学んだことを再度確認し，より有効な言語活動につなげる。

2 学習計画（９時間完了）

次	時	目標	学習活動	手立てや工夫
1	1	○五月について叙述に即し　て情景や出ててくるもの　について読み取る。	○音読練習，言語事項の学習をする 五月について情景や出てくるものについて読み取ろう	・範読をして分からない語句などの確認を行う。 ・音読練習を様々な方法で行う。
	2		○音読練習をし，初発の感想を書く。 「やまなし」で心に残った表現を出し合おう	・個人思考の時間を十分取った後，交流する。 ・感想の書き方の型を示す。
	3		○五月，十二月に登場するものについて書き出し，検討する。	・交流活動の時間と発表時間を十分に確保する。

			五月，十二月に登場するものについて，内容を比較しよう	
	4		○「イーハトーヴの夢」を読み，宮沢賢治の生き方や考え方を知る。 作者の生き方や理想を知り，考えをまとめよう	・読み取った内容は今後の学習につなげていけるように画用紙にまとめ掲示しておく。
2	5	・登場人物や時，場所などについて読み取ることができる。 ・叙述を根拠にして，作品の主題をまとめることができる。	○五月について叙述に即して情景や出ててくるものについて読み取る。 五月について情景や出てくるものについて読み取ろう	○「時」「場所」「登場人物」「大きな事件」「表現技法」という読み取りの観点を示し，活動にスムーズに取り掛かることができるようにする。 ○「音読→個人思考→グループ交流→全体交流→振り返り」という授業の流れをパターン化する。 ○話し合いの仕方や全体交流の仕方について方法や観点を明確に指示する。 ○振り返りの書き方の型を明示し，学んだことを再構成し，論理的な思考を促すようにする。 ○机をコの字配置にする。
	6		○五月で作者が伝えたかったことについて検討する。 五月を通して作者が伝えたかったことを根拠をはっきりさせてまとめ考えを伝え合おう	
	7		○十二月について叙述に即して情景や出ててくるものについて読み取る。 十二月について情景や出てくるものについて読み取ろう	
			○十二月で作者が伝えたか	

	8		ったことについて検討する。 十二月を通して作者が伝えたかったことを根拠をはっきりさせてまとめ考えを伝え合おう	
3	9	・学習したことを振り返り「やまなし」の批評文を書くことができる。	○「やまなし」の批評文を書く。 「やまなし」の主題についての批評文を書こう	○批評文の書き方を明示して，活動にスムーズに取り掛かれるようにする。 ○上手な児童の作品を取り上げ紹介する。
	10	・宮沢賢治の他の作品を読み，読書の幅を広げることができる。	○宮沢賢治の他の作品を読む。 宮沢賢治の他の作品を読んで読書を楽しもう	○作品の見どころやあらすじなどを簡単に紹介し，意欲がもてるようにする。 （銀河鉄道の夜，グスコーブドリの伝記，なめとこ山の熊など）

3　単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読　む　能　力	言語についての知識・理解
・　情景や独特の表現に関心をもち，宮沢賢治の作品や生き方について関心をもつ。	・　叙述されていることを根拠として，自分の想像したことを文章にまとめることができる。 ・　作品の主題や題名に込められた作者の思いを考え，まとることができる。	・　作品の中で使われている豊かな表現の工夫（色彩語，擬音語，擬態語，比喩，対比）に気づく。

1　指導例　第３時

（１）目標

・　五月，十二月に登場するものについて書き出し，内容を比較できる。　　（読む能力）

（２）準備

教師・・・大型ＴＶ，ＰＣ

（３）学習過程

□・・・本時の目標 ┆┆・・・評価（評価方法）

学習形態：個－個別　ペ－ペア　グ－グループ　斉－一斉

段階 分	学　習　活　動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ 5	1　前時の学習を想起する。 斉 2　本時のめあてと流れを確認する。 斉	○　初発の感想をＴＶで表示し関心を高める。 ○　学習のめあてを示し，児童が見通しをもって学習できるよう配慮する。	
	五月，十二月に登場するものを整理しよう。		
とりくむ 35	3　五月について考える。 ・五月をペアで二文以上音読する。 ペ ・五月に登場するものを書き出す。 個 4　十二月について考える。 ・十二月をペアで二文以上音読する。 ペ ・十二月に登場するものを書き出す。 個 5　登場物について班で確認し，五月と十二月について共通点と相違点を比較する　。 グ **【伝え会う力】** 6　確認した登場物を班で一つずつ発表し，比較する。 グ	○　音読練習を十分しておくよう事前指導する。 ○　ノートの書き方を確認する。 上段…五月 下段…十二月 ○　音読練習を十分しておくよう事前指導する。 ○　早くできた児童について配慮する。 ・五月，十二月の内容に対する印象を簡単にまとめる。 ○　司会者と発表者を指示する。 ○　机間指導し，話し合いが円滑に進められるよう配慮する。 ○　共通点，相違点については簡単に扱う。 ○　五月はかわせみ，十二月はやまなしであることを押さえる。 ○　登場物をＴＶで表示する。	○　五月，十二月に登場するものを書き出すことができたか。（ノート） ○　五月，十二月の登場物について共通点や相違点を比較することができたか。（ノート）

	【伝え会う力】		
まとめる5	7　五月，十二月に対する印象を考え，本時の学習を振り返る。 個 8　次時予告を聞く。 斉	○　時間内にできない児童は課題として扱う。 ○　五月を取り上げることを紹介する。	

（４）　評価

・　五月，十二月の登場物について班活動を通して書き出し，内容を比較できたか。

（５）板書計画

やまなし
五月と十二月に登場したものを整理しよう。

五月
かに
クラムボン
暗いあわ
天井
日光の黄金
魚
光のあみ
お父さんかに
かわせみ
こわいところ
かばの花
印象
五月は魚が死んで暗いイメージ。

十二月
かに
白いやわらかな丸石
ラムネのびんの
月光
天井
お父さんかに
あわ
イサド
やまなし
木の枝
月光のにじ
十二月はやまなしがおいしそう。イサドが楽しそう。

５　研究協議

（１）反省内容

・　「子どもから言葉を出して，グループで相談して，最後に５月・12月のイメージを書く」ということを目標にしたが，時間不足で交流活動が不十分であった。
・　授業後の感想を読むと，読解力に優れた児童は５月と12月の違いについてよく推察できていた。今後の交流活動を考慮すると，その考えを発展できると感じた。

（２）協議内容

１）大型テレビ使用に関する確認
・　メモリー等の外部媒体は利用できるものと利用できないものがある。
・　教室のパソコン画面も利用可能であるから，積極的に活用できる環境が望ましい。
・　提示した写真資料は，インターネットで検索した。
２）「登場するもの」は，どこまでを示していたか。
・　イメージに繋がるものを考えていた。

・　「怖いイメージ」をもたせるために「暗い場所」をキーワードとして示したが，「登場するもの」としては挙がらなかった。

３）「日光の黄金」と「日光」をどのように対比させていくか。

・　明るいが不安，暗いが幸せを感じる世界というようにイメージをもたせたい。

４）イーハトーブ島を先にやるかどうか。

・　賢治の考えや生き方を先にやる方が理解しやすいかもしれない。

５）意見

・　「登場」を何と言えばよかったのか。時・場所・人物・事件など，枠を絞るのも一つの方法だと思う。

・　実物を見せるのは，とても有効な方法であった。いい意見が出て驚いた。

・　「登場」を挙げて，板書するまでの時間がかかり過ぎたかもしれない。ホワイトボードを活用して，１～４班は五月，５～８班は12月というように分けて考えさせてもよかったかもしれない。

・　五月だけ個→者で確認し，それに対比する十二月をノートの下に同じように書き入れるという方法もある。

・　五月も２・３個一緒にやると，ノートの書き方も統一できたのではないか。(「登場」のものを横に並べて書けている児童と，続けて書いている児童がいたため)

・　TVは，意味調べの段階で見せておくのも可能かもしれない。

・　音読も最後までしっかりと読めていた。

・　活動の７の部分（印象を考える場面）で，しっかりと時間を確保したかった。７の時間を確保すれば，根拠のある考えにどんどん広げていけたのかもしれない。

・　評価に「内容を比較できたか」とあるので，板書がもう少し対比してまとめられると分かりやすかった。

・　五月と十二月を結び付けるところでグループ交流ができると，「印象」に繋がっていくと思う。

・　板書をいかに早く進めて，どう比較するかが課題であり，少し時間が足りなかったのが残念だった。しかし，子どもはよく考えていて，初発の感想の観点はとてもよいと感じた。６年生は，ここまで考える力が身に付いていることがよく分かった。

６　考察

全体の音読を取り入れ，五月，十二月の両方を取り上げることは，内容として多過ぎるのではないかと懸念しながら学習計画を立てた。ここで出された意見を基にして，この先の授業で，筆者の主題に迫りたいと考えた。

五月，十二月の登場物について班活動を通して書き出し，内容を比較することを目標として授業をしたが，当日の授業では，やはり内容が多いことから，考えを深めるまでには至らなかった。意見が多数出たことにより，比較する時間を確保することができなかったことが反省すべき点である。本時の内容を二つに分け，次時に五月，十二月のイメージを比較し，考えを深めるという計画が，より適切であったと思われる。そうして分けた次時の「考えを深める学習」が，学び合いという視点からは，より望ましかったのであろう。

他方，学習内容を豊かにすることを目指してパソコン，タブレットＰＣ，大型ＴＶ，プロジ

ェクター等の視聴覚機器をいろいろな教科や場面で使用している。これらの機器は，工夫して資料を準備すれば，画像等を通して学習内容のイメージ化に有効であり，学力の向上にも役立つと考える。学習の面から考えると大変有効であるが，その準備には多くの時間が必要であり，時間対効果という観点から考えた時には，有効性に疑問が残る。さらに教室環境を考えると，ＴＶを移動させたりパソコンを準備したりしなくてはいけけない。常時利用という観点で考えると，このことは大きなマイナス要因として挙げられる。このように課題を残す視聴覚機器ではあるが，電子教科書や電子黒板の利用機会が，今後一層多くなると予想される。このように考えると，今できることから，教師も取り組んでいく必要があると考える。

実践Ⅳ　国語―2

松本　哲廣

１　本授業への思い

児童が主体的に学習に取り組み，互いに高め合うための手立てを以下に示す。

① 学習の流れをパターン化すると共に，1時間の流れを視覚的に示すことにより，児童が主体的に学習に取り組むことができるようにする。

② より効果的な学び合いが進められるように，必ず個の考えをもってから交流活動に臨むことができるよう，学習過程を工夫する。基本的には，「音読→個人思考→グループ交流→全体交流→振り返り」という流れにする。

③ 物語の流れをイメージし，深い読み取りができるようにするために，音読練習を毎時間必ず取り入れる。音読の方法も工夫する。

④ 日頃からノート指導を丁寧に行い，書く力を高めるようにする。毎時間朱書きを入れ，励ますことで成就感を味わえるようにし，意欲化を図る。

⑤ 振り返りの視点を明確に示し，書き方の型を提示することで，学んだことを再構成し，有意義な言語活動につながるようにする。

この5つの手立てを講じながら，国語の授業に前向きに取り組み，話し合う楽しさを感じられるように願いながら，本実践に取り組んだ。

２ 指導例　第８時

（１）目標

・ 本文の叙述や今まで話し合ってきたことを根拠にし，十二月を通して，作者が伝えたかったことをまとめる。（読む能力）

・ 十二月を通して作者が伝えたかったことを，相手の考えとの共通点や相違点を意識しながら話し合う。（話す・聞く能力）

（２）準備

教師・・・掲示用カード（本時の流れ，音読の約束），短冊（11枚）

（３）学習過程

□・・・本時の目標

学習形態：個ー個別　ペーペア　グーグループ　全ー全体交流　斉ー一斉

段階 分	学　習　活　動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つかむ	1　前時までの学　習を振り返り，作者の生き方や考え方，十二月の情景描写などを確認する。 斉 2　本時のめあてと学習の流れを確認する。斉	○　ノートの授業記録を見るよう促す。 ○　学習のめあてと流れを視覚的に示し，児童が見通しをもち，主体的に取り組めるように配慮する。	
	十二月を通して作者が伝えたかったことを根拠をはっきりさせてまとめ，考えを伝え合おう		
とりくむ 35	3　十二月をペアで二文以上音読する。 ペ 【音読するときに意識すること】 ・はきはきと，よどみなく。 ・間違えずに。 ・句読点に気を付けて。 ・語尾を下げて。 4　十二月を通して作者が伝えたかったことを考え，ノートに書く。 個 【予想される意見】 ・生きていると楽しいことや嬉しいことがある。 ・植物は多くの恵みをもたらしてくれる。 ・やまなしのように他の生物に幸せを与える生き方は大切だ。など。 5　三人グループで考えを交流してまとめる。	○　互いの良い点を意識しながら相手の音読を聞けるように評価の観点を視覚的に明示する。 ○　自分の考えの根拠を書くよう伝える。 ○　早く書けた児童には複数の意見を書くように伝え，前向きな取り組みを賞賛する。 ○　考えが浮かばない児童には　十二月を読んで感じるイメージや作者の生き方，理想などについて思い出すよう助言する。 ○　文章化が難しい児童には，キーワードのみを列挙しておくよう伝え，後の話し合いに臨めるよう配慮する。 ○　相手の顔を見て話したり，聞いたりすることの大切さを伝える。	○　四つの点に気を付けて音読ができたか。 （音読の様子） ○　叙述を基に根拠を示しながら，考えをまとめることができたか。 （ノートの記述） ○　交流を通してやまなしが表し

	グ 〔伝え合う力〕 6　相互指名で意見を出し合い，全体で交流する。　全 〔伝え合う力〕 【発表の話型】 「私は○番の意見がいいと思います。理由は…。」	○　早く終わったグループは，複数の意見を考えるよう指示し，前向きな取り組みを賞賛する。 ○　短冊に出された意見を内容別に分けて掲示し，話し合いがしやすくなるようにする。 ○　短冊に書かれた意見にはナンバリングをすると共に，発表の話型を示し，円滑な話し合いになるように配慮する。 ○　作品の本質に迫る意見が支持されていない場合は，五月と対比した十二月のイメージや作者の生き方や理想などについて再考できるよう助言する。 ○　話し合いの経過を基にし，それぞれの考えの支持されていた点を合わせながら，学級としての考えをまとめる。	ていることや，作者の生き方について考えを深めることができたか。 （短冊，発言） ○　交流を通してやまなしが表していることや，作者の生き方について考えを深めることができたか。 （短冊，発言）
まとめる 5	7　学習を振り返り，本時の学習で学んだことをまとめる。　個 【振り返りの型】 「今日の授業は…について考えました。確かにAという考えの…というところもいいと思いました。でも私はBという考えがよりいいと思います。理由は…。」	○　振り返りの文章の型を指定し，児童の思考を文章化しやすいようにする。 ○　本時の児童の良かった点について賞賛し，次時の予告をする。	○　本時の授業で学んだことを基にして，型を利用した論理的な振り返りが書けているか。 （ノートの記述）

（４）評価

・　本文の叙述や今まで話し合ってきたことを根拠にし，十二月を通して作者が伝えたかったことについてまとめることができたか。

・　自分の考えを立場や根拠をはっきりさせながら，相手に伝えることができたか。

３　研究協議

（１）反省

導入部分では，前時のノートを振り返ることにより，全員が同じ視点をもって十二月の学習事項を思い出すことができた。「やまなしが落ちてくる」という大きな事件を五月のかわせみと比べて考えさせるような，声かけを行うことができた。

展開部分では，ほぼ全員の児童がよどみなくすらすらと音読できていた。これまでの練習の成果がよく表れていたと感じている。また，間違えたら交代する「自由読み」という方法を取り入れて音読をしている。これは，間違えないように心地よい緊張感をもって取り組める音読の方法である。

個人思考の時間は

> 「作者が十二月で伝えたかったことは…です。理由は○ページ△行目から～ということが分かるからです。」という型に沿ってまとめましょう。叙述に 沿って理由を考えることが大切です。

という指示を出し，理由を叙述に求めることを強調した。早く終わった児童は複数の意見を書くよう指示しておいた。

グループ交流では，3人というグループサイズで，だれもが主体的に考えられるようにした。また縦に長い短冊を用意し，意見を書き込めるようにした。

> 自分と相手の意見の共通点と相違点を意識しながら交流しましょう。グループでまとめる時は根拠となる叙述に戻って，より説得力のあるものを選びましょう。

という指示を出すことで，話し合いの仕方が明確になるように配慮した。どのグループも予定の時間内に話し合いを終えることができ，意見を複数書くグループも見られた。

全体交流では

①自然は美しく，素晴らしいものである

②生きていれば辛いことだけでなく，楽しいこともやってくる

③自然は厳しいものもあるが，幸せも運んでくれる

という３つの意見を中心に話し合いが行われた。積極的に挙手をして，自分の意見を自信をもって発表する姿が見られた。教師の側から，教科書に戻って根拠となる部分を全体に広げたり，五月との対比について意見を深められるような発問をしたりした。振り返りの時間には，指導案にある「振り返りの型」を基に文章を論理的に書くよう指示した。この「確かに…。でも～。」という書き方には以前から慣れているためスムーズに書くことができていた。児童のノートを見ると，上記の②や③の意見に賛同する者が多かったように感じた。

４　考察

6月と，実践を終えた12月に同じアンケートを行った。以下はその項目である。

> １　自分の考えに自信をもって発表できていますか
> ２　少人数（グループなど）だと発表しやすいですか
> ３　どんな聞き方を心がけていますか

４　どんな話し方を心がけていますか
５　文章を読むことは好きですか
６　書くことは好きですか
７　国語の授業で思っていることを自由に書きましょう
※　１，２，５，６については４択法。３，４，７については自由記述。

まず項目１と２についてである。6月の時は

項目1	４…10人	項目２	４…25人
	３…15人		３…5人
	２…6人		２…2人
	１…1人		１…0人

という結果であった。これが12月は

項目1	４…23人	項目２	４…28人
	３…5人		３…5人
	２…5人		２…0人
	１…0人		１…0人

※　転入生があり合計人数が１人増えている

となった。この国語の授業だけで，項目1の人数がよい方向へ増えたわけではないが，　日々の実践の中で，児童が自信をもって発表できるようになったといえるのではないだろうか。

次に項目5と6について見てみる。6月は

項目5	４…12人	項目6	４…10人
	３…10人		３…6人
	２…5人		２…11人
	１…5人		１…5人

という結果であり，書くことに抵抗を感じている児童が多いように感じた。12月は

項目5	４…20人	項目6	４…25人
	３…10人		３…6人
	２…3人		２…1人
	１…0人		１…1人

※　転入生があり合計人数が１人増えている

とどちらも大幅に数字が上昇している。特に書くことに対しては，児童の意識に大きな変容が見られる。国語だけでなく，どの教科においても「書く活動」を重視し，書くことに対する抵

抗をなくしていった結果であろう。また，「一生懸命書いたら先生がしっかり見てくれる。」とその理由を書いた児童もおり，児童の活動を認め，励まし続けることの大切さを実感した。ノートは学習の足跡として残るものである。成就感や達成感を味わえるような授業とその評価を繰り返していけば，児童は意欲的に文章を書いたり，読んだりできるのではないだろうか。

最後に自由記述の項目についてである。項目３や４で出てきた意見は

- 発表者の方を向いて聞く。
- 頷くなど，反応しながら聞く。
- 自分の考えと比べながら聞く。
- 話がいくつあるか指を折って聞く。
- 聞いている人を意識して話す。
- 話す速度に気をつける。
- 大切なことを最初に言って,要点を分かりやすくする。

などであった。このような意見を踏まえ，目の前に居る子どもの現状に応じてレベルアップさせていくことが大切であると感じている。できたら褒め，次の段階へ導くことが教師の役割である。項目７については

- 新出漢字の学習方法は覚えやすい。
- 討論など意見をいう学習は楽しい。聞いているのも楽しい。
- 音読を毎時間やって上手になってくるとうれしい。
- 穴埋め問題が楽しい。
- 登場人物の気持ちを考えるのは難しいけど楽しい。
- ノートが見やすく書けると嬉しい。
- 交流がたくさんある授業をやりたい。

などの意見が記されていた。教師と子どもの考え方に隔たりがある場合があるので，こうしたアンケートは有効だと感じた。今回の実践に限って言えば，音読やノートの記述，交流や討論形式の授業など，児童のニーズにあった授業を実践したことが，授業後の成就感や満足感につながっているのではないかと考える。

国語の授業では，これまで「〇〇の時の登場人物の気持ちを考えよう」などの曖昧な学習課題のもと，何のためにどのような力を付けさせたいかということをはっきりさせないままの授業実践が多かったように感じる。自分自身も「国語科における教科的な力とは何か」ということに明確な答えを出せないまま，これまで実践を続けてきた。しかし，今年度の研究の中で，国語科における大切な力とは「論理的に物事を考える力」だという考え方に辿りついた。論理的な思考のもとで話したり，聞いたり，書いたりすることで，一人一人の国語の力が伸びていき，考えが深まることを期待して本実践に取り組み，ある程度の手応えを得た。今後もこの研究をベースにして，更に上乗せできるような実践に取り組んでいきたい。

おわりに

今年度体育と国語の2教科に焦点を絞り，研究的実践に取り組んできた。どちらの教科においても子どもが前向きに授業に取り組み，互いに励まし合う姿が見られてよかったと思う。

また，伝え合う中で教科的な力を伸ばしていくためには，教師の適切な助言や指示が大切であることも感じた。

今後もこの実践で学んだことをベースにしながら，よりよい授業作りのために，同僚性を生かし，協力して取り組んでいきたい。

たんぽぽ・ひまわり学級　実践報告

明るく素直で最後までがんばる子を目指して

はじめに

本校の特別支援学級は，知的障害学級２，自閉症・情緒障害学級２の計４学級あり，22 名の児童を６名の教師が指導している。また，設置３年目になる通級指導教室では，現在 16 名の児童が指導を受けている。

特別に支援を要する児童は,何が障がいになっているのか見極める必要があり,児童が起こす問題行動は,児童の心が発するシグナルと考えなければならない。しかし,児童は言葉で自分の気持ちをうまく表現できないことが多く,自分自身でも分からない時もある。そこで,児童の行動の意味を理解し,適切に対応していくことが大切である。また,日常生活や学習場面においても,様々なつまずきや困難が生じるため,自分に自信のない子や発達に遅れがみられる児童は,交流学級での集団行動への参加が学年が上がるほど，難しくなる傾向にある。

本校は特別支援学級在籍児童が多いため，生活単元学習において，自立にむけてスキルを身につけていくこと，仲間意識をもって友達と協調した活動に取り組むことを考えて単元構成をしている。さらに，本年度の研究主題である「明るく素直で最後までがんばる子」を目指して，以下のような仮説を立てた。

- 繰り返し物づくりを行うことで活動に見通しと安心感がもてるようになり，物づくりは楽しいと感じるようになるであろう。
- 児童の中に満足感や達成感が得られると,「またやりたい」「自分でやりたい」という意欲が沸いてくる等，主体性・自主性を伸ばすことができるであろう。
- 繰り返し行うことで見通しがもて，最後まで落ち着いて活動できるようになるであろう。
- 生活に密着した実際的な活動では，これまでの経験が生かされることになり，児童が意欲的に活動するようになるであろう。
- 具体的な目標に向かって仲間と共に活動することで，児童と教師，児童同士が共感し合えるようになり，人とのかかわりが深まるであろう。

今年度取り組んだ実践は,たんぽぽ１組が「野菜のスタンプを使って」,たんぽぽ２組とひまわり１組は「木の実や小枝を使って」の内容で，主として手指の機能訓練活動であった。ひまわり２組は「ひまわりゲーム店へようこそ」と題し,日常生活上での会話活動に重きをおいた内容で取り組んだ。

これらの授業を実践することで,自分の思いを話したり相手の考えをしっかり聞いたりでき,作業や活動を一緒に行うことで，関わりを少しでも深めることができると考えた。

実践Ⅰ　生活単元学習「野菜のスタンプを使って」　本時２／３

たんぽぽ１組（知的障害）　堀部重光　佐光美智子

１ 本授業への思い

（１）子どもに身につけてほしい力や態度

- 身近な野菜を使った造形遊びに楽しんで取り組もうとする積極的な態度。
- 興味をもって活動に参加し，最後まで取り組もうとする態度。

・　野菜やスタンプ台を共有しながら作業を行い，協力しあって活動することができる力。

（２）手立て

・　個々の能力に合わせためあてを設定し，意欲的に取り組めるようにする。
・　興味をもたせるために，野菜の切り口を提示し，スタンプにする。
・　型押しで模様を作成した見本を見せることで，関心をもたせ，見通しをもって意欲的に活動できるようにする。

２　実際の授業

（１）単元の目標

・　身近な野菜で作品に生かすものを見つけ，計画を立てることができる。
・　身近な野菜を使って，模様や絵を描くことができる。
・　友達と仲良く活動して，作品作りを楽しむことができる。
・　安全に気をつけて作業することができる。

（２）単元の構想（3時間完了）

…本単元　　…学習内容

１時　　計画を立てる。（使いたい野菜や色を決め，スタンプをためす。）

⇩

２．３時（本時２／３）
野菜のスタンプを使って絵や模様にすることで，工夫したり鑑賞したりする。

（３）本時の学習

１）目標（関心・意欲・態度）

A（２年）B（４年）	野菜のスタンプを使った模様を意欲的に作ろうとする。
C（２年）D（４年）	野菜のスタンプを生かして，好きな絵を描こうとする。
E（４年）F（６年）	野菜のスタンプを生かして，自分の考えた絵を描こうとする。

２）準備

教師・・・・・・　野菜，スタンプ台，絵の具筆，絵の具，「野菜のスタンプ」を紹介した本

３）学習過程

…本時の目標　　…評価（評価方法）

学習形態：個－個別　全－全体交流　斉－一斉　個別支援

段階分	学　習　活　動	教　師　の　活　動　と　支　援	
		Ｔ１	Ｔ２

つかむ 5	1　「学級の歌」を歌う。 斉 2　前時の活動を思い出す。 斉 3　本時の学習内容と流れを知る。 斉	○　楽しく歌う雰囲気を作り，皆と一緒に活動する意欲を高める。 ○　どんな野菜でどんな形ができるかを思い出しやすいように示す。 ○　個々のめあてと本時の流れを伝える。	○　歌に集中していない児童に声かけをする。 ○　前時の野菜のスタンプを提示する。 ○　めあてを掲示したり，スタンプの本を見せたりし，意欲が高められるようにする。
	やさいのスタンプをいかしてもようや絵にしよう		
とりくむ 35	4　スタンプの使い方を知る。 斉 5　どの野菜で何を作るか考え，発表する。 〔伝え合う力〕 全 6　野菜のスタンプを使って作品作りを進める。 ・AB は，模様作りをする。 ・CDEF は工夫して絵にする。 個	○　１つの野菜で同じスタンプ台を使う時は，順番を守ってスタンプをするように伝える。 評１　作品作りの手順が分かったか。（表情） ○　意見を聞きだすとともに意見に対して，意思表示している児童に言葉かけをする。 ○　一人ひとりのイメージを大切にしながら見守る。 CDEF が上手に，スタンプできているか観察し，声かけをする。 評２　作品作りに根気よく取り組んでいるか。（活動の様子）	○　１つの野菜で１つのスタンプ台を使う作業を確認する。 ○　児童から出た意見を板書する。 ○　野菜とスタンプ台を整頓するように指示する。 うまくスタンプできない AB には，手を添えて，野菜の置き方を支援する。
まとめる 5	8　本時のまとめをする。 全 ・　頑張ったことや感想を発表する。〔伝え合う力〕	○　作品作りをした感想を聞く。 DE に感想を述べるように促す。	○　本時の頑張りを賞賛する。

４）評価

・　友達と仲良く活動しながら，意欲的に作品作りに取り組めたか。

３　考察

（１）児童の姿

〈2年A〉４年のＢとともに，スタンプを押す作業に意欲的に取り組むことができた。
Ｂの様子を見たり教師の手助けを受けたりしていろいろなスタンプを喜んで押すことができた。

〈4年B〉２年のＡとともに，楽しんでスタンプを押す作業に取り組むことができた。
Ａの様子を見たり教師の手助けを受けたりして，いろいろなもようや色のスタンプを喜んで押すことができた。

〈2年C〉大好きな恐竜のもようをつくろうと頑張って取り組もうとした。しかし，思うようにできなくてすねる一面も見られたが，もう一度やり直すことにしたら，楽しく取り組むことができた。

〈4年D〉テンションが高く舞い上がってはいたが，指示を聞き取ることができ作業に取り組むことができた。

〈4年E〉バスを作るというめあてに向かって，色や形など工夫して何枚も熱心にスタンプを押す姿が見られた。

〈6年F〉作りたい列車だけでなく，周りの様子も表現しようと，野菜で色々な押し方を工夫する姿が見られた。

（２）反省と考察

- 子どもたちに興味・関心をもたせるために，一人一人に合った活動を授業に取り入れることで，どの子も自分のやることを理解し，進んでのびのびと活動することができた。そのため，どの子も達成感が得られたと考える。
- 個々の学習のめあてを作り，どの子もめあてに向かって頑張る姿が見られた。教師が個々のめあてに対して具体的な励ましをすることで，子どもの満足感につながるので今後も色々な場面でめあてを作り，励ましていくように心がけていきたい。
- 子どもたちの作業の様子を見ると，根気強さや丁寧さはまだまだである。今後も，繰り返し作業を行う中で，準備を意欲的に行い，手指の巧緻性を高めるために根気よく作業に取り組み，片づけまでしっかりできる子に育てていきたい。

実践Ⅱ　生活単元「木の実や小枝を使って」　本時３／４

たんぽぽ２組（知的障害）井塚裕士　ひまわり１組（情緒障害）安藤京子

１　本授業への思い

（１）子どもに身につけてほしい力や態度

- 身近な自然から製作に生かすことができるものを見つけ，計画を立てる力。
- 自分たちが集めてきた材料を使って，小物などを作ることができる力。
- 友達と仲良く活動して，小物作りを楽しむことができる態度。
- 安全に気をつけて作業することができる意識。
- 活動を計画的に進め，最後までやり抜くことができる力。

（２）手だて

- リースを飾りつける意欲がもてるよう，身近なところにある木の実や小枝を，自分たちで拾い集めることからはじめる。

- それぞれが自分のイメージをふくらますことができるように，図や絵・写真をあらかじめ提示することで，見通しをもって活動できるようにする。
- 作業の手順や道具・器具の使い方についての支援をする。状況に応じて，協力して作業できるようにする。

２　授業の実際

（１）単元の目標

- 身近な自然から製作できるものを見つけ，計画を立てることができる。
- 自分で集めてきた材料を使って，小物などを作ることができる。
- 友達と仲良く活動して，小物作りを楽しむことができる。
- 安全に気をつけて作業することができる。
- 活動を計画的に進め，最後までやり抜くことができる。

（２）単元の構想（４時間完了）

□・・・本単元　□・・・学習内容　○・・・時数

身近にある木の実や小枝を拾い集める。①

⇨ 収穫したさつまいものつるで，リースをつくる。②

⇩ 本時３／４

リースに飾りつけをする。③④

（３）本時の学習

たんぽぽ２組

１）目標（関心・意欲・態度）

２年Ｋ	前向きに製作し，飾りつけを工夫して取り組む。
２年Ｓ	教師や友達のアドバイスや支援を受けながら，意欲的に楽しく製作に取り組む。
２年Ｙ	リースの製作に自信をもって，最後まで飾りつけを丁寧に取り組む。

２）準備

教師・・・電気接着剤（グルーガン）・集めた材料，飾り，リース，器具の扱い方説明図，参考作品，

児童・・・集めた材料，はさみ，ボンド

３）学習過程

□・・本時の目標　学習形態：個－個別　斉－一斉

段階分	学習活動	教師の支援と留意点	評価（評価方法）
つか	１　さつまいものつるの輪で，飾りつけすることを知る。斉	○　クリスマスの歌をみんなでう。 ○　前時までの活動を思い出すように促す。	○　リースを飾りつける意欲を高めることができ

む 7		○　見本を見せて製作意欲を高める。 木の実などを使ってリースを作ろう	たか。 （表情・態度）
と り く む 27	2　リースに材料を並べる　個 ・K　見本を参考にして工夫して飾りを並べる。 ・S　一部の素材ばかり並べず，いろいろな素材を使用する。 ・Y　素材を多く乗せすぎないように飾りを並べる。 3　グルーガンの扱い方を聞き，素材を取り付ける。 ・溶けた溶剤を付ける。 ・素早く押し付ける。　斉 ・S　グルーガンを安全に扱って楽しく作品作りをする。 ・Y・K　グルーガンの扱い方を知り，楽しく作品作りをする。 〔伝え合う力〕個→斉	○　お互いの作業の様子が見えるように座席配置し、お互いの作品や作業の様子を意識しやすいようにする。 ○〈K〉〈S〉どんな材料を使ったらよいのか相談にのる。 ○〈Y〉飾りつけが多くなりすぎないように厳選するように声かけする。 ○　グルーガンの扱いを実演して見せ，作業の手順と安全について分かりやすく示す。 ○〈S〉グルーガンで遊ばないように見守る。 ○〈Y〉飾りの取り付けが雑になりがちな時は，声かけする。 ○〈K〉グルーガンの扱い方の説明を聞き，自主的に最後まで作品づくりに取り組む。 ○　グルーガンを安全に扱っているのか気をつけたり，溶剤の補充をしたりする。	○自分の安ことを確認することができたか。 （表情・態度） ○　工夫して飾りをならべることができたか。 （作品・態度） ○　S 落ち着いて，安全に楽しく参加できたか。 （作品・態度） ○　Y・K 進んで作業に取り組み，最後まで丁寧に飾りつけができたか。 （作品・態度）
まとめる 11	4　本時の学習のまとめをする。 友達の作品の良い所を見つけ発表する。	○　製作を見守りながら，児童の取り組みで良かったこと・頑張ったことを賞賛する。 ○　作品の良いところや工夫していることを，認め合う雰囲気を作る。	○　これまでの活動について振り返ることができたか。 （発言・表情）

4）評価

・〈K〉作りたい物を決めて，工夫して飾りを並べることができたか。
・〈S〉安全に気をつけて，進んで活動することができたか。
・〈Y〉リース飾りの取り付けに，最後まで丁寧に取り組むことができたか。

ひまわり１組

１）目標（関心・意欲・態度）

１年ＯとＷ	教師のアドバイスや支援を受けながら，楽しく制作に取り組む。

５年Ｓ	リースの製作に見通しをもって，最後まで飾り付けを行う。
５年Ｋ	落ち着いて作業に取り組み，最後まで飾りつけを行う。

２）準備

教師･･･電気接着剤（グルーガン）・集めた材料，飾り・段取り表，器具の扱い方説明図，参考作品の写真や見本，いもほりの写真

児童･･･集めた材料，はさみ，接着剤

３）学習過程

［　　］･･･本時の目標　学習形態：［個］―個別　［斉］―一斉

段階 分	学　習　活　動	教師の支援と留意点	評価 （評価方法）
つかむ 7	１　自分たちが集めた木の実を使ってリース作りをすることを知る。［斉］ 木のみをつかってリースをつくろう	○　実物見本写真を見せて制作意欲を高める。 ○　前時までに計画し，準備した活動を思い出すように促す。	○　リースを飾りつける意欲を高めることができたか。 （表情・態度）
とりくむ 33	２　個々のめあてを確認しながら作業を進めていく。［個］ ①　個々の今日の学習のめあてを確認する。 ②　リースに並べながらデザインを考える。 ③　グルーガンの扱い方や注意事項を聞く。［斉］ ・　溶けた溶剤を付ける。 ・　素早く押し付ける。 ③　楽しくリース作りを進める。 ・　見本を参考にしながら，好きなデザインになるよう考える。 ・　リースに材料を付けて自分の好きなデザインにしていく。［個］ ３　友達の作品の良いところを見つけて発表し合う。 〔伝え合う力〕［個］→［斉］	○　個々のめあてを前面に掲示し，常に意識しながら進められるようにする。 ○　グルーガンの扱いや，作業の手順と安全について確認する。 ○　製作を見守りながら，工夫している姿や教え合う姿を賞賛し，製作意欲を高める。 ○〈１年ＯとＷ〉接着剤を使って，最後まで丁寧に仕上げていくよう手助けする。 ○〈５年Ｓ〉　自分のデザイン画をもとに時間をかけて作り上げていくよう助言する。 ○〈５年Ｋ〉根気よく安定した気持ちで取り組めるよう，常に声をかけながら作り上げていけるようにする。 ○　作品の良いところや工夫できているところを認め合い，協力しあう姿を賞賛する。	○　自分のめあてを確認できたか。 （表情・態度） ○　１年ＯとＷ 進んで作業に取り組み楽しんで製作できたか。 （作品・態度） ○　５年Ｓ 楽しんで作業に取り組み，最後まで丁寧に製作できたか。 （作品・態度） ○　５年Ｋ 作業に飽きず，落ち着いて最後まで参加できたか。 （態度・表情）
ま	４　本時の学習のまとめをす	○　作品の完成に向けて期待がも	○　これまでの活動

とめる5	る。	てるよう頑張ったことを伝える。 ○　後片付けまでやるよう声かけする。	について振り返ることができたか。 （発言・表情）

４）評価

・〈１年ＯとＷ〉うまく接着剤を使ってリース作りを楽しむことができたか。
・〈５年Ｓ〉　デザイン画をもとに，根気よく仕上げることができたか。
・〈５年Ｋ〉　落ち着いて最後までリース作りに取り組むことができたか。

３　研究協議

（１）反省

たんぽぽ２組

・たくさん飾りつけた見本を提示しておくと，Ｙに有効だったと感じる。
・グルーガンを渡す時期を遅らせると，もっと子どもたちの意欲が高まったと感じる。
・Ｓに，リースの飾りを隙間なくうめるように声かけしたが，それがよかったかどうか迷っている。
・Ｋのリースをほめることで，他の二人によい影響があれば，望ましいと感じた。

ひまわり１組

・本人たちに本時の活動のめあてを書いて発表させた。活動の途中で，めあてを確認させると，子どもたちはめあてに沿った活動ができた。Ｋがめあてを守るように，何度も声かけをすればよかった。
・発表の仕方・聞く姿勢を身に付けるよう繰り返し指導している。
・Ｋはいつもテンションが高くとなると，活動に参加できないことが多いが，本時は最後まで取り組み，作品を仕上げることができた。
・まとめの段階で，自分のお気に入りの発表で終わってしまった。友達のよいところを見つけて発表させる必要があった。

（２）協議内容

１）児童の姿

たんぽぽ２組

〈２年Ｋ〉　意欲的に取り組むことができた。最後まで作業に集中して作品づくりができた。いろいろな種類の飾りを偏りなく敷きつめることができた。作業も早く２つ目も飾りつけをした。

〈２年Ｓ〉楽しそうに活動に取り組む。飾りを選べない様子なので教師が選択肢を提示したり，飾りつけの位置を提案したりすると進んで飾りつけを進めていた。

〈２年Ｙ〉　関心をもって取り組んでいる様子が見られた。グルーガンをＳと譲り合いながら使っていた。また,活動後半になっても集中を切らさずに飾りつけができた。

ひまわり１組

〈１年Ｏ〉　創作活動には，意欲的に取り組むことはできたが，貼り付けるのに精一杯で，

教師の補助が必要となったが，最後まで根気よく仕上げることができた。

〈５年Ｋ〉　目標を常に意識できるように本人の視野に入るように前面に掲示し確認しつつ進めた。じっくりと取り組むまでには至っていないが，目標カードを見ると心がけようとする姿が見られるようになってきた。

〈５年Ｓ〉　作業は苦手意識をもっているが，本時は『デザイン画』を身ながら進めていったので自信をもって取り組み，バランスよく飾り付けることができた。

〈１年Ｗ〉　作業が雑な面があるが，楽しんで創作活動に取り組むことができた。木の実を貼り付けることが難しく教師の補助が必要となったが，最後まで仕上げることができた。

２）話し合い内容

・Ｋ，Ｓ，Ｏは集中して活動していた。Ｏは飾りの構成まで考えて作業していた。
・グルーガンが危険なので，きちんと置けるような箱を準備するとよかった。
・リースの飾りつけをするための材料がたくさんあってよかった。
・特別支援学級の個に合わせた学習支援ができていた。
・仲間と共に伸びるために，友達の作品の良いところや工夫しているところを認める言葉かけが必要である。
・学習のめあてを自らホワイトボードに書いて発表したことで，集中して取り組もうとする姿勢が見られた。
・事前に描いたリースのデザイン画が参考になっていた。
・最後にベルのついた飾りをつけることで，クリスマスリースらしくなった。
・交流学級の様子とは異なる子どもたちの姿を見ることができた。
・グルーガンの数が人数より少なかったので，交代して使い合う姿が見られた。

４　考察

学習の導入でクリスマスソングを歌ったので，リースづくりへの気持ちが高まり，児童は進んで活動に取り組めたと思う。作品作りの活動には十分な準備が必要であるが，飾りに利用するための集めた材料の準備もよくできていた。けれども，グルーガンを使用しない時に，危険のないように置く工夫があれば，より望ましいと感じた。

手指の巧緻性を高めることを意図した活動なので，すべて自由に飾りつけをさせるのではなく，見本と同じものを作らせても良かった。例えば，ある児童には大きな飾り（まつぼっくり等）だけでなく，小さな飾りを決められた形式で飾りつけする等である。また，児童一人一人に手指の器用さに応じた課題見本を用意することで，つける・はさむ・むすぶ等の技能を身につけられたのではないかと考える。

まとめの段階では，自分のがんばったところを聞くことで終わってしまったが，「〇〇さんの作品のどこがいいのかな」等の問いかけをして，仲間意識をもたせる活動を取り入れるとよかったと感じた。

実践Ⅲ　生活単元「ひまわりゲーム店へようこそ」　本時 10／10

ひまわり２組（情緒障害）　杉本暁美　　細川眞紀子

１ 本授業への思い

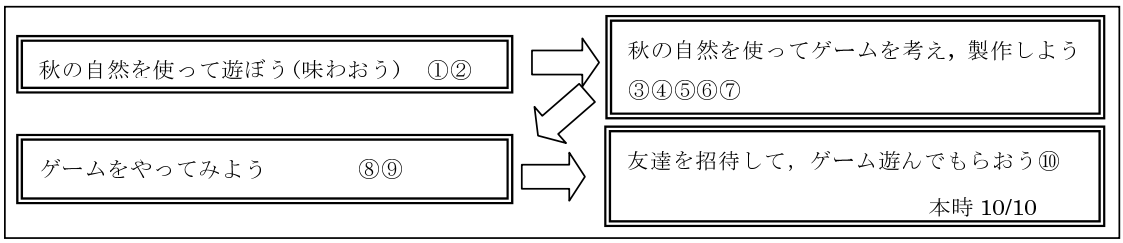
（１）子どもに身につけてほしい力や態度

・　身近にある素材を使って遊んだり物を作り出したりすることができることに気付き，意欲をもって活動に取り組もうとする態度。
・　身近にある自然の物を活用し，切る・ちぎる・丸める・組み立てる・飾る・工夫する等手を使う作業を通して，用具の使い方や指先の動きを高める力。
・　最後まで根気強く取り組み，完成させようとする意欲。
・　友達と一緒に活動する楽しさを味わうとともに，自分の製作した物で遊び，互いによいところを認め合う集団としての仲間意識。
・　自分の作品の意図や遊んでほしい人への願い等を自分の言葉で表現する力。

（２）手立て
・　秋の自然見つけや秋の自然を楽しむ遊び，秋の自然を味わう活動を通して，自然の物を生かすことに興味をもたせるようにする。
・　個々の能力に合わせためあてを設定し，意欲的に取り組めるようにする。
・　見通しをもって活動できるように流れや見本を示し，一人一人がゴールを明確にして活動に取り組めるようにする。
・　仲間との交流を通して，教え合ったり，協力し合ったり，励まし合ったりできるようにする。
・　招待したい人の名前を提示して，期待感をもたせる。

２　実際の授業
（１）単元の目標
・　秋の自然の素材を使った遊びや製作から，生活の中にある身近なものに興味や関心をもち，それを使っていろいろと楽しむことができることに気付く。
・　活動を通して計画的に進めたり，最後までやり抜こうとしたりすることができる。
・　作業で得た技能を，他の教科活動や製作活動に生かすことができる。
・　友達と協力する喜びや大切さに気付くことができる。

（２）単元の構想（４時間完了）



（３）本時の学習
１）目標（関心・意欲・態度）

A（２年）	ゲームの説明を友だちに分かりやすく伝えたり，自分の気持ちを発表したりすることができる。
B（３年）	戸惑うことなく活動に参加し，教師と一緒に動くことができる。

C（３年）	大きな声であいさつをし，分かりやすくゲームの説明をすることができる。また，最後の感想を自分の言葉で表現することができる。
D（５年）	誰にでも親切にゲームの説明をし，自分のゲームで友達を楽しませることができる。最後の感想を恥ずかしがることなく発表できる。
E（５年）	意欲的にゲーム店を開き，来てくれた友達を楽しませることができる。また，感想を自信をもって発表できる。
F（５年）	大きな声であいさつをし，自分の作ったゲームを分かりやすく説明することができる。
G（６年）	友だちの目を見てあいさつをすることができる。自分の作ったゲームの説明をし，最後まであきることなく，活動に取り組むことができる。

２）準備

教師･･･秋の自然物，交流カード，ビデオ，見本のゲーム

児童･･･自作ゲーム，交流カード，色鉛筆，探検バック

３）学習過程

□･･･ 本時の目標　[ ]･･･ 評価（評価方法）

学習形態：個ー個別　ペーペア　グーグループ　全ー全体交流　斉ー一斉

段階	学習内容	教師の支援と留意点	
		Ｔ１	Ｔ２
つかむ 5	１「秋」を感じる歌を歌う。 斉 ２　本時の学習内容と流れをつかむ。 斉 秋の自然を使って製作したゲームでゲーム店を開こう	○　秋を感じながら楽しく歌い，みんなと活動を進める意欲を高める。 ○　本時の学習内容と流れについて説明する。	○　一緒に歌を歌い一人一人の意欲を高める。 ○　前時までの活動を確認し，個々のめあてに沿って活動が進められるよう補助する。
とりくむ	３　自分の作品について説明する。 全 ・　どんな材料を使っているか。 ・　どんなゲームに仕上げているか。 ・　がんばったポイント ・本時のめあて 〔伝え合う力〕 ４　たんぽぽ学級の友達に遊びを楽しんでもらう。 ・　ゲーム店員とな	○　材料や遊びの内容を説明するよう指示する。 ○　作品について説明することで，遊んでもらう気持ちを高める。 ○　一人一人のめあてを確かめる。 評１　自分の製作意図やがんばったこと・めあてについて進んで発表することができたか。（活動の様子） C，D，E，F・・大きな声で説明やめあてを発表することができた。 A，G・・・・・自分のゲームやめあてを発表できた。 B・・・・・・ 先生の支援で，発表場所に立つことができた。 ○　ゲーム店員になり役割演	○　うまく自分の気持ちや考えを表現できないＢ・Ｇを見守り，支援する。 ○　お客になり，役割演技の手

35	り，来てくれた友達にゲームの説明をして，遊んでもらう。 全 ・ よかった点や感想等遊んだ時に伝え合う。 ペ 〔伝え合う力〕	技の手本を示す。 ○ 役割演技を通して遊ぶ上で気をつけることやルールについて確認する。 ○ 互いに遊ぶだけでなく，よかった点や感想について交流することを確認する。	本を示す。 ○ 互いに楽しく気持ちよく遊べるように文字やイラストを使い，ルールを視覚的に示し，意識を高める。 ○ 児童の実態に応じてA，B，Gに付き添い，うまくやり取りが進むよう見守り，補助する。
		評２ 自分が作った遊びで招待した友達にゲームをしてもらい楽しく交流することができたか。 （活動の様子） A，C，F‥楽しく自分のゲームで交流することができた。 E･･･周りの様子を見ながら友達をもてなし，楽しく交流することができた。 D･･･自分の作ったゲームで誰とでも仲良く関わることができた。 G･･･ 最後までゲーム店で友達と交流することができた。 B･･･先生の支援で自分が作ったゲームの近くで交流することができた。	
まとめる 5	5 今日がんばったことを発表する。 ・ 楽しかったことや嬉しかったこと等自分の気持ちを発表する。 全 6 片付けをする。	○ 今日がんばったことを発表するよう指示する。 ○ 楽しかったことや嬉しかったことについても発表するよう促す。	○ うまく感想を発表 できないB，Gを見守り，適宜支援する。 ○ よかった点やお手本となる友達の活動を紹介する。

４）評価

- ゲーム店を開き，楽しく友達と関わりながら活動を進めることができたか。
- 自分のゲームの遊び方を説明したり，感想や嬉しかったこと等を発表したりすることができたか。

３ 研究協議

（１）反省

- 本時は，かかわりあいを大切にした授業にしたいと思った。
- 友達や先生が参加してハイテンションになり，いつもと違う行動をとる子もいたが，自分の作ったもので遊んでもらって楽しそうだった。
- ゲームの作品が雑になったり，友達と同じものになったりした子もいたが，子どもの気持ちを大事にして作品作りを進めた。
- ゲームの遊び方を分かりやすいようにサポートできた。

- 言語活動を重視して，ルールなどの説明を丁寧にさせようと思った。自分の目標にしていた子は，きちんとできていた。
- 中には点数をおまけしたり，頑張れと励ましたりして，友達に気を遣うことができていた子もいた。

（２）協議内容

１）児童の姿

〈２年Ａ〉大変元気よくあいさつをしたり，説明したりすることができた。笑顔で活動を進めることができた。

〈２年Ｂ〉かぜの為欠席であった。事前に撮ったビデオで，製作の様子やゲームの名前・工夫した点等を発表した場面を流し，ゲーム店に来た子に伝えた。

〈３年Ｃ〉大きな声であいさつすることができた。説明では，言葉が足りない場面があったが，身振り等で補い，皆を楽しませようと努力できた。

〈３年Ｄ〉全体説明では声が小さかったが，自分のゲーム場所では大きな声で説明することができた。遊びに来た友達に優しく接することができた。

〈５年Ｅ〉丁寧な言葉で皆をもてなすあいさつができた。笑顔満載で詳しく説明し，ゲーム中の友達に励ましの言葉をかけながら応援できた。

〈５年Ｆ〉全体説明では元気にあいさつし説明することができた。自分のゲーム場所では，説明不足があったが，誰にでも気軽に声を掛け，楽しんでもらおうと努力できた。

〈６年Ｇ〉あいさつやゲームの遊び方を説明した時は，本人なりに前を向いて声を出すことができた。ゲームの説明では，恥ずかしがりながらも自分の言葉で説明する場面が何度もあった。

２）話し合い内容

- ゲーム屋さんは，ゲーム内容を説明のしても分かりにくいから，見本を示しながら言葉をそえるとよかった。回を重ねるごとに，上手に説明できるようになった。
- おまけの点数をつけてくれた児童がいた。ゲーム屋さんに慣れてくると，マニュアルから離れて励ましの言葉やサービス（おまけ）ができていた。
- Ｂのビデオでのゲーム紹介は，本人の支援として適切であった。
- Ｇは，小さな声での発表だったが，発表できて満足そうだった。
- Ｔ１，Ｔ２の動きが適切に決められていて有効に機能していた。
- 本時に参加できなかった子どもたちも，ゲームができる機会を与えてほしいと思う。
- 生活科でのゲーム集会を，秋をテーマに取り入れると，違った雰囲気になって効果的だった。
- ５時間の製作で，いろいろな個別の支援を十分なされたゲーム内容になっていた。
- 子ども一人一人が，その子らしい看板やゲームコーナーを作っていた。
- サインカードが手書きで書かれていて，自分たちでつくりあげていることがよくわかった。また，ゲームが終わったらサイン欄に一人一人工夫してマークをしていたり，賞品を与えたりしていた。
- 豊かな自然をいかしてゲームを作り，なかよくして年下の子をいたわるような様子が伝わってきた。

- 今回の活動が，やりたいという次への意欲につながると感じた。
- 今回の校内授業で，子どもがどれだけのびたのか，先生の手がどれだけはいっているのかが分かりずらい。学びとしてみる視点や狙っているところをはっきりしたい。
- 今回のような授業は，参加して楽しいのは確かである。指先を使って作業している様子や試しゲームをして改善点を伝え合う授業の方が興味深く感じた。
- 自然と遊ぼうが２時間でよかったのか。もっとしっかり遊ばせておくと，秋をテーマにしたゲームづくりにむすびつきやすいと感じた。
- 作品については，見本を作り，そこから本人オリジナルのものに変化させることが大事であると感じた（例：リボンを結んだ輪，落ち葉の的入れでのストッパーの棒など）。友達のアイデアを交流していくことも大事であると感じた。

４　考察

授業を組み立てるにあたり，身近にある素材を思い切り活用し，遊んだり，物を作り出したりする楽しさを味わって欲しいと願った。そのため，どんなゲームにするのか決めるのに時間はかかったが，自分でゲームを考え，自分で材料を見つけ，自分で工夫を凝らしながら製作を進める形をとった。

今回，製作は児童の気持ちを大切にし，一人一人のペースに合わせて，ゆっくりと進めた。そのことにより，不器用な児童も，自分のペースで楽しみながら活動を進めることができ，飽きることなく最後まで製作をやりきることができたと考える。

また，子どもたちは楽しみながら製作にあたり，途中で自分で遊んでは改善を加えたりしいた。友達の作品を参考にしながら，自分の作品に改良を加える等，友達や作品が刺激となっていき，学級としての関わりも豊かなものとなった。

今後も児童の実態から伸ばす点を浮き彫りにし，つけたい力を中心に据えた授業内容の構成や組み立てをするという「生活単元学習」をもっと研究し，児童一人一人が伸びていく実践を考えていきたい。

おわりに

特別支援学級で行う生活単元学習は，通常学級での生徒指導や安全指導を含んだ生活全般を学ぶ学習内容であるといえる。これは，社会生活を営む上で最低限必要な力を指し，身辺自立力（食事・排泄・衣服の着脱等），コミュニケーション力（指示理解・挨拶・初歩的会話等）などが挙げられる。こういった「生きていく力」は，幼児期に家庭で訓練されることが多く，小学校入学時には大多数の児童は身に付けているものである。しかし，特別支援学級の児童はこのような力が十分に身に付いていないことが多く，学校教育の場で意図的に指導することが必要となってくる。

そういった背景から生活単元学習は，児童の自立的な生活を目指して，季節感や行事を生かした活動，栽培・生産活動，製作活動等を通し，技能・訓練的な内容も組み入れて計画していかなければならない。今年度，取り組んできた生活単元学習も，日常生活上の会話活動や手指の巧緻性を高める活動として実践することができた。また，今年度の研究課題である「明るく素直でがんばる子」を目標に取り組み，個々の能力に応じて支援をしつつ進めてきたので，研究主

題はほぼ到達できたと思われる。今後も，生活単元学習として「生きていく力」を身に付けられるよう，以下のような配慮が必要である。

- 興味・関心がもてる活動内容
- 目的が明確である活動内容
- 発達段階にあっている活動内容
- 人とのかかわりを伴う活動内容
- 力を最大限発揮できる活動内容
- 適切な問題解決場面を伴う活動内容
- 満足感・成就感が味わえる活動内容

これらのことを念頭におきながら一人一人に応じた活動に取り組ませ，厳しくそして温かく見守りながら，児童の成長を促していきたい。

あとがき

城東小学校の実践づくりに私がかかわったのは2001年、犬山の教育改革の初年度からであった。教育員会事務局の客員指導主幹という立場で、市内14の小中学校の授業改善に参加したのであるが、そのうちの1校であった。

今は犬山市内の学校ではほぼ定着した「学びの振り返り」のための「振り返りカード」のアイデアが出されたのはこの城東小学校だったと記憶している。「学校の自立」を掲げた犬山の改革の中で、授業改善を自らの個人的指導理論を同時に鍛える機会ととらえた教師たちが示した実力は、目を見張るものがあったと思う。実践の改革は、まず教師の実力に対する信頼感から出発すべきだと、改めて感じさせてもらった学校である。

最近の授業改善では、形を提唱する指導論が幅を利かせている。まず形から入るという、比較的常識的に語られている授業改善アプローチに対しては、私は反対である。教師が、形に依存していたのでは、主体的な授業づくりはできなくなる。個々の教師の持ち味をどう生かすのかという発想に欠けていると思う。

授業に関する理論は、実践者に押し付けるものではなく、実践者がとらえ返しやすいように提案すべきものであり、最終的には教師個々が研究的実践を通して作り上げていくべき事柄である。その過程で教師相互の障壁のない闊達な交流が必要であることはもちろんである。

奥付のページからもわかるのだが、城東小学校は児童数860人を越える大きな学校であり、職員数も多く53名を数える。この学校では、授業改善が定着し始めたときに、新しく大きな団地ができ、児童数の急激な増加と、それに伴う校舎建築に始まる様々な問題が、一時期研究を遅滞させた時期もあった。

しかし、この数年にいたって、この規模の学校が、職員一体となり、また、若手教員の増加に伴う、若手への成長支援という課題をこなしつつ、着実に児童の学びを促す体制、文化を築きあげてきた。毎年の研究紀要の発行の努力の一端を、この小学校の確かな実践づくりに素晴らしい力を発揮された水谷校長の退職の折に公にしたいと考えた。

学校の協同を通して教師一人ひとりの指導論を鍛え、児童にとって最適の学習環境を追究してきた城東小学校の挑戦には学ぶべき事柄も多いのではないかと思う。読者に大いに参考になればと思う次第である。

杉江　修治

監修者

水谷　　茂　前　犬山市立城東小学校校長

杉江　修治　中京大学国際教養学部教授
博士（教育心理学）

平成24年度　城東小学校現職教育研究同人

水谷　茂	高田　佳壽	若原　公代	五味　公人	日比野清是
勝又　美樹	渡邉　雪子	西村　賢治	堀部　重光	恒川九射美
木村　康子	佐光美智子	安藤　京子	林　千鶴	小西　陽子
栗本　紀子	細川眞紀子	藤田　芳枝	山口　尚美	杉本　暁美
田中　久徳	淺野　祥子	原　ゆみ子	井塚　裕士	小山　晃範
西　沙織	荒巻　歩美	井口　友香	北薗　剛	溝口　修平
松本　哲廣	齋藤　友希	西部　舞	馬場　洋子	河田　改
立田　美樹	中田臨太郎	鈴木　宏実	渡邉美和子	間瀬　孝俊
大澤みどり	遠藤久美子	杉野　利幸	片山　富廣	渡會由貴夫
松浦　主	尾関　里美	鈴木江里奈	後藤眞之介	大川　朋子
水野　育子	竹原理恵子	石田　成美		

伝え合い高め合う城東の子
一成就感を味わい、自己効力感を高める活動の充実
（協同教育実践資料19）

2013年 8月 3日　第1刷発行

著　者　犬山市立城東小学校

監修者　水谷　茂・杉江修治

発　行　一粒書房

〒475-0837　愛知県半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130

編集・印刷・製本（有）一粒社出版部(代表　都築延男)

〒475-0837　半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130

ISBN978-4-86431-214-1 C1337

協同教育実践資料 ⑲

伝え合い高め合う
城東の子

ISBN978-4-86431-214-1
C1337 ¥2500E

定価 2,500円+税